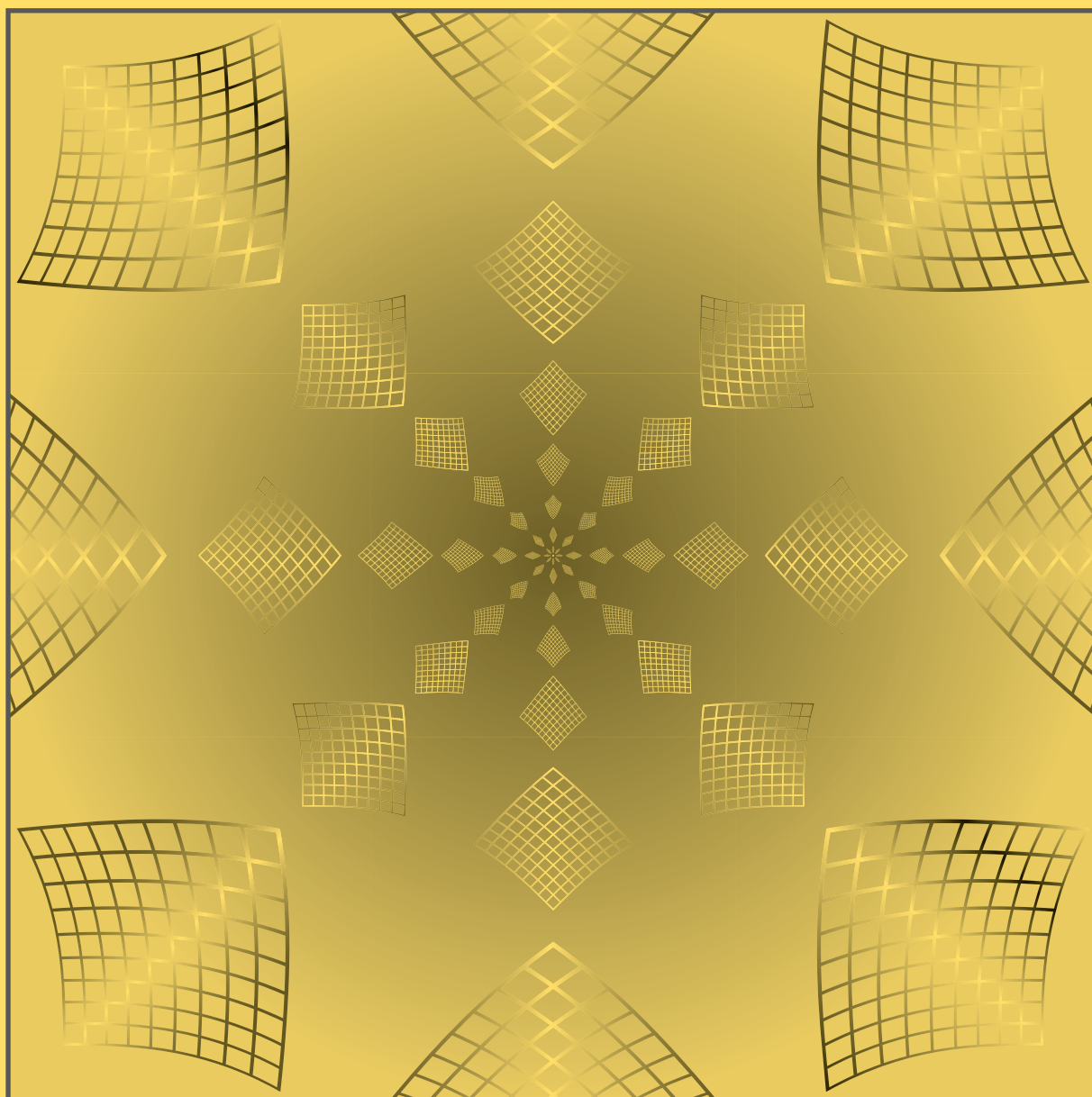

2011年度

シラバス

言語文化学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

★本シラバスは、言語文化学科シラバスです。

【シラバスの見方】

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。

目次の科目は、授業科目表(学則別表)と同じ順序で掲載しています。

※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外：外国語学部

養：国際教養学部

経：経済学部

法：法学部

独：ドイツ語学科

済：経済学科

律：法律学科

英：英語学科

営：経営学科

国：国際関係法学科

仏：フランス語学科

総：総合政策学科

交：交流文化学科

言：言語文化学科

2. シラバスページの見方(右図参照)

①入学年度

08年度以降・・・2008～2011年度入学者

01年度以降・・・2001～2011年度入学者

03年度以降・・・2003～2011年度入学者

01～02年度・・・2001～2002年度入学者

01～04年度・・・2001～2004年度入学者

01～07年度・・・2001～2007年度入学者

②科目名

2003年度以降の学則別表にある名称を基本に表記してあります。

※2002年度以前入学者は、一部の「学科基礎科目群」(外国語科目含む)が「全学共通授業科目」との合併授業になります。

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤授業で使用するテキスト、参考文献

⑥評価方法

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
春学期		
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
秋学期		
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』で確認した上で、履修登録をしてください。

②定員

経済学部の科目は、学習環境および防災上などの観点から、「全学共通授業科目」と同様に定員を設けています。

各科目の定員は、『授業時間割表』を参照してください。

国際教養学部言語文化学科授業科目(2007年度以降入学者用)

目 次 必須教養科目群

「学科基礎」部門

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春	基礎演習a	各担当教員	木4	2	1	全	1
	秋	基礎演習b	各担当教員	木4	2	1	全	1
	秋	言語文化論	安井 一郎	月4	2	1	全	2
	春	哲学Ⅰ	松丸 壽雄	金4	2	1	全	3
	春	現代世界論	佐藤 勘治	月4	2	1	全	4
	春	哲学Ⅱ	松丸 壽雄	金3	2	4	全	5
20631	秋	哲学Ⅱ	松丸 壽雄	金3	2	4	全	5

「外国語」部門

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春	英語Ⅰ(IE)	各担当教員		1	1	全	6
	春	英語Ⅰ(S)	各担当教員		1	1	全	7
	春	英語Ⅰ(W)	各担当教員		1	1	全	8
	秋	英語Ⅱ(IE)	各担当教員		1	1	全	6
	秋	英語Ⅱ(S)	各担当教員		1	1	全	7
	秋	英語Ⅱ(W)	各担当教員		1	1	全	8
	春	英語Ⅲ(IE)	各担当教員		1	2	全	9
	春	英語Ⅲ(S)	各担当教員		1	2	全	10
	春	英語Ⅲ(W)	各担当教員		1	2	全	11
	秋	英語Ⅳ(IE)	各担当教員		1	2	全	9
	秋	英語Ⅳ(S)	各担当教員		1	2	全	10
	秋	英語Ⅳ(W)	各担当教員		1	2	全	11
	春	英語Ⅴ(AE)	C. チャー		1	3	全	12
	春	英語Ⅴ(AE)	K. A. クラウン		1	3	全	13
	春	英語Ⅴ(AE)	S. K. エリス		1	3	全	14
	春	英語Ⅴ(AE)	K. ヤブノ		1	3	全	15
	春	英語Ⅴ(AE)	M. ハルディン		1	3	全	16
	春	英語Ⅴ(AE)	臼井 芳子		1	3	全	17
	春	英語Ⅴ(AE)	奥平 文子		1	3	全	18
	春	英語Ⅴ(AE)	松山 響子		1	3	全	19
	秋	英語Ⅵ(AE)	C. チャー		1	3	全	12
	秋	英語Ⅵ(AE)	K. A. クラウン		1	3	全	13
	秋	英語Ⅵ(AE)	S. K. エリス		1	3	全	14
	秋	英語Ⅵ(AE)	K. ヤブノ		1	3	全	15
	秋	英語Ⅵ(AE)	M. ハルディン		1	3	全	16
	秋	英語Ⅵ(AE)	臼井 芳子		1	3	全	17
	秋	英語Ⅵ(AE)	奥平 文子		1	3	全	18
	秋	英語Ⅵ(AE)	松山 響子		1	3	全	19
	春	スペイン語Ⅰ(総合1)	各担当教員		1	1	全	20
	春	スペイン語Ⅰ(総合2)	各担当教員		1	1	全	21
	春	スペイン語Ⅰ(入門)	各担当教員		1	1	全	22
	春	スペイン語Ⅰ(会話)	各担当教員		1	1	全	23
	秋	スペイン語Ⅱ(総合1)	各担当教員		1	1	全	20
	秋	スペイン語Ⅱ(総合2)	各担当教員		1	1	全	21
	秋	スペイン語Ⅱ(基礎表現)	各担当教員		1	1	全	22
	秋	スペイン語Ⅱ(会話)	各担当教員		1	1	全	23
	春	スペイン語Ⅲ(総合)	各担当教員		1	2	全	24
	春	スペイン語Ⅲ(講読)	各担当教員		1	2	全	25
	春	スペイン語Ⅲ(会話1)	各担当教員		1	2	全	26
	春	スペイン語Ⅲ(会話2)	各担当教員		1	2	全	27
	秋	スペイン語Ⅳ(総合)	各担当教員		1	2	全	24
	秋	スペイン語Ⅳ(講読)	各担当教員		1	2	全	25
	秋	スペイン語Ⅳ(会話1)	各担当教員		1	2	全	26

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	秋	スペイン語Ⅳ(会話2)	各担当教員		1	2	全	27
	春	スペイン語Ⅴ(応用1)	各担当教員		1	3	全	28
	春	スペイン語Ⅴ(応用2)	各担当教員		1	3	全	29
	秋	スペイン語Ⅵ(応用1)	各担当教員		1	3	全	28
	秋	スペイン語Ⅵ(応用2)	各担当教員		1	3	全	29
	春	中国語Ⅰ(総合1)	各担当教員		1	1	全	30
	春	中国語Ⅰ(総合2)	各担当教員		1	1	全	31
	春	中国語Ⅰ(入門)	各担当教員		1	1	全	32
	春	中国語Ⅰ(会話)	各担当教員		1	1	全	33
	秋	中国語Ⅱ(総合1)	各担当教員		1	1	全	30
	秋	中国語Ⅱ(総合2)	各担当教員		1	1	全	31
	秋	中国語Ⅱ(基礎表現)	各担当教員		1	1	全	32
	秋	中国語Ⅱ(会話)	各担当教員		1	1	全	33
	春	中国語Ⅲ(総合)	各担当教員		1	2	全	34
	春	中国語Ⅲ(講読)	各担当教員		1	2	全	35
	春	中国語Ⅲ(会話1)	各担当教員		1	2	全	36
	春	中国語Ⅲ(会話2)	各担当教員		1	2	全	37
	秋	中国語Ⅳ(総合)	各担当教員		1	2	全	34
	秋	中国語Ⅳ(講読)	各担当教員		1	2	全	35
	秋	中国語Ⅳ(会話1)	各担当教員		1	2	全	36
	秋	中国語Ⅳ(会話2)	各担当教員		1	2	全	37
	春	中国語Ⅴ(応用1)	各担当教員		1	3	全	38
	春	中国語Ⅴ(応用2)	各担当教員		1	3	全	39
	秋	中国語Ⅵ(応用1)	各担当教員		1	3	全	38
	秋	中国語Ⅵ(応用2)	各担当教員		1	3	全	39
	春	韓国語Ⅰ(文法・読解1)	各担当教員		1	1	全	40
	春	韓国語Ⅰ(文法・読解2)	各担当教員		1	1	全	41
	春	韓国語Ⅰ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	1	全	42
	春	韓国語Ⅰ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	1	全	43
	秋	韓国語Ⅱ(文法・読解1)	各担当教員		1	1	全	40
	秋	韓国語Ⅱ(文法・読解2)	各担当教員		1	1	全	41
	秋	韓国語Ⅱ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	1	全	42
	秋	韓国語Ⅱ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	1	全	43
	春	韓国語Ⅲ(文法・読解1)	各担当教員		1	2	全	44
	春	韓国語Ⅲ(文法・読解2)	各担当教員		1	2	全	45
	春	韓国語Ⅲ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	2	全	46
	春	韓国語Ⅲ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	2	全	47
	秋	韓国語Ⅳ(文法・読解1)	各担当教員		1	2	全	44
	秋	韓国語Ⅳ(文法・読解2)	各担当教員		1	2	全	45
	秋	韓国語Ⅳ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	2	全	46
	秋	韓国語Ⅳ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	2	全	47
	春	韓国語Ⅴ(応用1)	白 寅英	火1	1	3	全	48
	春	韓国語Ⅴ(応用1)	沈 民珪	水3	1	3	全	49
	春	韓国語Ⅴ(応用2)	白 寅英	金2	1	3	全	50
	春	韓国語Ⅴ(応用2)	沈 民珪	木1	1	3	全	51
	秋	韓国語Ⅵ(応用1)	白 寅英	火1	1	3	全	48
	秋	韓国語Ⅵ(応用1)	沈 民珪	水3	1	3	全	49
	秋	韓国語Ⅵ(応用2)	白 寅英	金2	1	3	全	50
	秋	韓国語Ⅵ(応用2)	沈 民珪	木1	1	3	全	51

選択教養科目群

「外国語演習科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
18606	春	英語演習Ⅰ	J. ハント	木3	2	3	全	52
18610	春	英語演習Ⅰ	S. K. エリス	月3	2	3	全	53
19414	春	英語演習Ⅰ	M. デル ベツキオ	水4	2	3	全	54
18602	春	英語演習Ⅰ	ロン 美香	木3	2	3	全	55
18620	春	英語演習Ⅰ	関戸 冬彦	木4	2	3	全	56
18622	春	英語演習Ⅰ	中込 知子	水3	2	3	全	57
19816	春	英語演習Ⅰ	中島 直美	火2	2	3	全	58

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
18607	秋	英語演習Ⅱ	J. ハント	木3	2	3	全	52
18614	秋	英語演習Ⅱ	S. K. エリス	月3	2	3	全	53
19415	秋	英語演習Ⅱ	M. デル ベツキオ	水4	2	3	全	54
18603	秋	英語演習Ⅱ	ロン 美香	木3	2	3	全	55
18621	秋	英語演習Ⅱ	関戸 冬彦	木4	2	3	全	56
18623	秋	英語演習Ⅱ	中込 知子	水3	2	3	全	57
19817	秋	英語演習Ⅱ	中島 直美	火2	2	3	全	58
19402	春	スペイン語演習Ⅰ	C. ガリード	火3	2	3	全※1	59
19404	春	スペイン語演習Ⅰ	N. ウエチ	木1	2	3	全※1	60
19406	春	スペイン語演習Ⅰ	児島 峰	月2	2	3	全※1	61
19403	秋	スペイン語演習Ⅱ	C. ガリード	火3	2	3	全※1	59
19405	秋	スペイン語演習Ⅱ	N. ウエチ	木1	2	3	全※1	60
19407	秋	スペイン語演習Ⅱ	児島 峰	月2	2	3	全※1	61
19410	春	中国語演習Ⅰ	武信 彰	水3	2	3	全※1	62
19408	春	中国語演習Ⅰ	永田 小絵	水3	2	3	全※1	63
18590	春	中国語演習Ⅰ	吉田 桂子	金2	2	3	全※1	64
19411	秋	中国語演習Ⅱ	武信 彰	水3	2	3	全※1	62
19409	秋	中国語演習Ⅱ	永田 小絵	水3	2	3	全※1	63
18591	秋	中国語演習Ⅱ	吉田 桂子	金2	2	3	全※1	64
18626	春	韓国語演習Ⅰ	金 秀晶	水3	2	3	全※1	65
18625	秋	韓国語演習Ⅱ	金 秀晶	水3	2	3	全※1	65

※1: 交流文化学科は除く

「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13167	春	スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅰ(スペイン)	二宮 哲	月5	2	1	全	66
13168	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅱ(ラテンアメリカ)	佐藤 勘治	月5	2	1	全	66
14676	春	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅰ(ラテンアメリカの歴史と社会)	佐藤 勘治	木4	2	2		67
14584	春	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅱ(ラテンアメリカの政治と社会)	浦部 浩之	月2	2	2		68
14848	春	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅲ(ラテンアメリカの経済と社会)	今井 圭子	月3	2	2		69
14596	春	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅳ(スペイン語圏の言語文化)	二宮 哲	水2	2	2		70
14677	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅰ(ラテンアメリカ近現代史)	佐藤 勘治	木4	2	2		67
14585	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅱ(ラテンアメリカ国際関係論)	浦部 浩之	月2	2	2		68
14849	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅲ(ラテンアメリカ経済発展論)	今井 圭子	月3	2	2		69
14597	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅳ(スペイン語学)	二宮 哲	水2	2	2		70
15045	春	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅴ(ブラジル研究)	E. ウラノ	火2	2	2	全	71
14621	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究情報収集法	二宮 哲	月4	2	2	全	72
14590	春	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅰ(スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究a)	P. ラゴ	金2	2	2		73
14591	秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅱ(スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究b)	P. ラゴ	金2	2	2		73
15044	春	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅲ(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)	倉田 量介	火3	2	2	全	74
14938	秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅳ(スペイン・ラテンアメリカの社会文化)	児島 峰	火5	2	2	全	74

「中国研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13470	春	中国研究入門	森 保裕	土2	2	1		75
14605	秋	中国研究Ⅰ(中国社会論)	山本 秀也	土1	2	2		75
14586	春	中国研究Ⅱ(中国の思想・文学)	永田 小絵	月2	2	2		76
14909	春	中国研究Ⅲ(中国史a)	張 士陽	木4	2	2	全	77
14910	秋	中国研究Ⅳ(中国史b)	張 士陽	木4	2	2	全	77
14594	春	中国研究各論Ⅰ(現代中国論a)	孫 新	木2	2	2	法	78
14595	秋	中国研究各論Ⅱ(現代中国論b)	孫 新	木2	2	2	法	78
14678	春	中国研究各論Ⅲ(日中交流史)	武信 彰	月4	2	2		79
14587	秋	中国研究各論Ⅳ(中国の芸能・芸術)	永田 小絵	月2	2	2		76
14679	秋	中国研究各論Ⅴ(言語文化論)	武信 彰	月4	2	2		79
14691	春	中国特殊研究Ⅰ(日中比較文化論a)	易 友人	月2	2	2		80
14692	秋	中国特殊研究Ⅱ(日中比較文化論b)	易 友人	月2	2	2		80
14703	春	中国特殊研究Ⅲ(中国文学研究古典)	易 友人	火3	2	2		81
14704	秋	中国特殊研究Ⅳ(中国文学研究現代)	易 友人	火3	2	2		81

「韓国研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13141	春	韓国研究入門	金 泰植	水3	2	1	全	82
14675	春	韓国研究Ⅰ(韓国史)	佐藤 厚	金2	2	2		83
14680	秋	韓国研究Ⅱ(韓国社会論)	金 泰植	水2	2	2	全	83
14627	秋	韓国研究Ⅲ(韓国の言語文化)	金 泰植	水3	2	2		84
		韓国研究各論Ⅰ(韓国社会各論a)	2011年度不開講					
14974	春	韓国研究各論Ⅱ(韓国社会各論b)	全 載旭	火2	2	2	全	85
14889	秋	韓国研究各論Ⅲ(日韓交流史)	金 熙淑	月3	2	2	全	85
14626	春	韓国研究各論Ⅳ(韓国文化各論a)	呉 吉煥	水1	2	2		86
14667	秋	韓国研究各論Ⅴ(韓国文化各論b)	佐藤 厚	金2	2	2		86
14892	春	韓国研究各論Ⅵ(韓国文化各論c)	佐藤 厚	火2	2	2	全	87
14891	秋	韓国研究情報収集法	金 熙淑	月4	2	2	全	88
14894	秋	韓国特殊研究Ⅰ(日韓比較文化論a)	金 熙淑	火3	2	2	全	89
14890	春	韓国特殊研究Ⅱ(日韓比較文化論b)	金 熙淑	火3	2	2	全	89
14893	秋	韓国特殊研究Ⅲ(文献読解)	金 秀晶	金3	2	2	全	90

「日本研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13471	春	日本研究Ⅰ(日本文学古典)	福沢 健	月2	2	1	全	91
13198	秋	日本研究Ⅱ(日本文学現代)	佐藤 毅	木1	2	1	全	91
13199	春	日本研究Ⅲ(日本史a)	丸浜 昭	火5	2	1	全	92
13200	秋	日本研究Ⅳ(日本史b)	丸浜 昭	火5	2	1	全	92
13201	春	日本研究Ⅴ(日本経済論a)	波形 昭一	火5	2	1	全	93
13202	秋	日本研究Ⅵ(日本経済論b)	波形 昭一	火5	2	1	全	93
13203	春	日本研究Ⅶ(日本文化論)	飯島 一彦	火2	2	1	全	94
14674	秋	日本研究各論Ⅰ(民俗芸能)	飯島 一彦	火2	2	2	全	94
15072	春	日本研究各論Ⅱ(企業経営)	黒川 文子	木5	2	2	全	95
14851	秋	日本研究各論Ⅲ(地域文化)	林 英一	木1	2	2	全	96
14673	春	日本研究各論Ⅳ(古典芸能)	未定	水4	2	2	全	97
14850	春	日本特殊研究Ⅰ(民俗学)	林 英一	木1	2	2	全	96
14689	秋	日本特殊研究Ⅱ(文献読解)	未定	水4	2	2		97
14645	春	日本特殊研究Ⅲ(写本を読む)	飯島 一彦	金2	2	2	全	98
14647	秋	日本特殊研究Ⅳ(碑文を読む)	飯島 一彦	金2	2	2	全	98

「多言語間交流研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
		多言語間交流研究Ⅰ(言語学a)	2011年度不開講				全	
		多言語間交流研究Ⅱ(言語学b)	2011年度不開講				全	
13146	春	多言語間交流研究Ⅲ(英語学a)	安間 一雄	金1	2	1	全	99
13147	秋	多言語間交流研究Ⅳ(英語学b)	安間 一雄	金1	2	1	全	99
13142	秋	多言語間交流研究Ⅴ(英語圏の文学)	松山 響子	月2	2	1	全	100
14636	春	多言語間交流研究各論Ⅰ(応用言語学)	臼井 芳子	水2	2	2	全	101
14637	秋	多言語間交流研究各論Ⅱ(第二言語習得)	臼井 芳子	水2	2	2	全	101
14852	春	多言語間交流研究各論Ⅲ(英語圏の小説a)	上野 直子	月4	2	2	全	102
14853	秋	多言語間交流研究各論Ⅳ(英語圏の小説b)	島田 啓一	木3	2	2	全	102
15238	春	多言語間交流研究各論Ⅴ(英語圏の詩a)	遠藤 朋之	木4	2	2	全	103
14888	秋	多言語間交流研究各論Ⅵ(英語圏の詩b)	白鳥 正孝	水4	2	2	全	103
14854	春	多言語間交流研究各論Ⅶ(英語圏の演劇a)	児嶋 一男	月3	2	2	全	104
14855	秋	多言語間交流研究各論Ⅷ(英語圏の演劇b)	児嶋 一男	月3	2	2	全	104
14617	春	多言語間交流研究各論Ⅸ(国際語としての英語)	臼井 芳子	金2	2	2	全	105
14618	秋	多言語間交流研究各論Ⅹ(多言語環境と英語)	臼井 芳子	金2	2	2	全	105
14592	春	多言語間交流研究各論Ⅺ(英語圏の文化)	山越 邦夫	月3	2	2	全	106
14593	秋	多言語間交流研究各論Ⅻ(英語圏事情)	山越 邦夫	月3	2	2	全	106
15211	春	多言語間交流特殊研究Ⅰ(翻訳通訳論・英語)	中島 直美	火1	2	2		107
14638	春	多言語間交流特殊研究Ⅱ(翻訳通訳論・中国語)	永田 小絵	水1	2	2		108
14615	春	多言語間交流特殊研究Ⅲ(翻訳通訳論・スペイン語)	柴田 バネッサ	火3	2	2		109
15212	秋	多言語間交流特殊研究Ⅳ(翻訳通訳実習・英語)	中島 直美	火1	2	2		107
14659	秋	多言語間交流特殊研究Ⅴ(翻訳通訳実習・中国語)	永田 小絵	水1	2	2		108
15034	秋	多言語間交流特殊研究Ⅵ(翻訳通訳実習・スペイン語)	柴田 バネッサ	火3	2	2		109

「多文化共生研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13204	春	多文化共生研究Ⅰ(文化人類学a)	井上 兼行	月3	2	1	全	110
13205	秋	多文化共生研究Ⅱ(文化人類学b)	井上 兼行	月3	2	1	全	110
13206	春	多文化共生研究Ⅲ(社会学a)	岡村 圭子	土1	2	1	全	111
13207	秋	多文化共生研究Ⅳ(社会学b)	岡村 圭子	土1	2	1	全	111
13210	春	多文化共生研究Ⅴ(異文化間コミュニケーションa)	岡村 圭子	木2	2	1	全	112
13211	秋	多文化共生研究Ⅵ(異文化間コミュニケーションb)	山越 邦夫	月2	2	1	全	112
14856	春	多文化共生研究各論Ⅰ(アメリカの多文化共生a)	佐藤 唯行	火3	2	2		113
14857	秋	多文化共生研究各論Ⅱ(アメリカの多文化共生b)	佐藤 唯行	火3	2	2		113
14565	春	多文化共生研究各論Ⅲ(異文化社会の認識と世界観a)	井上 兼行	火3	2	2	全	114
14566	秋	多文化共生研究各論Ⅳ(異文化社会の認識と世界観b)	井上 兼行	火3	2	2	全	114
14568	春	多文化共生研究各論Ⅴ(比較社会論)	井上 兼行	木3	2	2		115
14663	春	多文化共生研究各論Ⅵ(比較文化論)	岡村 圭子	水2	2	2		116
15176	春	多文化共生研究各論Ⅶ(大衆文化論)	木本 玲一	火4	2	2	全	117
14664	秋	多文化共生研究各論Ⅷ(地域メディア論)	岡村 圭子	水2	2	2	全	116
15007	秋	多文化共生特殊研究Ⅰ(滞日外国人研究)	田房 由起子	土2	2	2	法	118
14699	春	多文化共生特殊研究Ⅱ(アメリカ合衆国のラティノ社会)	佐藤 勘治	水2	2	2		119
14569	秋	多文化共生特殊研究Ⅲ(カリブ海域社会の民族関係)	井上 兼行	木3	2	2		115

「国際交流研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13145	春	国際交流研究Ⅰ(国際関係論)	山本 秀也	土1	2	1		120
13319	春	国際交流研究Ⅱ(国際協力論)	浦部 浩之	水3	2	1		121
13212	春	国際交流研究Ⅲ(国際機構論)	鈴木 淳一	月3	2	1	全	122
13143	秋	国際交流研究Ⅳ(NGO論)	清水 俊弘	水5	2	1	全	122
13320	秋	国際交流研究Ⅴ(南北問題)	浦部 浩之	水3	2	1		121
13213	秋	国際交流研究Ⅵ(情報とメディア)	森 保裕	土2	2	1		123
14860	春	国際交流研究各論Ⅰ(国際政治論a)	星野 昭吉	月2	2	2	法	124
14861	秋	国際交流研究各論Ⅱ(国際政治論b)	星野 昭吉	月2	2	2	法	124
14977	春	国際交流研究各論Ⅲ(国際経済論a)	益山 光央	火3	2	2	全	125
14979	秋	国際交流研究各論Ⅳ(国際経済論b)	益山 光央	火3	2	2	全	125
14868	春	国際交流特殊研究Ⅰ(日本政治外交史a)	福永 文夫	金3	2	2	全	126
14869	秋	国際交流特殊研究Ⅱ(日本政治外交史b)	福永 文夫	金3	2	2	全	126
14870	春	国際交流特殊研究Ⅲ(アジア太平洋地域交流a)	高安 健一	金1	2	2	全	127
14871	秋	国際交流特殊研究Ⅳ(アジア太平洋地域交流b)	高安 健一	金1	2	2	全	127
14872	春	国際交流特殊研究Ⅴ(グローバル・ガバナンスa)	一之瀬 高博	木2	2	2	全	128
14873	秋	国際交流特殊研究Ⅵ(グローバル・ガバナンスb)	一之瀬 高博	木2	2	2	全	128

「宗教・文化・歴史研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13144	春	宗教・文化・歴史研究Ⅰ(文化史入門)	古川 堅治	水2	2	1	全	129
13214	春	宗教・文化・歴史研究Ⅱ(東洋思想史a)	松丸 壽雄	水2	2	1	全	130
13215	秋	宗教・文化・歴史研究Ⅲ(東洋思想史b)	松丸 壽雄	水2	2	1	全	130
13472	春	宗教・文化・歴史研究Ⅳ(文明史研究a)	櫻井 悠美	月2	2	1	全	131
13473	秋	宗教・文化・歴史研究Ⅴ(文明史研究b)	櫻井 悠美	月2	2	1	全	131
13148	春	宗教・文化・歴史研究Ⅵ(倫理学a)	川口 茂雄	金3	2	1	全	132
13149	秋	宗教・文化・歴史研究Ⅶ(倫理学b)	川口 茂雄	金3	2	1	全	132
14695	春	宗教・文化・歴史研究各論Ⅰ(地中海世界の宗教と文化a)	古川 堅治	水1	2	2		133
14696	秋	宗教・文化・歴史研究各論Ⅱ(地中海世界の宗教と文化b)	古川 堅治	水1	2	2		133
14874	秋	宗教・文化・歴史研究各論Ⅲ(比較宗教史)	谷口 郁夫	月2	2	2		134
		宗教・文化・歴史研究各論Ⅳ(日本思想史1)	2011年度不開講				全	
19178	秋	宗教・文化・歴史研究各論Ⅴ(日本思想史2)	川村 肇	木3	2	2	全	135
14875	春	宗教・文化・歴史研究各論Ⅵ(アラブ文化・芸術a)	師岡 カリーマ エルサムニー	月2	2	2	全	136
14876	秋	宗教・文化・歴史研究各論Ⅶ(アラブ文化・芸術b)	師岡 カリーマ エルサムニー	月2	2	2	全	136
14711	秋	宗教・文化・歴史特殊研究Ⅰ(世界の宗教と文化――神教と多神教)	古川 堅治	水2	2	2		129
14700	秋	宗教・文化・歴史特殊研究Ⅱ(思想と文化)	松丸 壽雄	金4	2	2		137

「日本語教育研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
		日本語教育研究Ⅰ(日本語教育概説)	2011年度不開講				全	
13217	春	日本語教育研究Ⅱ(日本事情とコミュニケーション教育)	小山 慎治	月2	2	1	全	138
14687	春	日本語教育研究各論Ⅰ(日本語教授法1a)	石塚 京子	月1	2	2		139
14688	秋	日本語教育研究各論Ⅱ(日本語教授法1b)	石塚 京子	月1	2	2		139
14879	秋	日本語教育研究各論Ⅲ(日本語音声学)	浅山 佳郎	月3	2	2		140
14557	春	日本語教育研究各論Ⅳ(日本語文法形態論)	松浦 恵津子	月2	2	2	全※1	141
14558	秋	日本語教育研究各論Ⅴ(日本語文法統語論)	松浦 恵津子	月2	2	2	全※1	141
14559	春	日本語教育研究各論Ⅵ(日本語談話論)	浅山 佳郎	火1	2	2	全※2	142
14563	秋	日本語教育研究各論Ⅶ(日本語意味論・語用論)	浅山 佳郎	火1	2	2		142
14693	春	日本語教育特殊研究Ⅰ(対照言語学・誤用分析a)	白石 実	火2	2	2		143
		日本語教育特殊研究Ⅱ(対照言語学・誤用分析b)	2011年度不開講					
14612	春	日本語教育特殊研究Ⅲ(文献読解a)	白石 実	火3	2	2		144
		日本語教育特殊研究Ⅳ(文献読解b)	2011年度不開講					
20834	春	日本語教育特殊研究Ⅴ(日本語教授法2)	坂谷 佳子	水2	2	4		145
20835	春	日本語教育特殊研究Ⅴ(日本語教授法2)	浅山 佳郎	月1	2	4		146
20836	春	日本語教育特殊研究Ⅴ(日本語教授法2)	野村 美知子	木2	2	4		147
		日本語教育特殊研究Ⅵ(日本語教育教材論)	2011年度不開講				全※2	
	春/秋	日本語教育特殊研究Ⅶ(教育実習)	各担当教員	その他	2	4		148

※1:07年度入学者は除く、※2:08年度以降入学者は除く

「教育科学研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13219	秋	教育科学研究Ⅰ(教育の原理)	川村 肇	火3	2	1	全	149
13218	秋	教育科学研究Ⅰ(教育の原理)	川村 肇	木1	2	1	全	149
13220	春	教育科学研究Ⅰ(教育の原理)	小島 優生	木4	2	1	全	150
13221	秋	教育科学研究Ⅰ(教育の原理)	小島 優生	木4	2	1	全	150
13222	春	教育科学研究Ⅱ(教育の歴史1)	川村 肇	木3	2	1	全	151
		教育科学研究Ⅲ(教育の歴史2)	2011年度不開講				全	
13225	春	教育科学研究Ⅳ(教職論)	桑原 憲一	月4	2	1	全	152
13226	秋	教育科学研究Ⅳ(教職論)	桑原 憲一	月5	2	1	全	152
13224	春	教育科学研究Ⅳ(教職論)	川村 肇	木1	2	1	全	153
13474	春	教育科学研究Ⅴ(発達と学習の心理学)	白砂 佐和子	火4	2	1	全	154
13475	秋	教育科学研究Ⅴ(発達と学習の心理学)	森川 正大	水1	2	1	全	154
13227	春	教育科学研究Ⅴ(発達と学習の心理学)	田口 雅徳	金1	2	1	全	155
13228	秋	教育科学研究Ⅴ(発達と学習の心理学)	田口 雅徳	金1	2	1	全	155
13476	春	教育科学研究Ⅵ(こころの世界)	田口 雅徳	木2	2	1	全	156
14749	春	教育科学研究各論Ⅰ(比較教育制度論)	桑原 憲一	月5	2	2	全	157
14751	春	教育科学研究各論Ⅰ(比較教育制度論)	小島 優生	水3	2	2	全	158
14750	秋	教育科学研究各論Ⅰ(比較教育制度論)	小島 優生	水3	2	2	全	158
14757	春	教育科学研究各論Ⅱ(教育課程論)	安井 一郎	水2	2	2	全	159
14758	春	教育科学研究各論Ⅱ(教育課程論)	桑原 憲一	火4	2	2	全	160
14756	秋	教育科学研究各論Ⅱ(教育課程論)	桑原 憲一	火5	2	2	全	160
14672	春	教育科学研究各論Ⅲ(カウンセリング論)	瀧本 孝雄	木3	2	2	全	161
19177	秋	教育科学研究各論Ⅳ(パーソナリティ理論)	瀧本 孝雄	木3	2	2	全	161
14759	春	教育科学研究各論Ⅴ(学校カウンセリング)	瀧本 孝雄	水2	2	2	全	162
14761	春	教育科学研究各論Ⅴ(学校カウンセリング)	森川 正大	水1	2	2	全	163
14760	秋	教育科学研究各論Ⅴ(学校カウンセリング)	鈴木 乙史	木4	2	2	全	163
14866	春	教育科学研究各論Ⅵ(こども論)	小島 優生	金3	2	2	全	164
14862	春	教育科学研究各論Ⅶ(認知科学)	田口 雅徳	水2	2	2	全	165
14863	秋	教育科学研究各論Ⅶ(認知科学)	田口 雅徳	水2	2	2	全	165
		教育科学特殊研究Ⅰ(異文化理解教育)	2011年度不開講				全	
14865	秋	教育科学特殊研究Ⅱ(教師と語る)	川村 肇	金3	2	2	全	166
14864	秋	教育科学特殊研究Ⅲ(心理検査法と自己理解)	田口 雅徳	木2	2	2	全	167
14649	春	教育科学特殊研究Ⅳ(スポーツコーチ学a)	依田 珠江	木4	2	2	全	168
14629	秋	教育科学特殊研究Ⅴ(スポーツコーチ学b)	松原 裕	木2	2	2	全	169
14877	春	教育科学特殊研究Ⅵ(リーダーシップ論)	和田 智	金2	2	2	全	170
14604	春	教育科学特殊研究Ⅶ(体育経営スポーツマネジメント)	松原 裕	木2	2	2	全	169
		教育科学特殊研究Ⅷ(ボランティア論)	2011年度不開講				全	

「自然・環境研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13229	春	自然・環境研究Ⅰ(科学史a)	東 孝博	月2	2	1	全	171
13230	秋	自然・環境研究Ⅱ(科学史b)	東 孝博	月2	2	1	全	171
13477	春	自然・環境研究Ⅲ(数学a)	福井 尚生	月3	2	1	全	172
13478	秋	自然・環境研究Ⅳ(数学b)	福井 尚生	月3	2	1	全	172
13231	春	自然・環境研究Ⅴ(宇宙論a)	福井 尚生	金1	2	1	全	173
13232	秋	自然・環境研究Ⅵ(宇宙論b)	福井 尚生	金1	2	1	全	173
13233	春	自然・環境研究Ⅶ(天文学a)	福井 尚生	金3	2	1	全	174
13234	秋	自然・環境研究Ⅷ(天文学b)	福井 尚生	金3	2	1	全	174
15182	春	自然・環境研究各論Ⅰ(地球環境論a)	北崎 幸之助	金4	2	2	全	175
15183	秋	自然・環境研究各論Ⅱ(地球環境論b)	北崎 幸之助	金4	2	2	全	175
		自然・環境研究各論Ⅲ(科学技術交流史研究a)	2011年度不開講				全	
		自然・環境研究各論Ⅳ(科学技術交流史研究b)	2011年度不開講				全	
14608	春	自然・環境特殊研究Ⅰ(自然観察a)	加藤 僖重	火1	2	2	全	176
14609	秋	自然・環境特殊研究Ⅱ(自然観察b)	加藤 僖重	火1	2	2	全	176
14611	春	自然・環境特殊研究Ⅲ(観察と実験生物学a)	加藤 僖重	木2	2	2	全	177
14665	春	自然・環境特殊研究Ⅲ(観察と実験生物学a)	加藤 僖重	木3	2	2	全	177
14614	秋	自然・環境特殊研究Ⅳ(観察と実験生物学b)	加藤 僖重	木2	2	2	全	177
14666	秋	自然・環境特殊研究Ⅳ(観察と実験生物学b)	加藤 僖重	木3	2	2	全	177

「多言語情報処理研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13235	春	多言語情報処理研究Ⅰ(コンピュータと言語)	黄 海湘	水2	2	1	全	178
15078	春	多言語情報処理研究各論Ⅰ(表計算とプレゼンテーション)	内田 俊郎	木2	2	2	全	179
15084	秋	多言語情報処理研究各論Ⅰ(表計算とプレゼンテーション)	田中 雅英	火4	2	2	全	179
15100	春	多言語情報処理研究各論Ⅰ(表計算とプレゼンテーション)	松山 恵美子	火2	2	2	全	179
15101	秋	多言語情報処理研究各論Ⅰ(表計算とプレゼンテーション)	松山 恵美子	火2	2	2	全	179
14642	春	多言語情報処理研究各論Ⅱ(情報検索と加工)	黄 海湘	水3	2	2	全	180
15082	秋	多言語情報処理研究各論Ⅲ(ホームページ設計)	田中 雅英	火3	2	2	全	181
15121	秋	多言語情報処理研究各論Ⅲ(ホームページ設計)	金子 憲一	月3	2	2	全	181
15079	春	多言語情報処理研究各論Ⅲ(ホームページ設計)	内田 俊郎	木3	2	2	全	181
15080	秋	多言語情報処理研究各論Ⅲ(ホームページ設計)	内田 俊郎	木2	2	2	全	181
15088	秋	多言語情報処理研究各論Ⅳ(データベース)	黄 海湘	水3	2	2		182
14690	春	多言語情報処理研究各論Ⅴ(統計と調査法)	安間 一雄	火3	2	2	全	183
		多言語情報処理研究各論Ⅵ(コーパス言語学)	2011年度不開講					
14697	春	多言語情報処理特殊研究Ⅰ(自然言語処理a)	黄 海湘	水4	2	2		184
14698	秋	多言語情報処理特殊研究Ⅱ(自然言語処理b)	黄 海湘	水4	2	2		184
		多言語情報処理特殊研究Ⅲ(プログラミング論a)	2011年度不開講					
		多言語情報処理特殊研究Ⅳ(プログラミング論b)	2011年度不開講					
14610	秋	多言語情報処理特殊研究Ⅴ(コンピュータ構造論)	黄 海湘	水2	2	2	全	185
15083	春	多言語情報処理特殊研究Ⅵ(マルチメディア論)	田中 雅英	火4	2	2	全	185

「卒業研究」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春/秋	卒業研究	各担当教員		2	4	全	186

全学総合科目

「スポーツ・レクリエーション部門」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春	スポーツ・レクリエーション(学生交流プログラム)	各担当教員	±1/±2	1	1	全	187

「日本語科目」(外国人学生・帰国学生専用)

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	秋	初級日本語	各担当教員		1	1	全	188
	春/秋	中級日本語	各担当教員		1	1	全	189
	春/秋	上級日本語Ⅰ	各担当教員		1	1	全	190
	春/秋	上級日本語Ⅱ	各担当教員		1	1	全	191

外国語学部言語文化学科授業科目(2003年度～2006年度入学者用)

目 次 学科基礎科目

「基礎講座」部門

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08659	春	現代世界論	佐藤 勤治	月4	2	1	全	4
		コンピュータ基礎演習			2	1	全	

※「コンピュータ基礎演習」のシラバスは、外国語学部共通科目「情報科学各論」の頁を参照する。

※過去にコンピュータ基礎演習を修得した場合、過去に修得したコンピュータ基礎演習の副題の異なる情報科学各論を登録すること。

「概論」部門

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
02271	秋	比較思想概論	谷口 郁夫	月2	2	1		134
01969	春	日本文化論a	飯島 一彦	火2	2	1		94
02104	春	スペイン・ラテンアメリカ文化論a	二宮 哲	月5	2	1		66
02105	秋	スペイン・ラテンアメリカ文化論b	佐藤 勤治	月5	2	1		66
01905	春	現代中国論a	孫 新	木2	2	1	法	78
01906	秋	現代中国論b	孫 新	木2	2	1	法	78

学科共通科目

「外国語」部門

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
09780	春	英語演習	J. ハント	木3	2	3	全	52
02093	春	英語演習	S. K. エリス	月3	2	3	全	53
13165	春	英語演習	M. デル ベツキオ	水4	2	3	全	54
13158	春	英語演習	ロン 美香	木3	2	3	全	55
15265	春	英語演習	関戸 冬彦	木4	2	3	全	56
13156	春	英語演習	中込 知子	水3	2	3	全	57
11610	春	英語演習	中島 直美	火2	2	3	全	58
09781	秋	英語演習	J. ハント	木3	2	3	全	52
02094	秋	英語演習	S. K. エリス	月3	2	3	全	53
13166	秋	英語演習	M. デル ベツキオ	水4	2	3	全	54
13159	秋	英語演習	ロン 美香	木3	2	3	全	55
15266	秋	英語演習	関戸 冬彦	木4	2	3	全	56
13157	秋	英語演習	中込 知子	水3	2	3	全	57
11611	秋	英語演習	中島 直美	火2	2	3	全	58
10638	春	スペイン語演習	C. ガリード	火3	2	3	全	59
09417	春	スペイン語演習	N. ウエチ	木1	2	3	全	60
10639	春	スペイン語演習	兒島 峰	月2	2	3	全	61
10641	秋	スペイン語演習	C. ガリード	火3	2	3	全	59
09416	秋	スペイン語演習	N. ウエチ	木1	2	3	全	60
10642	秋	スペイン語演習	兒島 峰	月2	2	3	全	61
10646	春	中国語演習	武信 彰	水3	2	3	全	62
10644	春	中国語演習	永田 小絵	水3	2	3	全	63
09420	春	中国語演習	吉田 桂子	金2	2	3	全	64
10649	秋	中国語演習	武信 彰	水3	2	3	全	62
10647	秋	中国語演習	永田 小絵	水3	2	3	全	63
09421	秋	中国語演習	吉田 桂子	金2	2	3	全	64

学科専門科目

「日本研究」部門

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
06318	秋	日本思想史b	川村 肇	木3	2	2	全	135
06319	春	日本文化・芸能論a	未定	水4	2	2	全	97
06320	秋	日本文化・芸能論b	飯島 一彦	火2	2	2	全	94
06479	春	日本近現代史a	丸浜 昭	火5	2	2	全	92
06480	秋	日本近現代史b	丸浜 昭	火5	2	2	全	92
07116	春	日本経済論a	波形 昭一	火5	2	2	全	93
07117	秋	日本経済論b	波形 昭一	火5	2	2	全	93
06281	春	日本政治外交史a	福永 文夫	金3	2	2	全	126
06282	秋	日本政治外交史b	福永 文夫	金3	2	2	全	126
15110	春	日本研究特殊講義(企業経営)	黒川 文子	木5	2	2	全	95
15112	春	日本研究特殊講義(民俗学)	林 英一	木1	2	2	全	96
15111	秋	日本研究特殊講義(地域文化)	林 英一	木1	2	2	全	96
15113	秋	日本研究特殊講義(文献読解)	未定	水4	2	2		97
15114	春	日本研究特殊講義(写本を読む)	飯島 一彦	金2	2	2	全	98
15115	秋	日本研究特殊講義(碑文を読む)	飯島 一彦	金2	2	2	全	98

「日本語教育研究」部門

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
06321	春	日本語文法論a	松浦 恵津子	月2	2	2		141
06322	秋	日本語文法論b	松浦 恵津子	月2	2	2		141
06323	秋	日本語音声学a	浅山 佳郎	月3	2	2		140
06325	春	対照言語学a	白石 実	火2	2	2		143
14564	秋	日本語語彙・意味論	浅山 佳郎	火1	2	2		142
06327	春	日本語教授法Ⅰa	石塚 京子	月1	2	2		139
06328	秋	日本語教授法Ⅰb	石塚 京子	月1	2	2		139
02080	春	日本語教授法Ⅱ	坂谷 佳子	水2	2	4		145
02192	春	日本語教授法Ⅱ	浅山 佳郎	月1	2	4		146
02036	春	日本語教授法Ⅱ	野村 美知子	木2	2	4		147
01885	春	日本語学b	浅山 佳郎	火1	2	1	全	142
02353	春	日本語教育特殊講義(英文文献で読む日本語論a)	白石 実	火3	2	2		144
	春/秋	日本語教育実習	各担当教員	その他	2	4		148

「情報・コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
06329	春	自然言語処理a	黄 海湘	水4	2	2		184
06330	秋	自然言語処理b	黄 海湘	水4	2	2		184
02291	春	通訳翻訳論	永田 小絵	金2	2	2	全	192
11818	春	プログラミング論a(コンピュータ・プログラミング論)	加藤 尚吾	月2	2	2	経・法	193
07127	春	プログラミング論a(コンピュータ・プログラミング論)	立田 ルミ	水1	2	2	経・法	194
11815	春	プログラミング論a(コンピュータ・プログラミング論)	柏原 賢二	木3	2	2	経・法	195
07123	春	プログラミング論a(コンピュータ・プログラミング論)	堀江 郁美	木2	2	2	経・法	196
11819	秋	プログラミング論b(コンピュータ・プログラミング論)	加藤 尚吾	月2	2	2	経・法	193
07128	秋	プログラミング論b(コンピュータ・プログラミング論)	立田 ルミ	水1	2	2	経・法	194
11816	秋	プログラミング論b(コンピュータ・プログラミング論)	柏原 賢二	木3	2	2	経・法	195
07124	秋	プログラミング論b(コンピュータ・プログラミング論)	堀江 郁美	木2	2	2	経・法	196
06331	春	異文化間コミュニケーション論a	岡村 圭子	木2	2	2	英	112
06332	秋	異文化間コミュニケーション論b	山越 邦夫	月2	2	2	英	112
11755	秋	マス・コミュニケーション論b	森 保裕	土2	2	2		123
02355	春	認知科学	田口 雅徳	水2	2	2		165
02356	秋	認知科学	田口 雅徳	水2	2	2		165
06333	春	人間関係とカウンセリングa	瀧本 孝雄	木3	2	2		161

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
06334	秋	人間関係とカウンセリングb	瀧本 孝雄	木3	2	2		161
15116	春	情報・コミュニケーション研究特殊講義(国際語としての英語)	臼井 芳子	金2	2	2	全	105
15117	秋	情報・コミュニケーション研究特殊講義(多言語環境と英語)	臼井 芳子	金2	2	2	全	105
15218	春	情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳論・英語)	中島 直美	火1	2	2		107
16992	春	情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳論・中国語)	永田 小絵	水1	2	2		108
14616	春	情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳論・スペイン語)	柴田 バネッサ	火3	2	2		109
15240	秋	情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳実習・英語)	中島 直美	火1	2	2		107
15118	秋	情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳実習・中国語)	永田 小絵	水1	2	2		108
15119	秋	情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳実習・スペイン語)	柴田 バネッサ	火3	2	2		109
08476	春	情報・コミュニケーション研究特殊講義(CAEL)	岡田 圭子	月3	2	2	全	197
08477	秋	情報・コミュニケーション研究特殊講義(CAEL)	岡田 圭子	月3	2	2	全	197

「地域研究」部門

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
07132	春	地域文化論 i a	佐藤 勤治	木4	2	2		67
07133	秋	地域文化論 i b	佐藤 勤治	木4	2	2		67
07135	秋	地域文化論 ii a	二宮 哲	水2	2	2		70
07134	春	地域文化論 ii b	二宮 哲	水2	2	2		70
07136	春	地域文化論 iii a	武信 彰	月4	2	2		79
07137	秋	地域文化論 iii b	武信 彰	月4	2	2		79
14588	春	地域文化論 iv a	永田 小絵	月2	2	2		76
14589	秋	地域文化論 iv b	永田 小絵	月2	2	2		76
06278	春	地域経済論 i a	今井 圭子	月3	2	2		69
06279	秋	地域経済論 i b	今井 圭子	月3	2	2		69
07140	春	地域経済論 ii a	高安 健一	金1	2	2	経・法	127
07141	秋	地域経済論 ii b	高安 健一	金1	2	2	経・法	127
07144	春	地域経済論 iii a	全 載旭	月2	2	2	経・法	198
07145	秋	地域経済論 iii b	全 載旭	月2	2	2	経・法	198
07147	春	比較社会論b	井上 兼行	木3	2	2		115
15108	春	比較文化論特殊講義(日韓比較文化論b)	金 熙淑	火3	2	2	全	89
15107	秋	比較文化論特殊講義(日韓比較文化論a)	金 熙淑	火3	2	2	全	89
15109	春	比較文化論特殊講義(大衆文化論)	木本 玲一	火4	2	2	全	117
01822	春	比較文化論特殊講義(グローバリゼーションとローカル文化)	岡村 圭子	水2	2	2		116
15177	秋	比較文化論特殊講義(地域メディア論)	岡村 圭子	水2	2	2	全	116
01823	秋	比較文化論特殊講義(グローバル社会における文化変容)	田房 由起子	土2	2	2	全	118
07161	春	比較文化論特殊講義(日中文化比較論a)	易 友人	月2	2	2		80
07162	秋	比較文化論特殊講義(日中文化比較論b)	易 友人	月2	2	2		80
07575	春	地域社会文化論特殊講義(アラブ文化・芸術a)	師岡 カリーマ エルサムニー	月2	2	2	全	136
07576	秋	地域社会文化論特殊講義(アラブ文化・芸術b)	師岡 カリーマ エルサムニー	月2	2	2	全	136
12355	春	地域社会文化論特殊講義(地中海世界の歴史a)	古川 堅治	水1	2	2		133
07158	秋	地域社会文化論特殊講義(地中海世界の歴史b)	古川 堅治	水1	2	2		133
07152	春	地域社会文化論特殊講義(英語圏のエスニック・ヒストリーa)	佐藤 唯行	火3	2	2		113
07153	秋	地域社会文化論特殊講義(英語圏のエスニック・ヒストリーb)	佐藤 唯行	火3	2	2		113
07151	秋	地域社会文化論特殊講義(カリブ海域の民俗と文化b)	井上 兼行	木3	2	2		115
11820	春	地域社会文化論特殊講義(現代ラテンアメリカ研究a)	浦部 浩之	月2	2	2		68
11821	秋	地域社会文化論特殊講義(現代ラテンアメリカ研究b)	浦部 浩之	月2	2	2		68
13466	春	地域社会文化論特殊講義(文化史入門)	古川 堅治	水2	2	2	全	129
07156	春	地域社会文化論特殊講義(スペインの文化と文明a)	P. ラゴ	金2	2	2		73
07157	秋	地域社会文化論特殊講義(スペインの文化と文明b)	P. ラゴ	金2	2	2		73
15179	春	地域社会文化論特殊講義(ブラジル研究)	E. ウラノ	火2	2	2	全	71
15086	秋	地域社会文化論特殊講義(スペイン・ラテンアメリカ研究情報収集法)	二宮 哲	月4	2	2	全	72
15180	春	地域社会文化論特殊講義(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)	倉田 量介	火3	2	2	全	74
15087	秋	地域社会文化論特殊講義(スペイン・ラテンアメリカの社会文化)	兒島 峰	火5	2	2	全	74
15089	春	地域社会文化論特殊講義(中国文学研究古典)	易 友人	火3	2	2		81
15090	秋	地域社会文化論特殊講義(中国文学研究現代)	易 友人	火3	2	2		81
15091	春	地域社会文化論特殊講義(韓国史)	佐藤 厚	金2	2	2	全	83

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
15092	秋	地域社会文化論特殊講義(韓国社会論)	金 泰植	水2	2	2	全	83
15093	秋	地域社会文化論特殊講義(韓国の言語文化)	金 泰植	水3	2	2	全	84
15095	春	地域社会文化論特殊講義(韓国社会各論b)	全 載旭	火2	2	2	全	85
15096	秋	地域社会文化論特殊講義(日韓交流史)	金 熙淑	月3	2	2	全	85
15097	春	地域社会文化論特殊講義(韓国文化各論a)	呉 吉煥	水1	2	2	全	86
15098	秋	地域社会文化論特殊講義(韓国文化各論b)	佐藤 厚	金2	2	2	全	86
15099	春	地域社会文化論特殊講義(韓国文化各論c)	佐藤 厚	火2	2	2	全	87
15102	春	地域社会文化論特殊講義(英語圏の文化)	山越 邦夫	月3	2	2	全	106
15103	秋	地域社会文化論特殊講義(英語圏事情)	山越 邦夫	月3	2	2	全	106
15104	春	地域社会文化論特殊講義(アメリカ合衆国のラティーノ社会)	佐藤 勘治	水2	2	2		119
15106	秋	地域社会文化論特殊講義(思想と文化)	松丸 壽雄	金4	2	2		137

「国際交流」部門

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
07366	春	国際関係概論a	浦部 浩之	水3	2	2		121
07367	秋	国際関係概論b	浦部 浩之	水3	2	2		121
06275	春	国際機構論a	鈴木 淳一	月3	2	2	経・法	122
06276	秋	国際機構論b	鈴木 淳一	月3	2	2	経・法	199
07163	春	地球環境論a(地理学)	北崎 幸之助	金4	2	1	全	175
07164	秋	地球環境論b(地理学)	北崎 幸之助	金4	2	1	全	175
07166	春	地球環境論a(太陽系)	福井 尚生	金3	2	2		174
07167	秋	地球環境論b(太陽系)	福井 尚生	金3	2	2		174
11823	春	国際経済論a	益山 光央	火3	2	2	経・法	125
11824	秋	国際経済論b	益山 光央	火3	2	2	経・法	125
07174	春	国際政治論a	星野 昭吉	月2	2	2	法	124
07175	秋	国際政治論b	星野 昭吉	月2	2	2	法	124
13464	春	国際交流特殊講義(国際関係・日米中)	山本 秀也	土1	2	2		120
13465	秋	国際交流特殊講義(NGO論)	清水 俊弘	水5	2	2	全	122

卒業研究

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	通年	卒業論文	各担当教員	その他	4	4	全	200

外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	定員	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合講座	廣田 愛理	春	水1		2	1	養・経・法	201
総合講座	廣田 愛理	秋	水1		2	1	養・経・法	201
総合講座	工藤 達也	春	水3		2	1	養・経・法	202
総合講座	飯嶋 曜子	秋	水3		2	1	養・経・法	202
情報科学概論a	黄 海湘	春	水2	50	2	1	養・経・法	203
情報科学概論b	休講							
(入門)情報科学各論	各担当教員							
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火2	50	2	1	養・経・法	204
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火3	50	2	1	養・経・法	204
(情報処理演習)[総合]	内田 俊郎	秋	木4	50	2	1	養・経・法	204
(情報処理演習)[英語]	羽山 恵	春	木3	50	2	1	養・経・法	205
(情報処理演習)[英語]	羽山 恵	秋	木3	50	2	1	養・経・法	205
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	火1	45	2	1	養・経・法	206
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	春	火2	45	2	1	養・経・法	206
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金4	45	2	1	養・経・法	206
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	火1	45	2	1	養・経・法	206
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	秋	火2	45	2	1	養・経・法	206
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金4	45	2	1	養・経・法	206
(応用)情報科学各論	各担当教員							
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	春	火2	30	2	1	養・経・法	207
(Excel・プレゼンテーション中級)	内田 俊郎	春	木2	30	2	1	養・経・法	207
(Excel・プレゼンテーション中級)	田中 雅英	秋	火4	30	2	1	養・経・法	207
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	秋	火2	30	2	1	養・経・法	207
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	月4	30	2	1	養・経・法	208
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	秋	月4	30	2	1	養・経・法	208
(Word中級)	金子 憲一	春	月3	30	2	1	養・経・法	209
(Word中級)	金子 憲一	春	月5	30	2	1	養・経・法	209
(Word中級)	内田 俊郎	春	木4	30	2	1	養・経・法	209
(Word中級)	田中 雅英	秋	火2	30	2	1	養・経・法	209
(Word中級)	内田 俊郎	秋	木3	30	2	1	養・経・法	209
(Office中級)	松山 恵美子	春	火3	30	2	1	養・経・法	210
(Office中級)	松山 恵美子	秋	火3	30	2	1	養・経・法	210
(言語情報処理1)	羽山 恵	春	木2	50	2	2	養・経・法	211
(言語情報処理1)	吉成 雄一郎	春	金2	50	2	2	養・経・法	212
(言語情報処理2)	羽山 恵	秋	木2	50	2	2	養・経・法	211
(言語情報処理2)	吉成 雄一郎	秋	金2	50	2	2	養・経・法	212
(HTML)情報科学各論	各担当教員							
(HTML初級)	内田 俊郎	春	木3	50	2	1	養・経・法	213
(HTML初級)	金子 憲一	秋	月3	50	2	1	養・経・法	213
(HTML初級)	田中 雅英	秋	火3	50	2	1	養・経・法	213
(HTML初級)	内田 俊郎	秋	木2	50	2	1	養・経・法	213
(HTML中級)	金子 憲一	秋	月5	30	2	1	養・経・法	214
経済原論a	野村 容康	春	水2	350	2	1	養・経・法	215
経済原論b	野村 容康	秋	水2	350	2	1	養・経・法	215
社会心理学a	休講							
社会心理学b	休講							

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。

※情報科学各論を履修する場合は、『授業時間割表』の「情報科学各論 重複履修可否一覧」を参考にしてください。

養	基礎演習 a	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
基礎演習の目的は、1 年次に今後 4 年間の大学生活を有意義に過ごすためのアドバイスおよびケアおよび 2 年次以降の専門研究に対処できるよう準備することにある。 そのために、読み書きの能力などのリテラシー、分析能力、達成指向力などのコンピテンシーを高めていくことを課題とする。		1.基礎演習 a の目的と課題（1 回） 2.大学生活を考える（2 回） 大学で学ぶ心構え（目標、課題）、将来展望（学習計画、キャリア形成）、サークル活動など 3.問題の発見と書き方（3 回） 資料や文献を調べる、情報の収集、図書館の利用法、レポート・小論文の書き方、要約の仕方 4.話し方、聴き方、ノートの取り方（2 回） グループ討議、プレゼンテーションのスキル、授業の受け方、講義でのノートの取り方 5.読み方、文章理解（2 回） 読書の方法、読書の整理法、テキストの読み方 6.パソコンの利用（3 回） 文章作成の基本、e メールの使い方、インターネットの使い方と情報検索、パワーポイントの作り方と使い方 7.まとめと基礎演習 b の決定（2 回） 演習 a のまとめ、ふりかえり、演習 b 選択およびオリエンテーション	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員による		出欠状況およびレポートなどにより、総合的に評価する	

養	基礎演習 b	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期の基礎演習 b は、春学期の基礎演習 a を担当した 7 名の教員によって独自に行われる。 講義の目的、講義の概要、授業計画についてはすでに春学期に手引きに基づいて説明がなされており、それに従って行われる。 演習と同時に、必要なら、2 年次以降の勉強とそのため の科目履修計画について、各教員は学生の相談相手になり、アドバイスをすることになっている。積極的に教員を利用してほしい。		各担当教員による	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員による		各担当教員による	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	言語文化論	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 言語文化学科が学科の目的とする国際的な教養としての「言語」と「文化」が、全体としてどのようなものであるかを認識するための授業である。学科が設置している各選択教養科目群がおおまかにどのような分野であり、それぞれの担当教員がどのような演習を開講しているかを把握し、学生諸君自身による今後の履修のための「設計図」をえがくことを目的とする。 講義概要 講義内容としては、各研究科目群についての概説、2年次以降の演習担当教員による内容紹介、「言語」と「文化」をキーワードとして複数の教員によって展開される議論の3種類で構成される。第1の概説はこの科目の担当者による、第2、第3の内容は、毎回学科の専任教員をゲストにむかえておこなう。授業中の学生からの質問を、つよく要求する。		第1回 「言語」と「文化」について 第2回 スペイン・ラテンアメリカ、国際交流、各研究科目群とそのゼミ 第3回 中国、韓国、日本、各研究科目群とそのゼミ 第4回 多言語間交流、多文化共生、日本語教育、各研究科目群とそのゼミ 第5回 宗教・歴史・文化、教育科学、各研究科目群とそのゼミ 第6回 自然・環境、多言語情報処理、各研究科目群とそのゼミ 第7回 研究科目群の編成について 第8回 特別トピックに関する研究討論(1) 第9回 特別トピックに関する研究討論(2) 第10回 特別トピックに関する研究討論(3) 第11回 特別トピックに関する研究討論(4) 第12回 演習選択について 第13回 言語文化と教養(1) 第14回 言語文化と教養(2) 第15回 まとめ なお、この予定は、各研究科目群担当教員の状況により、前後する場合がある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
言語文化学科『演習の手引き』		出席（8割以上、厳守のこと）、レポートによる総合評価	

養	哲学 I	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
下記の課題について、概要説明と問題への取り組み方、およびその例が示される。この課題ごとに、グループ分けし、それぞれが興味ある課題と取り組む。さらに後半に時間配分される課題研究発表に向けて、前半部各グループは研究調査および討議により適切な解答を考える。後半には各グループが発表を行い、最後に教師をも含めて、他の学生と共に全体討議を行うことを目指す。 その課題とは、人間と世界との関係、愛とは、諸文化の交流の意義、意識とは、感情の意味、教養は世界の平和に貢献できるか、他者の意味、幸福と倫理、言語の意味と役割などである。詳しくは、授業始めに、課題の一覧表を配る予定である。		1. 課題説明とグループ分け 2. 各グループごとの調査研究 3. 各グループごとの調査研究 4. 各グループごとの調査研究 5. 第一、第二グループの発表と討論 6. 第三、第四グループの発表と討論 7. 第五、第六グループの発表と討論 8. 第七、第八グループの発表と討論 9. 第九、第十グループの発表と討論 10. 第十一、第十二グループの発表と討論 11. 第十三、第十四グループの発表と討論 12. 第十五、第十六グループの発表と討論 13. 第十七、第十八グループの発表と討論 14. 第十九、第二十グループの発表と討論 15. 授業の総まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示。		ディスカッションへの出席、授業への取り組み方を調査研究発表態度から判定（20%）、およびレポートから最終判定（80%）。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	現代世界論 現代世界論	担当者	佐藤 勘治
講義目標		授業計画	
この講義の目的は、世界が抱える諸問題や謎を各担当教員およびゲストスピーカーが提示する身近で具体的テーマにそって受講生とともに深く考える場とし、後の専門研究へのきっかけとすることである。そのため、一年目の学生を主な履修対象者としている。2年次以降の学生も履修できるが、研究入門の講義であることを了解していただきたい。 現代世界は、受講者や担当教員もその構成員であることを忘れてはならない。現代世界の問題は、ほかでもない、われわれ自身の問題であることを講義を通して明らかにしたいと考えている。したがって、ここでいう現代世界は、日本以外の世界という意味ではない。		1 佐藤勘治： <u>総論 現代世界の歴史的位置</u> (4/11) 2 平田由紀江： <u>板門店観光</u> (4/18) 3 青砥恭：彩の国子ども・若者支援ネットワーク代表 理事/埼玉大学講師+小島優生 <u>子どもの貧困と日本の教育</u> (4/25) 4 安間一雄： <u>「英語帝国主義」の諸相</u> (5/2) 5 金丸良子：麗澤大学教授 +武信彰 <u>中国の少数民族</u> (5/9) 6 福井尚生： <u>現代人にとって96%Darkな世界</u> (5/16) 7 佐藤勘治： <u>先住民と現代世界</u> (5/23) 8 S. ネルソン：法政大学教授 +飯島一彦 <u>日本で日本を研究すること</u> (5/30) 9 ジャパン・プラットフォーム事務局 (NGO) +浦部浩之 <u>国際緊急支援活動の現状と課題</u> (6/6) 10 未定 +呉浩東 <u>(論題未定)</u> (6/13) 11 ゲストを予定： +岡村圭子 論題未定 (6/20) 12 古川堅治： <u>現代ギリシアの財政危機と生活</u> (6/27) 13 篠原紀絵：AOTS講師 +浅山佳郎 <u>日本語教育の現場から</u> (7/4) 14 佐藤勘治： <u>レポート課題について</u> (7/11) 15 まとめ	
講義概要			
言語文化学科所属教員や各界で活躍しているゲストスピーカーにそれぞれの研究分野との関連から現代世界の抱える諸問題に切り込んでもらう。担当者の専門分野は、言語学、歴史、社会学、文学、天文、情報科学、教育学など多様である。とくに、統一のテーマを設定していない。現代世界の全体像というよりも、その一面を論じてもらう。 なお、順番などについて、変更の可能性がある。授業の初めに指示する。			
受講生への要望			
各授業の最後に、必ず質問の時間をとるようにしたい。積極的な発言を期待している。			
評価方法			
毎回、内容理解を確かめる小レポート課題が出される。また最終レポートを提出してもらう。			
テキスト、参考文献			

養	哲学Ⅱ	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
現代世界において直面せざるを得ない諸問題の基礎となる課題について、簡単な概要説明といくつかの問題への取り組み方がまず示される。この課題ごとに、グループ分けした各班がそれぞれに興味を抱いた課題を、春学期の間取り組むことになる。各グループは研究調査およびディスカッションにより、自分たちならばどのような見解と解決を与えるのが最適と考えるかを探り、発表を行い、今度は教師をも含めて、他の学生との全体討議を行う。学生による発表は英語でなされる。しかし、討論は受講生の状況を見て言語を決定する。なお、このグループ内で、研究調査計画、および担当分担、研究発表の手順担当者、および質疑応答の準備等を自主的に決めたいうえて、発表に臨むこと。		1.現代世界の我々を取り巻く思想的状況の哲学的説明。 2.各グループの研究調査、発表準備。 3.各グループの研究調査、発表準備。 4.各グループの研究調査、発表準備。 5.第1、第2グループの発表とディスカッション 6.第3、第4グループの発表とディスカッション 7.第5、第6グループの発表とディスカッション 8.第7、第8グループの発表とディスカッション 9.第9、第10グループの発表とディスカッション 10.第11、第12グループの発表とディスカッション 11.第13、第14グループの発表とディスカッション 12.第15、第16グループの発表とディスカッション 13.第17、第18グループの発表とディスカッション 14.第19、第20グループの発表とディスカッション 15.授業の総まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		発表とディスカッションの貢献度（20％）と、それに基づく個人のレポート（80％）	

養	哲学Ⅱ	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
現代世界において直面せざるを得ない諸問題の基礎となる課題について、簡単な概要説明といくつかの問題への取り組み方がまず示される。この課題ごとに、グループ分けした各班がそれぞれに興味を抱いた課題を、秋学期の間取り組むことになる。各グループは研究調査およびディスカッションにより、自分たちならばどのような見解と解決を与えるのが最適と考えるかを探り、発表を行い、今度は教師をも含めて、他の学生との全体討議を行う。学生による発表と全体ディスカッションは英語でなされるが、参加者の状況を見極めて、ディスカッション使用言語を最終的に決定する。なお、このグループ内で、研究調査計画、および担当分担、研究発表の手順担当者、および質疑応答の準備等を自主的に決めたいうえて、発表に臨むこと。		1.現代世界の我々を取り巻く思想的状況の哲学的説明。 2.各グループの研究調査、発表準備。 3.各グループの研究調査、発表準備。 4.各グループの研究調査、発表準備。 5.第1、第2グループの発表とディスカッション 6.第3、第4グループの発表とディスカッション 7.第5、第6グループの発表とディスカッション 8.第7、第8グループの発表とディスカッション 9.第9、第10グループの発表とディスカッション 10.第11、第12グループの発表とディスカッション 11.第13、第14グループの発表とディスカッション 12.第15、第16グループの発表とディスカッション 13.第17、第18グループの発表とディスカッション 14.第19、第20グループの発表とディスカッション 15.授業の総まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		発表とディスカッションの貢献度（20％）と、それに基づく個人のレポート（80％）	

養	英語 I (IE)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
多様なテーマに基づく統合的学習を行う。主たる学習活動はリーディング及びディスカッションで、テーマに関連した語彙学習も行う。また、より正確かつ効率的に読めるよう、様々なリーディングストラテジーを学習する。内容理解の表現方法としては、口頭・筆記双方でパラフレイズや要約（英語）ができるようになることを目的とする。テーマの例としては生活や文化など身近な話題を取り上げ、リーディング素材などを通して問題提起を学習した後、ディスカッションや調査によってより深く問題探求することを目標とする。この他に、課外活動として多読学習を取り入れ、英語の読書習慣の形成を図る。授業の使用言語は英語とする。		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
上級 Advanced level: <i>Exploring Language</i> (Pearson Longman) 中級上 Intermediate high level: <i>Well Read 3</i> (Oxford University Press) 中級中 Intermediate mid level: <i>Well Read 2</i> (Oxford University Press) 中級下 Intermediate low level: <i>Well Read 1</i> (Oxford University Press)		課題 (20%), 多読関連 (20%), 語彙テスト (20%), 期末テスト (40%) 出席: 出席を大前提とする。9回以上欠席した場合は不合格とする。	

養	英語 II (IE)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
多様なテーマに基づく統合的学習を行う。主たる学習活動はリーディング及びディスカッションで、テーマに関連した語彙学習も行う。また、より正確かつ効率的に読めるよう、様々なリーディングストラテジーも学習する。内容理解の表現方法としては、口頭・筆記双方でパラフレイズや要約（英語）ができるようになることを目的とする。テーマの例としては生活や文化など身近な話題を取り上げ、リーディング素材などを通して問題提起を学習した後、ディスカッションや調査によってより深く問題探求することを目標とする。この他に、課外活動として多読学習を取り入れ、英語の読書習慣の形成を図る。授業の使用言語は英語とする。		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期(英語 I)と同じ		春学期(英語 I)と同じ	

養	英語Ⅰ (S)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
基礎的な言語表現形式を口頭で使いこなす能力を養う。ここでは、音声言語の受容・産出効率を高めるために定型言語形式の使用練習や発音練習をする。また、プレゼンテーションスキルを学び、身近なテーマに関するプレゼンテーションの練習をする。 授業の使用言語は英語とする。		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
上級，中級上・中： <i>Dynamic Presentations</i> (桐原書店) 中級下： <i>Nice Talking with You</i> (Macmillan), <i>Getting Ready for Speech</i> (Language Solutions)		参加態度・予習・努力等 (10%) , 口頭発表 (30%) , 期末ペアインタビュー (30%) , 課題到達度 (30%)	

養	英語Ⅱ (S)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「英語Ⅰ(S)」に示した内容と目標を継承し、さらに発展的な学習を行う。定型言語形式の使用練習においては、自発的な発話場面においても、適切に使用できることを目標とする。 授業の使用言語は英語とする。		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

養	英語 I (W)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
エッセイライティングの基礎を学ぶ。パラグラフ内の論理構成の技術をもとに、記述・意見表示・比較対象・原因-結果などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う。実際のライティング作業においては最終的論文のみならず途中のプロセスが重視される。すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで、このためにブレーンストーミング、アウトラインプロセッシング、資料の利用法といった新しい技法を学ぶ。このほか随時正書法上の重要事項を学習する。授業の主要な使用言語は英語とする。また、課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする。		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
上級: <i>Discoveries in Academic Writing</i> (Cengage) 中級: <i>Effective Academic Writing 2</i> (Oxford)		テーマ毎の課題作文による到達目標の達成度 (50%)，期末作文課題 (20%)，授業参加態度 (20%)，ポートフォリオ (10%)	

養	英語 II (W)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
エッセイライティングの基礎を学ぶ。「英語 I(W)」に示した内容と目標を継承し、さらに発展的な学習を行う。パラグラフ内の論理構成の技術をもとに、記述・意見表示・比較対象・原因-結果などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う。実際のライティング作業においては最終的論文のみならず途中のプロセスが重視される。すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで、このためにブレーンストーミング、アウトラインプロセッシング、資料の利用法といった新しい技法を学ぶ。このほか随時正書法上の重要事項を学習する。授業の主要な使用言語は英語とする。また、課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする。		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

養	英語Ⅲ (IE)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「英語ⅡIE」に引き続き、様々なテーマに基づく統合的学習を行う。主たる学習活動はリーディングおよびディスカッションで、テーマに関連した語彙学習も行う。この授業では、受講者は読んだ内容を適格に要約し、それを口頭でも再構築する。また、読んだ内容を建設的に批判し、自ら知識・経験と結びつけて問題解決方法を調査し提案することが求められる。最後に、そのユニットで学んだことを総合的に評価し、自分の意見を文章にまとめる。		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
上級: <i>Exploring Language</i> (Pearson Education) 中級上・中・下: <i>Academic Encounters: Life in Society</i> (Cambridge University Press)		課題 (20%), 多読関連 (20%), 語彙テスト (20%), 期末テスト (40%) 出席: 出席を大前提とする。9回以上欠席した場合は不合格とする。	

養	英語Ⅳ (IE)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「英語ⅢIE」に引き続き、同じ授業形態の許で、様々なテーマに基づく統合的学習を行う。この授業では、受講者は読んだ内容を適格に要約し、それを口頭でも再構築する。また、読んだ内容を建設的に批判し、自ら知識・経験と結びつけて問題解決方法を調査し提案することが求められる。最後に、そのユニットで学んだことを総合的に評価し、自分の意見を文章にまとめる。		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期(英語Ⅲ)と同じ		春学期(英語Ⅲ)と同じ	

養	英語Ⅲ (S)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
柔軟で応用性の高い口頭言語表現を使いこなす能力を養う。「英語Ⅱ(S)」に引き続き、音声言語の受容・産出効率を高めるために定型言語形式の使用練習を行うほか、異文化間理解に関する様々なテーマに基づいたディスカッションやプレゼンテーションの練習を行う。ここでは、単に流暢さを増すだけでなく、正確に情報が伝わるように内容構成・表現形式の質を高める練習を行う。また、用意された発話が適切に遂行できることのみならず、不測の場面においても適切に対処できることを目標とする。 授業の使用言語は英語とする。		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
上級： <i>Academic Encounters: Life in Society</i> (LS) (Cambridge University Press) , 中級上・中： <i>People Like Us, Too</i> (Macmillan) 中級下： <i>People Like Us</i> (Macmillan)		参加態度・予習・努力等 (10%) , 口頭発表 (30%) , 期末ペアインタビュー (30%) , 課題到達度 (30%)	

養	英語Ⅳ (S)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「英語Ⅲ(S)」に引き続き、柔軟で応用性の高い口頭言語表現を使いこなす能力を養う。異文化間理解に関する様々なテーマに基づいたディスカッションやプレゼンテーションの練習を行う。ここでは、単に流暢さを増すだけでなく、より説得力があるメッセージが伝わるように内容構成・表現形式の質を高める練習を行う。また、用意された発話が適切に遂行できることのみならず、不測の場面においても適切に対処できることを目標とする。 授業の使用言語は英語とする。		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

養	英語Ⅲ (W)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
実質的なエッセイライティングを学ぶ。1パラグラフ内の論理構成の技術をもとに、複数パラグラフによる文章構成法・変化の記述・原因-結果・説得・分類・対立意見の表現などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う。実際のライティング作業においては最終的論文のみならず途中のプロセスが重視される。すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで、このためにブレインストーミング、アウトラインプロセッシング、資料の利用法といった新しい技法を学ぶ。このほか随時正書法上の重要事項を学習する。授業の主要な使用言語は英語とする。また、課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする。		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
上級: <i>Sourcework</i> (Cengage) 中級: <i>Basic Steps to Writing Research Papers</i> (Cengage)		テーマ毎の課題作文による到達目標の達成度 (50%) , 期末作文課題 (20%) , 授業参加態度 (20%) , ポートフォリオ	

養	英語Ⅳ (W)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「英語 III (W)」に引き続き、実質的なエッセイライティングを学ぶ。1パラグラフ内の論理構成の技術をもとに、複数パラグラフによる文章構成法・変化の記述・原因-結果・説得・分類・対立意見の表現などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための練習を行うが、いずれもより高度な内容を含み、より安定したスキルの証明が求められる。教科書に基づいたフォーマルな課題の練習の他、受講者各自の知識・関心・経験に関連する課題作文の練習を行う。このほか随時正書法上の重要事項を学習する。授業の主要な使用言語は英語とする。また、課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする。		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

養	英語Ⅴ (AE) (Basic Research and Discussion: Human Rights)	担当者	C. チャー
講義目的、講義概要		授業計画	
At the completion of the course, students: ① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way ② can objectively summarize academic articles and related materials ③ can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way ④ can write a short opinion paper ⑤ can narrow down a topic effectively ⑥ can organize ideas in an outline format ⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources ⑧ can write an abstract for the completed research paper ⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written		Course Objective: Research and Discussion on Human Rights Issues in Japan and the world Coursework Part 1 Week 1 Orientation and Introduction Week 2 to 5 Using Academic articles Summarizing, paraphrasing, note-taking, evaluate and criticize, discuss and debate the articles and issues involved Write a summary with opinion on the article Week 5 to 7 Repeat the above process with student chosen articles Week 7 – 10 Discussion/debate, research for essay Week 12 to 15 Peer editing, presentation, exam Evaluation: opinion paper 10%, assignments: 20%, research essay 30%, presentation 20%, exam 20% above. Will do a mini presentation to a group using a simple visual aid. Coursework Part 2 Week 7 to 14 Students will work on a Research Paper: Narrowing down a topic, writing an abstract and thesis statement, planning outline referencing and quoting, peer editing, work on a visual aid and use skills from Week 2 -7 to present their research and finally hand in a Research Paper	
テキスト、参考文献		評価方法	
Student Text: Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge and Taylor, Thomson Learning Japan) Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1		評価基準：準備・参加（10%），課題（10%），opinion paper（15%），research paper（50%：outline, drafts, final product），口頭発表（15%） 出席：出席を大前提とし、9回以上欠席した場合は不合格とする。	

養	英語Ⅵ (AE) (Research and Discussion: Current Issues)	担当者	C. チャー
講義目的、講義概要		授業計画	
「英語Ⅴ」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語Ⅴでの経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度をを目指す。		Course Objective: Research and Discussion on Current Issues in Japan and the world Coursework Part 1 Week 1 Orientation and Introduction Week 2 to 5 Using Academic articles Summarizing, paraphrasing, note-taking, evaluate and criticize, discuss and debate the articles and issues involved, write a summary with opinion on the article Week 5 to 7 Repeat the above process with student chosen articles Week 7 – 10 Discussion/debate, research for Essay Week 12 to 15 Peer editing, presentation, exam Evaluation: opinion paper 10%, assignments: 20%, research essay 30%, presentation 20%, exam 20%	
テキスト、参考文献		評価方法	
Student Text: Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge and Taylor, Thomson Learning Japan) Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1		春学期（英語Ⅴ）と同じ	

養	英語 V (AE) (Environmental Issues)	担当者	K. A. クラウン
講義目的、講義概要		授業計画	
At the completion of the course, students: ① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way ② can objectively summarize academic articles and related materials ③ can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way ④ can write a short opinion paper ⑤ can narrow down a topic effectively ⑥ can organize ideas in an outline format ⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources ⑧ can write an abstract for the completed research paper ⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written		1. Introduction to the course and themes 2. Shopping and Us: consumption patterns 3. Shopping and Us: Fair Trade and animal testing 4. Food and Us: Food safety 5. Review of prior units and Review Exam 6. Writing an Opinion Essay 7. Health and Us: chemicals in food and cosmetics 8. Energy and Us: energy sources 9. Transport and Us: cars vs. mass transit 10. Nature and Us: environmental destruction 11. Nature and Us: endangered wildlife 12. Travel: effects of tourism on local areas 13. Recreation: skiing and the environment 14. Review of prior units and Review Exam 15. Oral Presentations	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Looking Back, Moving Forward: Reading and Discussion</i> , Chris Summerville (Macmillan Languagehouse, 2006) <i>Basic Steps to Writing Research Papers</i> (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1		評価基準：準備・参加（10%），課題（10%），opinion paper（15%），research paper（50%：outline, drafts, final product），口頭発表（15%） 出席：出席を大前提とし、9回以上欠席した場合は不合格とする。	

養	英語 VI (AE) (Global Issues)	担当者	K. A. クラウン
講義目的、講義概要		授業計画	
「英語 V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語 V での経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度をを目指す。		1. Introduction to the course and themes 2. Information and misinformation 3. Saving tropical rainforests 4. Concerning happiness 5. Review of prior units and Review Exam 6. Writing an Opinion Essay 7. Gizmo addiction 8. Coping with noise 9. The whaling debate 10. Food: not just a commodity 11. Sweatshop labor 12 World Poverty 13. Japan's declining population 14. Review of prior units and Review Exam 15. Oral Presentations	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Confronting the Issues</i> , David Peaty, (Kinseido, 2008) <i>Basic Steps to Writing Research Papers</i> (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1		春学期（英語 V）と同じ	

養	英語 V (AE) (Digital Culture: Issues and Controversies)	担当者	S. K. エリス
講義目的、講義概要		授業計画	
At the completion of the course, students: ① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way ② can objectively summarize academic articles and related materials ③ can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way ④ can write a short opinion paper ⑤ can narrow down a topic effectively ⑥ can organize ideas in an outline format ⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources ⑧ can write an abstract for the completed research paper ⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written		1. Introduction and course overview/ Reading 1: Is Google Making us Stupid? 2. Digital media and the brain continued/Opinion paper 3. Digital culture: Mash-ups, memes, and cultural production/ 4. Digital culture continued: Mini-research presentation/ research paper topic 5. Digital Media in Education // research paper topic finalize 6. Education continued: The Digital Divide//research paper outline 7. Privacy and identity// research paper outline finalize 8. Privacy and identity continued// Paper draft #1 9. Copyright vs. free culture II // Peer Review 10. Copyright vs. free culture// Debate Preparation 11. Wiki-culture: experts vs. amateurs //Debate 12. Wiki-culture & bias/ Draft #2 13. Course overview// Presentation Preparation 14. Conferences, Begin group presentations 15. Final paper due// Finish presentations <i>The instructor may amend the syllabus.</i>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Articles and links will be provided by the instructor. Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1		評価基準：準備・参加（10%），課題（10%），opinion paper（15%），research paper（50%：outline, drafts, final product），口頭発表（15%） 出席：出席を大前提とし、9回以上欠席した場合は不合格とする。	

養	英語 VI (AE) (Issues and the Impact of Social Media)	担当者	S. K. エリス
講義目的、講義概要		授業計画	
「英語 V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語 V での経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度を目指す。		1. Introduction, course overview/ History of social media 2. Virtual communities, fandom and participatory culture/ Opinion paper 3. Virtual communities, fandom and participatory culture / Mini research presentations 4. Social media and community involvement /Research Paper topics 5. Social media and community involvement /Research Paper topics finalized 6. Social media and dissent // Research Paper outline 7 The dark side: anonymity and behavior//Research Paper final outline 8. The dark side; anonymity and behavior / Research paper draft 1 9. Creativity and social media / Research Paper peer review and debate preparation 10. Creativity and social media II//Debate 11. The portrayal of social media in traditional media 12. The portrayal of social media in traditional media-Discussion 13. Research paper draft 2 and course overview 14. Presentation Preparation and Conferencing 15. Final Paper due and group Presentations <i>The instructor may amend the syllabus.</i>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Articles and links will be provided by the instructor. Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1		春学期（英語 V）と同じ	

養	英語Ⅴ (AE) (Environmental Business)	担当者	K. ヤブノ
講義目的、講義概要		授業計画	
At the completion of the course, students: ① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way ② can objectively summarize academic articles and related materials ③ can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way ④ can write a short opinion paper ⑤ can narrow down a topic effectively ⑥ can organize ideas in an outline format ⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources ⑧ can write an abstract for the completed research paper ⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written		Week 1: Introduction Week 2/3: Opinion paper 1 Week 4/5: Opinion paper 2 Week 6: Research paper topic & bibliography Week 7: Research paper detailed outline Week 8: Research paper citations Week 9: Research paper draft 1 & conferencing 1 Week 10: Research paper draft 2 & peer review Week 11: Research paper draft 3 & conferencing 2 Week 12: Abstract Week 13: Research paper due Week 14: Oral presentation (Group 1) Week 15: Oral presentation (Group 2) Additional reading to be introduced as needed.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1		評価基準：準備・参加（10%），課題（10%），opinion paper（15%），research paper（50%：outline, drafts, final product），口頭発表（15%） 出席：出席を大前提とし、9回以上欠席した場合は不合格とする。	

養	英語Ⅵ (AE) (Green Technology)	担当者	K. ヤブノ
講義目的、講義概要		授業計画	
「英語Ⅴ」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語Ⅴでの経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度をを目指す。		Week 1: Introduction Week 2/3: Opinion paper 1 Week 4/5: Opinion paper 2 Week 6: Research paper topic & bibliography Week 7: Research paper detailed outline Week 8: Research paper citations Week 9: Research paper draft 1 & conferencing 1 Week 10: Research paper draft 2 & peer review Week 11: Research paper draft 3 & conferencing 2 Week 12: Abstract Week 13: Research paper due Week 14: Oral presentation (Group 1) Week 15: Oral presentation (Group 2) Additional reading to be introduced as needed.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1		春学期（英語Ⅴ）と同じ	

養	英語 V (AE) (Role Models)	担当者	M. ハルデイン
講義目的、講義概要		授業計画	
At the completion of the course, students: ① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way ② can objectively summarize academic articles and related materials ③ can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way ④ can write a short opinion paper ⑤ can narrow down a topic effectively ⑥ can organize ideas in an outline format ⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources ⑧ can write an abstract for the completed research paper ⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written		1 Introduction / Yes, we can! – The Empty Suit 2 Cartoons: Charles Schulz / Doraemon 3 Inventors and ethics: Alfred Nobel / Thomas Edison 4 Group Presentations 5 Entrepreneurs: Harland Sanders / John Pemberton // Research Paper: Topic 6 Music: John Lennon // Research Paper: Outline 7 Literature: Haruki Murakami / Charles Dodgson // Research Paper: Introduction 8 Literature: Ernest Hemingway // Research Paper: Body (1) 9 Film: Charlie Chaplin / Clint Eastwood // Research Paper: Body (2) 10 Rulers: Tutankhamen / Cleopatra // Research Paper: Conclusion 11 Medicine: Edward Jenner / The Story of Quinine // Research Paper: First Draft 12 Art: Vincent Van Gogh / Leonardo da Vinci // 13 Exploration: Captain Cook / Zheng He // 14 Research Paper due // Oral Presentation 15 FOM: Mehrleistung	
テキスト、参考文献		評価方法	
Cubic Listening: Strange But True (Second Edition). Timothy Kiggell. Macmillan Languagehouse, 2010. Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1		評価基準：準備・参加（10%），課題（10%），opinion paper（15%），research paper（50%：outline, drafts, final product），口頭発表（15%） 出席：出席を大前提とし、9回以上欠席した場合は不合格とする。	

養	英語 VI (AE) (World Culture)	担当者	M. ハルデイン
講義目的、講義概要		授業計画	
「英語 V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語 V での経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度を目指す。		1 Introduction / Europe 1: Portugal - Earthquakes 2 Europe 2: France – The Sun King 3 Europe 3: Italy – Il Rinascimento 4 Europe 4: Denmark – Hans Christian Andersen/ Europe 5: Turkey – Cappadocia// Group Presentations 5 Asia 1: India – Religion// Research Paper: Topic 6 Asia 2: Korea - Namdaemun// Research Paper: Outline 7 Asia 3: Thailand – Bangkok// Research Paper: Introduction 8 Asia 4: Vietnam – The Paris of Asia // Research Paper: Body (1) 9 Asia 5: The Philippines – Colonialism Research Paper: Body (2) 10 Africa 1: Egypt – the Nile// Research Paper: Conclusion 11 Africa 2: South Africa – Apartheid// Research Paper: First Draft 12 South America 1: Brazil – Carnival 13 South America 2: Peru – Machu Picchu 14 Central America: Guatemala // Oral Presentation // Research Paper due 15 FOM: North America: USA – Supererogatory	
テキスト、参考文献		評価方法	
World Adventures. Scott Berlin. Kinseido, 2011. Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1		春学期（英語 V）と同じ	

養	英語Ⅴ (AE) (Diversity in Japan)	担当者	臼井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
At the completion of the course, students: ① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way ② can objectively summarize academic articles and related materials ③ can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way ④ can write a short opinion paper ⑤ can narrow down a topic effectively ⑥ can organize ideas in an outline format ⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources ⑧ can write an abstract for the completed research paper ⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written		Week 1: Introduction / Reading 1 Week 2: Reading 1 // opinion paper 1 Week 3/4: Reading 2 // opinion paper 2 Week 5: Reading 3/4 Week 6: research paper topic & bibliography Week 7: research paper detailed outline Week 8: Reading 5 Week 9: research paper draft 1 & conferencing 1 Week 10: Reading 6 Week 11: research paper draft 2 & peer review Week 12: research paper draft 3 & conferencing 2 Week 13: research paper due // abstract Week 14: oral presentation (Group 1) Week 15: oral presentation (Group 2) Temporary reading list: - Japanese-American Contributions - Japanese American History Overview - Chapters from <i>Brokered Homeland</i> - Chapters from <i>Koreans in Japan</i> Films: Come See the Paradise; Bread and Roses; Caregiver	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Basic Steps to Writing Research Papers</i> (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 および配布資料		評価基準：準備・参加（10%），課題（10%），opinion paper（15%），research paper（50%：outline, drafts, final product），口頭発表（15%） 出席：出席を大前提とし、9回以上欠席した場合は不合格とする。	

養	英語Ⅵ (AE) (Japanese Images in the World)	担当者	臼井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
「英語Ⅴ」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語Ⅴでの経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度をを目指す。		Week 1: Introduction / Reading 1 Week 2: Reading 1 // opinion paper 1 Week 3/4: Reading 2 // opinion paper 2 Week 5: Reading 3/4 Week 6: research paper topic & bibliography Week 7: research paper detailed outline Week 8: Reading 5 Week 9: research paper draft 1 & conferencing 1 Week 10: Reading 6 Week 11: research paper draft 2 & peer review Week 12: research paper draft 3 & conferencing 2 Week 13: research paper due // abstract Week 14: oral presentation (Group 1) Week 15: oral presentation (Group 2) Temporary reading list: - Polite Lies by Kyoko Mori - Beauty and Chaos, Slices and Morsels of Tokyo Life by Michael Pronko - “For Beautiful Human Life”: The Use of English in Japan by James Stanlaw - Why is the Media Coverage on Japan So Biased? by Chizuko Ueno - Reading the Japanese Mind: The Realities behind Their Thoughts and Actions by Robert March	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Basic Steps to Writing Research Papers</i> (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 および配布資料		春学期（英語Ⅴ）と同じ	

養	英語 V (AE) (Global Understanding)	担当者	奥平 文子
講義目的、講義概要		授業計画	
At the completion of the course, students: ① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way ② can objectively summarize academic articles and related materials ③ can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way ④ can write a short opinion paper ⑤ can narrow down a topic effectively ⑥ can organize ideas in an outline format ⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources ⑧ can write an abstract for the completed research paper ⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written		Week 1: Orientation / Academic skills 2: Reading 1 / Summary and Evaluation 3: Reading 2 / Discussion and Facilitation 4: Reading 3 / Opinion Paper (1) 5: Reading 4 / Debate and Model Conference 6: Reading 5 / Opinion Paper (2) 7: Reading 6 / Oral presentations (group) 8-13 : Readings / Research paper -topics -outline -abstract -drafts -peer editing -final product 14: Oral presentations (individual) 15: Review *Reading materials: TBA	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Basic Steps to Writing Research Papers</i> (Kluge&Taylor, Thomson Learning) ISBN978-4-902902-89-1 / 配布プリント <i>Basic Steps to Writing Research Papers</i> (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1		評価基準 : 準備・参加 (10%) , 課題 (10%), opinion paper (15%), research paper (50%: outline, drafts, final product), 口頭発表 (15%) 出席: 出席を大前提とし、9 回以上欠席した場合は不合格とする。	

養	英語 VI (AE) (Global Understanding)	担当者	奥平 文子
講義目的、講義概要		授業計画	
「英語 V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語 V での経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度をを目指す。		Week 1: Orientation / Academic Skills (review) 2: Reading 1 / Summary and Evaluation 3: Reading 2 / Discussion and Facilitation 4: Reading 3 / Opinion Paper (1) 5: Reading 4 / Debate and Model Conference 6: Reading 5 / Opinion Paper (2) 7: Reading 6 / Oral presentations (group) 8-13 : Readings/ Research paper - topics -outline -abstract -drafts -peer editing -final product 14: Oral presentations (individual) 15: Review *Reading materials: TBA	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Basic Steps to Writing Research Papers</i> (Kluge&Taylor, Thomson Learning) ISBN978-4-902902-89-1 / 配布プリント <i>Basic Steps to Writing Research Papers</i> (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1		春学期（英語 V）と同じ	

養	英語 V (AE) (First Encounter with English Literature)	担当者	松山 響子
講義目的、講義概要		授業計画	
At the completion of the course, students: ① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way ② can objectively summarize academic articles and related materials ③ can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way ④ can write a short opinion paper ⑤ can narrow down a topic effectively ⑥ can organize ideas in an outline format ⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources ⑧ can write an abstract for the completed research paper ⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written		第 1 週 ・オリエンテーション・背景説明 第 2 週～第 3 週 ・ Short Stories 第 4 週～第 5 週 ・ Poetry 第 6 週 ・ Shakespeare's <i>Much Ado About Nothing</i> (Intro) 第 7 週 ・ Shakespeare's <i>Much Ado About Nothing</i> (Act 1) 第 8 週 ・ Shakespeare's <i>Much Ado About Nothing</i> (Act 2) 第 9 週 ・ Shakespeare's <i>Much Ado About Nothing</i> (Act 3) 第 10 週 ・ Shakespeare's <i>Much Ado About Nothing</i> (Act 4) 第 11 週 ・ Shakespeare's <i>Much Ado About Nothing</i> (Act 5) 第 12 週～第 15 週 ・ プレゼンテーション	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Much Ado About Nothing</i> (William Shakespeare, The Arden Shakespeare) Short Stories と Poetry (配布プリント) Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1		評価基準：準備・参加（10%），課題（10%），opinion paper（15%），research paper（50%：outline, drafts, final product），口頭発表（15%） 出席：出席を大前提とし、9 回以上欠席した場合は不合格とする。	

養	英語 VI (AE) (First Encounter with English Literature)	担当者	松山 響子
講義目的、講義概要		授業計画	
「英語 V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語 V での経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度をを目指す。		第 1 週 ・オリエンテーション・背景説明 第 2 週～第 3 週 ・ Short Stories 第 4 週～第 5 週 ・ Poetry 第 6 週 ・ Shakespeare's <i>A Midsummer Night's Dream</i> (Intro) 第 7 週 ・ Shakespeare's <i>A Midsummer Night's Dream</i> (Act 1) 第 8 週 ・ Shakespeare's <i>A Midsummer Night's Dream</i> (Act 2) 第 9 週 ・ Shakespeare's <i>A Midsummer Night's Dream</i> (Act 3) 第 10 週 ・ Shakespeare's <i>A Midsummer Night's Dream</i> (Act 4) 第 11 週 ・ Shakespeare's <i>A Midsummer Night's Dream</i> (Act 5) 第 12 週～第 15 週 ・ プレゼンテーション	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>A Midsummer Night's Dream</i> (William Shakespeare, The Arden Shakespeare) Short Stories と Poetry (配布プリント) Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1		春学期（英語 V）と同じ	

養	スペイン語Ⅰ（総合1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅰは、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 （総合）は、スペイン語Ⅰの中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、あいさつや自己紹介ができ、習慣、希望・情報、一日の出来事、予定などを伝え、聞き取ることができる総合的初級スペイン語の習得を目的とする。 なお、この授業はスペイン語Ⅰ（総合2）とのペア授業である。		① 発音・アクセント ② 発音・アクセント ③ 名詞の性・数、冠詞 ④ 名詞の性・数、冠詞 ⑤ 形容詞 ⑥ ser, estar 動詞の使い方 ⑦ ser, estar 動詞の使い方 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑨ 代名詞の用法 ⑩ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑪ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑫ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑬ 動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑭ 動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑮ 今学期の復習 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I（青い表紙）” 朝日出版社 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

養	スペイン語Ⅱ（総合1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅱ（総合1）は、スペイン語Ⅰ（総合1,2）の継続の授業である。接続法現在形までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 （総合）は、スペイン語Ⅱの中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、動詞のすべての活用とその使い方、および複文を使った多様な表現について、書き、話し、聞き取ることができる総合的初級スペイン語能力の完成を目的とする。 なお、この授業はスペイン語Ⅱ（総合2）とのペア授業である。		① 春学期の復習 ② 動詞の活用 --- 再帰動詞 ③ 再帰動詞と諸用法 ④ 動詞の活用 --- 直説法現在完了形・現在進行形 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法現在完了形・現在進行形 ⑥ 比較表現 ⑦ 動詞の活用 --- 直説法点過去 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑨ 点過去と線過去の違い ⑩ 動詞の活用 --- 未来形・過去未来形 ⑪ 動詞の活用 --- 未来形・過去未来形 ⑫ 動詞の活用 --- 接続法現在規則活用 ⑬ 動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用 ⑭ 命令表現 ⑮ 今学期の復習 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I（青い表紙）” 朝日出版社		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

養	スペイン語Ⅰ（総合２）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅰ（総合２）はスペイン語Ⅰ（総合１）とのペア授業である。つまり、受講生は週にスペイン語Ⅰ（総合１）と同（総合２）のふたつを同時に履修することになる。		スペイン語Ⅰ（総合１）に同じ。	
		評価方法	
スペイン語Ⅰ（総合１）に同じ。		基本的にスペイン語Ⅰ（総合１）と同じ評価基準である。	

養	スペイン語Ⅱ（総合２）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅰ（総合２）の継続の授業である。 スペイン語Ⅱ（総合２）はスペイン語Ⅱ（総合１）とのペア授業である。つまり、受講生は週にスペイン語Ⅱ（総合１）と同（総合２）のふたつを同時に履修することになる。		スペイン語Ⅱ（総合１）に同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
スペイン語Ⅱ（総合１）に同じ。		基本的にスペイン語Ⅱ（総合１）と同じ評価基準である。	

養	スペイン語Ⅰ（入門）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅰは、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 （入門）では、英語以外の言語としてあらたに学ぶことになるスペイン語はどのような言語か、どんな地域で使われているのか、学ぶ意味がどこにあるのかなどについて考え、スペイン語学習の動機付けにする。また、スペイン語Ⅰ（総合1, 2）の補いとしてスペイン語を学ぶ大学生が知っておくべき用語・基礎単語、日常会話でよく使われる簡単な構文をつかって作文・聞き取りの練習をする。		学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅰ（総合1, 2）の項目と同じであるが、（入門）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅰ（総合1, 2）の「授業計画」を参照のこと。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

養	スペイン語Ⅱ（基礎表現）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅰ（入門）の継続の授業である。接続法現在形までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 （基礎表現）では、（総合1, 2）の文法項目と語彙を補いながら、基礎的構文を使った表現法をまなぶ。また、簡単な文の読解力の養成を目的とする。		学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅱ（総合1, 2）の項目と同じであるが、（基礎表現）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅱ（総合1, 2）の「授業計画」を参照のこと。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

養	スペイン語Ⅰ（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅰは、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 （会話）では、スペイン語Ⅰ（総合1, 2）での文法項目の進展にあわせて、語彙を補いながら基本的な日常会話ができるよう練習を行うことを目的にする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。		学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅰ（総合1, 2）の項目と同じであるが、（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅰ（総合1, 2）の「授業計画」を参照のこと。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

養	スペイン語Ⅱ（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅰ（会話）の継続の授業である。 接続法現在形までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 （会話）では、スペイン語Ⅱ（総合1, 2）での文法項目の進展にあわせて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。		学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅱ（総合1, 2）の項目と同じであるが、（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅱ（総合1, 2）の「授業計画」を参照のこと。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

養	スペイン語Ⅲ（総合）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
（総合）の授業では、初級文法のうち、1年目で不十分だった接続法を中心に扱う。また、中級用の教材を用いて、未来・過去未来、大過去、関係詞、前置詞などについて補い、より高度な表現方法を学ぶことで、表現力の増強を図る。そのため、作文には力を入れる。 この授業では特に予習が不可欠である。		15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

養	スペイン語Ⅳ（総合）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅲ（総合）の継続の授業である。 （総合）の授業では、初級文法のうち、1年目で不十分だった接続法を中心に扱う。また、中級用の教材を用いて、未来・過去未来、大過去、関係詞、前置詞などについて補い、より高度な表現方法を学ぶことで、表現力の増強を図る。そのため、作文には力を入れる。 この授業では特に予習が不可欠である。		15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

養	スペイン語Ⅲ（講読）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
（講読）の授業では、比較的平易な物語・小説・評論などを用いて、読解力の養成をおこなう。それとともに（総合）の授業で学んだ新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。多様な教材を使い語彙を増強することも意図する。 この授業では特に予習が不可欠である。		15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

養	スペイン語Ⅳ（講読）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅲ（講読）の継続の授業である。 （講読）の授業では、比較的平易な物語・小説・評論などを用いて、読解力の養成をおこなう。それとともに（総合）の授業で学んだ新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。多様な教材を使い語彙を増強することも意図する。 この授業では特に予習が不可欠である。		15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

養	スペイン語Ⅲ（会話 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
（会話 1）、（会話 2）のいずれかの担当教員が（LL）の授業を担当し、他方が（会話）の授業を担当する。 （会話）の授業では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら練習するとともに、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用いてその文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進める。 （LL）の授業では、総合的オーディオヴィジュアル教材を用いて、基本文法事項に沿った聞き取り能力を定着させ、また場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。また語彙力の強化も図る。		15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

養	スペイン語Ⅳ（会話 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅲ（会話 1）の継続である。 （会話 1）、（会話 2）のいずれかの担当教員が（LL）の授業を担当し、他方が（会話）の授業を担当する。 （会話）の授業では、（総合）での文法項目に沿った口答練習をおこない、自らの意見を述べる力、他の意見を聞き取る力を養成する。中級用の教材を用いて文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進めるとともに、テーマを定めて意見発表を行う練習およびニュースや映画などの聞き取り練習をおこなう。 （LL）の授業では、総合的オーディオヴィジュアル教材を用いて、スペイン語Ⅲに引き続いて、聞き取り能力を定着させ、また場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。また語彙力の強化も図る。		15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

養	スペイン語Ⅲ（会話 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅲ（会話 1）を参照。		15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

養	スペイン語Ⅳ（会話 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅳ（会話 1）を参照。		15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

養	スペイン語Ⅴ（応用Ⅰ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
（応用Ⅰ）の授業では、スペイン語Ⅲ、Ⅳまでに培ったスペイン語力を基礎に、講読を中心とした「読み」の訓練をする。専門的な文章の一部や新聞記事等を、文化的背景を理解したうえで講読することができる力を養う。できるだけ多くの種類の文章に触れ、それぞれのジャンルが持つ独自の文体に馴染むことを目標とする。また、多様な教材を使うことで語彙の増強も図る。 この授業では特に予習が不可欠である。		15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

養	スペイン語Ⅵ（応用Ⅰ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅴ（応用Ⅰ）の継続の授業である。 （応用Ⅰ）の授業では、スペイン語Ⅲ、Ⅳまでに培ったスペイン語力を基礎に、講読を中心とした「読み」の訓練をする。専門的な文章の一部や新聞記事等を、文化的背景を理解したうえで講読することができる力を養う。できるだけ多くの種類の文章に触れ、それぞれのジャンルが持つ独自の文体に馴染むことを目標とする。また、多様な教材を使うことで語彙の増強も図る。 この授業では特に予習が不可欠である。		15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

養	スペイン語Ⅴ（応用2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
（応用2）の授業では、スペイン語Ⅲ、Ⅳまでに培ったスペイン語力を基礎に、作文・発話を中心とした言語のアウトプットの訓練をする。 スペイン語Ⅲ、Ⅳまでのスペイン語力で、ある程度の「通じる会話」はできるかもしれない。この授業では「通じる会話」のみに重きをおくのではなく、むしろ、実務的な文書の作成や会議での発言といったパブリックな場面で通用しうるスペイン語力の獲得を目標とする。（応用2）の担当者はスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時に養う。 この授業では特に予習が不可欠である。		15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

養	スペイン語Ⅵ（応用2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅴ（応用2）の継続の授業である。 （応用2）の授業では、スペイン語Ⅲ、Ⅳまでに培ったスペイン語力を基礎に、作文・発話を中心とした言語のアウトプットの訓練をする。 スペイン語Ⅲ、Ⅳまでのスペイン語力で、ある程度の「通じる会話」はできるかもしれない。この授業では「通じる会話」のみに重きをおくのではなく、むしろ、実務的な文書の作成や会議での発言といったパブリックな場面で通用しうるスペイン語力の獲得を目標とする。（応用2）の担当者はスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時に養う。 この授業では特に予習が不可欠である。		15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

養	中国語Ⅰ（総合Ⅰ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに、徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い、人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び、かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ、中国語がどのような言語であるかを知り、その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下、文法を中心として全般にわたって総合的に基礎力を養成する。		1～3 発音・ピンイン 4 基本語順、人称代詞、指示代詞、否定詞“不” 5 反復疑問文、疑問詞疑問文、当否疑問文、連体修飾 6 形容詞述語文、選択疑問文 7 中間試験 8 復習 9 二重目的文、量詞 10 連動文、年月日・曜日の言い方 11 有／没有、几／多少、方位詞、数詞 12 在、金額の表現 13 助動詞、語気助詞“了” 14 動態助詞“了”、禁止の表現、反語の表現 時量・回数と時点、時間量の言い方 15 復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語一年目の教科書 ユニバーサル・ユース』（好文出版）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅱ（総合Ⅰ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め、その語彙を活用して、簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い、基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び、中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下、文法を中心として全般にわたって総合的に基礎力を養成する。		1 主述述語文、程度補語、離合詞 2 進行相、動詞の重ね型 3 方向補語、結果補語 4 持続相、可能補語 5 経験相、将然相、時刻の表現 6 存現文 7 中間試験 8 復習 9 “把”字文、定着表現、到達表現 10 比較の表現 11 受身文 12 様態補語 13 使役文、後置修飾 14 “（是）…的”構文 15 復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語一年目の教科書 ユニバーサル・ユース』（好文出版）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅰ（総合２）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに、徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い、人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び、かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ、中国語がどのような言語であるかを知り、その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下、構文・作文力の基礎を養成する。		1～3 発音 4～6 第1課 姓名の表現 第2課 判断の表現 7 中間試験 8～10 第3課 程度の表現（Ⅰ） 第4課 行為の表現 11～14 第5課 時間の表現 第6課 所有の表現 第7課 存在の表現（Ⅰ） 15 復習 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『表現の達人Ⅰ』【基本ブック】（白帝社）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅱ（総合２）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め、その語彙を活用して、簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い、基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び、中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下、構文・作文力の基礎を養成する。		1～3 第8課 生活習慣の表現 第9課 行為完了の表現 第10課 可能と許可の表現（Ⅰ） 4～6 第11課 願望と感情の表現 第12課 条件と選択の表現 第13課 状態の持続と経験の表現 7 中間試験 8～10 第14課 程度の表現（Ⅱ） 第15課 比較の表現（Ⅰ） 11～14 第16課 動作の時間的な量と回数の表現 第17課 動作の結果の表現（Ⅰ） 第18課 可能の表現（Ⅱ） 15 復習 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『表現の達人Ⅰ』【基本ブック】（白帝社）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅰ（入門）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに、徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い、人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び、かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ、中国語がどのような言語であるかを知り、その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下、発音指導を中心に、簡単な挨拶表現・応答表現などを学ぶ。		1～3 発音 4～6 第1課 第2課 第3課 7 中間試験 8 復習 9～12 第4課 第5課 第6課 13 第7課 14 第8課 15 復習 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『 新版 例解中国語入門 你问我答〔第2版〕』（白帝社）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅱ（基礎表現）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め、その語彙を活用して、簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い、基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び、中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下、反復練習・暗誦を通し基礎表現を身につけさせる。		1～3 第9課 第10課 第11課 4～6 第12課 第13課 第14課 7 中間試験 8～11 第15課 第16課 第17課 12～14 第18課 第19課 第20課 15 復習 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『 新版 例解中国語入門 你问我答〔第2版〕』（白帝社）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅰ（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに、徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い、人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び、かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ、中国語がどのような言語であるかを知り、その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下、中国語を聞き話す楽しさを学ぶ。（積極性を養成する）		1～3 発音 4～6 第1課 姓名の表現 第2課 判断の表現 7 中間試験 8～10 第3課 程度の表現（Ⅰ） 第4課 行為の表現 11～14 第5課 時間の表現 第6課 所有の表現 第7課 存在の表現（Ⅰ） 15 復習 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『表現の達人Ⅰ』【発展ブック】（白帝社）		授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅱ（会話）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め、その語彙を活用して、簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い、基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び、中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下、中国語を聞き話す楽しさを学ぶ。（積極性を養成する）		1～3 第8課 生活習慣の表現 第9課 行為完了の表現 第10課 可能と許可の表現（Ⅰ） 4～6 第11課 願望と感情の表現 第12課 条件と選択の表現 第13課 状態の持続と経験の表現 7 中間試験 8 復習 8～10 第14課 程度の表現（Ⅱ） 第15課 比較の表現（Ⅰ） 第16課 動作の時間的な量と回数の表現 11～14 第17課 動作の結果の表現（Ⅰ） 第18課 可能の表現（Ⅱ） 15 復習 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『表現の達人Ⅰ』【発展ブック】（白帝社）		授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅲ（総合）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに、単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また、補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め、同時に語彙力を増強し、識字数も増やす」中国語Ⅲの学習目標の下、作文のための基本文法を整理し、併せて虚詞（機能語）・文型を学んで、文の組み立てをしっかりとつかませる。		1 第1課 2 第2課 3 第3課 4 第4課 5 第5課 6 第6課 7 中間試験 8 復習 9 第7課 10 第8課 11 第9課 12 第10課 13 第11課 14 第12課 15 復習 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『作文ルール66 — 日中翻訳技法 —』（朝日出版社）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅳ（総合）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし、一定の長さをもった内容について、リスニングとスピーキングの訓練を積み、基礎的運用能力を養う。また、多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し、もって作文力と読解力を向上させる。」中国語Ⅳの学習目標の下、作文のための基本文法を整理し、併せて虚詞（機能語）・文型を学んで、文の組み立てをしっかりとつかませる。		1 第13課 2 第14課 3 第15課 4 第16課 5 第17課 6 第18課 7 中間試験 8 復習 9 第19課 10 第20課 11 第21課 12 第22課 13 第23課 14 第24課 15 復習 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『作文ルール66 — 日中翻訳技法 —』（朝日出版社）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅲ（講読）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに、単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また、補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め、同時に語彙力を増強し、識字数も増やす」 中国語Ⅲの学習目標の下、一般的な文章を読み読解力の基礎を養成する。		1～3 第1課 第2課 4～6 第3課 第4課 7 中間試験 8 復習 9～11 第5課 第6課 12～14 第7課 読み物（プリント教材） 15 復習 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語Ⅱ ― 中級読解コース ―』（白帝社） ＋（各クラス担当者作成の）プリント教材		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅳ（講読）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし、一定の長さをもった内容について、リスニングとスピーキングの訓練を積み、基礎的運用能力を養う。また、多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し、もって作文力と読解力を向上させる」中国語Ⅳの学習目標の下、一般的な文章を読み読解力の基礎を養成する。		1～3 第8課 第9課 4～6 第10課 第11課 7 中間試験 8 復習 9～11 第12課 第13課 12～14 第14課 読み物（プリント教材） 15 復習 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語Ⅱ ― 中級読解コース ―』（白帝社） ＋（各クラス担当者作成の）プリント教材		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅲ（会話 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
会話文のリスニングとスピーキングの訓練を行う。 予習：本文の音読を三回以上行うこと 訓練内容 ・単語のクイックレスポンス ・本文のリピーティング ・シャドーイング ・日→中訳 ・ペア・ワークによる会話練習 LL 教室での授業となるため、学生は積極的に口を動かして練習することが求められる。		第1課～33課までを学びます。 1. 授業方法に関するガイダンス PCによる中国語の入力練習 2. 1～3課 3. 4～6課 4. 7～9課 5. 10～12課 6. 第1課～12課の復習テストと解説 7. 13～15課 8. 16～18課 9. 19～21課 10. 22～24課 11. 第12課～24課の復習テストと解説 12. 25～27課 13. 28～30課 14. 31～33課 15. 特別プログラム（映画観賞） ※期末試験範囲：25～33課	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語会話ルート 66』 東方書店		出席率・復習テスト・期末テストの点数の平均点で評価する。	

養	中国語Ⅳ（会話 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
会話文のリスニングとスピーキングの訓練を行う。 予習：本文の音読を三回以上行うこと 訓練内容 ・単語のクイックレスポンス ・本文のリピーティング ・シャドーイング ・日→中訳 ・ペア・ワークによる会話練習 LL 教室での授業となるため、学生は積極的に口を動かして練習することが求められる。		第34課から第66課までを学びます。 1. 春学期の復習 2. 34～36課 3. 37～39課 4. 40～42課 5. 43～45課 6. 第34課～45課の復習テストと解説 7. 46～48課 8. 49～51課 9. 52～54課 10. 54～56課 11. 第46課～56課の復習テストと解説 12. 57～59課 13. 60～62課 14. 63～66課 15. 特別プログラム（映画観賞） ※期末試験範囲：57～66課	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語会話ルート 66』 東方書店		出席率・復習テスト・期末テストの点数の平均点で評価する。	

養	中国語Ⅲ（会話 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに、単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また、補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め、同時に語彙力を増強し、識字数も増やす」 中国語Ⅲの学習目標の下、話題をめぐってまとめた内容を話す練習を行い、会話力に話題の広さと内容の深さを具わせる。 ※ 教科書の 1～33 の話題について会話練習を行います。		1 自己紹介、家庭Ⅰ・Ⅱ 2 住まい、食事、買い物 3 1日のスケジュール、通学・通勤、学校 4 授業Ⅰ・Ⅱ、中国語 5 テスト、留学、部活動 6 アルバイト、就職、仕事 7 中間試験 8 復習 9 病気、健康 10 余暇、趣味、レジャー 11 旅行、スポーツ 12 グルメ、タバコ・酒 13 ショッピング、おしゃれ 14 恋愛、電話・手紙 15 復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語会話ルート 66』（東方書店）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅳ（会話 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし、一定の長さをもった内容について、リスニングとスピーキングの訓練を積み、基礎的運用能力を養う。また、多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し、もって作文力と読解力を向上させる」中国語Ⅳの学習目標の下、話題をめぐってまとめた内容を話す練習を行い、会話力に話題の広さと内容の深さを具わせる。 ※ 教科書の 34～66 の話題について会話練習を行います。		1 テレビ・新聞、映画、音楽 2 読書、訪問、パーティ 3 バースデー・クリスマス、生活、ことば 4 故郷、天気、 5 友だち、性格 6 中国人、中国文化、日本と中国、 7 中間試験 8 復習 9 観光地で、ホテルで、レストランで 10 お店で、街で、交通 11 あいさつ、お礼、おわび 12 約束、依頼 13 お祝い・励まし、慰め、お別れ 14 感情表現、教室用語 15 復習 ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中国語会話ルート 66』（東方書店）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅴ（応用 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
中国語Ⅳまでの学習で身につけた、話す・書く能力を用いてさらに高度な中国語能力を養成するための学習を行う。オーラル面においては発音の不自然な癖を修正するよう心がける。中国人教員が担当し、以下にそって授業を行う。 【予習】 ・基本の会話、場面の会話を漢字表記に変換して意味を確認したうえで朗読練習を行う。 ・討論の質問に対する回答を準備する。 【授業】 <u>コミュニケーションの文型</u>：ペアで会話を作り発表する。 <u>朗読</u>：復唱練習後、指名された学生が朗読の発表を行う。 <u>討論</u>：教師の質問に回答する。<u>単語と表現</u>を用いて作文練習を行う。 【復習】各課の全体を見直し、単語と文型を定着させる。		1. ガイダンス 2. 入国手続き 3. 申請書 4. あたらしい友だち 5. 復習テスト(1) 6. ひとを訪ねる 7. 道をきく 8. 自転車 9. タクシー 10. 復習テスト(2) 11. 旅 12. 宿泊 13. 銀行 14. 買い物 15. 郵便	
テキスト、参考文献		評価方法	
『情景漢語』 朋友書店		出席率、授業に対する積極性を 50%、復習テスト・期末テストの点数を 50%で評価する。	

養	中国語Ⅵ（応用 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
中国人教員が担当する。春学期に引き続き、『情景漢語』を用いるが、学生のレベルにしたがって、討論の時間を前期よりも長くする。オーラル面においてはより自然な発音を身につけるよう心がける。 【予習】 ・基本の会話、場面の会話を漢字表記に変換して意味を確認したうえで朗読練習を行う。 ・討論の質問に対する回答を準備する。 【授業】 <u>コミュニケーションの文型</u>：ペアで会話を作り発表する。 <u>朗読</u>：復唱練習後、指名された学生が朗読の発表を行う。 <u>討論</u>：教師の質問に回答する。<u>単語と表現</u>を用いて作文練習を行う 【復習】各課の全体を見直し、単語と文型を定着させる。		1. 春学期の復習 2. 電話 3. 学校の食堂 4. 外での食事 5. 復習テスト(1) 6. ホームパーティー 7. 茶・たばこ・酒 8. 映画を見る 9. 公演を見る 10. 復習テスト(2) 11. ダンス 12. 観光旅行 13. 病気の治療 14. 天候と健康 15. 体をきたえる	
テキスト、参考文献		評価方法	
『情景漢語』 朋友書店		出席率、授業に対する積極性を 50%、小テスト、中間テスト・期末テストの点数を 50%で評価する。	

養	中国語Ⅴ（応用 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
中国語Ⅴ（応用 1）と同じテキストを用い、読解力と聞く能力を向上させることを目的とする。日本人教員が担当し、以下にそって授業を行う。 【予習】 ・基本の会話、場面の会話を漢字表記に変換する。 【授業】 <u>基本の会話、場面の会話</u>：漢字表記を確認し、日本語に訳して意味を理解した後にペアで発話練習を行う。 テキストを見ずに中国語を聞いて日本語へ訳す。 <u>練習問題</u>：漢字表記と解答を確認し、日本語に訳す。 <u>朗読</u>：日本語に訳して意味を確認する。 【復習】 <u>朗読</u>の文章を繰り返し声に出して読み、正しい発音を身につける。		1. ガイダンス 2. 入国手続き 3. 申請書 4. あたらしい友だち 5. 復習テスト(1) 6. ひとを訪ねる 7. 道をきく 8. 自転車 9. タクシー 10. 復習テスト(2) 11. 旅 12. 宿泊 13. 銀行 14. 買い物 15. 郵便	
テキスト、参考文献		評価方法	
『情景漢語』 朋友書店		出席率、授業に対する積極性を 50%、復習テスト・期末テストの点数を 50%で評価する。	

養	中国語Ⅵ（応用 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に引き続き、日本人教員が担当し、以下にそって授業を行う。 【予習】 基本の会話、場面の会話を漢字表記に変換して意味を確認したうえで朗読練習を行う。 【授業】 <u>基本の会話、場面の会話</u>：漢字表記を確認し、日本語に訳して意味を理解した後にペアで発話練習を行う。 テキストを見ずに中国語を聞いて日本語へ訳す。 <u>練習問題</u>：漢字表記と解答を確認し、日本語に訳す。 <u>朗読</u>：日本語に訳して意味を確認する。 【復習】 <u>朗読</u>の文章を繰り返し声に出して読み、正しい発音を身につける。		1. 春学期の復習 2. 電話 3. 学校の食堂 4. 外での食事 5. 復習テスト(1) 6. ホームパーティー 7. 茶・たばこ・酒 8. 映画を見る 9. 公演を見る 10. 復習テスト(2) 11. ダンス 12. 観光旅行 13. 病気の治療 14. 天候と健康 15. 体をきたえる	
テキスト、参考文献		評価方法	
『情景漢語』 朋友書店		出席率、授業に対する積極性を 50%、小テスト、中間テスト・期末テストの点数を 50%で評価する。	

養	韓国語Ⅰ（文法・読解 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は韓国語の基礎的知識を習得することを目標とし、主に「読み」「書き」に重点を置く。 ハングルのしくみからはじまって簡単な挨拶、自己紹介、道をたずねる、ショッピングをするなど、旅行や日常生活に必要な基本文と共に、基礎的かつ重要な文法をしっかりと身につけていく。 よく、「韓国語は日本語と似ているから習得しやすい」と言われるが、そうした思い込みは捨てて欲しい。カタカナ読みの韓国語ではなく、「生きた韓国語」に接する機会を出来るだけ多く提供していきたい。		1 ハングルのしくみ① 2 ハングルのしくみ② 3 ハングルのしくみ③ 4 あいさつ① 5 あいさつ② 6 自己紹介① 7 自己紹介② 8 道をたずねる① 9 道をたずねる② 10 ショッピング① 11 ショッピング② 12 カラオケに行く 13～15 まとめと復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
生越直樹・曹喜撤『ことばの架け橋』白帝社		出席、小テスト、期末テスト	

養	韓国語Ⅱ（文法・読解 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は韓国語中級へのステップアップを目標とし、主に「読み」「書き」に重点を置く。 予定をたずねる、説明書を読む、手紙を読む等、より多様な場面で使用される文章を身につけていくとともに、基礎的な文法習得の仕上げをする。 よく、「韓国語は日本語と似ているから習得しやすい」と言われるが、そうした思い込みは捨てて欲しい。カタカナ読みの韓国語ではなく、「生きた韓国語」に接する機会を出来るだけ多く提供していきたい。		1 待ち合わせをする 2 映画をみる① 3 映画をみる② 4 キャンパスを歩く① 5 キャンパスを歩く② 6 予定をたずねる 7 説明書を読む 8 友達と話す① 9 友達と話す② 10 友達と話す③ 11 手紙を読む① 12 手紙を読む② 13～15 まとめと復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
生越直樹・曹喜撤『ことばの架け橋』白帝社		出席、中間テスト、期末テスト	

養	韓国語Ⅰ（文法・読解2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は「韓国語Ⅰ(文法・読解1)」で学んだ文法や単語を教室内で使用することにより、韓国語の実践力を鍛えることに重点を置く。 主に「読み・書き」に力を入れていく。		1 ハングルのしくみ① 2 ハングルのしくみ② 3 ハングルのしくみ③ 4 あいさつ① 5 あいさつ② 6 自己紹介① 7 自己紹介② 8 道をたずねる① 9 道をたずねる② 10 ショッピング① 11 ショッピング② 12 カラオケに行く 13 ～15 まとめと復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
生越直樹・曹喜撤『ことばの架け橋』白帝社		出席、小テスト、期末テスト	

養	韓国語Ⅱ（文法・読解2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は「韓国語Ⅱ(文法・読解1)」で学んだ文法や単語を教室内で使用することにより、韓国語の実践力をえることに重点を置く。 また、韓国語中級への準備段階として、主に「読み・書き」に力を入れていく		1 待ち合わせをする 2 映画をみる① 3 映画をみる② 4 キャンパスを歩く① 5 キャンパスを歩く② 6 予定をたずねる 7 説明書を読む 8 友達と話す① 9 友達と話す② 10 友達と話す③ 11 手紙を読む① 12 手紙を読む② 13～15 まとめと復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
生越直樹・曹喜撤『ことばの架け橋』白帝社		出席、中間テスト、期末テスト	

養	韓国語Ⅰ（コミュニケーションⅠ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語初習者向けの授業。文法・言語文化的基礎知識・会話の構成をとる。文法の授業では項目をおいながら基礎的な表現とその聞き取りができる総合的能力の習得を目的とする。		1. ハングルの紹介 2. 母音字（短母音、二重母音など） 3. 子音字（平音、激音、濃音、鼻音、流音） 4. バッチム 5. ハングル keyboard 練習 6. 聞き取り練習・発音練習 7. 第1課 基本文型 @は何ですか。@です。 8. 第3課 自己紹介 9. 第5課 否定文 10. 第7課 時間の表現（曜日） 11. 第9課 過去時制 12. 第11課 電話の表現 13. 第13課 注文 14. 聞き取り練習・発音練習 15. 整理・復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
ソウル大学言語教育院,『韓国語Ⅰ』Moonjin Media, 2006 ソウル大学言語教育院,『韓国語Ⅰ Practice Book』, Moonjin Media, 2006		言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 出席30%、期末試験30%、小テスト30%、課題提出10%	

養	韓国語Ⅱ（コミュニケーションⅠ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語Ⅰに引き続き、文法では、連体形までの基礎的文法事項をまなび初級文法を終える。初級学習者に不足しがちな語彙力の増加、見落としがちな正しい発音への矯正にも配慮する。韓国語を学ぶ上での言語文化的基礎知識の一層の獲得を目指す。		1. 前期の復習 2. 第13課 提案表現 3. 第15課 交通 4. 第15課 目的表現、指示表現 5. 第17課 家族 6. 第17課 事実の確認 7. 復習(韓国歌・聞き取り練習など) 8. 第19課 誕生日 9. 第19課 同時、接続表現 10. 第21課 購入 11. 第21課 希望表現・可能表現 12. 第23課 薬局 13. 第23課 推測表現・連体形 14. 語彙・聞き取り・activity など 15. 整理・復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
ソウル大学言語教育院,『韓国語Ⅰ』Moonjin Media, 2006 ソウル大学言語教育院,『韓国語Ⅰ Practice Book』, Moonjin Media, 2006		言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 出席30%、期末試験30%、小テスト30%、課題提出10%	

養	韓国語Ⅰ（コミュニケーションⅡ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語初習者向けの授業。文法・言語文化的基礎知識・会話の構成をとる。文法の授業では項目をおいながら基礎的な表現とその聞き取りができる総合的能力の習得を目的とする。		1. ハングルの紹介 2. 母音字（短母音、二重母音など） 3. 子音字（平音、激音、濃音、鼻音、流音） 4. バッチム 5. ハングル keyboard 練習 6. 聞き取り練習・発音練習 7. 第2課 基本文型 はい、@です。いいえ、@ではありません など。 8. 第4課 場所表現、敬語 9. 第6課 天気表現 10. 第8課 位置と数字(요 form) 11. 第10課 不規則動詞変化・漢数字 12. 第12課 買い物 13. 第14課 交通手段 14. 聞き取り練習・発音練習 15. 整理・復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
ソウル大学言語教育院,『韓国語Ⅰ』Moonjin Media, 2006 ソウル大学言語教育院,『韓国語Ⅰ Practice Book』, Moonjin Media, 2006		言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 出席 30%、期末試験 30%、小テスト 30%、課題提出 10%	

養	韓国語Ⅱ（コミュニケーションⅡ）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語Ⅰに引き続き、文法では、連体形までの基礎的文法事項をまなび初級文法を終える。初級学習者に不足しがちな語彙力の増加、見落としがちな正しい発音への矯正にも配慮する。韓国語を学ぶ上での言語文化的基礎知識の一層の獲得を目指す。		1. 前期の復習 2. 第14課 理由、義務などの表現 3. 第16課 招待 4. 第16課 不規則活用、時間表現 5. 復習(韓国歌・聞き取り・activity など) 6. 第18課 趣味 7. 第18課 お断り表現、理由・提案表現 8. 第20課 旅行 9. 第20課 連体形 10. 第22課 週末計画 11. 第22課 談話表現・未来時制 12. 第24課 喫茶店 13. 第24課 お詫び表現 14. 語彙・聞き取り・activity など 15. 整理・復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
ソウル大学言語教育院,『韓国語Ⅰ』Moonjin Media, 2006 ソウル大学言語教育院,『韓国語Ⅰ Practice Book』, Moonjin Media, 2006		言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 出席 30%、期末試験 30%、小テスト 30%、課題提出 10%	

養	韓国語Ⅲ（文法・読解 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語Ⅰ・Ⅱで学んだ文法事項を生かし、より豊富な語彙・表現の習得を目指す。 具体的には、韓国語Ⅱで学んだ「変則活用」シリーズを正しく使いこなせるようになることと、さまざまな間接話法を身につけることを目標とする。 また、長文に慣れるために、ある程度まとまった文章の翻訳も行う。		1 韓国の食べ物 2 交通 3 郵便局 4 家事 5 買い物 6 旅行 7 中間テスト 8 自動車 9 電話 10 病気 11 事務室 12～15 長文読解	
テキスト、参考文献		評価方法	
연세대학교한국어학당 편 『한국어 2』 연세대학교 출판부 適宜プリントを配布する。		出席、小テスト、期末テスト	

養	韓国語Ⅳ（文法・読解 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
上級への準備段階。 「使える韓国語」の習得を目指す。 メディア教材を使用し、生きた韓国語に触れる機会を増やすことで、韓国語独自のリズムとメロディーに慣れていく。		1 下宿生活 2 忙しい一日 3 貯金します 4 お久しぶりです 5 週末の話 6 健康第一 7 先生のお宅を訪問 8 中間テスト 9 お願いします 10 失敗とお詫び 11 美風良俗 12～15 長文読解	
テキスト、参考文献		評価方法	
연세대학교한국어학당 편 『한국어 3』 연세대학교 출판부 適宜プリントを配布する。		出席、中間テスト、期末テスト	

養	韓国語Ⅲ（文法・読解 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語Ⅰ・Ⅱで学んだ文法事項を生かし、より豊富な語彙・表現の習得を目指す。 具体的には、韓国語Ⅱで学んだ「変則活用」シリーズを正しく使いこなせるようになることと、さまざまな間接話法を身につけることを目標とする。 また、長文に慣れるために、ある程度まとまった文章の翻訳も行う。		1 韓国の食べ物 2 交通 3 郵便局 4 家事 5 買い物 6 旅行 7 中間テスト 8 自動車 9 電話 10 病気 11 事務室 12～15 長文読解	
テキスト、参考文献		評価方法	
연세대학교한국어학당 편 『한국어 2』 연세대학교출판부 適宜プリントを配布する。		出席、小テスト、期末テスト	

養	韓国語Ⅳ（文法・読解 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
上級への準備段階。 「使える韓国語」の習得を目指す。 メディア教材を使用し、生きた韓国語に触れる機会を増やすことで、韓国語独自のリズムとメロディーに慣れていく。		1 下宿生活 2 忙しい一日 3 貯金します 4 お久しぶりです 5 週末の話 6 健康第一 7 先生のお宅を訪問 8 中間テスト 9 お願いします 10 失敗とお詫び 11 美風良俗 12～15 長文読解	
テキスト、参考文献		評価方法	
연세대학교한국어학당 편 『한국어 3』 연세대학교 출판부 適宜プリントを配布する。		出席、中間テスト、期末テスト	

養	韓国語Ⅲ（コミュニケーション 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
文法の補強、購読力の養成、ヒアリング力の強化、表現力の増強を目指す。文法では、韓国語Ⅰ、Ⅱで学んだ初級文法のうち、初級レベルの説明では不十分である文法項目を中心に扱い理解の深化と定着を図る。		1. 復習 2. 第25課 一日中の出来事 3. 第25課 要請表現 4. 第27課 夏休みの計画 5. 第27課 故郷紹介 6. 第29課 銀行 7. 第29課 両替・話題転換 8. 復習 9. 第1課 連用形、 10. 第1課 連体形 11. 第3課 ぞんざいな文末表現(会話、読解) 12. 第3課 表現、 13. 第3課 文法 14. 語彙・聞き取り・activity など 15. 整理・復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
ソウル大学言語教育院, 『韓国語 1』 Moonjin Media, 2006 ソウル大学言語教育院, 『韓国語 1 Practice Book』, Moonjin Media, 2006 生越直樹, 『ことばの架け橋 中級表現編』, 白帝社, 2009		言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 出席 30%、期末試験 30%、小テスト 30%、課題提出 10%	

養	韓国語Ⅳ（コミュニケーション 1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語Ⅲに引き続き、文法の補強、購読力の養成、ヒアリング力の強化、表現力の増強を目指す。		1. 復習 2. 第5課 引用形(会話、読解) 3. 第5課 引用形(表現、文法) 4. 第5課 引用形(作文、発音) 5. 引用形の activity(news, ドラマなど) 6. 第7課 受身形(会話、読解) 7. 第7課 受身形(表現、文法) 8. 第7課 受身形(作文、発音) 9. 受身形の activity(news, ドラマなど) 10. 第9課 使役形(会話、読解) 11. 第9課 使役形(表現、文法) 12. 第9課 使役形(作文、発音) 13. 使役形の activity(news, ドラマなど) 14. 聞き取り練習・発音練習 15. 整理・復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
生越直樹, 『ことばの架け橋 中級表現編』, 白帝社, 2009		言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 出席 30%、期末試験 30%、小テスト 20%、課題提出 10%、5分 speech 10%	

養	韓国語Ⅲ（コミュニケーション 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
文法の補強、購読力の養成、ヒアリング力の強化、表現力の増強を目指す。文法では、韓国語Ⅰ、Ⅱで学んだ初級文法のうち、初級レベルの説明では不十分である文法項目を中心に扱い理解の深化と定着を図る。		1. 前期の復習 2. 第26課 喫茶店 3. 第26課 感嘆表現、感謝表現 4. 第28課 計画 5. 第28課 比較表現 6. 第30課 週末の出来事 7. 第30課 否定疑問文 8. 復習 9. 第2課 ㄷ語幹用言、変則用言(1) 10. 第2課 変則用言(2)、作文 11. 第4課 未来連体形を使う表現(会話、読解) 12. 第4課 表現、文法 13. 第4課 さまざまな表現(2)、作文 14. 語彙・聞き取り・activity など 15. 整理・復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
ソウル大学言語教育院, 『韓国語Ⅰ』 Moonjin Media, 2006 ソウル大学言語教育院, 『韓国語Ⅰ Practice Book』, Moonjin Media, 2006 生越直樹, 『ことばの架け橋 中級表現編』, 白帝社, 2009		言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 出席 30%、期末試験 30%、小テスト 30%、課題提出 10%	

養	韓国語Ⅳ（コミュニケーション 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語Ⅲに引き続き、文法の補強、購読力の養成、ヒアリング力の強化、表現力の増強を目指す。		1. 復習 2. 第6課 名詞化語尾(会話、読解) 3. 第6課 名詞化語尾(表現、文法) 4. 第6課 名詞化語尾(作文、発音) 5. 名詞化語尾の activity 6. 第8課 さまざまな慣用句(会話、読解) 7. 第8課 さまざまな慣用句(表現、文法) 8. 第8課 さまざまな慣用句(作文、発音) 9. さまざまな慣用句の activity 10. 第10課 書きことばの表現(会話、読解) 11. 第10課 書きことばの表現(表現、文法) 12. 第10課 書きことばの表現(作文、発音) 13. 書きことばの表現の activity 14. 聞き取り練習・発音練習 15. 整理・復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
生越直樹, 『ことばの架け橋 中級表現編』, 白帝社, 2009		言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 出席 30%、期末試験 30%、小テスト 20%、課題提出 10%、5分 speech 10%	

養	韓国語Ⅴ（応用Ⅰ）	担当者	白 寅英
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は「韓国語Ⅳ」に引き続き、文法力、読解力、語彙力の発展を目指し、新しい文型を用いた例文作りの練習をするとともに長文を読んでいく。また、会話能力や聞き取り能力の向上を目指し、授業はほとんど韓国語で行う。		1 大衆文化について 2 引用形の縮約形 3 風習や慣習について 4 ジャンル別文章表現法 5 Review 6 作文の構想／意見交換 7 仮定法 8 韓国語学習の経験について 9 丁寧度による様々な表現 10 Review 11 効果的な外国語学習方法について 12 擬声語と擬態語 13 男女平等について 14 用言の名詞化 15 Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		出席、中間テスト、期末テスト、課題	

養	韓国語Ⅵ（応用Ⅰ）	担当者	白 寅英
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は「韓国語Ⅰ～Ⅴ」で学んだ事項をふまえ、さらに高度な韓国語運用力を習得するためのものである。そのため、授業をすべて韓国語で行い、意思伝達の能力を向上させ、自由な意見交換ができる場とする。		1 趣味について 2 動詞「보다」の多義性 3 各国の人気（伝統）スポーツについて 4 回想の表現Ⅰ 5 Review 6 回想の表現Ⅱ 7 旅行の計画を立てる 8 好きなインターネットサイトについて 9 推測の表現 10 Review 11 未来の生活の変化を推測する 12 依存名詞Ⅰ 13 依存名詞Ⅱ 14 絵をつかって物語りをつくる 15 Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		出席、中間テスト、期末テスト、課題	

養	韓国語Ⅴ（応用Ⅰ）	担当者	沈 民珪
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は「韓国語Ⅳ」に引き続き、文法力、読解力、語彙力の発展を目指し、新しい文型を用いた例文作りの練習をするとともに長文を読んでいく。また、会話能力や聞き取り能力の向上を目指し、授業はほとんど韓国語で行う。		1 大衆文化について 2 引用形の縮約形 3 風習や慣習について 4 ジャンル別文章表現法 5 Review 6 作文の構想／意見交換 7 仮定法 8 韓国語学習の経験について 9 丁寧度による様々な表現 10 Review 11 効果的な外国語学習方法について 12 擬声語と擬態語 13 男女平等について 14 用言の名詞化 15 Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		出席、中間テスト、期末テスト、課題	

養	韓国語Ⅵ（応用Ⅰ）	担当者	沈 民珪
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は「韓国語Ⅰ～Ⅴ」で学んだ事項をふまえ、さらに高度な韓国語運用力を習得するためのものである。そのため、授業をすべて韓国語で行い、意思伝達の能力を向上させ、自由な意見交換ができる場とする。		1 趣味について 2 動詞「보다」の多義性 3 各国の人気（伝統）スポーツについて 4 回想の表現Ⅰ 5 Review 6 回想の表現Ⅱ 7 旅行の計画を立てる 8 好きなインターネットサイトについて 9 推測の表現 10 Review 11 未来の生活の変化を推測する 12 依存名詞Ⅰ 13 依存名詞Ⅱ 14 絵をつかって物語りをつくる 15 Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		出席、中間テスト、期末テスト、課題	

養	韓国語Ⅴ（応用 2）	担当者	白 寅英
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は「韓国語Ⅳ」に引き続き、文法力、読解力、語彙力の発展を目指し、新しい文型を用いた例文作りの練習をするとともに長文を読んでいく。また、会話能力や聞き取り能力の向上を目指し、授業はほとんど韓国語で行う。		1 大衆文化について 2 引用形の縮約形 3 風習や慣習について 4 ジャンル別文章表現法 5 Review 6 作文の構想／意見交換 7 仮定法 8 韓国語学習の経験について 9 丁寧度による様々な表現 10 Review 11 効果的な外国語学習方法について 12 擬声語と擬態語 13 男女平等について 14 用言の名詞化 15 Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		出席、中間テスト、期末テスト、課題	

養	韓国語Ⅵ（応用 2）	担当者	白 寅英
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は「韓国語Ⅰ～Ⅴ」で学んだ事項をふまえ、さらに高度な韓国語運用力を習得するためのものである。そのため、授業をすべて韓国語で行い、意思伝達の能力を向上させ、自由な意見交換ができる場とする。		1 趣味について 2 動詞「보다」の多義性 3 各国の人気（伝統）スポーツについて 4 回想の表現Ⅰ 5 Review 6 回想の表現Ⅱ 7 旅行の計画を立てる 8 好きなインターネットサイトについて 9 推測の表現 10 Review 11 未来の生活の変化を推測する 12 依存名詞Ⅰ 13 依存名詞Ⅱ 14 絵をつかって物語りをつくる 15 Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		出席、中間テスト、期末テスト、課題	

養	韓国語Ⅴ（応用2）	担当者	沈 民珪
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は「韓国語Ⅳ」に引き続き、文法力、読解力、語彙力の発展を目指し、新しい文型を用いた例文作りの練習をするとともに長文を読んでいく。また、会話能力や聞き取り能力の向上を目指し、授業はほとんど韓国語で行う。		1 大衆文化について 2 引用形の縮約形 3 風習や慣習について 4 ジャンル別文章表現法 5 Review 6 作文の構想／意見交換 7 仮定法 8 韓国語学習の経験について 9 丁寧度による様々な表現 10 Review 11 効果的な外国語学習方法について 12 擬声語と擬態語 13 男女平等について 14 用言の名詞化 15 Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		出席、中間テスト、期末テスト、課題	

養	韓国語Ⅵ（応用2）	担当者	沈 民珪
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は「韓国語Ⅰ～Ⅴ」で学んだ事項をふまえ、さらに高度な韓国語運用力を習得するためのものである。そのため、授業をすべて韓国語で行い、意思伝達の能力を向上させ、自由な意見交換ができる場とする。		1 趣味について 2 動詞「보다」の多義性 3 各国の人気（伝統）スポーツについて 4 回想の表現Ⅰ 5 Review 6 回想の表現Ⅱ 7 旅行の計画を立てる 8 好きなインターネットサイトについて 9 推測の表現 10 Review 11 未来の生活の変化を推測する 12 依存名詞Ⅰ 13 依存名詞Ⅱ 14 絵をつかって物語りをつくる 15 Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		出席、中間テスト、期末テスト、課題	

養 外言	英語演習 I (Planet Earth – An Introduction to the Earth Sciences) 英語演習 (Planet Earth – An Introduction to the Earth Sciences)	担当者	J. ハント
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will introduce students to the subject of Earth Science. Reading, group discussion and practical interpretation exercises will be used to build an understanding of the formation of our planet, its evolution, and the physical processes that continue to shape our world. The goals of this course are to improve English ability, develop an understanding of the processes active on planet Earth and develop critical thinking skills. Students will complete weekly classroom activities, share ideas in groups and present their answers to the class. Most importantly we hope to have fun improving our understanding of the planet on which we live.		Week 1: Introduction, outline, evaluation Week 2: The Earth in space 1 - Origins Week 3: The Earth in space 2 - Size & Shape Week 4: The Earth in space 3 - Position Week 5: Test 1 Week 6: Rock types and what they tell us Week 7: Earths' interior Week 8: Physical processes 1 - Earthquakes Week 9: Physical processes 2 - Volcanos Week 10: Test 2 Week 11: Geological Time Week 12: Dating the Earth Week 13: Geological History 1 Week 14: Geological History 2 Week 15: Test 3	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook is required, but students will need access to a computer and printer to download and print out materials for each class from the course website.		Assessment will be based on class participation, several tests and presentations, and writing activities.	

養 外言	英語演習 II (Life – An Introduction to the Theory of Evolution) 英語演習 (Life – An Introduction to the Theory of Evolution)	担当者	J. ハント
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will introduce students to the subject of Evolutionary Biology. Listening to lectures, reading, group discussion and practical interpretation exercises will be used to build an understanding of the origins of life, its evolution, and its many wonderful forms. The goals of this course are to improve English ability, develop an understanding of the variety of life on planet Earth (and beyond), and an appreciation of Darwinian evolutionary ideas and their impact on current scientific thinking. This course aims to develop critical thinking skills. Students will complete weekly classroom activities, share ideas in groups and present their answers to the class. Most importantly we hope to have fun improving our understanding of the miracle of life.		Week 1: Introduction, outline, evaluation Week 2: What is "Life"? Week 3: The origin of Life on Earth Week 4: Geological Time - Relative dating Week 5: Geological Time - Absolute dating Week 6: Test 1 Week 7: Evolutionary Theory 1 - Pre Darwin Week 8: Evolutionary Theory 2 - Darwin Week 9: Evolutionary Theory 3 - Post Darwin Week 10: Test 2 Week 11: Evidence for Evolution Week 12: Amazing adaptations 1 Week 13: Amazing adaptations 2 Week 14: Amazing adaptations 3 Week 15: Test 3	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textbook to be announced. Students will also need access to a computer and printer to download and print out materials for each class from the course website.		Assessment will be based on class participation, several tests and presentations, and writing activities.	

養 外言	英語演習 I (Life through the Lens of Popular Culture) 英語演習 (Life through the Lens of Popular Culture)	担当者	S. K. エリス
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will focus on issues in American life as seen through the lens of popular culture. We will learn to think critically not only about issues such as education, work, family, and healthcare, but also how they are portrayed, and often manipulated, by popular films, television dramas, and news media. Students will read articles providing background on these topics as well analysis on their portrayal in popular media. From there, they will work on organizing and communicating their thoughts in both classroom discussion and clear, concise academic prose. During the course, students will also research their own topics, culminating in a final paper on a topical issue, and a group presentation analyzing its depiction in a popular film, drama, or news program. As part of their research, students will access a variety of sources, including academic articles, newspapers, magazines, video clips and the Internet. Students will also keep vocabulary notebook/ journal in which they will write brief, thoughtful commentaries on both outside reading and media clips.		1. Introduction and explanation of the syllabus 2. Lecture and reading on public education in the United States. 3. Public education in the U.S. continued/ Examples and analysis of popular films and television. 4. Discussion and in-class writing 5. Article on the wealth gap in the U.S. 6. Portrayal income and social class in film and television- Discuss final paper topic and mini presentation 7. Discussion/ 8. Article and lecture on diversity in U.S. family structure 9. Portrayal of family in film/ Discussion/ Draft #1 of paper due 10. Health care in the U.S. reading and lecture 11. Health care in the U.S. continued/ Clips and Discussion/ Draft #2 of paper due 12. Justice and violence in media – Discussion 13. Overview of course/ Presentation preparation 14. Begin presentations and conferences 15. Final draft of paper due and finish presentations The instructor may amend the syllabus.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Articles and links to media will be provided by the instructor.		Group presentation20 In-class writing and vocabulary journal30 Long paper (First, second, and final draft).....40 Portfolio, homework, participation 10	

養 外言	英語演習 II (Race and Gender in American Popular Culture) 英語演習 (Race and Gender in American Popular Culture)	担当者	S. K. エリス
講義目的、講義概要		授業計画	
In this class we will deepen our critical understanding of popular culture by exploring the issues of race, gender, and sexuality. Through the study and analysis of popular media, we will learn to think critically about how people belonging to non-dominant groups are represented and often erased from the media landscape. We will also learn about attempts to combat censorship of issues dealing with race, gender, and sexuality indirectly through metaphor and directly through independent film and television. In this class, we will read articles as well as analyze advertisements and clips from popular media to develop our ability to think critically about how images of people are constructed. During the course, we will also focus on organization and writing clear, correct academic prose, culminating in a final paper, analyzing a popular film or television episode, and a group presentation. Students will also keep a vocabulary notebook/ journal in which they will write brief, thoughtful commentaries on both outside reading and media clips.		1. Introduction and explanation of the syllabus 2. Lecture and reading: The Problem with Stereotypes 3. Reading an advertisement & Group discussion 4. Mini presentations on advertisements and in-class writing 5. Lecture and reading: What is gender? 6. Continued reading on gender in popular media 7. Discuss group presentation and final paper/ Lecture and begin reading on racial representation in popular media 8. Continued reading on racial representation in popular media 9. Discussion and in-class writing 10. Reading and lecture on censorship of racial and sexual others in popular media 11. Lecture - The Twilight Zone: using metaphor in genre to combat censorship. 12. Lecture and Discussion: Independent film 13. Discussion on metaphor and direct representation – In class writing 14. Begin presentations and conferences 15. Final draft of paper due and finish presentations <i>The instructor may amend the syllabus.</i>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Readings and links will be provided by the instructor.		Group presentation.20 In-class writing and vocabulary journal30 Long paper (First, second, and final draft).....40 Portfolio, homework, participation 10	

養 外言	英語演習 I (Advertising Strategies and Techniques) 英語演習 (Advertising Strategies and Techniques)	担当者	M. デルベッキオ
講義目的、講義概要		授業計画	
We are exposed to a mass of advertising on a daily basis. However, not all of us are aware of the strategies companies use to market their goods or services, or, of the techniques used to influence our behavior. This course will investigate the context of advertising, the organizations or cultures that produce them, how they are produced, how advertisements represent individuals or groups and how we, the audience responds to them. Students will be expected to do research and share their experience, knowledge and opinions with their peers. It is hoped that students will enjoy taking an active role in this class. English level: Intermediate		1. Orientation 2. Medium/Technology 3. Purposes Explored 4. Consumer Markets 5. Measuring Emotions 6. Advertising and the Media 7. Persuasion Techniques 8. Appeals 9. Visual features/techniques 10. Style and Language 11. Relationships and Roles 12. Stereotypes 13. Controlling Advertisements 14. Presentations 15. Discussion and Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be provided by the instructor. Students should have: English to English dictionary, thesaurus and access to the internet.		The final grade will combine the following: attendance, class performance, quizzes, one presentation and one written report.	

養 外言	英語演習 II (Media Studies) 英語演習 (Media Studies)	担当者	M. デルベッキオ
講義目的、講義概要		授業計画	
You are likely to have a good knowledge of the media already. This course aims to help you use and develop your understanding of how and why media texts are produced, how people respond to them and what messages and values they contain. Students will be expected to do research and share their experience, knowledge and opinions with their peers. It is hoped that students will enjoy taking an active role in this class. Language level: Intermediate to advanced		1. Introduction 2. Television: reality shows 3. Television: reality shows 4. Television: situation comedy 5. Television: chat shows 6. Television: talk shows 7. Popular music 8. Newspapers (1) 9. Newspapers (2) 10. Advertising 11. Magazines 12. Magazines 13. Movies 14. Presentations 15. Discussion and Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be provided by the instructor. Students should have: English to English dictionary, thesaurus and access to the internet.		The final grade will combine the following: attendance, class performance, quizzes, one presentation and one written report.	

養 外言	英語演習Ⅰ (Contemporary culture through Magazines) 英語演習 (Contemporary culture through Magazines)	担当者	ロン 美香
講義目的、講義概要		授業計画	
This course is designed to help improve students' overall English proficiency. Reading and analyzing current magazine articles is an effective and interesting method to further develop students' English skills. Students will receive instruction on how to grasp main ideas quickly and to analyze various topics such as movies, food, culture, politics, life style, and education. They will also summarize their findings and give group and/or individual presentations. Class will be held in English and students are expected to actively engage in class activities. Attendance is especially important and it is your responsibility to make-up for all missed work.		1 Orientation 2 Article on life style 3 Article on education 4 Article on culture 5 Article on food 6 Article on politics 7 Presentation skills 8 Presentation 9 Article on current issues 1 10 Article on current issues 2 11 Article on current issues 3 12 Article on current issues 4 13 Review 14 Review 15 Presentation or examination (This schedule may be amended.)	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced in class		Attendance 20% Class work and homework 50% Examination and/or presentation 30%	

養 外言	英語演習Ⅱ (Taking sides on current issues) 英語演習 (Taking sides on current issues)	担当者	ロン 美香
講義目的、講義概要		授業計画	
In a recent study 「企業の求める英語力調査」 funded by MEXT (文科省), over 5,000 leading business people in Japan insisted that the most required skill to survive in the highly competitive global market is the negotiation skill. They strongly suggest to students to have an ample practice in both presentation and debate in educational institutions. This course will focus on further developing students' overall English skills through reading and arguing controversial issues. Students will choose topics that would interest them, such as banning school uniforms or choosing the most talented movie director, and learn the content in depth through information exchange. Students will learn to build/defend their arguments effectively in English. They will also practice critical thinking. The lessons will be held only in English and students are expected to actively engage in class activities. Attendance is especially important.		1 Orientation 2 Basic presentation skills 1 3 Basic presentation skills 2 3 Research & Information exchange 4 Agree/Disagree 5 Organizing ideas 6 Group Presentation 7 Refutation 8 Testing supports 9 Responding to attacks 10 Persuasion 11 Presentation/Debate 12 Critical thinking 13 Presentation/Debate 14 Review 15 Review (This schedule may be amended.)	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced later		Attendance 20% Class work & HW 50% In-Class Performance 30%	

養 外言	英語演習 I (Modern Japanese Culture with Exercises) 英語演習 (Modern Japanese Culture with Exercises)	担当者	関戸 冬彦
講義目的、講義概要		授業計画	
この「英語演習」(Modern Japanese Culture with Exercises)では昨今話題になっている日本の文化(本、音楽、映画、流行など)を素材にしながら、各自がすでに持つあらゆる英語能力のさらなる向上をはかると同時に対象を独自の視点で詳細に分析できるようになるのが狙いである。例えば日本語の文献を細かく読み分析した後それを英語で議論し発表する、など。クラス内では主に2つの活動、一つは集まった諸君の各自の興味を中心にした発表、もう一つはこちらが選定したもの(東野圭吾の小説『白夜行』を予定)の分析&議論、からなる。なお諸君の興味如何では開講後路線変更になる可能性もあり。いずれにせよ「英語演習」なので授業内は基本的に英語での参加・進行となる。また、毎回の積極的な参加が必要であり、単位取得のために仕方なく、や卒業要件の保険のため、では歓迎されないので要注意。(欠席が特段の理由なく3回を超えたならば単位取得とはならないのであしからず。) The aim of this course is to improve your integrated English skills through modern Japanese culture. It is necessary for you to attend classes positively, and you cannot get your credit if you are absent more than 3 times without any particular reasons. Basically, we will use English in all the classes.		1 Introduction 2 Modern Japanese Culture with Exercises 1. 3 Modern Japanese Culture with Exercises 2. 4 Modern Japanese Culture with Exercises 3. 5 Modern Japanese Culture with Exercises 4. 6 Modern Japanese Culture with Exercises 5. 7 Modern Japanese Culture with Exercises 6. 8 Modern Japanese Culture with Exercises 7. 9 Modern Japanese Culture with Exercises 8. 10 Modern Japanese Culture with Exercises 9. 11 Modern Japanese Culture with Exercises 10. 12 Modern Japanese Culture with Exercises 11. 13 Modern Japanese Culture with Exercises 12. 14 Modern Japanese Culture with Exercises 13. 15 Final Evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced at the first class		Attendance 30% Class work, Homework 50% Final Paper or Presentation 20%	

養 外言	英語演習 II (Modern Japanese Culture with Exercises) 英語演習 (Modern Japanese Culture with Exercises)	担当者	関戸 冬彦
講義目的、講義概要		授業計画	
この「英語演習」(Modern Japanese Culture with Exercises)では昨今話題になっている日本の文化(本、音楽、映画、流行など)を素材にしながら、各自がすでに持つあらゆる英語能力のさらなる向上をはかると同時に対象を独自の視点で詳細に分析できるようになるのが狙いである。例えば日本語の文献を細かく読み分析した後それを英語で議論し発表する、などである。クラス内では主に2つの活動、一つは集まった諸君の各自の興味を中心にした発表、もう一つはこちらが選定したもの(東野圭吾の小説『幻夜』もしくは我々の心を揺さぶってやまないより旬な作品があればそれを予定)の分析&議論、から構成される。なお諸君の興味如何では開講後路線変更の可能性あり。いずれにせよ「英語演習」なので授業内は基本的に英語での参加・進行となる。また、毎回の積極的な参加が必要であり、単位取得のために仕方なく、や卒業要件の保険のため、では歓迎されないので要注意。(欠席が特段の理由なく3回を超えたならば単位取得とはならないのであしからず。) The aim of this course is to improve your integrated English skills through modern Japanese culture. It is necessary for you to attend classes positively, and you cannot get your credit if you are absent more than 3 times without any particular reasons. Basically, we will use English in all the classes.		1 Introduction 2 Modern Japanese Culture with Exercises 1. 3 Modern Japanese Culture with Exercises 2. 4 Modern Japanese Culture with Exercises 3. 5 Modern Japanese Culture with Exercises 4. 6 Modern Japanese Culture with Exercises 5. 7 Modern Japanese Culture with Exercises 6. 8 Modern Japanese Culture with Exercises 7. 9 Modern Japanese Culture with Exercises 8. 10 Modern Japanese Culture with Exercises 9. 11 Modern Japanese Culture with Exercises 10. 12 Modern Japanese Culture with Exercises 11. 13 Modern Japanese Culture with Exercises 12. 14 Modern Japanese Culture with Exercises 13. 15 Final Evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced at the first class		Attendance 30% Class work, Homework 50% Final Paper or Presentation 20%	

養 外言	英語演習Ⅰ（映画英語） 英語演習（映画英語）	担当者	中込 知子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 ジャーナリストを目指す20代の女性が主人公のファッション業界を背景とした映画 <i>The Devil Wears Prada</i> を教材として、英語圏の文化を学び、日常生活またビジネスで話される英語のスピードに慣れ聴解力と発話力の向上を目指す。 講義内容 オーバーラッピングやシャドーイングをしながら発音、イントネーション、リエゾン等のプロソディーを身に付けていき、最終的には映画のいくつかのシーンを英語でダビングやグループでのロールプレイができるよう台詞に慣れていく。また、グループディスカッションで登場人物の会話の含みを考えていく。 毎回課題があるので、必ずやってくる。グループプロジェクトとして1シーンの script の共同執筆、ロールプレイの発表がある。		1. Introduction 2. Unit 1 3. Unit 2 4. Unit 3 5. Unit 4 6. Unit 5 7. Presentation 8. Presentation 9. Unit 6 10. Unit 7 11. Unit 8 12. Unit 9 13. Unit 10 14. Review 15. Exam	
テキスト、参考文献		評価方法	
Aline Brosh McKenna, <i>The Devil Wears Prada</i> 松柏社		出席（30％） 課題、小テスト、授業への積極的参加度、 口頭発表（40％） 期末テスト（30％）	

養 外言	英語演習Ⅱ（映画英語） 英語演習（映画英語）	担当者	中込 知子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 98年度のアカデミー賞やゴールデングローブ賞を受賞した <i>Good Will Hunting</i> を教材として現代アメリカの社会背景を学びながら日常に話される英語のスピードに慣れ、聴解力と自分の意見をまとめて発表できる発話力の向上を目指す。 講義内容 各シーンの台詞の内容を理解した後に、それぞれの意見をまとめ、グループディスカッションを通して主人公の心の変化、登場人物の発言の意味、性格等について意見の交換を行う。また、監督の意図するテーマに対しての各場面設定の持つ意味も考えていく。 毎回課題があるので、必ずやってくる。		1. Introduction 2. Chapter 1 3. Chapter 2 4. Chapter 3 5. Chapter 4 6. Chapter 5 7. Chapter 6 8. Chapter 7 9. Chapter 8 10. Chapter 9 11. Chapter 10 12. Chapter 11 13. Chapter 12 14. Review 15. Exam	
テキスト、参考文献		評価方法	
Alan Rosen 楠元実子, <i>Good Will Hunting</i> 松柏社		出席（30％） 課題、小テスト、授業への積極的参加度、 口頭発表（40％） 期末テスト（30％）	

養 外言	英語演習Ⅰ（英語翻訳） 英語演習（英語翻訳）	担当者	中島 直美
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、「英語を単なる『知識』ではなく、活用できる『スキル』にすること」を目標ととらえ、その目標を達成するために、翻訳の実技演習をおこなう。 翻訳の技能を修得・向上させることにより、「知識」としての英語を実際に使いこなせる「スキル」へと質的变化を起こさせることを狙う。 翻訳の技能を修得する過程では、複合的な分野を強化していくことになる。英語の運用能力のみならず、日本語の運用能力、知識の増強なども行う予定である。		1 Newspaper Articles 2 Magazine Articles 3 Business Documents 5 Fashion Catalogs 6 Recipes 7 Children Books 8 Movie Subtitles 9 Business E-mails 10 Invitations 11 Signs and Directions 12 Travel Advertisements 13 Product Manuals 14 Visual Aids 15 Speeches	
テキスト、参考文献		評価方法	
『英日英翻訳実践トレーニング』		出席 課題	30% 50% 授業参加 20%

養 外言	英語演習Ⅱ（英語通訳） 英語演習（英語翻訳）	担当者	中島 直美
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、「英語を単なる『知識』ではなく、活用できる『スキル』にすること」を目標ととらえ、その目標を達成するために、主に通訳の実技演習をおこなう。つまり、通訳の技能を修得・向上させることにより、「知識」としての英語を実際に使いこなせる「スキル」へと質的变化を起こさせることを狙う。 通訳の技能を修得する過程では、複合的な分野を強化していくことになる。英語の運用能力のみならず、日本語の運用能力、知識の増強なども行う予定である。		1 オリエンテーション 2 アテンド・随行通訳 3 パーティー・レセプション通訳 4 工場見学通訳 5 ビジネス・商談通訳 6 芸能・スポーツ通訳 7 パフォーマンステスト（1） 8 ニュースのボイスオーバー 9 司法通訳 10 医療通訳 11 国際政治や軍事に関するトピックの通訳 12 インタビュー対談通訳 13 セミナー・講演会通訳 14 国際会議同時通訳 15 パフォーマンステスト（2）	
テキスト、参考文献		評価方法	
『通訳の現場から学ぶ実践演習』		出席 パフォーマンステスト	30% 50% 小テスト 20%

養 外言	スペイン語演習Ⅰ スペイン語演習	担当者	C. ガリード
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語の文法を修了している学生を対象としているため、授業は基本的にスペイン語で行う。より深い読解力と豊かな表現力を身につけることを目的とし、既に学習した文法事項を必要に応じて復習をしながら発展させる。ひとつのテーマを2、3時間かけ状況に応じて、個人で発表したり、ペアーを組んだり、グループを作りディスカッションをする。 積極的な授業への参加態度を重視し、評価する。 毎回の授業は必ず予習をし西和和西辞典を携帯すること。		**El plan de estudios puede variar dependiendo del tiempo disponible y del avance. 1~2. Volver a empezar: Conocernos. Hablar sobre nosotros. Aficiones, gustos y costumbres. Verbos de cambios...) 3~4. Escapadas: Hablar sobre el estrés. Evadirse. Formas de evitar el estrés....) 5~6. El turista accidental: Hablar sobre viajes. Contar anécdotas...) 7~8. ¿Cómo conociste a tu mejor amigo?: Describir a un amigo o amiga y explicar cómo lo conociste. Narrar hechos pasados...) 9~10. Nuevas tecnologías: Hablar de adicciones a las nuevas tecnologías y sus consecuencias..) 11~12. La salud: Hablar sobre la vida cotidiana, la salud. Expresar conjeturas, deseos. Hacer recomendaciones.....) 13~15. De vacaciones: Hablar de planes, viajes y de cómo solemos viajar. Describir lugares...)	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用せず、毎回プリントを配布する。 西和和西辞典を必ず持参すること。		2回の試験、授業への積極的参加態度、課題提出などを総合的に評価する。	

養 外言	スペイン語演習Ⅱ スペイン語演習	担当者	C. ガリード
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語の文法を修了している学生を対象としているため、授業は基本的にスペイン語で行う。より深い読解力と豊かな表現力を身につけることを目的とし、既に学習した文法事項を必要に応じて復習をしながら発展させる。ひとつのテーマを2、3時間かけ状況に応じて、個人で発表したり、ペアーを組んだり、グループを作りディスカッションをする。 積極的な授業への参加態度を重視し、評価する。 毎回の授業は必ず予習をし西和和西辞典を携帯すること。		**El plan de estudios puede variar dependiendo del tiempo disponible y del avance. 1~2. Caracter y relaciones personales: Describir el caracter de una persona. Expresar gustos. Hacer preguntas para conocer a alguien....) 3~4. Ocio: Hacer planes. Ofrecer ayuda. Plantear oposición para hacer algo.....) 5~6. Yo nunca lo haría: Hablar de situaciones imaginaries. Expresar deseos y dar consejos...) 7~8. Sentimientos: Expresar alegría o satisfacción, pena o lástima. Formular hipótesis sobre el presente o pasado.....) 9~10. Futuro: Hablar sobre cómo imaginamos nuestro futuro. Hacer hipótesis y expresar deseos....) 11~12. El trabajo: Condiciones laborales. Hacer comparaciones. Valorar actividades. La mujer en el trabajo...) 13~15. Turistas y viajeros: Comentar incidencias de viajes. Deseos, quejas y reclamaciones...)	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用せず、毎回プリントを配布する。 西和和西辞典を必ず持参すること。		2回の試験、授業への積極的参加態度、課題提出などを総合的に評価する。	

養 外言	スペイン語演習 I スペイン語演習	担当者	N. ウエチ
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語の総合的応用能力を高めると同時にスペインとラテンアメリカの社会、文化などにも理解を深める。また、口頭発表、スペイン語レポートを書くこと等を通じてわりあい高い表現能力を伸ばし、会話力の強化を目指す。積極的に授業に参加する姿勢が必要です。		Plan de estudio sujeto a cambios. 1. Presentación del curso, evaluación de nivel. 2. España: grandes protagonistas de la pintura. 3. Presentación oral sobre pintores españoles. 4. Antonio Gaudí y sus obras más emblemáticas. 5. Presentación oral sobre algunas obras de A. Gaudí. 6. Cine hispano. Grandes protagonistas. 7. Análisis de una película hispana. Parte I. 8. Análisis de una película hispana. Parte II. 9. Intercambio de opiniones sobre películas. 10. Medio Ambiente: calentamiento global I. 11. Calentamiento global 2. 12. Presentación y discusión sobre posibles soluciones. 13. Costa Rica. Información general. 14. Costa Rica y sus parques nacionales. 15. Resumen del curso.	
テキスト、参考文献		評価方法	
教室で配布		60%を授業への出席と積極的参加ならびに提出課題、口頭発表とグループ討論、残りの40%を2回の試験によって行う。	

養 外言	スペイン語演習 II スペイン語演習	担当者	N. ウエチ
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語の総合的応用能力を高めると同時にスペインとラテンアメリカの社会、文化などにも理解を深める。また、口頭発表、スペイン語レポートを書くこと等を通じてわりあい高い表現能力を伸ばし、会話力の強化を目指す。積極的に授業に参加する姿勢が必要です。		Plan de estudio sujeto a cambios. 1. Gabriel García Márquez. Referencia biográfica. 2. Comprensión y discusión sobre partes de sus Obras I. 3. Comprensión y discusión sobre partes de sus Obras II. 4. Fernando Botero. Sus obras I. 5. Fernando Botero. Sus obras II. 6. Argentina: información general. 7. Música argentina. 8. Literatura argentina. 9. Presentación oral. 10. Cuba: información general. 11. Che Guevara y Cuba. 12. Festivales de Hispanoamérica I. 13. Festivales de Hispanoamérica II. 14. Presentación oral de un festival de Hispanoamérica. 15. Resumen del curso.	
テキスト、参考文献		評価方法	
教室で配布		60%を授業への出席と積極的参加ならびに提出課題、口頭発表とグループ討論、残りの40%を2回の試験によって行う。	

養 外言	スペイン語演習Ⅰ スペイン語演習	担当者	兒島 峰
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語のより深い読解力と豊かな表現力を身につけることを目的とする。 ひとつのテーマについて、2 から 3 時間かけて、購読、ディスカッション、応用練習、グループ討論を行ない、読解、会話、聞き取り、および理解力を高めることを、本講義の目的としている。 スペイン語の文法を修了している学生を対象としているため、授業は基本的にスペイン語で行なう。受講学生は、質問を恐れず、積極的に授業に参加するよう心がけること。 受講学生は入念な予習をする必要がある。中途半端な予習と受講態度を取る学生は、たとえ授業に出席していても欠席とみなす。グループ討論やディスカッションも評価の対象になる。この期間中に欠席をした場合、学期末試験の受験資格を失うことがあるので、注意すること。		1. オリエンテーション・受講上の注意 2. Conocer la cultura andina (Introducción) 3. Música andina (Lectura) 4. Música andina (Lectura) 5. Música andina (Lectura) 6. Ejercicios 7. Examen 8. Planear un viaje a Perú 9. Planear un viaje a Perú 10. Planear un viaje a Perú 11. Debate 12. Presentación 13. Presentar el plan del viaje 14. Debate 15. Examen	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは当方で用意する。 西和辞典は必携。		授業への参加態度、小テスト、学期末試験を総合的に評価する。試験には、筆記、ディスカッション、聞き取り、などが総合的に含まれる。	

養 外言	スペイン語演習Ⅱ スペイン語演習	担当者	兒島 峰
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語のより深い読解力と豊かな表現力を身につけることを目的とする。 ひとつのテーマについて、2 から 3 時間かけて、購読、ディスカッション、応用練習、グループ討論を行ない、読解、会話、聞き取り、および理解力を高めることを、本講義の目的としている。 スペイン語の文法を修了している学生を対象としているため、授業は基本的にスペイン語で行なう。受講学生は、質問を恐れず、積極的に授業に参加するよう心がけること。 受講学生は入念な予習をする必要がある。中途半端な予習と受講態度を取る学生は、たとえ授業に出席していても欠席とみなす。グループ討論やディスカッションも評価の対象になる。この期間中に欠席をした場合、学期末試験の受験資格を失うことがあるので、注意すること。		1. オリエンテーション・受講上の注意 2. Introducción de la película (Lectura) 3. Ver la película sin subtítulo (Introducción) 4. Ver la película sin subtítulo (primera parte) 5. Ver la película sin subtítulo (segunda parte) 6. Reflexión 7. Ver la película sin subtítulo (tercera parte) 8. Ver la película sin subtítulo (cuarta y última parte) 9. Debate 10. Examen 11. Entrevista al director y a los actores 12. Entrevista al director y a los actores 13. Presentación 14. Debate 15. Examen	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは当方で用意する。 西和辞典は必携。		授業への参加態度、小テスト、グループ討論、報告発表、および学期末試験を総合的に評価する。	

養 外言	中国語演習Ⅰ 中国語演習	担当者	武信 彰
講義目的、講義概要		授業計画	
中編小説《女老板和小刑警》（晋川：群众出版社，1993年）を26話にダイジェストして読む。 受講生各自が中国語Ⅳまでで身につけた語彙力・文法知識や中国理解を動員して読んでいき、もって読解力の養成を目指す。 常套表現・方言的色彩・文化的な背景などの面にも目配りし、言語と文化をともに読み解く姿勢で臨む。 <u>もちろん、教科書のようにピンイン付きの分かち書きなどにになったテキストではないので、基礎力と相</u> <u>当の努力が必要となる。</u>		1 オリエンテーション 2 （プロローグ） 3 （1）（2） 4 （3）（4） 5 （5）（6） 6 （7）（8） 7 （9）（10） 8 （11）（12） 9 （13）（14） 10 （15）（16） 11 （17）（18） 12 （19）（20） 13 （21）（22） 14 （23）（24） 15 （エピローグ）	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。		授業への出席、授業への積極的参加（発表）、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。	

養 外言	中国語演習Ⅱ 中国語演習	担当者	武信 彰
講義目的、講義概要		授業計画	
中国の新聞・雑誌やブログから拾ったニュースが日本でも報道されることが多い。 これらから面白いニュースを拾って、そのネタ元となったであろう中国語による記事を読んでいく。 “ナマの”記事だけに、語彙や文体に特有のものも含まれる一方、内容の面白さもある。楽しんで中国語の文章を読む体験をしよう。 <u>もちろん、教科書のようにピンイン付きの分かち書きなどにになったテキストではないので、基礎力と相</u> <u>当の努力が必要となる。</u>		1 オリエンテーション 2 海外の中華料理、本場とはほど遠い味ばかり 3 漢字書けない中国人、ローマ字入力の普及で増える 4 <上海万博>展示のオオサンショウウオ15匹が全滅— 5 中国バスケット協会が乱闘問題で謝罪、 6 「中国語で話す方がしっくりきます」卓球の愛ちゃん 7 日本人は「潔癖」、日本語には罵り言葉がほとんどない 8 <上海マンション火災>主人を待ち続けた“忠犬”が話題 9 ネット店員が驚きの婚活、自身の“見合い”写真も発送！ 10 京劇・鍼灸がユネスコ無形文化遺産に 11 イヌにも「一人っ子政策」 12 メンツを大事にする中国人、中国製品も国内が割高 13 イケてない服に渋滞…北京の威厳を損ねる6つの「特産品」 14 美人すぎる建築士が話題に、ツイッターがきっかけで 15 政府ビルもクリスマス、中国人の熱の入れよう ※ 記事については若干差し替えの可能性があります	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。		授業への出席、授業への積極的参加（発表）、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。	

養 外言	中国語演習Ⅰ 中国語演習	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
中国語のニュース記事、随筆、文学作品などを用い、日本語に翻訳する作業を通じて、以下の言語能力を向上させることを目的とします。 ・原文を正確に読み解く文法力 スラッシュリーディングの技法を用いた訓練。 ・成語や新語を含めた語彙力 文脈における語の用い方を検討する。 ・一般常識・専門知識の拡充 とくに中国に関する知識を増強する。 ・日本語の文章力 国語の表記法を含め、読者にわかりやすい文章を書く。		1. ガイダンス、資料配付 2. 社会ニュース 1 3. 社会ニュース 2 4. 社会ニュース 2 5. 文化コラム 1 6. 文化コラム 2 7. 文化コラム 3 8. 随筆 1 9. 随筆 2 10. 小説 1 11. 小説 2 12. 映像翻訳 1 13. 映像翻訳 2 14. 映像翻訳 3 15. 学期のまとめと期末試験に関する説明	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に配布します。テキストを購入する必要はありません。		出席率、授業に対する積極性を50%、復習テスト・期末テストの点数を50%で評価する。	

養 外言	中国語演習Ⅱ 中国語演習	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
中国語の作文能力向上を目的として、日本語から中国語への翻訳を指導します。 読みやすい日本語の文章を用いて、文法的に正確で、的確な語彙を用いた中国語に翻訳する訓練を行います。 達成目標は以下の通りです。 ・翻訳を目的とした原文の解析方法を身につける。 ・中国語の文章記号を正確に使えるようにする。 ・中国語のロジックや考え方を理解する。 ・辞書、参考図書、インターネット検索などを駆使した調査能力を強化する。 ・文法的に正確で的確な語彙を用いて中国語を書く作文力を身につける。		1. ガイダンス・資料配付 2. 動詞述語文 3. 形容詞述語文 4. 存現文 5. 時間と空間の表現 6. 能願助動詞 7. 比較の構文 8. 主な呼応表現 9. 結果補語 10. 可能補語 11. 様態補語 12. 処置文 13. 類語の使い分け 14. 成語と慣用句 15. 学期のまとめと期末試験の説明	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に配布します。テキストを購入する必要はありません。		出席率、授業に対する積極性を50%、期末テストの点数を50%で評価する。	

養 外言	中国語演習 I 中国語演習	担当者	吉田 桂子
講義目的、講義概要		授業計画	
サブタイトル：中国ビジネス文書 中国の GDP が 2010 年米国に次いで世界二位となり、日本と中国との経済協力関係はこれまで以上にその重要性を増しています。こうした国際環境を背景に、今、中国語に精通し、日中双方間のコミュニケーションを担える人材の育成が急務となっています。 本講では、日中間のビジネス業務で使われる「ビジネスレター」を中心に、まず、中国語の「書く力」を集中的に強化します。併せて、ビジネス実務の現場にいる講師が実際に使用している実務資料を使い、「ビジネス全般」に関する専門用語や「貿易業務」の基礎知識を学習します。 実際の授業では、毎回中国語で「ビジネスレター」を作成します。ゼミ形式で授業を進め、全員に発言の機会を提供します。 さらに理解を深める為、秋学期金曜 2 限「中国語演習 II (ビジネス中国語会話)」の受講をお薦めします。		1 日中貿易概説 2 中国語のビジネスレターの概要 3 業務取引の申し込みと CIF 4 業務取引の申し込みと CFR 5 見積書の送付依頼 6 見積書の送付依頼と FOB 7 サンプル送付に対する回答 (一) 8 サンプル送付に対する回答 (二) 9 製品紹介のレター 10 オフファーシートの送付と L/C 11 L/C と船積書類 12 支払い条件 13 契約書 (契約内容) 14 契約書とインボイス 15 実習とまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
・ 毎回配布するプリント		・ 出席率、平常授業及び定期試験の成績を総合して評価。総合成績が 60 点以上で単位取得。	

養 外言	中国語演習 II 中国語演習	担当者	吉田 桂子
講義目的、講義概要		授業計画	
サブタイトル：ビジネス中国語会話 躍進する中国経済を背景に、日中間のビジネス分野では、中国語を自由に操り直接コミュニケーションが取り得る人材が求められています。 本講では、日中のビジネス分野で使われる基本的な「ビジネス会話」を中心に、聞いて話せる中国語能力の習得を目指します。同時に、ビジネス業務をスムーズに遂行するため、様々なビジネス関連の専門用語や基礎知識、ビジネスマナーも併せて習得します。授業では、実際に講師が経験した日中ビジネス業務の現場の話も折に触れご紹介いたします。 実際の授業は、毎回全員にビジネス会話のチャンスを配分しながらゼミ形式で授業を進めます。		1 支払条件 2 支払条件を取り決める 3 船積み期日 4 船積み期日に関する話し合い 5 パッキング条件 6 パッキング条件を話し合う 7 インシュランス (保険) と A/R、W/A、F.P.A. 8 インシュランス (保険) の取り扱い 9 契約の成立 (一) 10 契約の成立 (二) 11 クレームを申し立てる 12 クレームの解決 13 商談の実例 (一) 14 商談の実例 (二) 15 実習とまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
・ 『実習ビジネス中国語—商談編』 白水社		・ 出席率、平常授業及び定期試験の成績を総合して評価。総合成績が 60 点以上で単位取得。	

養	韓国語演習 I	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、高度な韓国語運用力を習得するためのものである。ある程度まとまった文章を読むことによって、豊かな表現力を身に付けていく。		1. Chapter 1 2. Chapter 1 3. Chapter 2 4. Chapter 2 5. Chapter 3 6. Chapter 3 7. Chapter 4 8. Chapter 4 9. Chapter 5 10. Chapter 5 11. Chapter 6 12. Chapter 6 13. Chapter 7 14. Chapter 8 15. 整理・復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
李ソニ、『外国人のための韓国現代文化』, 韓国文化社, 2007		出席 100%、 課題提出、 期末試験	

養	韓国語演習 II	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語の様々な様相を学ぶ。 講義はすべて韓国語で行われるため、受講者には高度な韓国語運用能力が要求される。		1. ハングルの仕組み(講義) 2. 漢字語① 3. 漢字語② 4. ことわざ① 5. ことわざ② 6. ことわざ③ 7. 擬声語と擬態語① 8. 擬声語と擬態語② 9. 擬声語と擬態語③ 10. 慣用語① 11. 慣用語② 12. 慣用語③ 13. 日韓対照言語表現① 14. 日韓対照言語表現② 15. 整理・復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要な資料をコピーして配布する 授業中に参考文献を紹介する		出席 100%、小テスト、期末試験	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅰ（スペイン） スペイン・ラテンアメリカ文化論 a	担当者	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅰは、前半から10回の授業分（および最後のまとめ）で、主にスペインの言語・地理・文化・歴史に関する授業を二宮が行い、11～14回を佐藤と浦部が担当し、近現代のスペインの歩みに関する授業を行う。特にスペイン語を学ぶものにとっては最低限知っておかなければならない基礎的知識の獲得を第一の目的とする。 講義は、各自の専門分野にそって、スペインの歴史、地理、社会、言語事情の基礎を講義する。簡単な課題を与える場合がある。 なお、秋学期に開講される「スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅱ（ラテンアメリカ）」と関連性・連続性が強いいため、秋学期には左記授業を選択することが望ましい。		1. 世界のスペイン語 2. イベリア半島の地理・言語状況 3. カタルーニャの言語文化 1 4. カタルーニャの言語文化 2 5. バスク、ガリシアの言語文化 6. アンダルシーアの言語文化 7. イスラム・スペイン 8. 1492 9. フラメンコ 10. 闘牛 11. コンキスタ：スペインの「新大陸」支配 12. 18、19世紀のスペイン 13. スペイン内戦とフランコ体制 14. スペインの民主化とヨーロッパ統合 15. 春学期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。		出席状況、定期試験(またはレポート)によって評価する。	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅱ（ラテンアメリカ） スペイン・ラテンアメリカ文化論 b	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、ラテンアメリカを対象とした地域研究入門の授業である。スペイン語履修者が知らなければならないラテンアメリカに関する基礎知識を修得して、ラテンアメリカの特徴や魅力、抱えている課題についての理解を深めることを目的としている。 高校での地理、世界史などの授業においてラテンアメリカの項目は限定されているが、それでもいくつかの重要項目については教えられている。この授業では、それらの基礎知識を(再)確認するとともに、ラテンアメリカの人々の生活や社会の現状について歴史的背景を含めてより深く知る場としたい。佐藤と浦部で担当する。 春学期授業とセットで履修することを希望する。 ラテンアメリカ研究を研究課題としたいと考えている人は必須である。		佐藤担当 1 導入:「ラテンアメリカ」のイメージと現実 2 ラテンアメリカの「人種」エスニック構成と言語状況 3 ラテンアメリカ史入門 コロムブス以前とコロムブス以後 4 カリブ海地域の概要 歴史と社会 5 メキシコ・中米地域の概要 歴史と社会 6 現代ラテンアメリカの文化：文学、音楽、絵画 浦部担当 7 環境と生活1：アンデスの自然環境と食料生産 8 環境と生活2：アマゾンの自然環境と資源利用 9 人と社会1：宗教・価値規範と人間関係 10 人と社会2：家族・大土地所有制と社会格差 11 政治と経済1：政治体制と人権・民主主義 12 政治と経済2：経済政策と貧困・社会公正 佐藤担当 13 米国のラテンアメリカ系住民 14 現代ラテンアメリカの諸問題 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：増田義郎『物語 ラテンアメリカの歴史』（中公新書）		期末テスト、出席・発言など	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅰ（ラテンアメリカの歴史と社会） 地域文化論 i a	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義の目的は、ラテンアメリカおよびカリブ海地域を対象として、人の移動とその結果生まれることになる「人種・エスニック」間関係史に焦点をあてながら、ラテンアメリカ史（カリブ海域史も含まれる）の基礎的事項とその特徴を世界史の展開と関係付けて理解することにある。歴史理解を通じて、ラテンアメリカの特質とは何かを探っていく場としたい。その際、米国史の諸特質との差異や類似点には特に注意を向けたいと思う。 また、上記と密接に関係するが、史上、欧米列強の支配領域（公式、非公式）であったラテンアメリカの自立の道のりを概観する。 この講義では、先コロンブス期から現代までを絵画や音楽、文献史料などのおもにメキシコ関係の具体的な素材を使って概観していく。参加型の授業形態を試みたいので、履修生に全員の発言を求める。授業計画の各回最初の部分に示したものは、みんなで検討したい資料である。 なお、より詳しい 20 世紀史については春学期に別の授業が用意されている。一部、重なる部分がある。		1 メキシコ 1930 年代の観光ポスター ：他者表象と自己表象 2 『コロンブス航海記』：1492 年と現代世界 3 『インディアス破壊に関する簡潔な報告』 ：カリブ海の征服 4 「メンドーサ絵文書」：先コロンブス期の諸文明 5 『メキシコ征服記』アステカとインカの征服 6 「グアダルーペの聖母」像：植民地支配の特徴① 7 「エスメラルダのムラート紳士」像と「カスタ絵画」 ：植民地支配の特徴② 8 浜忠雄『ハイチ革命とフランス革命』表紙絵と「ジャマイカ書簡」：ラテンアメリカの独立 9 フアレスの肖像とサルセドの詩 ：国家形成の模索と「ラテンアメリカ」概念の成立 10 クレオール文化：西欧列強のカリブ海地域支配 11 タンゴとサルサと「近代世界システム論」 ：イギリス非公式帝国と米国の覇権 12 フリーダ・カーロと公民カレンダー：革命の時代 13 中国人排斥プロパガンダの挿絵： アジア・ラテンアメリカ関係史 14 歌手リラ・ダウンズ：21 世紀を迎えて 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：増田義郎『物語 ラテンアメリカの歴史』（中公新書）／高橋均・網野徹也『ラテンアメリカ文明の興亡（世界の歴史 18）』（中央公論社）		小テスト、レポート、出席、発言の総合評価	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅰ（ラテンアメリカ近現代史） 地域文化論 i b	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、主に 19 世紀半ば以降のカリブ海地域・ラテンアメリカを対象にして、米国と向き合わざるを得ないラテンアメリカとその自立の動きを現代までおっていく。基礎的歴史事項の修得を第一の目標にするが、それとともに、現代ラテンアメリカに関する多面的理解に資するものとして。現代ラテンアメリカの特徴は、①「もうひとつの世界」をもとめるラテンアメリカ、②経済と人の移動を通して一体化する南北「アメリカ」、という一見相反する動きがみられるところにある。ラテンアメリカはこれからどの方向に進んでいくのか考えるための素材を提供していき、履修生が自ら考える場としたい。 ラテンアメリカ史の全体的ながれについては、春学期に別の授業が用意されている。 なお、授業の最初には、音楽、映画、絵画、文学、大衆芸術など多様なラテンアメリカ文化を本論のテーマと関連付けて紹介し、ラテンアメリカ文化理解への導入とした。		1 問題の所在 1 米国とラテンアメリカ 2 問題の所在 2 「ラテンアメリカ」概念が生まれた場所 19 世紀のパナマ 3 メキシコ米国関係史 1 テキサス共和国の独立 4 メキシコ米国関係史 2 米墨戦争から 20 世紀初頭 5 メキシコ米国関係史 3 メキシコ革命から現代 6 中米・カリブ海域と米国 1 ：米国の運河：ニカラグアとパナマ 7 中米・カリブ海域と米国 2 ：米国による中米・カリブ海支配 8 中米・カリブ海域と米国 3 ：米国からの自立の模索+キューバ革命 9 権威主義体制から民主化へ（チリを中心に） 10 ラテンアメリカにおけるアイデンティティ・ポリティクスの展開：先住民 11 カリブ海地域におけるアイデンティティ・ポリティクスの展開：クレオール 12 新しい「人種」カテゴリーの誕生：米国ラテンアメリカ系住民＝ラティーノ 13 現代ラテンアメリカにおける「新自由主義」運動と対抗文化 14 メキシコのサパティスタ運動 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：増田義郎『物語 ラテンアメリカの歴史』（中公新書）／高橋均・網野徹也『ラテンアメリカ文明の興亡（世界の歴史 18）』（中央公論社）		小テスト、レポート、出席、発言の総合評価	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅱ（ラテンアメリカの政治と社会） 地域社会文化論特殊講義（現代ラテンアメリカ研究 a）	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義ではラテンアメリカという地域の多様性を知り、またこの地域の政治と社会の基本構図を理解することを目標とする。 ラテンアメリカは世界でも稀な、大陸の規模で同質的な文化をもつ地域である。しかし詳しく見ていくと、その同質性を基底としつつも多様性に富んだ地域であることが分かる。また規模は小さいが、カリブ地域にはまったく異質な言語や文化をもつ小国家群も存在する。 本講義では、まずラテンアメリカの政治と社会の基本的な歩みを知り、そのうえでいくつかの代表的な国を具体的に挙げて地域の多様性について理解を深めていく。そしてこれらを基礎に、現代のラテンアメリカがいかなる政治的・社会的課題を抱えているか、またそれにどう取り組んでいるか（取り組むべきか）を考えていく。 （※できるだけ秋学期の同一時間帯に開設の「スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅱ（ラテンアメリカ国際関係論）」と合わせ、春・秋学期を通して履修のこと）		I. ラテンアメリカ 政治と社会の歩み 1. ラテンアメリカ諸国の独立 2. 近代化・中間層の拡大とポピュリズム政権 3. 国家発展の追求と軍事政権 4. 民主化の波 II. ラテンアメリカ 地域的多様性 5. アンデス地域（ペルー・ボリビアなど） 6. コノスール地域（アルゼンチン・ブラジルなど） 7. メキシコ・中米地域（メキシコ・グアテマラなど） 8. カリブ地域（英語・蘭語・仏語圏の小国） III. 現代ラテンアメリカの諸問題 9. ネオリベリズムと貧困・社会格差 10. 先住民問題と多文化主義 11. 麻薬問題と暴力・ゲリラ 12. 民主主義的統治と人権・自由 IV. ラテンアメリカ 政治と社会の展望 13. 民主主義は根付くのか？ 14. 社会的公正は実現できるのか？ 15. 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験（これに出席状況を加味する）。	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅱ（ラテンアメリカ国際関係論） 地域社会文化論特殊講義（現代ラテンアメリカ研究 b）	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では世界のなかにおけるラテンアメリカの位置づけやその歴史的歩みを学ぶとともに、この地域をとりまく国際関係の諸問題について理解を深めることを目標とする。 ラテンアメリカは発展途上地域であるが、言語的・文化的にはスペインなどのヨーロッパ的特色も有し、また独立国としても 200 年近い歴史をもつ、世界のなかで固有の性質をもつ地域である。 本講義ではまず、世界のなかのラテンアメリカという視点からこの地域の歴史的歩みを捉える。そのうえで、米州（南北アメリカ）やラテンアメリカ域内の国際関係に関する重要論点について学んでいく。そして、経済グローバル化とその副作用、ラテンアメリカで強まりつつある反米・左傾化の流れを把握し、この地域が抱える 21 世紀の課題について考えていきたい。なお、日本とラテンアメリカの関係についても取り上げる。 あ （※できるだけ春学期の同一時間帯に開設の「スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅱ（ラテンアメリカの政治と社会）」と合わせ、春・秋学期を通して履修のこと）		I. ラテンアメリカの国際関係史 1. コロンブスとラテンアメリカ 2. 19 世紀の世界経済とラテンアメリカの近代化 3. 米国の覇権主義とラテンアメリカ 4. 地域協調時代のラテンアメリカ II. 米州域内の国際関係 5. キューバと米国 6. ラテンアメリカの軍事政権と米国 7. 経済再建とワシントン・コンセンサス 8. 米州機構と民主主義支援 III. 現代ラテンアメリカの国際関係 9. 自由貿易の拡大とインフラ統合 10. 経済のグローバル化と貧困の増大 11. 反グローバリズムと社会運動 12. 反米・左傾化するラテンアメリカ IV. 日本とラテンアメリカの関係 13. 日本人移民と日系社会 14. 日本の対ラテンアメリカ協力 15. 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験（これに出席状況を加味する）。	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅲ（ラテンアメリカの経済と社会） 地域経済論 i a	担当者	今井 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
1. ラテンアメリカ経済社会構造の特質を、アジア、アフリカとの比較しながら理解し、ラテンアメリカ地域の自然・住民・宗教・文化について概観する。 2. ラテンアメリカ地域の経済社会の歴史の変遷過程を辿り、植民地前の先住民社会、植民地期の政策に関してその基本構造を把握する。そして独立後の国家建設および経済開発の思想と政策を学び、経済社会構造の変容を理解する。 3. こうした考察を踏まえてラテンアメリカ経済の現状を分析し、グローバル化が進む中でラテンアメリカ諸国が直面している主要な経済社会問題について考察する。そしてこれらの問題に対する各国政府や国際機関の取り組みを紹介する。 4. ラテンアメリカにおける開発の思想、理論、政策について紹介し、コスタリカ・モデル（非武装・中立・教育・福祉・環境重視）と呼ばれる開発政策を中心に、持続可能な開発のあり方について考える。 5. 日本とラテンアメリカの関係を移民、外交、貿易、投資、経済協力について考察し、グローバル化時代における日本とラテンアメリカの協力関係のあり方について考える。主として講義形式で授業を進めるが、テーマに応じて受講生によるディスカッション形式もとり入れたい。		1. ラテンアメリカ概観—ラテンアメリカとアジア、アフリカの比較 2. 第1章 ラテンアメリカ経済社会の歴史の変遷過程 第1節 ラテンアメリカ経済史の時期区分 3. 第2節 植民地期以前の先コロンブス期（－15世紀末）コロンブス一行到来以前の先住民社会の概観 4. 第3節 植民地期（15世紀末－19世紀初め） 5. 第4節 独立期（19世紀初め－19世紀半ば） 6. 第5節 第一次産品輸出経済確立期（19世紀半ば－1929年恐慌） 7. 第6節 工業化から地域統合に至る時期（1929年恐慌－現在） 8. 第2章 ラテンアメリカ経済社会の現状と課題 9. 第2章 ラテンアメリカ経済社会の現状と課題 10. 第2章 ラテンアメリカ経済社会の現状と課題 11. 第3章 ラテンアメリカの開発思想・理論・政策 12. 第3章 ラテンアメリカの開発思想・理論・政策 13. 第4章 日本とラテンアメリカの経済関係 14. 第4章 日本とラテンアメリカの経済関係 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
（参考書）国本伊代・中川文雄編『ラテンアメリカ研究への招待』新評論、2005、今井圭子編『ラテンアメリカ 開発の思想』日本経済評論社、2004、西島章次・細野昭雄編『ラテンアメリカ経済論』ミネルヴァ書房、2004、宇佐見耕一他『図説ラテンアメリカ経済』日本経済評論社、2009。		授業中にリアクション・ペーパー、学期末にレポートを提出。リアクション・ペーパーとレポート、出席、授業参加状況を合わせて評価する。	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅲ（ラテンアメリカ経済発展論） 地域経済論 i b	担当者	今井 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
1. ラテンアメリカの経済を理解するために、まず基礎的な経済理論、経済用語について学ぶ。 2. ラテンアメリカ経済の現状と特質を、その政治社会構造を踏まえながら理解する。ラテンアメリカ経済の主要なテーマをとりあげ、その現状と課題、政策について考察する。こうした問題への理解を深めながら、経済のグローバル化がラテンアメリカ経済に及ぼしてきた影響を、WTOとラテンアメリカの経済統合・自由貿易協定、経済の自由化と格差問題、開発と環境などを中心に考察し、持続可能な発展の可能性について考える。 3. 以上を理解した上で、日本とラテンアメリカの経済関係について、貿易、投資、政府開発援助を中心に考察し、今後の望ましい方向性について考える。 授業は、講義、関連資料の解説、ディスカッション等の形で進められるので、積極的参加を歓迎する。		1. 序、第1章 経済学の基礎 第1節 経済学的な考え方、ミクロ経済学・マクロ経済学 第2節 市場原理—需要・供給と価格 2. 第3節 公共部門・経済政策 3. 第4節 雇用・失業問題・雇用政策 4. 第5節 インフレ・デフレ、財政・金融政策 5. 第6節 貿易・対外投資・国際収支・為替レート 6. 第2章 ラテンアメリカ経済の現状と課題 第1節 マクロ経済の諸問題、経済の自由化 7. 第2節 経済開発と政府の役割 8. 第3節 経済成長と企業 9. 第4節 人的資本と教育、技術開発 10. 第5節 雇用・格差・貧困問題と労働・社会政策 11. 第6節 農業と土地所有制度、第一次産品輸出経済 12. 第7節 経済のグローバル化と貿易、国際資本移動 13. 第8節 環境問題と環境政策 14. 第9節 日本とラテンアメリカの経済関係 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
（参考書）宇佐見耕一他共著『図説 ラテンアメリカ経済』日本評論社、2009年、石黒馨編『ラテンアメリカ経済学—ネオ・リベラリズムを超えて』世界思想社、2003年、ジョセフ・E・スティグリッツ、カール・E・ウォルシュ『スティグリッツ 入門経済学』東洋経済、最新版、今井圭子『アルゼンチン研究の基礎資料—国勢調査・経済社会統計—』上智大学、イペロアメリカ研究所、2008年など。		授業中に課したリアクション・ペーパーと最後の授業までに提出するレポートおよび出席・授業参加状況を合わせて評価する。	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅳ（スペイン語圏の言語文化） 地域文化論 ii a	担当者	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
スペインの文化について歴史を辿りながら総覧する。とくに言語の歴史を中心として、その周辺で動く社会や風習などを概観する。 主な対象は「スペイン」ではあるが、勿論、言語を中心に見ていくため、スペイン以外のスペイン語圏についても可能な限り触れていく。またスペイン語史上重要な文献や作品を実際に読む。		① 「スペイン」と「スペイン語」1 ② 「スペイン」と「スペイン語」2 “Glosas Emilianenses” ③ イスラム・スペイン “Jarchas” ④ Cantar de Mío Cid ⑤ 1492 “Gramática de la Lengua Castellana” ⑥ Don Quijote ⑦ El Siglo de Oro ⑧ 18c, 19c のスペイン 1 ⑨ 18c, 19c のスペイン 2 ⑩ フラメンコ ⑪ 闘牛 ⑫ スペイン内戦とピカソ 1 ⑬ スペイン内戦とピカソ 2 ⑭ 近現代のスペイン 1 ⑮ 近現代のスペイン 2	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。		出席状況と数回のレポートによって評価する。	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅳ（スペイン語学） 地域文化論 ii b	担当者	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語の文法要素を言語学的に分析することが本講義の目的である。分析の結果も大事な成果のひとつであるが、それ以前に分析の方法、プロセスを見だし、問題設定をする練習の場とも考える。 今年度のテーマは「知覚動詞とその構造」とする。 まず、知覚動詞に関する基本的な知識を獲得するために講義を行う。その際に、知覚動詞の分析にはどのような問題があるのかを洗い出す。 次に、そのテーマに関する基本的な文献の講読を全員で行う。 最後に前半で行った講義とその際に洗い出した問題点、そして文献で得た知識を前提に、いくつかの問題点について考察、検討する。		① 知覚動詞について（説明講義）1 ② 知覚動詞について（説明講義）2 ③ 知覚動詞について（説明講義）3 ④ 知覚動詞について（説明講義）4 ⑤ 知覚動詞について（説明講義）5 ⑥ 文献講読 1 ⑦ 文献講読 2 ⑧ 文献講読 3 ⑨ 文献講読 4 ⑩ 文献講読 5 ⑪ 問題点の考察と検討（討議形式）1 ⑫ 問題点の考察と検討（討議形式）2 ⑬ 問題点の考察と検討（討議形式）3 ⑭ 問題点の考察と検討（討議形式）4 ⑮ 問題点の考察と検討（討議形式）5	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。		出席状況、授業への参加度、学期末のレポートによって評価する。	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅴ（ブラジル研究） 地域社会文化論特殊講義(ブラジル研究)	担当者	E. ウラノ
講義目的、講義概要		授業計画	
ブラジルは、2014年にワールドカップ、2016年にはオリンピック開催を迎えており、世界で注目されている新興国の一つである。 この授業では、「未来の大国」ブラジルがもつ可能性を、社会・経済・政治面から解説する。例えば、最近の経済成長をどのようなファクターが支えているのか。これから持続可能な成長を成し遂げるためには、どのような改革や政策が必要なのか。これらの課題について、特に1960年代以降の歴史的経緯に言及しながら、ブラジルのグローバルプレーヤーとしての可能性について解説し、講義をすすめる。 近年目立つ出来事として、BRICsやG20などを通じた多極的外交、経済成長、格差の是正による新中間層の形成、ブラジル企業の多国籍化、油田開発などがあげられる。こうした変貌はどのような基盤により実現されているのだろうか。また、日本とブラジルは、今後、経済・文化・外交面でどのように関係を強化していけるのか。 講義の目的は、受講生が積極的にこれらの内容について考え、ブラジルというテーマについて独自の視点を開発することにある。		1.イントロダクション：世界のなかのブラジル 2.ブラジルは今：政治、経済、社会 3.政治経済：1960－1970年代、高度成長、軍事政権 4.政治経済：「失われた80年代」 5.政治経済：90年代、インフレーション、経済安定化 6.政治経済：2000年代、経済成長への道 7.ブラジル.社会政策：格差社会の是正に向けて 8.映像から見たブラジル 9.映像から見たブラジル 10.ブラジル企業の多国籍化 11.BRICs、南南関係：.多極的外交の展開 12.ブラジルのソフトパワー 13.日本の中のブラジル、ブラジルの中の日本 14.ブラジルと日本の関係、パートナーシップ 15.まとめ：「未来の大国」から「現在の大国」？ ※トピックごとに可能な限り映像資料もまじえて授業を進める予定である。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストとして特定の書籍を用いることはないが、必要に応じてレジュメ、資料を配付する。参考書籍としては、『現代ブラジル事典』（新評論、2005年）を挙げておく。		基本的には学期末の筆記試験による評価を予定しているが、出席や授業内ペーパー、レポート等を加味した評価とする可能性もある。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究情報収集法 地域社会文化論特殊講義(スペイン・ラテンアメリカ研究情報収集法)	担当者	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語圏の人文学的な研究をする際に必要となる情報の収集法について考え、実践する講義である。 スペイン・ラテンアメリカ研究の各テーマに必要な情報(源)の特定の方法を考え、実際にいくつかのテーマに沿って実践する。 情報(源)の特定を完了した後、具体的にその情報を提供するメディアの収集を行う。刊行物を中心とした文献、各種メディア(CD・DVD、インターネット、人間等)を調査し、設定したテーマに適した情報を取り出す練習をする。また、各メディアの著作権についても触れる。 集めた情報の整理の方法、プレゼンテーションの仕方についても学ぶ。		① 情報を集めるテーマの選定 ② 文献の調査法・情報収集法 1 ③ 文献の調査法・情報収集法 2 ④ 文献の調査法・情報収集法 3 ⑤ 大学内での調査法・情報収集法 1 ⑥ 大学外での調査法・情報収集法 2 ⑦ CD, DVD 等メディアの調査法・情報収集法 ⑧ CD, DVD 等メディアの調査法・情報収集法 ⑨ インターネット上の調査法・情報収集法 1 ⑩ インターネット上の調査法・情報収集法 2 ⑪ インターネット上の調査法・情報収集法 3 ⑫ 収集した情報の整理とプレゼンテーション 1 ⑬ 収集した情報の整理とプレゼンテーション 2 ⑭ 収集した情報の整理とプレゼンテーション 3 ⑮ 収集した情報の整理とプレゼンテーション 4	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。		出席状況、プレゼンテーションによって評価する。	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅰ（スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究 a） 地域社会文化論特殊講義（スペインの文化と文明 a）	担当者	P. ラゴ
講義目的、講義概要		授業計画	
Objetivo del curso: 1. La enseñanza de la cultura y la civilización españolas desde sus orígenes hasta la actualidad. Se pondrá énfasis en los periodos históricos más importantes, así como en los artistas más destacadas de cada época. 2. Desarrollar: -La comprensión lectora a través de la lectura de textos escritos. -La expresión oral mediante los diálogos que se llevan a cabo durante la clase. -La comprensión oral a través de las explicaciones de la profesora. -Expresión escrita por medio de las tareas que hay que realizar al finalizar cada tema . Destinatarios: alumnos que posean un conocimiento general de la gramática española.		1. Presentación del curso. 2. Introducción: geografía y relieve I 3. Geografía y relieve II 4. Los albores del arte español: <i>La cueva de Altamira</i> . 5. Los iberos y los celtas. Sus manifestaciones artísticas I. 6. Los iberos y los celtas. Sus manifestaciones artísticas II. 7. La romanización y sus consecuencias I. 8. La romanización y sus consecuencias II 9. Las invasiones germánicas (s. V). La sociedad y el arte visigodo. 10. La invasión musulmana (s. VIII). Sociedad, cultura y arte árabe. 11. la Alhambra de Granada y los jardines del Generalife I. 12. La Alhambra de Granada y los jardines del Generalife II. 13. La Reconquista (ss.XI-XIII). 14. La sociedad medieval. Castillos y ciudades medievales . 15. Película sobre alguno de los temas tratados.	
テキスト、参考文献		評価方法	
No es necesario.		La entrega de una tarea por cada tema estudiado. La asistencia a clase es importantísima.	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅱ（スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究 b） 地域社会文化論特殊講義（スペインの文化と文明 b）	担当者	P. ラゴ
講義目的、講義概要		授業計画	
Ver el apartado anterior.		1. El arte durante la Reconquista: el románico. 2. El arte durante la Reconquista: el gótico 3. El Camino de Santiago (Patrimonio de la humanidad). 4. Haciendo el camino. 5. <i>La Celestina</i> : el paso de la Edad Media al Renacimiento I 6. <i>La Celestina</i> : el paso de la Edad Media al Renacimiento II. 7. Los Siglos de Oro: el Renacimiento (XVI). 8. El Greco (1541-1614), un pintor manierista. 9. La arquitectura renacentista: El Monasterio de El Escorial. 10. Los Siglos de Oro: el Barroco (s. XVIII). 11. Diego de Velázquez (1599-1660), un pintor barroco. 12. Otros pintores barrocos: Murillo (1617-1682), Zurbarán (1598-1664) y Ribera (1591-1652). 13. Francisco de Goya (1746-1828), un pintor entre el Romanticismo y la Ilustración I. 14. Francisco de Goya (1746-1828), un pintor entre el Romanticismo y la Ilustración II. 15. Película sobre alguno de los temas tratados.	
テキスト、参考文献		評価方法	
No es necesario.		La entrega de una tarea por cada tema estudiado. La asistencia a clase es importantísima.	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅲ（スペイン・ラテンアメリカの芸術文化） 地域社会文化論特殊講義(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)	担当者	倉田 量介
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、スペインとその旧植民地であったラテンアメリカ諸国の音楽実践について理解を深めることを目的とする。この地域の音楽はダンスと不可分に発展を遂げてきたことから、演奏上の身体技法についても言及する。クレオールをはじめ、文化混淆の概念がキーワードとなるため、前半の授業では、キューバの音楽を重点的に取りあげ、成分といわれる各音楽的要素に再検討をほどこす。音楽研究一般の可能性を吟味しつつ、各自の関心に応じた題目を選んでもらい、レポート提出に備える。後半の授業では、指定のテキストに準拠しながら、スペイン語圏、非スペイン語圏の音楽環境を広く概説する。楽器の実物に触れる機会も用意したいが、議論のベースは文化人類学に置く。単なる音楽紹介や知識の丸暗記にとどまらない思索の場としたい。スペイン語履修者以外の受講にも配慮する。		1. イントロダクション: VTRを観ながら 2. 文化混淆の現況: キューバの音楽を事例として 3. スペイン由来の音楽的要素: 弦楽器の系譜を中心に 4. アフリカ由来の音楽的要素: 打楽器の系譜を中心に 5. 先住民由来の音楽的要素: フォルクローレを中心に 6. 「伝統」をめぐる境界の再創造: 農民音楽はいかに生まれたか 7. クラブカルチャーとの互換性: ラップからレゲトンへ 8. 民族音楽学ならびにポピュラー音楽研究の手法と展望 9. サルサとその周辺 10. メキシコの音楽と合衆国内の移民(チカーノ、テハーノ)文化 11. ジャマイカ発のスタイル: スカ、レゲエ、ダブ... 12. 南米大陸の音楽地図: ペルー、ボリビア、アルゼンチン... 13. 音楽大国ブラジル: サンバ、セルタネージャ... 14. カリブ海地域の英語圏やフランス語圏: カリプソ、コンパ... 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布し、参考書を紹介するが、各専門家の寄稿による論集をテキストに指定する。石橋純編『中南米の音楽』（東京堂出版、2010、ISBN: 978-4490206678）		評価方法: 平常授業におけるコメントなどの実績(30%)と期末レポート(70%)。	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅳ（スペイン・ラテンアメリカの社会文化） 地域社会文化論特殊講義(スペイン・ラテンアメリカの社会文化)	担当者	兒島 峰
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義の目標は、ラテンアメリカの社会と文化の特徴を歴史的な形成過程と地理的状況とともに学び、現在におけるラテンアメリカ文化と社会との関係について理解することにある。 ラテンアメリカとは何か、今日のラテンアメリカの特徴はどのように形成されてきたのか、また、ラテンアメリカと呼ばれる地域の相違について理解を深めることを目標とする。 この講義では、ラテンアメリカの社会と文化について、いくつかのトピックスに分けて、地域ごとの特徴を提示しながら説明する。 毎回、映像などの具体的な資料を提示し、その資料をもとに授業計画に沿って授業を進める。 スペイン語の知識は必ずしも必要ではない。ラテンアメリカの社会と文化に対する関心と学ぶ意欲が重要である。		1. オリエンテーション 受講上の注意 2. ラテンアメリカの全体的特徴 3. ラテンアメリカの地域と諸国家の特徴 4. ラテンアメリカ社会における男と女 5. ラテンアメリカの社会構造 6. ラテンアメリカ社会における人種概念 7. ラテンアメリカ各地域における異なる男女観と人種概念 8. ラテンアメリカにおける言語と宗教 9. ラテンアメリカにおける文化的差異 10. ラテンアメリカにおける国家の概念 11. ラテンアメリカにおける国民の概念 12. 国際社会におけるラテンアメリカの位置づけ 13. 今日のラテンアメリカと今後の展望 14. 総括 15. 論述試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献については授業中にその都度指示する。授業中に参考資料を配布する。		学期末に行なう筆記試験を中心に評価する。	

養	中国研究入門	担当者	森 保裕
講義目的、講義概要		授業計画	
現代中国を知るために必要な基礎知識を広範に講義する。将来、中国、中国人とかかわる仕事に携わったり、さらに深く中国を研究するために役立つように。 わたしが通信社記者となって30年、うち約20年間は、外信部で国際ニュースを担当。北京、台北特派員として中国・台湾を中心に取材をした。今は編集・論説委員として、中国や台湾に関するフィーチャー記事や論説、コラムなどを執筆している。 中国・台湾関係の生ニュースを同時進行の形で取り上げながら、政治、経済、国際関係、社会問題、文化などの各分野について概観する。 台頭する中国といかに向き合うか。狭隘なナショナリズムを排除し、冷静、客観的に考えることができる歴史的、哲学的な対中認識を持ってほしい。 中国語の記事や資料も用いるので、中国語を学習していることが望ましい。		1、 中国を知るために 2、 中国史概観 3、 政治体制（共産党一党独裁） 4、 経済体制（市場経済化） 5、 国際関係 6、 日中関係 7、 中台関係 8、 社会問題（貧富の格差、官僚腐敗） 9、 民主化問題 10、 少数民族問題（チベット、ウイグル） 11、 環境問題（温暖化問題を含む） 12、 言語や文化（方言、映画、流行歌） 13、 台湾概観 14、 生ニュースをめぐって 15、 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、コピー教材を配布。副教材として共同通信取材班『中国に生きる－興竜の実像』『世界年鑑2011』（ともに共同通信社）＝購入は任意、図書館で利用可		出席、試験、レポート	

養	中国研究Ⅰ（中国社会論）	担当者	山本 秀也
講義目的、講義概要		授業計画	
現代中国を理解する上で欠かせない社会問題をテーマ別に取り上げる。それぞれ異なった事象を解説しつつ、その背景には中国の伝統文化と現在の政治体制が絡み合っていることを講義の中で解き明かして行く。等身大の中国に理解を深めることで、その未来像に目を向ける手がかりを提供することが講座の目的である。 受講にあたって、中国語の履修はとくに必要としない。隣国・中国に関心のある幅広い諸君の受講を歓迎する。		1 導入－中国社会の諸相 2 巨大人口の圧力 3 農村の状況－基層統治をめぐる現実 4 環境問題と生活への影響（治水と砂漠化） 5 食の安全をめぐる課題と対策 6 「ニセモノ天国」への考察 7 感染症が与える衝撃と対策の課題 8 中国社会におけるジェンダー問題 9 マスコミと情報統制 10 汚職・腐敗の拡大と抑止 11 広がる「黒社会」の影 12 宗教と民族問題 13 階層社会の再来 14 民主化と権利保護運動の可能性 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布。『ハンドブック現代中国（第三版）』（愛知大学現代中国学部編）を併用する。		期末定期試験（または期末レポート）を主とするが、平常の受講状況も評価対象とする。	

養 外言	中国研究Ⅱ（中国の思想・文学） 地域文化論Ⅳa	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
中国中央テレビ局の古典普及番組「百家講壇」で爆発的な人気を集めた、北京師範大学の于丹教授の『論語』を読み解くシリーズ講座のDVD を利用して、中国思想において最も重要な位置を占める『論語』と儒教の真髄について学習します。儒教と道教は中国のみならず、東洋人の精神世界形成に大きな役割を果たしました。社会の中で生きる規範（社会的人格の形成）を儒教に求め、人生を楽しむための哲学を道教に求める思想はアジアに共通のものです。 とくに『論語』は日本でも古くから研究が進んでおり、不朽の価値を持っている書物であると言えます。 テキストに使用する『論語心得』は上述テレビ番組の講演を忠実に書き起こしたのですが、この番組では論語を非常に分かりやすく（中学生にも分かるように）解説しています。		1回 ガイダンス、『論語』および『論語心得』について 2～4回 「交友之道」；よい友達づきあいとは何でしょうか？孔子の言う「益者三友、損者三友」の概念を用いて友達づきあいの重要性について学びます。 5～7回 「理想之道」：人はいかなる理想を抱いて人生を歩むべきでしょうか？理想や目標の実現のために、私たちが今なすべきことを孔子のことばから探っていきます。 8～10回 「处世之道」：複雑な現代社会において誠実に生きていくための方策とは？社会の中でよりよい人間関係を築くための生き方を考えましょう。 11～13回 「人生之道」：孔子は「十五にして学に志し、三十にして立ち、四十にして惑わず、五十にして天命を知る」と述べています。人は自分の一生をどのように計画すべきでしょうか？ 14～15回 映画「孔子」観賞	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義資料は、大学ホームページにアクセスし、教員紹介から授業資料ダウンロードページに飛んでダウンロードしてください。		出席率、授業に対する積極性を50%、期末テストの点数を50%で評価する。	

養 外言	中国研究各論Ⅳ（中国の芸能・芸術） 地域文化論Ⅳb	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
グループ分けをし、それぞれのテーマに沿って調査と発表をしていただきます。 第4回目から1は学生の発表と教員の解説、2はDVD鑑賞および小テストによる復習とします。 教材で使用するDVDは以下のとおりです。 A 八千里路雲和月 B 中華五千年的文化紀錄 C 中国自然文化遺産 D 中国大紀行 以上のDVDで実際に中国美術、戯曲などを鑑賞し、さらに中国の芸術を育んだ風土の歴史と地理について学びます。 毎回、グループごとのプレゼンテーションあるいは映像資料鑑賞を行うので、遅刻・欠席は厳禁です。		1. ガイダンス、教授用資料の入手方法など 2. 京劇鑑賞 1 3. 京劇鑑賞 2 4. 古墳と遺跡 1 5. 古墳と遺跡 2 6. 陶磁器 1 7. 陶磁器 2 8. 絵画芸術 1 9. 絵画芸術 2 10. 庭園芸術 1 11. 庭園芸術 2 12. 書道芸術 1 13. 書道芸術 2 14. 中国音楽鑑賞 15. 学期のまとめと期末レポートに関する説明	
テキスト、参考文献		評価方法	
以上のDVDの他、事前に提出されたプレゼン資料を用いる。特にテキストを購入する必要はない。		出席率、授業に対する積極性を50%、期末レポートの点数を50%で評価する。	

養	中国研究Ⅲ（中国史 a）	担当者	張 士陽
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目標〕 この講義では現代の中国及び東アジアの国際関係をより深く理解するために、その成立の背景となる中国近代史について講義します。 〔講義概要〕 19世紀前半、中国は内外の諸要因から激動の時代を迎えます。2000年間、王朝交替を繰り返しながら存続してきた皇帝支配体制は最大の危機に直面します。 清朝国家は体制存続のために様々な改革を実施します。講義ではこの時期の社会秩序や経済活動の変動に対して、当時の人々がどのように対応したかを中心に考えていきたいと思ひます。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。 〔受講生への要望〕 教科書や講義中に配布した史料プリントを熟読すること。		1 講義の概要 2 清朝体制下の社会変動 3 アヘン戦争と冊封・朝貢体制の動揺 4 太平天国 5 体制の反撃 6 洋務運動 7 中体西用の諸相 8 開港場の社会と経済 9 農村社会の変容 10 周辺地域宗主権の喪失 1 11 周辺地域宗主権の喪失 2 12 琉球問題と台湾出兵 13 朝鮮をめぐる日中対立 14 講義のまとめ 15 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19 中華帝国の危機』（中公文庫 S 22-19）中央公論新社，2008 年。		出席状況と期末定期試験の結果による。	

養	中国研究Ⅳ（中国史 b）	担当者	張 士陽
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 この講義では、現代の中国と東アジアの国際関係をより深く理解するために、その成立の背景となる中国近代史について講義します。 〔講義概要〕 日清戦争の敗北によって清朝体制の存続は危機的状況に陥ります。この時代に伝統の創造により中国の変革を目指した人々、さらなる変革を求めて「革命」を選んだ人々などの思想と行動を検討し、また地方自治改革と地域社会の対応の軌跡をたどりながら、中華民国初期の近代国家建設の試みとその挫折を検証します。 またこの時期のモンゴル・チベットにおける独立運動についても検討します。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。 〔受講生への要望〕 教科書や講義中に配布した史料プリントを熟読すること。		1 講義の概要 2 日清戦争 3 台湾の割譲と台湾住民の抵抗 4 変法改革 5 戊戌の政変 6 キリスト教布教と仇教運動 7 義和団の蜂起 8 纏足問題と天足運動 9 革命派の台頭 10 光緒新政と地方自治の試み 11 王朝体制の崩壊と中華民国の成立 12 第二革命と袁世凱政権の成立 13 モンゴル・チベットの独立運動 14 講義のまとめ 15 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19 中華帝国の危機』（中公文庫 S 22-19）中央公論新社，2008 年。		出席状況と期末定期試験の結果による。	

養 外言	中国研究各論Ⅰ（現代中国論 a） 現代中国論 a	担当者	孫 新
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、現代の中国を多角的に捉え、中国の実態と本質を考察し、現代中国の全体像を検討します。 中国は日本の一衣帯水の隣国で、今、驚異的な発展を遂げ、世界の大国としての存在感を強めてきている。各分野における日本との交流も、ますます深まっている。国際化と区域化が同時に進行しつつある中、日本にとって、永遠の隣人である中国に対して、更なる理解が必要です。 今後、中国はどこへ向かい、日本は中国とどう付き合うべきでしょうかという学生の関心に応えます。 アヘン戦争以来の歴史を踏まえながら、歴史的脈絡の中で、現代中国と日中関係を考えるのが、講義のテーマです。		1. 講義の概要 2. アヘン戦争と近代中国 3. 新中国の誕生 4. 13億人口の発展途上国 5. 改革開放 6. 市場経済化への道 7. 「一国二制度」 8. 現代中国の政治 9. 現代中国の外交 10. 日中関係（上） 11. 日中関係（下） 12. 中国から見た世界 13. これからへの展望 14. まとめ 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
【参考文献】沈才彬『「今の中国」がわかる本』、三笠書房；上村幸治『中国のいまがわかる本』、岩波ジュニア新書。		出席、試験による。	

養 外言	中国研究各論Ⅱ（現代中国論 b） 現代中国論 b	担当者	孫 新
講義目的、講義概要		授業計画	
「現代中国論 a」に続いて、政治、経済、社会、文化などの側面から、現代中国を具体的に検討するのが、この講義の目的です。 中国は日本の一衣帯水の隣国で、今、驚異的な発展を遂げ、世界の大国としての存在感を強めてきている。各分野における日本との交流も、ますます深まっている。国際化と区域化が同時に進行しつつある中、日本にとって、永遠の隣人である中国に対して、更なる理解が必要です。 今後、中国はどこへ向かい、日本は中国とどう付き合うべきでしょうかという学生の関心に応えます。 現代中国が驚異的な発展を遂げながら、多くの課題を抱えている。その発展ぶりを講義し、抱える課題を解明します。		1. 講義の概要 2. 変貌する中国 3. 多民族の国家 4. 政治システム 5. 選挙と政治民主化 6. 社会主義市場経済 7. 社会階層と格差問題 8. 医療と社会保障 9. 教育発展の諸相 10. 農村の変容と課題 11. 環境問題とエネルギー問題 12. 現代の思想と文化 13. 国際社会の中の中国 14. まとめ 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
【参考文献】沈才彬『「今の中国」がわかる本』、三笠書房；上村幸治『中国のいまがわかる本』、岩波ジュニア新書。		出席、試験による。	

養 外言	中国研究各論Ⅲ（日中交流史） 地域文化論 iii a	担当者	武信 彰
講義目的、講義概要		授業計画	
日中間の文化交流史においては多くの興味深いことがあるが、2つの時期の状況がとりわけ注目を引く。 唐代においては、日本が食欲に中国から学んだ。まず文字に出会いものを書くことを覚えた。後に仮名も生んだ。 そして、近代において今度は中国が必死に日本から学んだ。日本新漢語が東アジアの国々の言語体系に流れ込み、当然のこととして中国人の日常言語を形成する重要な部分ともなったのである。 中国語を学ぶ日本人の観点から、これを論ずる中国人学者の論文を読み、われわれの学ぶ現代中国語という言語を新たな視点で捉える。 〈隔在中西之间的日本 — 现代汉语中的日语“外来语”问题 —〉（王彬彬，《上海文学》1998年）を読みつつ進行する。		1 オリエンテーション 2 唐代と近代 双方向の交流 3 現代中国語に深く根付く日本語由来の外来語 4 日本の翻訳と中国の翻訳 5 中国語を通して抽象語彙を翻訳した日本語 6 近代日本人学者の翻訳方法 7 訳語の競合と定着 8 梁啓超と日本新漢語流入の契機（1） 9 梁啓超と日本新漢語流入の契機（2） 10 嚴復の不满・反論 11 欧米の概念をいかに翻訳すべきかの議論 12 嚴復のスタンスと限界 13 中国語にとって欧米の概念（1） 14 中国語にとって欧米の概念（2） 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。 参考文献は適宜紹介。		授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。	

養 外言	中国研究各論Ⅴ（言語文化論） 地域文化論 iii b	担当者	武信 彰
講義目的、講義概要		授業計画	
いわゆる漢字文化圏の一員に数えられる日本は、古代より中国文明の波打ち際でその文化を創り醸成してきた。「一衣帯水」という微妙な距離においての受容と長い交流の中で両言語の関係は実に密でかつまた微妙である。日本語母語話者が中国語を学ぶときに陥る誤解や誤用は、背景の文化に対するそれと同様、独特のものがある。 日本語母語話者の中国語学習においては、この誤解や誤用を生む背景に対する深い理解が欠かせない。		1 オリエンテーション 2 中国語とは？普通话、汉语、华语、国語 漢字文化圏（＝漢語文化圏） 3 現代中国語の音韻 4 華人と中国語の比喩 5 中国人のコミュニケーションの特色 6 中国人の「色」 7 ことわざ・歇後語 8 “既成の言い回し” 描写表現 9 東西南北、右左 10 日本語母語話者ゆえの誤謬 11 飲食に関する言葉 12 中国人の名前・命名 13 自尊心・コネ社会・宗教 14 「漢文」の時代の中国語と現代中国語 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。 参考文献は適宜紹介。		授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。	

養 外言	中国特殊研究Ⅰ（日中比較文化論 a） 比較文化論特殊講義(日中文化比較論 a)	担当者	易 友人
講義目的、講義概要		授業計画	
日本と中国は一衣帯水の隣国ですが遥かに遠いようです。遙遠という感じはやはり両国の文化などの相違によって形成されたと思います。中国人と日本人との居住、行為方式、文化心理などを通じて両国文化の相違点を追究しそれぞれの文化の特殊性をまとめ両国民の各自深層的文化特徴を理解することが出来ると思います。 授業内容が、実状によって一部変更することもあります。		一、居住方式 1、中国人的住宅和四合院（1） 2、中国人的住宅和四合院（2） 3、日本人的住宅和榻榻米（1） 4、日本人的住宅和榻榻米（2） 二、中日育児方式比較 5、從一次探險夏令營談起 6、中日育児方式的相似点 7、親子關係的差異（1） 8、親子關係的差異（2） 9、親子關係的差異（3） 三、日本社会現代模式的特点及对中国的啓示 10、日本社会現代模式的特点（1） 11、日本社会現代模式的特点（2） 12、对日本社会現代模式的評價 四、「名」与「恥」 13、日本人的名譽觀 14、有關「恥感文化」的比較 15、總結、復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは初授業時に配布する。 『日中辞典』を用意するように。		評価方法：期末定期試験の結果(70%)によって評価するが、授業における課題レポートなどの平常点(30%)も評価対象とする。	

養 外言	中国特殊研究Ⅱ（日中比較文化論 b） 比較文化論特殊講義(日中文化比較論 b)	担当者	易 友人
講義目的、講義概要		授業計画	
日本と中国は一衣帯水の隣国ですが、遥かに遠いようです。遙遠という感じはやはり両国の文化などの相違によって形成されたと思います。中国人と日本人との居住、行為方式、文化心理などを通じて両国文化の相違点を追究しそれぞれの文化の特殊性をまとめ両国民の各自深層的文化特徴を理解することが出来ると思います。 授業内容が、実状によって一部変更することもあります。		五、男人眼中的女人 1、伝統的女性觀与婦女的社会地位（1） 2、伝統的女性觀与婦女的社会地位（2） 3、性別分工与両性間的人格差異(1) 4、性別分工与両性間的人格差異(2) 六、「小集団本位」与「家族本位」 5、日本的「小集団本位」（1） 6、日本的「小集団本位」（2） 7、中国人的「家族本位」意識（1） 8、中国人的「家族本位」意識（2） 七、「序列意識」与「平均意識」 9、日本人的「序列意識」（1） 10、日本人的「序列意識」（2） 八、「義理人情」与「人情世故」 11、什麼是「義理」和「人情」（1） 12、什麼是「義理」和「人情」（2） 13、中国人和日本人的「報恩」方式（1） 14、中国人和日本人的「報恩」方式（2） 15、總結、復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは初授業時に配布する。 『日中辞典』を用意するように。		評価方法：期末定期試験の結果(70%)によって評価するが、授業における課題レポートなどの平常点(30%)も評価対象とする。	

養 外言	中国特殊研究Ⅲ（中国文学研究古典） 地域社会文化論特殊講義(中国文学研究古典)	担当者	易 友人
講義目的、講義概要		授業計画	
すでに中国語の基礎的な文法や表現などを学んだ学生さんが一歩進んで中国古典を楽しむために、授業を進めたいと思います。 内容は、中国人なら誰でも知っているものですが、唐詩や宋詞など古典のままで、一部の古代文学作品については現代文の改作版を使用するものもあります。この授業を通じて学生さんに、中国古典に、ある程度興味をもたせるようにしたいです。古典（唐詩、宋詞、古文）は勿論音読しますが、先生の指導のもとで現代中国語文に改作作業をする予定です。とにかく楽しい授業を進めたいと思います。授業内容が、実状によって一部変更することもあります		1、李白《静夜思》等 2、杜甫《春夜喜雨》等 3、孟浩然、王維《春曉》《紅豆》等 4、蘇軾《水調歌頭》（名月幾時有） 5、羅貫中《三国演義》節選（1） 6、羅貫中《三国演義》節選（1） 7、吳承恩《西遊記》節選（1） 8、吳承恩《西遊記》節選（2） 9、吳承恩《西遊記》節選（3） 10、施耐庵《水滸伝》節選（1） 11、施耐庵《水滸伝》節選（2） 12、蒲松齡《聊齋志異》節選（1） 13、蒲松齡《聊齋志異》節選（2） 14、曹雪芹《紅樓夢》節選 15、総結、復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは、初授業時に配布する。 『日中辞典』を用意するように。		評価方法：期末定期試験の結果(70%)によって評価するが、授業における課題レポートなどの実績(30%)も評価対象とする。	

養 外言	中国特殊研究Ⅳ（中国文学研究現代） 地域社会文化論特殊講義(中国文学研究現代)	担当者	易 友人
講義目的、講義概要		授業計画	
すでに中国語の基礎的な文法や表現などを学んだ学生さんが一歩進んで現代中国文学を楽しむために、授業を進めたいと思います。 内容は、中国人なら誰でも知っている現代名作もありますが、近年最新の人気作家の作品もあります。中国改革開放政策実施以来の、特につい最近中国の変化を反映する作品も含まれています。この授業を通じて学生さんに、近代以来、中国人の各時代の考え方を了解させたいと思います。 授業内容が、実状によって一部変更することもあります。		1、朱自清《背影》 2、曹禺《雷雨》節選 3、巴金《家》節選 4、巴金《春》節選 5、巴金《秋》節選 6、冰心《桜花賛》 7、冰心《桜花和友誼》 8、金庸《射鵬英雄伝》節選 9、六六《蝸居》節選（1） 10、六六《蝸居》節選（2） 11、六六《蝸居》節選（3） 12、石康《奮闘》節選（1） 13、石康《奮闘》節選（2） 14、石康《奮闘》節選（3） 15、総結、復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは初授業時に配布する。 『日中辞典』を用意するように。		評価方法：期末定期試験の結果(70%)によって評価するが、授業における課題レポートなどの実績(30%)も評価対象とする。	

養	韓国研究入門	担当者	金 泰植 (キン テシ)
講義目的、講義概要		授業計画	
本講座は、これから韓国研究をはじめようとする学生たちが、韓国社会に対する幅広い知識を習得することを目的とする。 日本との比較、また日本との関わりについて強調しながら講義を行うことによって、韓国を身近な存在と感じれるようにし、さらに進んで受講者自身が韓国を研究することが持つ意味を考えるようになることを期待する。		1. イントロ 2. 韓国の食文化 3. 韓国の伝統芸能 4. 韓国の中の日本 5. ソウルと東京 6. 韓流の台頭 7. 韓国の大学生活 8. 韓国の兵役 9. ソウル・オリンピック 10. 朝鮮半島とアメリカ 11. 独裁政権と民主化の記憶 12. 朝鮮戦争と南北分断 13. 朝鮮近現代史と日本 14. 日本で韓国研究をする意味 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布する。		出席および課題(50%)、期末レポートまたはテスト(50%)で総合的に判断。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	韓国研究Ⅰ（韓国史） 地域社会文化論特殊講義(韓国史)	担当者	佐藤 厚
講義目的、講義概要		授業計画	
昨今の韓流ブームにより、私たちは韓国に関する情報に触れやすくなりました。しかし残念なことに、韓国の歴史については知らないことが多いと思います。韓国の歴史を知ることが、同時に日本の歴史を知ることでもあり、相互理解にとってとても大切なことです。 このようなわけで、本講義では韓国（朝鮮半島）の通史を講義します。講義の進め方は、プリントを配布し、それに基づいて話をしていきます。 なお知識を定着させるため、授業の最後の15分を小レポート作成に充てます。これも成績評価の対象とするので、テキストを持参の上、きちんと授業を聴くことが必要です。		1. ガイダンス 2. 古代から統一新羅へ（1） 3. 古代から統一新羅へ（2） 4. 高麗時代（1） 5. 高麗時代（2） 6. 朝鮮王朝の成立 7. 社会の変化と実学（1） 8. 社会の変化と実学（2） 9. 列強の侵略と近代化（1） 10. 列強の侵略と近代化（2） 11. 植民地支配下の朝鮮（1） 12. 植民地支配下の朝鮮（2） 13. 解放から南北分断、そして新時代へ（1） 14. 解放から南北分断、そして新時代へ（2） 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは水野俊平著『韓国の歴史』（河出書房新社、2007年、1800円）。参考文献は授業時に指示します。		毎回の小レポート（30%）、期末試験（70%） ※ただし、期末試験が50点未満の場合は単位を与えません。	

養 外言	韓国研究Ⅱ（韓国社会論） 地域社会文化論特殊講義(韓国社会論)	担当者	金 泰植（キン テシ）
講義目的、講義概要		授業計画	
本講座は、映画を通して韓国社会への理解を深めることを目的とする。 序盤に簡単な映画理論と韓国映画史について講義をした上で、韓国現代史の代表的な事件や象徴的な現象をあつかった映画を観賞する。講義で扱う映画の背景などの解説を行い、それぞれの映画の鑑賞後には小レポートの提出を課す。 映画に登場する主題の描かれ方や、その変化を通じて、韓国現代史への理解を深めるのはもちろん、スクリーンに働く文化政治について考察する能力を養う。 ※映画は初回講義時に候補のリストを提示し、学生の意見を取り入れて確定する。ただし、扱う主題については講師が設定する。		1. イントロ：映画と文化政治 2. イントロ：韓国映画史概論 3. 李氏朝鮮時代の暮らしと伝統芸能 4. 李氏朝鮮時代の暮らしと伝統芸能 5. 植民地朝鮮と日本 6. 植民地朝鮮と日本 7. 朝鮮戦争表象の変化 8. 朝鮮戦争表象の変化 9. 朴正熙と開発独裁 10. 朴正熙と開発独裁 11. 光州民主化抗争の記憶 12. 光州民主化抗争の記憶 13. グローバリゼーションと価値観の変化 14. グローバリゼーションと価値観の変化 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回講義時に提示する。		授業の出席と小レポート(50%)、期末レポート(50%)をもって総合的に判断する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	韓国研究Ⅲ（韓国の言語文化） 地域社会文化論特殊講義(韓国の言語文化)	担当者	金 泰植（キン テシ）
講義目的、講義概要		授業計画	
現代韓国社会についての読み物をテキストとし、それを翻訳しながら韓国語独特の言い回しを学び、韓国文化についての理解を深める。 受講者は、韓国語初級までの学習を終えていること。 ※※初回講義には必ず出席すること※※		1～2回 翻訳と文化 3～7回 翻訳の基礎 8～15回 翻訳の実践	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回講義時に提示する。		翻訳課題(50%)と期末レポート(50%)で総合的に判断。	

養 外言	韓国研究各論Ⅱ（韓国社会各論b） 地域社会文化論特殊講義(韓国社会各論b)	担当者	全 載旭
講義目的、講義概要		授業計画	
世界で最も貧しい国の一つであった韓国が、40年ばかりで工業国に変貌し、経済的に成功した。一方、韓国経済の成功は韓国社会に大きな社会変化をもたらしている。この講義は、この40年間にわたる韓国の発展過程において社会はどのように変貌したのか、経済成長と社会変容を担ったのは何か、ということをも明らかにすることを目的とする。 まず経済発展以前の韓国社会の構造を家族、血縁関係を中心に検討する。韓国の経済発展と開発戦略がどのようにもたらされてきたのかを考察する。また経済成長による韓国社会の変化を人口移動、教育の変化、中間層の形成などを中心に検討する。社会発展過程において「財閥」と呼ばれる巨大なビジネス・グループがなぜ、いかに形成されたのかを探る。		1. 韓国の歴史、政治（1） 2. 韓国の歴史、政治（2） 3. 家族の構造 4. 社会の人間関係ネットワーク 5. 経済成長の社会学的考察 6. 経済成長をどう表すか 7. 二重構造モデル（ルイス・モデル） 8. 経済発展と後発性利益 9. 韓国の経済成長（1） 10. 韓国の経済成長（2） 11. 工業化パターンー日本モデル 12. 輸出志向工業化と輸入代替工業化 13. 韓国の財閥 14. 日・韓経済関係 15. 総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
服部民夫（2005）『開発の経済社会学ー韓国の経済発展と社会変容ー』文真堂		出席状況と試験によって評価する。	

養 外言	韓国研究各論Ⅲ（日韓交流史） 地域社会文化論特殊講義(日韓交流史)	担当者	きむ ひいすく 金 熙淑(김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
日本と朝鮮半島の間では、古くからさまざまな面での交流が行われてきており、両地域は政治・経済的にばかりでなく、社会・文化的にも密接な関係にあるといえる。本講座では、古代から近現代に至るまでの両地域間における交流の歴史を概観する。その際、抽象的な議論に終始しないよう、具体的な「出来事」を中心に講義を進めていく予定である。また、その過程における双方への「まなざし」（あるいは相互認識）のあり方やその変化についても焦点を当てていく。		1. ガイダンス 2. 韓国の歴史の流れ 3. 王仁博士と漢文 4. 日本の中の百済文化 5. 高麗時代の社会状況 6. 『三国史記』と『三国遺事』 7. 朝鮮通信史① 8. 朝鮮通信し② 9. 豊臣秀吉と李舜臣 10. 申叔舟と雨森芳洲 11. 安重根と伊藤博文 12. 日韓併合① 13. 日韓併合② 14. 浅川巧と韓国 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
レジュメを配布する。 参考文献：授業時に指示する。		最終レポート及び、感想文、小レポートなどを総合的に評価する。	

養 外言	韓国研究各論Ⅳ（韓国文化各論 a） 地域社会文化論特殊講義(韓国文化各論 a)	担当者	呉 吉煥（オ・ギルハン）
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、韓国の政治・政治史・政治文化を学び、現在の韓国政治に対する理解を深めることが目的である。 授業で対象とする時期は基本的に近現代であるが、近現代の韓国の政治を理解するには前近代における歴史の流れを把握しておく必要がある。そこでまず前近代のことについて、政治史の視点から概観し、それ以後の時期については、政治主体を基準に時期を分け、各時期の重要な政治的出来事を取り上げ、それを中心に韓国の政治について検討してみる。		1 回 ガイダンス、韓国政治の時期区分 2 回 近代以前の政治について 3 回 大韓帝国期 4 回 日本の植民地支配期 5 回 米軍政期 6 回 李承晩政権期① 7 回 李承晩政権期② 8 回 4・19 学生革命と 5・16 軍事クーデタ 9 回 朴正熙政権期① 10 回 朴正熙政権期② 11 回 全斗煥政権期① 12 回 全斗煥政権期② 13 回 盧泰愚・金永三政権期 14 回 金大中・盧武鉉政権期 15 回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に指定しない。毎回プリントを配布して授業を進める。参考文献については、授業中に紹介する。		出席・授業への参加度：50%、期末レポート：50%	

養 外言	韓国研究各論Ⅴ（韓国文化各論 b） 地域社会文化論特殊講義(韓国文化各論 b)	担当者	佐藤 厚
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では韓国の宗教を講義します。韓国と日本は隣国ですが異なる点も多くあります。宗教もその一つで、現在の韓国の宗教分布は、キリスト教と仏教とがほぼ同率になっています。また宗教が社会において持っている意味合いも日本とは異なります。 本講義では、最初に総論として韓国宗教の構造を提示した後、各論として民間信仰、仏教、儒教、キリスト教に分けて講義を行います。 講義の方法はプリントを配布し、それに基づいて話をします。また講義に関連した映像教材もたくさん紹介する予定です。 なお知識を定着させるため、授業の最後の 15 分を小レポート作成に充てます。これも成績評価の対象としますので、きちんと授業を聴く必要があります。		1. ガイダンス 2. 韓国宗教の構造と問題 3. 民間信仰 4. 仏教（1） 5. 仏教（2） 6. 仏教（3） 7. 仏教（4） 8. 儒教（1） 9. 儒教（2） 10. 儒教（3） 11. キリスト教（1） 12. キリスト教（2） 13. キリスト教（3） 14. 現代韓国と宗教 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは無し。プリントを配布して授業を進めます。参考文献は授業で随時紹介する。		毎回の小レポート（30%）、期末試験（70%） ※ただし、期末試験が 50 点未満の場合は単位を与えません。このほか情報点（任意のレポート）は 1 件あたり、期末テストに 2 点プラスします。	

養 外言	韓国研究各論Ⅵ（韓国文化各論 c） 地域社会文化論特殊講義(韓国文化各論 c)	担当者	佐藤 厚
講義目的、講義概要		授業計画	
音楽とは、人間の感性に直結するものであり、それだけ文化の根底に根ざしているものです。本講義では韓国の音楽を講義することにより、韓国文化を理解することを目的とします。音楽といっても幅広いですが、本講義では民謡、伝統音楽といった古典から、トロット（ポップな演歌）、80-90 年代のポップス、そして宗教音楽やアニメなどを取り扱います。（残念ながら、少女時代、2NE1、KARA といった、現代の楽曲は扱いません） 講義方法は、それぞれのジャンルの中の代表的な楽曲を取り上げて鑑賞した後、楽曲の構成や時代背景を解説し、理解を深めます。その後、講師と参加者が一緒に歌います。ここがメインです。これにより韓国文化の一端を直接体得できるでしょう。 そのようなわけで、この講義には、①韓国文化に関心があり、②歌を歌うことが好きな人、の参加を歓迎します。韓国語の知識は、あれば良いですが、韓国語を勉強したことがない人でも一緒に歌えるように配慮します。		1. 講義ガイダンス 2. 民謡（1） 3. 民謡（2） 4. 伝統音楽 5. 愛国歌 6. トロット（1） 7. トロット（2） 8. ポップス（1） 9. ポップス（2） 10. ポップス（3） 11. アニメ 12. 宗教音楽 13. 軍歌 14. 朝鮮民主主義人民共和国の音楽 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは無し。プリントを配布して授業を進めます。参考文献は授業で随時紹介します。		毎回の小レポート（30%）、期末試験（70%） ※参加人数によっては歌を試験に課す可能性もあります。	

		担当者	
		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	韓国研究情報収集法	担当者	きむ ひいすく 金 熙淑(김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
本講座は、実際にどのように韓国研究を行っていくのか、その方法論を理解することを目的とした、演習形式の講義である。韓国研究を行う際の研究課題設定の方法から、資料収集法、現地調査の方法、研究成果のまとめ方、そして研究成果の発表までを、総合的に学んでいく。3－4名のグループをつくり、グループ毎に研究テーマを決めて研究を行い、最終的には研究成果を発表してもらう。履修者にはグループ研究への積極的な取組と発表においても質疑応答の積極的な参加を期待したい。 *韓国語を理解する者に限る。 注意：はじめの授業で演習のグループ分け、発表担当者と担当日を決めるので必ず出席すること。欠席は遠慮し極力1回目の授業から出席すること。		1. ガイダンス 2. 各自発表する方法を選び、発表日程決定 3. ハングルのタイピング練習① 4. ハングルのタイピング練習② 5. ハングルのタイピング練習③ 6. ハングルのタイピング練習④ 7. インタネット検索 8. インタネット検索 9. 調査発表① 10. 調査発表② 11. 調査発表③ 12. 調査発表④ 13. 現地調査発表⑤ 14. 現地調査発表⑥ 15. まとめ 注意：「現地調査」は、授業時間以外にフィールドワークを必須とする。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布する。		主に調査、発表の取組、研究成果の課題レポートで評価する。	

養 外言	韓国特殊研究Ⅱ（日韓比較文化論 b） 比較文化論特殊講義(日韓比較文化論 b)	担当者	きむ ひいすく 金 熙淑(김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
本講座では、韓国と日本の「教育」にテーマを絞って文化比較を行い、その共通点と相違点について理解を深めるとともに、「異文化比較」の具体的な方法を模索し、それを身につけていくことを目的とする。主に「教育政策」、「教育と文化」、「高等教育のあり方」、「教育と人間関係」、「生涯教育と社会」、「教育とジェンダー」などのテーマで日韓両国（両地域）の比較を行っていく予定である。身近なテーマであるため、履修者には積極的な授業参加が期待される。		1. 講義の概要 2. 書堂と寺子屋 3. 三国時代の教育と文化 4. 高麗時代の教育と文化① 5. 高麗時代の教育と文化② 6. 朝鮮時代の教育と文化① 7. 朝鮮時代の教育と文化② 8. 植民地支配の教育政策 9. 植民地支配の国語教育 10. 日韓生涯教育と社会 11. 日韓ジェンダー教育 12. 日韓女性の教育 13. 韓国における日本語教育の歴史 14. 日本における韓国語教育の歴史 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
レジュメを配布する。 参考書：授業時に紹介する。		積極的な授業参加を評価する。 課題レポート：講義内容から一つのテーマを選び、レポートを提出する。	

養 外言	韓国特殊研究Ⅰ（日韓比較文化論 a） 比較文化論特殊講義(日韓比較文化論 a)	担当者	きむ ひいすく 金 熙淑(김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
私達は、異文化を語る際、無意識のうちに、自分の属している社会や文化を念頭において同質性と異質性を語っている。しかしながら、とりわけ韓国の文化を語る際、表面的な同質性にとらわれがちになってしまい、「文化比較」がきちんとは行われない場合が多い。本講座ではこのような点をふまえ、日韓の文化比較を行う際の基本的な事項を学んでいく。具体的には、家族、村落、祭儀、信仰、食文化などに関する日韓比較の理解を目標とし、授業の最後に各自で身近なテーマを決めて「日韓文化比較」を行うことを課題とする。積極的に取り組むことを期待したい。 ●参加型授業による人数制限をする。(50名まで) ◎注意：テーマごとにグループ分けし話し合う場を設け発表する形式を取る。極力1回目の授業から出席すること。		1. 日韓比較文化概説 ガイダンス 2. 韓日の建国神話 3. 韓日の国土構造 4. 韓日の村落 5. 韓日の歳時風俗① 6. 韓日の歳時風俗② 7. 韓日の祭祀風習 8. 韓日の民俗信仰 9. 韓日の家族 10. 韓日の食文化① 11. 韓日の食文化② 12. 韓日の住生活 13. 韓日の服飾 14. 韓日の福祉レジーム 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布する。 参考文献：講義においてその都度紹介する。		授業への積極的な参加。自分のテーマを決め、「日韓文化比較」を行い、レポート提出による評価。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	韓国特殊研究Ⅲ（文献読解）	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
時事韓国語の読解力強化を目的とする。今学期は、毎週、新聞・雑誌や短いエッセイなどを取り上げ、一つの記事を読み通す。日本語と同じ漢字用語が多い時事韓国語の習得とともに、記事の読解力を高め、文化、経済、政治など、韓国社会全般にわたる理解をも深める。中級以上の韓国語の知識が必要である。 エッセイや新聞・雑誌など時事に関する文章を読解する。毎週一つのテーマを読み通すことを目標とし、記事に出てくる特殊表現、専門的用語などをまとめながら、全体の内容を掴む訓練を重ねる。必要な資料は毎週、授業中に配布する。		1-5 韓国の新聞を読む（5回） 6-10 韓国の政治・経済雑誌を読む（5回） 11-15 韓国史の韓国語版を読む（5回）	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要な資料はコピーして配布する。		出席と平常点を重視する。授業中に出される課題の達成度と授業参加の積極性を総合評価する。	

養	日本研究Ⅰ（日本文学古典）	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 日本の古典文学史は、上代(奈良)・中古(平安)・中世(鎌倉・室町)・近世(江戸)の五つの時代に区分される。限られた時間の中でこの全ての時代のテキストを取り扱うことは不可能なので、春学期は奈良時代の文学テキストについて講義する。 講義概要 奈良時代の文学テキストの代表的なものは、古事記・万葉集・風土記である。この中で、興味が持てそうなストーリーを持った、古事記・風土記に載せられている神話伝説を取り扱う。具体的には、古事記のヤマタノヲロチ神話を題材として、上代と現代の人々の自然観の違いについて話をしていきたい。それに際して、同一のテーマを扱った現代の作品として、宮崎駿の「もののけ姫」や「水爆大怪獣ゴジラ」についても扱うことを予定している。		1 神話とは何か① 2 神話とは何か② 3 ヤマタノヲロチ神話を読む① 4 ヤマタノヲロチ神話を読む② 5 ヤマタノヲロチ神話を読む③ 6 日本人遙かな旅を見る① 7 日本人遙かな旅を見る② 8 宮崎駿「もののけ姫」を見る① 9 宮崎駿「もののけ姫」を見る② 10 宮崎駿「もののけ姫」を見る③ 11 宮崎駿「もののけ姫」を見る④ 12 「水爆大怪獣ゴジラ」を見る① 13 「水爆大怪獣ゴジラ」を見る② 14 「水爆大怪獣ゴジラ」を見る③ 15 まとめ 授業時に配布したプリントは、 http://www.geocities.jp/nofukuzawa/ に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト なし 参考文献 授業時に指示する		試験・レポート・出席の総合点によって決める。	

養	日本研究Ⅱ（日本文学現代）	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目標 現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する 講義概要 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。「癒しの現代文学」と題して、癒しやさしさを扱った作品をブックレビューし、その本質に迫る。 受講生への要望 講義で紹介した作品は、できるだけ読破してほしい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しさを伝えて行くことが目的なので、とにかく楽しんでほしい。		第1回 ガイダンス 第2回 ①人間関係からの癒し 第3回 ② 同上 第4回 ③ 同上 重松清「ビタミンF」 浅田次郎「鉄道員」 恩田陸「夜のピクニック」 佐藤多佳子「一瞬の風になれ」 三浦しをん「風が強く吹いている」 ほか 第5回 ①時間からの救い 第6回 ② 同上 第7回 ③ 同上 浅田次郎「地下鉄に乗って」 北村薫「スキップ」「ターン」 佐藤正午「Y」 ほか 第8回 ①笑いの持つ救い 第9回 ② 同上 奥田英朗「インザ・プール」 佐藤多佳子「しゃべれどもしゃべれども」 ほか 第10回①美しい生き方 第11回② 同上 藤沢周平 司馬遼太郎 池波正太郎 ほか 第12回①原作を映像で見る 第13回② 同上 第14回 まとめ①（総集編） 第15回 まとめ②（総集編）	
テキスト、参考文献		評価方法	
		レポート、定期試験等の総合評価	

養 外言	日本研究Ⅲ（日本史 a） 日本近現代史 a	担当者	丸浜 昭
講義目的、講義概要		授業計画	
1945年に終わった戦争は普通には太平洋戦争と呼ばれ、相手はアメリカだったととらえられがちであるが、これを見直す必要がある。対米開戦前に泥沼の日中戦争が続いており、さかのぼれば1931年の満州事変にいきつく。足かけ15年の戦争で、日本が一番長く戦った国は中国である。 中高でのこの戦争の学習では、原爆や空襲などの被害を重点に学ぶことが多いようだが、被害面だけでなく、戦争全体の中での加害面にもしっかり目を向けたい。見るのがつらいところもあるかもしれないが、ビデオをかなり使う。そして、当時の教育や社会の状況、経済との関わりなども含めて、戦争の全体像を考えたい。中国や韓国をはじめアジア諸国との関わりがますます強まる中、この戦争はどういうものだったかの事実はしっかり知っておきたい。 なお、なるべく秋学期とあわせて受講して欲しい。		1 1945年に終わった戦争の相手・呼称をめぐって 2 満州事変から日中戦争へ 3 日中戦争と対米英戦争 4 真珠湾からか、コタバルからか 5 被害の問題①—空襲は何を示すか 6 被害の問題②—原爆投下をどうとらえるか 7 加害の問題①—731部隊とは何か 8 加害の問題②—南京事件をどうとらえるか 9 加害の問題③—三光作戦をめぐって 10 兵士と民衆①—日本軍隊の特徴をみる 11 兵士と民衆②—教育でどう兵士が育てられたか 12 戦時下の社会—天皇制と国家神道・戦争への動員 13 戦争と経済の関わりを考える① 14 戦争と経済の関わりを考える② 15 まとめとして—この戦争の原因をどうとらえるか	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の中で紹介する		定期試験の時間の中で、事前出題による論述の形式で試験を実施する。出席カードによる出席点をいくらか加味する。	

養 外言	日本研究Ⅳ（日本史 b） 日本近現代史 b	担当者	丸浜 昭
講義目的、講義概要		授業計画	
なぜ沖縄には、たくさん米軍基地があるのか…。それはどうつくられ、どう維持されてきたのか。戦後のアメリカとの関わりをふまえて日本と沖縄の歩み学ばなければ、今日の沖縄の問題をとらえることはできない。1945年8月15日に敗戦を迎えた戦争（アジア太平洋戦争・15年戦争）は、戦後60年を越えた今日でもさまざまな課題を残す。占領以来のアメリカとの関係が、講和や賠償問題等をとおしての今日の日本の在り方、また日本人の戦争認識にも大きな影響を与えてきた事実に目を向けたい。 中国や韓国をはじめとするアジアの国々は、この2、30年間で大きく変わってきた。民衆の声がそれぞれの国を動かすようになり、かつては不可能だった民衆同士の交流が大きく進んできた。戦後補償や戦争の認識をめぐる論議が今もおこることを、やっとなんか論議ができるようになったと捉える必要がある。そうしたことをきちんと論議ができる知識をもつ若者でいて欲しい。 なお、なるべく春学期とあわせて受講して欲しい。		1 本土決戦と日本の戦争の終わり方 2 沖縄戦が私たちに投げかけたこと 3 日本国憲法はどう生まれたか 4 東京裁判をめぐって 5 サンフランシスコ講和のもった問題 6 ドイツの「過去の克服」をみる 7 日本の国内での補償をめぐって 8 日本のアジアへの補償をめぐって 9 日韓条約はなぜ1965年に結ばれたか 10 日中国交回復を考える 11 沖縄の復帰が「日本」に問いかけていること 12 アジアの民衆からの戦後補償要求 13 「731部隊展」の取り組みが意味したこと 14 戦後50年の国会決議をめぐって 15 戦争の歴史から私たちは何を学ぶか	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の中で紹介する		定期試験の時間の中で、事前出題による論述の形式で試験を実施する。出席カードによる出席点をいくらか加味する。	

養 外言	日本研究Ⅴ（日本経済論 a） 日本経済論 a	担当者	波形 昭一
講義目的、講義概要		授業計画	
現在の日本経済を理解するには、その生い立ちを知っておくことが重要である。とりわけ戦後経済復興期と高度経済成長期についての知識が不可欠である。そのため「日本経済論 a」では、戦後復興期から高度成長期への日本経済の展開過程を中心に講義する。 なお、本講義は内容上、春期・秋期を通して聴講するのが望ましい。都合により授業計画を若干変更する場合もある。		1. はじめに 2. 戦後民主化政策と経済改革 3. 戦後経済復興対策 4. ドッジ・ラインとシャープ勧告 5. 朝鮮戦争と日本経済 6. 高度成長時代の到来とその時期区分 7. 高度成長の構造(1) 8. 高度成長の構造(2) 9. 高度成長の結果 10. 戦時経済と戦後高度成長の関係 11. 高度成長の精神的土台 12. 高度成長の終焉(1) ドル・ショック 13. 高度成長の終焉(2) オイル・ショック 14. 日本経済の構造転換 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の度毎に統計表などのプリントを配布して講義を進める。参考文献としては竹内宏『昭和経済史』（筑摩書房、1988 年）がおすすめ。		学期末試験の結果（通年講義は春期・秋期の合計）のみで評価する。相対評価方法を採用。	

養 外言	日本研究Ⅵ（日本経済論 b） 日本経済論 b	担当者	波形 昭一
講義目的、講義概要		授業計画	
1970 年代後半から日本経済をめぐる内外の諸環境は大きく変化し、その結果として現在の日本経済がある。したがって「日本経済論 b」では、春学期の講義をふまえて、70 年代後半からの日本経済の構造変化、その結果としてのバブル経済と「失われた 10 年」について論述し、そのうえで近年たまたかわされた日本経済再建論議の当否、小泉内閣の構造改革の位置づけ、さらにサブプライム問題および世界同時大不況下の日本経済を検討したい。 なお、本講義は内容上、春期・秋期を通して聴講するのが望ましい。都合により授業計画を若干変更する場合もある。		1. はじめに 2. スタグフレーションとその原因 3. レーガノミクスとアメリカ経済 4. プラザ合意後の経済変化 5. バブル経済の発生とその原因 6. バブル経済の崩壊 7. 平成不況の特徴 ―複合不況― 8. 金融自由化と日本版ビッグ・バン 9. 「失われた 10 年」 10. 景気対策か構造改革か(1) 11. 景気対策か構造改革か(2) 12. 小泉内閣の構造改革を問う 13. サブプライム・ローンとリーマン・ショック 14. 世界同時大不況下の日本経済 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春期と同じ。なお、参考文献としては、春期の竹内宏著に加えて三橋規宏ほか『ゼミナール日本経済入門』（日本経済新聞出版社、各年改訂版）がおすすめ。		春期と同じ。	

養 外言	日本研究Ⅶ（日本文化論） 日本文化論 a	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
日本は世間一般がぼんやりと信じているような単一民族国家でもないし単一言語国家でもない。当然そこに見られる「文化」も決して単純で直線的な、いわば教科書記述的な歴史を持っているわけではない。そしてそれは日本に限ったあり方でもない。 文化とは、「ある特定の人間集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたもの」の総体を指す。決して優れた美術作品や代表的な建築のみを言うのではない。 「日本」が含む諸地域の持つ文化的特徴を「歴史的複合重層性」ととらえ、周辺諸地域（朝鮮半島・ユーラシア大陸・南島諸地域）との文化交流によって複合し、新たな形態を産み出していく文化のあり方と、ある時代に盛期を迎えた典型的な文化的特徴が積み重なり、時代を超えて重層化するあり方が現在の文化を形作っているという立場から、海外との交流、国内交流、文字表記、振る舞い、季節感、信仰、文芸、美術・建築、芸能、思想、東西・都鄙観などの諸分野を概観し、具体例を示して講義していく。		1 オリエンテーション・導入 2 文化と文明…政治と現実 3 日本文化の歴史的複合重層性…特殊な回帰性 4 日本は閉鎖的な国か？ 5 「日本」はいつから「日本」か？ 6 季節感…「四季」の嘘と作られた感受性 7 文字の輸入…漢字・片仮名・平仮名 8 ものの行き来、人の行き来 9 日本人の振る舞い…正直・清潔・契約 10 律令の輸入…「天皇」と「国家」 11 「鎖国」…開かれていた国「日本」 12 明治維新の文化史的意味付け…「和魂洋才」 13 「日本人」の暮らしと死生観 14 まとめ 1 15 まとめ 2	
テキスト、参考文献		評価方法	
【参考文献】日本史年表と国語便覧（大学受験程度の内容、どこの出版社のものでも可、できれば図版を多く載せるもの、世界史との対照ができるもの）		学期末試験（論述式）の成績による。	

養 外言	日本研究各論Ⅰ（民俗芸能） 日本文化・芸能論 b	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
「ある特定の人間集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたもの」の総体を「文化」と言う。決して優れた美術作品や代表的な建築のみを言うのではない。無意識の行動である日常の振る舞いや、暗黙の了解の裡に存在する価値観もすべて「文化」である。その中でも民俗芸能は、民衆生活との結びつきの深さという点からは特徴的な「文化」である。 日本の民俗芸能は世界にもまれに見る濃厚さで民衆生活と結びついてまだ残存している。いわゆる先進国に属する国としては唯一と言って良い。 そこにはっきりと呈示されている、日本の文化の基盤を形成する「見えないもの」との対峙の仕方を、年中行事・信仰・地域社会・儀礼等との関わり方から分析し、講義していく。「神の来訪」「異人の出現」「稲作の習俗と芸能」「年齢階梯」という観点から東西日本の様々な民俗芸能を取り上げ、フィールドワークにもとづく映像資料を用いて視点を呈示し、概念と「表現」や「型」、「振り（演出）」の実際がどう機能しているかに留意する。		1 オリエンテーション・導入 2 日本文化の複合重層性と「見えないもの」 3 神の来訪と芸能①…春日若宮のおん祭 4 神の出現と芸能②…八重山の祭と芸能Ⅰ 5 異人の出現と芸能①…八重山の祭と芸能Ⅱ 6 異人の出現と芸能②…岩手県の鹿踊・剣舞 7 稲作の習俗と芸能①…中国地方の花田植 8 稲作の習俗と芸能②…東北の田植踊りⅠ 9 稲作の習俗と芸能③…東北の田植踊りⅡ 10 稲作の習俗と芸能④…能登のアエノコト 11 年齢階梯と芸能①…福島県の成人儀礼「幡祭」 12 年齢階梯と芸能②…兵庫県の宮座Ⅰ 13 年齢階梯と芸能③…兵庫県の宮座Ⅱ 14 まとめ 1 15 まとめ 2	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特になし。 【参考文献】『日本の伝統芸能』錦正社、（税込 3,500 円）ISBN4-7646-0109-5		数回実施する小レポート、学期末試験もしくはレポートの成績	

養 外言	日本研究各論Ⅱ（企業経営） 日本研究特殊講義(企業経営)	担当者	黒川 文子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、我国企業の経営の特質について、グローバルな視点から考察することが目標である。グローバルな日本企業を数社取り上げて、先進国、発展途上国を問わず、如何に市場に参入し、成功を収めているかについて考察する。その上で、日本企業の企業経営における競争優位性について理解を深めていく。 日本企業がグローバル企業として世界に認められるには、その条件がある。日本国内だけに目を向けた経営は、やがて世界から排除されるだけでなく、市場からの消滅の恐れもある。したがって、限定された地域、人々を対象とするのではなく、開放的な経営をすることが、肝要となる。未成熟な経営段階からグローバル企業として認知されてきている我国企業の経営について、具体例を取り上げながら講義する。		1. 現代企業の諸形態 2. 株式会社の発展と企業支配 3. 日本の会社機関とコーポレート・ガバナンス 4. 現代企業の社会的責任 5. 現代企業の環境経営 6. 現代企業の経営戦略 7. 人間関係論からモチベーション論へ 8. 経営組織の基本形態 9. 経営組織の発展形態 10. 製造業の国際競争力と生産管理 11. 経営のグローバル化と多国籍企業 12. 現代企業における IT 戦略 13. 日本型企业システムの変容 14. 自動車産業の経営戦略 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
黒川文子『21 世紀の自動車産業戦略』(税務経理協会、2008 年)		期末試験と出席によって、総合的に評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	日本特殊研究Ⅰ（民俗学） 日本研究特殊講義(民俗学)	担当者	林 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
民俗学とは、我々の現在の生活や価値観・心意がどのように成り立ってきたのか追究する学問である。我々の生活や価値観は今突然に始まったものではなく、先祖から継承されてきたものが基盤になっている。だからといって過去の問題を過去のものとして研究するものではなく、それが現在とどのように関わり、未来へ繋がっていくのかという問題まで見据える学問であり、それが我々の「存在」、つまり「生きる意味」を問うことになる。自己確認は他者確認へとつながっていく。グローバル化が進んでいる現在、まず自己を見つめることが大事ではないかということ念頭に置きつつ、授業を展開していきたい。 本講義では、まず民俗学という学問がどのような研究をするものであるのか、どのように成立したのか、その背景を探り、具体的問題を通して、伝統的社会、現代社会の様相を明らかにしていきたい。		1 講義の概要 2 民俗学の研究対象 3 国学から民俗学へ（民俗学の成立） 4 民俗学の研究と方法 5 祭り1（ビデオと解説） 6 祭り2（ビデオと解説） 7 異界の問題1（妖怪・幽霊とは何か） 8 異界の問題2（『東海道四谷怪談』にみる日本の幽霊） 9 異界の問題3（妖怪・幽霊・神の関係） 10 異界の問題4（異界はどこにあるのか） 11 年中行事1（とくに正月をめぐる） 12 年中行事2（とくに盆をめぐる） 13 人の一生（人生儀礼） 14 日本人の死生観（葬送儀礼からみる） 15 本講座のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはなし 参考文献に関しては授業時にプリントを配布		試験による。ただし欠席回数が4回を超えた者については評価対象とはしない。また出席票配布後に入室してきた者については遅刻扱いとし、遅刻2回で欠席1回とする。	

養 外言	日本研究各論Ⅲ（地域文化） 日本研究特殊講義(地域文化)	担当者	林 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
昨年、NHKが「無縁社会」という言葉を作り、その実態や問題点、そして今後の在り方についての論議が何度か放映された。それは少なくとも江戸時代以降に形成された地縁的共同体の崩壊がもたらしたものであることができる。 地域文化はこの地縁性を基盤として成立した文化であり、地縁性の崩壊は文化の崩壊をも意味することになる。「地域」の形成、システムそのものが文化として捉えることができる。そこで本講義ではまず「地域」とはどのようなものであり、どのように機能し、また認識されてきたか捉え、「地域」の中で醸成されてきた文化を主に祭りを通して、地域との関連づけてみていく。さらに、地域崩壊の一因である人口流動が文化に及ぼした影響や、新しい文化の萌芽についてみていく。 「無縁社会」に向かっていく中、地域を基盤とした文化はどのようになっていくのだろうか。また今後我々はどうに対処していけばよいのだろうか。このようなことを考える礎となればと思う。		1 講義の概要 2 地名の成り立ちと地域差の問題 3 地域形成と生活構造 4 地域の働き（ビデオと解説） 5 地域認識の問題（地名と地域の関係） 6 地域文化とは何か 7 地域の重層的構成 8 祭祀組織における重層的地域の働き 9 伝統的祭りの方向性 1（過疎地域の問題、具体例を通して） 10 伝統的祭りの方向性 2（都市地域の問題、具体例を通して） 11 地域文化の方向性と伝播の問題 12 地域文化とフォークロリズムの問題 13 地域文化と新興の祭り（よさこい祭りなどの新興の祭りと地域文化。ビデオと解説） 14 ボーダレス社会と地域文化（現在にとって地域文化とは何か） 15 本講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはなし 参考文献に関しては授業時にプリントを配布		試験による。ただし欠席回数が4回を超えた者については評価対象とはしない。また出席票配布後に入室してきた者については遅刻扱いとし、遅刻2回で欠席1回とする。	

養 外言	日本研究各論Ⅳ（古典芸能） 日本文化・芸能論 a	担当者	未定
講義目的、講義概要		授業計画	
日本における古典芸能はそれぞれの時代に展開し、幅広く深い。それらは、人々の感情や世界観に基づいて形成されたものであり、逆に、身体・声技等と一体となって人々の感情や世界観を形成してきたと言い換えてもよいだろう。 そうでありながら、私たち日本人はそれらに無自覚に接していたり、あるいはそれらをまったく知らずに過ごして来たかもしれない。この講義では、日本独自に成立完成した芸能に触れるとともに、それらを展開してきた原理について考察を深めたい。 本講義では、古事記の神話に古代人の死生観を読み解くところから始めて、平安朝末期に都ではやった流行歌「今様」のテーマがどのように能・狂言として形成されたか、そして歌舞伎はそれらをどう展開したのか、さらに現代のアニメにいたる作品を取り上げる。（テープ、ビデオ鑑賞を含む） なお、4～7月に能・狂言・歌舞伎の実際の鑑賞（参加費各回 1500～2000 円）を行う。		1 オリエンテーション…古典と芸能 2 古代の芸能…死者の国への訪問と帰還 3 演劇の方法（能の時間と空間）…現在能と夢幻能 4 演劇の方法…（狂言の「笑い」の原点） 5 今様の語り歌…歩き巫女の一生 6 今様の語り歌…告発「自分は何者なのか」 鵜飼は嘆く 7 伝承の変遷…表現の変遷・能「鵜飼」（夢幻能） 8 説話を読む…道成寺伝承の主題（変身） 9 説話を読む…道成寺伝承の話型（禁室型） 10 絵画と伝承の関連を読み解く…語り部の視線 11 変貌する芸能…能「道成寺」鐘入りを聴く 12 変貌する芸能…歌舞伎「道成寺」物のビデオ鑑賞 13 アニメ「風の谷のナウシカ」の伝承の実現の原理… 14 まとめ 1 15 まとめ 2	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト…その都度プリントを配布する。 参考文献…その都度指示する		数回実施する小レポート、学期末レポートの成績	

養 外言	日本特殊研究Ⅱ（文献読解） 日本研究特殊講義(文献読解)	担当者	未定
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では『梁塵秘抄口伝集（りょうじんひしょうくでんしゅう）』を中心に、他文献と併せて読む。 日本には平安時代、遊女（あそび）や傀儡子（くぐつ）と呼ばれる民がいた。戸籍には載らない流浪の一族で、女子は売色のほか今様歌謡の唱歌をもって生業（なりわい）としていた。その実態は容易に知れない。 しかし、『梁塵秘抄口伝集』は、今様に耽溺した後白河院によって編集されたので、交流した傀儡女のありさまを口吻までも写しとって生き生きと記す稀代の書である。声技をもって生きた放浪の民とそれに魅せられた帝王との交流を、系図・地図・絵画（復元の今様音声）等によって浮き彫りにしたい。 『梁塵秘抄口伝集』は影印本コピーを用い、あわせて校訂本文・現代語訳（ともにテキスト所収）を用いて読む。		1 オリエンテーション 2 概説（日本中世の概念・後白河院・流行歌今様・都市京都） 3 『梁塵秘抄口伝集』を読む…書名の由来 4 『梁塵秘抄口伝集』を読む…今様の歌声の文獻 5 『梁塵秘抄口伝集』を読む…少年後白河院、今様に耽溺する 6 『梁塵秘抄口伝集』を読む…傀儡女乙前との出会い 7 『遊女記（ゆうじょき）』を読む 8 『傀儡子記（かいらいしき）』を読む 9 『新猿楽記（しんざるがくき）』を読む 10 『梁塵秘抄口伝集』を読む…傀儡女の今様正統争い 11 『今様の濫觴』を読む…秘曲「足柄」の相承系図 12 『梁塵秘抄口伝集』を読む…神の感応（夢語り） 13 『梁塵秘抄口伝集』を読む…「声技の悲しき」 14 まとめ 1 15 まとめ 2	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト『1 梁塵秘抄口伝集』全訳注、（講談社学術文庫 1,250 円）、影印はその都度コピーして配布。 参考文献はその都度指示する。		数回実施する小レポート、学期末レポートの成績	

養 外言	日本特殊研究Ⅲ（写本を読む） 日本研究特殊講義(写本を読む)	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
日本には、いわゆる古典文献以外にも、近代になっても多量に残された生活に関わる文書等、筆墨で記された文献（版本を含む）が無数に存在している。それらは貴重な文化遺産なのだが、それらを読み解くものがいなければただの紙屑でしかない。この授業はそれらを読み解くために必要な基本的技能（連綿体・変体仮名・書類上の日本漢文を読み解く力）を、写本類を読むことで養う。 具体的には、変体仮名を読む訓練を徹底的にした後、近世期に記された文芸（物語・和歌類）・地方文書・実用書（版本）等の各ジャンルから様々な様態を示すもののうち、典型的な例を影印で示して読解の指導と作業を行う。 さらに、基礎力を養った後に架蔵の写本類から比較的分量の少ないものを影印で与えて翻刻を課する。余裕のあるものには毛筆での書写も課する。 <u>全体としては手を動かし、頭を動かす実習型の授業である。課題が多いので心して参加せられたい。</u>		1 オリエンテーション・導入 2 概説（日本の筆写・筆記の歴史、変体仮名） 3 変体仮名演習① 4 変体仮名演習② 5 変体仮名演習③ 6 変体仮名演習④ 7 和歌を読む① 8 和歌を読む② 9 物語を読む① 10 物語を読む② 11 文書を読む① 12 文書を読む② 13 文書を読む③ 14 まとめ① 15 まとめ②	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト…プリントして配布 参考文献（必携）… 『字典かな』 定価:本体 380 円(税別) ISBN4-305-00000-8		数回の提出物、および学期末試験の成績による。	

養 外言	日本特殊研究Ⅳ（碑文を読む） 日本研究特殊講義(碑文を読む)	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
現代の日常生活の周辺にも気づかぬまま存在している石碑類（道標・墓誌・歌碑・句碑・記念碑・供養碑等）を読み解くために必要な基本的技能（連綿体・変体仮名・日本漢文・梵字等の読解力）を養い、解釈と理解の道筋を示して身近に存在する文化的歴史的遺産に対する意識を高めるのが目的の講義である。 具体的には各分野の碑文のうち、典型的な例を写真などで示して読解の基本の指導と作業を行って基礎力を養った後に、学生各自が碑文の採集と解釈を行い、教室で報告することを課する。 変体仮名の初歩等から教えることはしないので、日本特殊研究Ⅲ（写本を読む）をすでに履修したもの、もしくは変体仮名を読めることが履修の最低条件である。その上で漢文・梵字などを読まなくてはならないので、勉強しなくてはならないことは山ほどある。 <u>全体としては手を動かし、頭を動かす実習型の授業である。課題が多いので心して参加せられたい。</u>		1 オリエンテーション・導入 2 概説（石碑の種類・刻まれた文字達） 3 日本漢文体の読解、梵字の読解 4 道標・講中碑を読む 5 墓碑銘・供養碑を読む 6 記念碑・文学碑を読む 7 学生諸君の報告① 8 学生諸君の報告② 9 学生諸君の報告③ 10 学生諸君の報告④ 11 学生諸君の報告⑤ 12 学生諸君の報告⑥ 13 学生諸君の報告⑦ 14 まとめ① 15 まとめ②	
		評価方法	
テキスト・参考文献…プリントして配布		碑文の採集・調査報告を提出してもらい、その内容による。	

養	多言語間交流研究Ⅲ(英語学 a)	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
英語学の基礎的諸領域の広範な理解を目標とする。扱う領域としては発音・音声学・形態論・統語論・意味論・語用論・談話論などがある。随時、日本語との対照学習を取り入れ、外国語としての英語学習が容易になるよう試みる。それぞれのテーマについて理論的研究を紹介した後、実際に当該項目が習得されるよう練習課題を行う。授業内外における練習課題の遂行と学習記録の継続が求められる。2012 年度は休講の予定。 参考文献 高橋作太郎、『英語教師の文法研究』(大修館書店, 1983; ISBN: 4469141526) 高橋作太郎、『統・英語教師の文法研究』(大修館書店, 1985; ISBN: 4469141542) 橋内武、『ディスコース：談話の織りなす世界』(くろしお出版, 1999; ISBN: 4-87424-172-7) M. A. K. Halliday & R. Hasan, <i>Cohesion in English</i> (Longman, 1976; ISBN: 978-0582550414) http://home.eserver.org/danzico/Discourse/hallidaysummary.html 高橋作太郎、『英語の演習 第2巻：文法』(大修館書店) 朝尾幸次郎、『英語の演習 第3巻：語彙・表現』(大修館書店) 西光義弘他、『日英語対照による英語学概論』(くろしお出版, 1999; ISBN: 4874241697) 竹林滋・桜井雅人、『英語の演習 第1巻：音韻・形態』(大修館書店)		1. 英語の文法理論(6 章) 2. 音声学 (1)(7 章) 3. 音声学 (2)(7 章) 4. 音韻論 (1)(8 章) 5. 音韻論 (2)(8 章) 6. 強勢・イントネーション(8 章) 7. 形態論・語形成(9 章) 8. 統語論 (1)(10 章) 9. 統語論 (2)(10 章) 10. 統語論 (3)(10 章) 11. 意味論・語用論 (1)(11 章) 12. 意味論・語用論 (2)(11 章) 13. 談話分析 (1) 14. 談話分析 (2) 15. コーパス言語学	
テキスト、参考文献		評価方法	
石黒昭博他、『現代英語学要説』(南雲堂, 1987; ISBN: 4-523-30047-X)		定期試験 x 出席率 + 平常授業における課題	

養	多言語間交流研究Ⅳ(英語学 b)	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
前半は英語の歴史の概観を通して、英語世界がいかに成立し、どのような言語・文化を発達させてきたかを学ぶ。視聴覚資料を補助的に用い、学習を支援する。また、英語史に関連する観光スポットを随時紹介する。 後半は英語を特徴づけ、他の言語と区別するいくつかの側面を取り上げ、現代社会における英語の位置づけを学ぶ。 参考資料の事前読了および講義支援システムの参照が求められる。2012 年度は休講の予定。 参考文献 David Crystal, <i>The Cambridge Encyclopedia of the English Language</i>, 2nd ed. (Cambridge University Press, 2003; ISBN: 0 521 82348 X / 0 521 53033 4) David Graddol, Dick Leith, & Joan Swann, <i>English: History, Diversity and Change</i> (Routledge, 1996; ISBN: 0 415 13118 9 / 0 415 13117 0) R. McCrum, W. Cran, & R. MacNeil, <i>The Story of English: Special Complete Edition</i> (マクミランランゲージハウス, 1989; ISBN: 4895850242) 石黒昭博他、『現代英語学要説』(南雲堂, 1987; ISBN: 4-523-30047-X) 宇賀治正明、『英語史』(開拓社, 2000; ISBN: 4 7589 0218 6)		1. 英語の概要:ヨーロッパと世界の言語分布 2. 英語以前 (1):印欧語族の成立 3. 英語以前 (2):ゲルマン語族の成立 4. 英語の夜明け:古英語とその社会 5. 英語の変動期:ヴァイキングおよび政治的変動 6. 英語の夜明け:中世とは?そしてその英語 7. 英語の充実:初期近代英語とイギリス社会の発展 8. 英語の黄金期:近代英語とヴィクトリア朝文化 9. 英語の多様性:イギリスの英語から世界の英語へ(地理的変異) 10. 英語の現状:アメリカ英語・第3世界の英語・コックニー 11. 英語使用の現状 (1):公用語・第2言語・英語学習・辞書 12. 英語使用の現状 (2):社会・文化と英語使用 13. 英語の特徴(語彙・語源):本来語・借入語・外来語・固有名詞・スラング、(発音と綴り):大母音推移・発音・文字・正書法 14. 英語の特徴(文法):語順・修飾・統御、(談話構造):パラグラフ構造・新旧情報・含意・スキーマとスクリプト 15. 英語の特徴(社会的変異):社会階層・レジスター・ジャンル	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時プリントを配布する。		定期試験 x 出席率 + 平常授業における課題	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	多言語間交流研究Ⅴ（英語圏の文学）	担当者	松山 響子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目標 通常「文学」から連想される言葉は何であろうか？「古臭くて、長くて、面白くない。」「読書感想文のために、いやいや読んだもの。」という人も少なくないのでは？「文学」というジャンルは該当する言語を使用する人間の考え方、知識、宗教的・歴史的背景を、最も洗練された形で記録している媒体で、文化の中核をなす存在である。そして文学史で言及される作品は時間という読者が選んだベストセラーリストでもある。この講義では、そのベストセラーリストを通して、「英語圏」の人々の文化背景に少し触れていきたい。 この授業で扱う内容は今すぐ役に立つ知識ではないが、人生を豊かにし、皆さん自身が人生の節目節目で読み返す、一生の友となる作品と出会う機会を作り出せば幸いである。 講義概要 「英語圏」に該当する国は、イギリス、アメリカ合衆国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、シンガポール、インドなど数多くある。そして各国の「文学」を取り上げるとなると、秋学期の授業だけでは足りない。従って、この授業では最も歴史が長く、様々な英語圏の文学に影響を与えた「イギリス文学」を中心に、他の地域の文学も合わせて取り上げていく。なにより、英語という言語を使っている歴史が最も長いのは疑いもなくイギリスである。 受講生への要望 Carpe diem 図書館やWeb を利用しての資料探しや、本を読む時間を十二分に楽しんでください。		第1週：オリエンテーション・古期から中世へ 第2週：ルネッサンスが花ひらく 第3週：演劇時代の到来 第4週：そしてシェイクスピアの登場 第5週：時代は清教徒革命に向かう 第6週：清教徒革命の後 第7週：18世紀の散文、詩、そして劇 第8週：小説時代の到来 第9週：ロマン主義の光と影 第10週：ヴィクトリア朝の詩 第11週：ヴィクトリア朝の散文 第12週：ヴィクトリア朝の小説 第13週：20世紀の詩 第14週：20世紀の劇 第15週：20世紀の小説 授業によっては、スケジュールどおり進まないこともあるかもしれませんが、この点を承知しておいてください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト 川崎寿彦著『イギリス文学史入門』（研究社、1986年） 参考文献 河野 哲也『レポート・論文の書き方入門』（慶應義塾大学出版会、2002年）		期末定期試験(60%) 課題レポート(20%) 出席(20%) (2/3以上の出席がないと単位を認定しません。)	

養	多言語間交流研究各論Ⅰ（応用言語学）	担当者	臼井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
応用言語学は言語、言語習得そして言語運用に関する理論を応用し、言語に関わるあらゆる問題の解決策を模索する学問である（言語学の基礎・応用の応用ではなく、応用言語学という分野である）。本講義では、応用言語学にはどのような領域があるか、そしてそれぞれの領域が外国語教育に何を示唆するかを学ぶ。 言語習得、外国語教育、言語と社会、言語研究の4領域を中心に進めていく。各領域においてどのような研究がなされ、外国語教育に何を示唆しているかを中心にみていく。 出席を前提とする。 また、課題をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。		第1週：概論 第2～3週：言語習得 －言語習得 －言語維持 －言語喪失 第4～6週：言語と社会 －バイリンガリズム・マルチリンガリズム（個人・社会） －マイノリティ言語 第7週：言語と脳 第8～12週：外国語教育 －Second language vs. Foreign language －教室における第2言語習得（指導法） －言語政策（公用語化、小学校英語、教育方法など） 第13～15週：言語研究	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回目の講義で発表します。 配布資料等有り。		レポート(40%)、期末テスト（60%）	

養	多言語間交流研究各論Ⅱ（第二言語習得）	担当者	臼井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、第二言語習得がいかにダイナミックなものであるかということを様々な理論をもとに考える。また、この分野における専門用語を日英の両言語で認識し、これらの理論をどのように言語教育に応用していくかを考える。 多言語間交流研究各論Ⅰ（応用言語学）を履修していることが望ましい。 出席を前提とする。 また、課題をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。		第1週：概論 第2～7週：SLA理論・仮説 －普遍文法 －モニターモデル －認知プロセス －インプット・アウトプット・インターアクション仮説他 第8～13週：学習者要因 －年齢 －動機・態度(諸理論) －学習ストラテジー・学習スタイル －適正 －不安 －多重知能理論など 第14・15週：発表および総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回目の講義で発表します。 配布資料等有り。		レポート（40%）、期末テスト（60%）	

養	多言語間交流研究各論Ⅲ（英語圏の小説 a）	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：次の三点を焦点に、world literature を視野におきながら英語圏の小説について考えます。 1. 小説というメディアが、異なる時代、異なる文化のなかでどのように産出され、受容されてきたか。 2. 英語圏拡大の歴史とポストコロニアルの文学地図。（言語についても考察します） 3. 歴史と世界のひろがりのなかで、テキスト同士が、あるいはテキストと現実とがいかに響きあっているか。 講義概要：小説という表現媒体が確立しはじめた17世紀末、18世紀はじめてから現代まで、ほぼ時間軸にそって講義を進めますが、必要に応じて時代を行きつ戻りつすることがあります。講義で使用するテキストは、事前に配布しますので、必ずあらかじめ読んでおいてください。 注意事項：TOEIC600 点程度かそれ以上の英語力を前提としています。		1. 奇なるもの、小説？（1） 2. 奇なるもの、小説？（2） 3. 英語圏の拡大（1） 4. English Bestsellers of all time（1） 5. English Bestsellers of all time（2） 6. 英語圏の拡大（2） 7. 国民文学と政治的無意識 8. 小説の新たな挑戦（1） 9. 小説の新たな挑戦（2） 10. 語り返す言葉たちの登場、ポストコロニアルの文学地図（1） 11. ポストコロニアルの文学地図（2） 12. ポストコロニアルの文学地図（3） 13. ポストコロニアルの文学地図（4） 14. テキストの思わぬ旅路（1） 15. テキストの思わぬ旅路（2）＋ 英語文学の現在。	
テキスト、参考文献		評価方法	
ハンドアウトを使用します。参考文献については、授業内で紹介します。		出席 30% 定期試験 70%	

養	多言語間交流研究各論Ⅳ（英語圏の小説 b）	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 アメリカ小説の特徴・概略を知り、「主要な」作家たちの作品にできるだけ直接触れる（小説、短編小説などの抜粋を実際に読んでもらう）ことで学生諸君にアメリカ小説の魅力を発見してもらい、小説を通じてアメリカの文化を考える。 講義概要 まず、アメリカ小説の歴史、概略を解説し、その後、リアリズム小説、モダニズム小説、現代の多文化共生を意識した黒人作家・ユダヤ系作家などの代表的な小説を取り上げ、鑑賞、解説を試みる。配布された作品(抜粋)の理解を深めることに重点を置く。 講義形式が主であるが、希望があれば、学生諸君による作家や作品に関するプレゼン形式も採り入れる予定。 なお、昨年度単位取得者の履修は許可しません。		1：アメリカ小説の概略（歴史・文化・社会） 2：アメリカ小説の創生期 3：アメリカン・ルネッサンス 4：リアリズム小説 1（第一世代と第二世代のリアリズム作家たち） 5：リアリズム小説 2（Mark Twain と <i>The Adventures of Huckleberry Finn</i>） 6：リアリズム小説 3（Naturalism） 7：モダニズム小説 1（アメリカ小説のモダニストたち） 8：モダニズム小説 2（William Faulkner と "That Evening Sun"） 9：モダニズム小説 3（"That Evening Sun"） 10：モダニズム小説 4（William Faulkner と <i>The Sound and the Fury</i>） 11：多文化主義小説 1（多文化主義とアメリカ小説） 12：多文化主義小説 2（黒人作家とユダヤ系作家） 13：多文化主義小説 3（Bernard Malamud と "The First Seven Years"） 14：多文化主義小説 4（"The First Seven Years"） 15：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：プリントを使用 参考書：随時、授業にて紹介する		定期試験とメールによる作品理解のための複数回のミニレポート。定期試験を重視する。	

養	多言語間交流研究各論Ⅴ（英語圏の詩 a）	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目標】 「アメリカ詩史」をたどる。 山登りをするとしよう。いくつかルートはある。もちろん、各々のルートによって、見える眺望は異なる。同じことは歴史にも言える。歴史とは作られるものだ。移民の国であるアメリカ合州国の詩の歴史も、元々住んでいた人のものからはじめるか、それとも移民のものからはじめるか、それで大きな眺望の違いが見られるだろう。 この授業は、後者の立場からはじめた「アメリカ詩史」をたどる。 【講義概要】 「アメリカ詩史」をどこから始めるか、これは大問題だ。 「アメリカ文学概論」などで耳にしたであろう Anne Bradstreet から始めるか？ この授業では、Native American（いわゆるインディアン）の口承詩から始める。 そして、着地点は、獨協に2度も来てポエトリー・リーディングをした、ピューリッツァー賞、ボリンゲン賞受賞の大詩人、Gary Snyder だ。さて、ネイティヴ・アメリカンの詩と、Snyder の詩、その間になにがあったのか、それが重要だ。なぜ、Snyder と Native American の詩がつながるのか、そのあいだに、どのような詩が書かれてきたのか、それを考察する。もちろん、すべてを扱うことはできないので、代表的な詩人の作品を精読する。詩は、れっきとした言語芸術だ。「さくら、さくら、今、咲き誇る」といった表現に感動するのは、誰かが言ってから、日本文化の常套となったものを、再確認して安心しているだけだ。この授業では、太古、そして19世紀、20世紀の「前衛」、つまり、だれも言ったことのなかった表現をした詩人たちの言語表現を、現在まで、大まかにたどる。 【受講者への要望】 授業へは予習をして、なおかつ、頭をカラにしておくこと。受講生にはときおり、質問をする。7, 80 人のまえでも、はっきりと自分の考えを、恥ずかしがらずに言えるようにすること。		授業へは予習をして、なおかつ、頭をカラにしておくこと。受講生にはときおり、質問をする。7, 80 人のまえでも、はっきりと自分の考えを、恥ずかしがらずに言えるようにすること。 第1回：Introduction 第2回：Native American の詩 第3回：Walt Whitman, “Poets to Come!,” “I Hear America Singing” など 第4回：Emily Dickinson, “Because I could not stop for Death,” “I taste a liquor never brewed” など 第5回：Robert Frost, “Stopping by Woods on a Snowy Evening,” “After Apple-Picking” など 第6回：Ezra Pound, Imagism 期の短詩,” Hugh Selwyn Mauberley I” など 第7回：Ezra Pound の The Cantos のいくつか 第8回：William Carlos Williams, “The Red Wheelbarrow,” “Nantucket,” “Poem” などの初期の短詩 第9回：Wallace Stevens, “The Snow Man,” “Thirteen Ways of Looking at a Blackbird” 第10回：H. D., “Oread,” “Heat” など 第11回：T. S. Eliot, “Preludes” など 第12回：Robert Lowell, “For the Union Dead” など 第13回：Sylvia Plath, “Daddy,” “Lady Lazarus” 第14回：Gary Snyder, “Magpie’s Song,” “For the Children” など 第15回：モダニズムからポストモダンへの移行、そのまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
開講時に指示する。		学期末のレポート。	

養	多言語間交流研究各論Ⅵ（英語圏の詩 b）	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的 ワーズワス（W. Wordsworth 1770-1850）の『水仙』などの易しい英詩を導入にして、基本的な英詩を分析し、味わう力を養うと共に、やや古い英詩についても鑑賞し得る能力を身に付けることを目的とする。扱う題材は全てイギリス詩である。 講義概要 初めは導入として、詩形や易しい詩、特にマザーグースについて講ずる。次いで現代詩を垣間見た後、ロマン派に焦点を当てる。そして最後にグレイ、ミルトン、シェークスピアの代表的な詩について管見する。なるべく video などの視聴覚教材を利用する。 参考文献 新井明著 『英詩鑑賞入門』 研究社 1987		1. 詩形について 2. <マザーグース> I 3. <マザーグース> II (video 鑑賞) 4. <現代英詩アラカルト> I T.S. Eliot (1888-1965) (DVD, video 鑑賞、字幕なし、以下同じ) 5. <同> II T. Hughes (1930-1985) など (video 鑑賞) 6. Alfred Tennyson (1809-92), Robert Browning (1812-89) 7. <ロマン派の曙> W. Blake (1757-1827), video 鑑賞 8. <ロマン派の詩> I ワーズワス、DVD, video 鑑賞 9. <ロマン派の詩> II S. T. Coleridge (1772-1834) と G. G. Byron (1788-1824) DVD 鑑賞 10. <ロマン派の詩> III P. B. Shelley (1792-1822) と J. Keats (1795-1821) DVD 鑑賞 11. <ロマン派の詩> 総括 解説と video 鑑賞 12. Thomas Gray (1716-1771), “Elegy Written in a Country Churchyard” (1751) を読む。 Video 鑑賞 13. John Milton (1608-74) <i>Paradise Lost</i> (1667) のさわり、ソネット 23. DVD, Video 鑑賞 14. William Shakespeare (1564-1616), 解説 DVD, video 鑑賞 15. 総括および試験について	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：薬師川虹一他編『マザーグースと美しい英詩』北星堂 1987 (プリント)		テストを課す。 数回の video は、時に字幕なしなので、100%の理解は求めないが、リスニング・テストとして努力具合を見、平常点とする。	

養	多言語間交流研究各論Ⅶ（英語圏の演劇 a）	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふうに演劇に示されているかについて考えてみましょう。 テキスト（英文プリント）を毎回配布します。よく読んでから、出席してください。日本語に翻訳した台本を本読みするパフォーマンスを、順番に実施してもら場合があります。 なるべく実際の上演を観られるものを取りあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎などもとりあげます。実際に劇場に観に行つて、芝居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知って下さい。 遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いはありません。 授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、<u>原則として理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。		毎回授業開始時に英語の語彙テストを、終了前に内容把握テストを行います。教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。 指定する演劇の観劇レポート（700 字以上 800 字以内）2 編に関することなど、詳細は教室にて説明します。 ***注意事項*** 全学共通授業科目「おもしろまじめな芝居のミカタ a」は英語学科と国際教養学部（英語圏の演劇 a）として登録してください。 テキストの英文プリントは TOEIC600 点程度かそれ以上の英語力を前提としています。600 点以下でも受講できますが、その分、時間をかけて課題に取り組んでください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。		観劇レポート 2 編で 60%。授業時のテストで 40%。学期末定期試験はしない。レポート（必修）未提出者には単位を認めません。	

養	多言語間交流研究各論Ⅷ（英語圏の演劇 b）	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふうに演劇に示されているかについて考えてみましょう。 テキスト（英文プリント）を毎回配布します。よく読んでから、出席してください。日本語に翻訳した台本を本読みするパフォーマンスを、順番に実施してもら場合があります。 なるべく実際の上演を観られるものを取りあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎などもとりあげます。実際に劇場に観に行つて、芝居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知って下さい。 遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いはありません。 授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、<u>原則として理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。		毎回授業開始時に英語の語彙テストを、終了前に内容把握テストを行います。教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。 指定する演劇の観劇レポート（700 字以上 800 字以内）2 編に関することなど、詳細は教室にて説明します。 ***注意事項*** 全学共通授業科目「おもしろまじめな芝居のミカタ b」は英語学科と国際教養学部（英語圏の演劇 b）として登録してください。 テキストの英文プリントは TOEIC600 点程度かそれ以上の英語力を前提としています。600 点以下でも受講できますが、その分、時間をかけて課題に取り組んでください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。		観劇レポート 2 編で 60%。授業時のテストで 40%。学期末定期試験はしない。レポート（必修）未提出者には単位を認めません。	

養 外言	多言語間交流研究各論IX（国際語としての英語） 情報・コミュニケーション研究特殊講義(国際語としての英語)	担当者	臼井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
約3億人といわれる英語母語話者に、公用語として英語を使用する人々及び外国語または「国際語」として英語を使用する人々を加えると20億人あまり英語話者がいるという。20億人全員が同じ英語を話しているのだろうか。日本人にとって英語とは何なのであろうか。 本講義では、「世界英語(World Englishes)」そのものの理解を高めることを目的とする。また、非英語母語話者としてどのような英語を学習し、指導していけばいいかを模索する。 出席を前提とする。 また、課題（リーディングやフィールドワーク）をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。		第1週：概論 第2週：英語の普及 －ディアスポラなど 第3～4週：英語の多様化 －ピジンとクレオール －方言と標準語 第5～7週：世界英語—内部圏における多様化 －アメリカ、オーストラリア、イギリス英語など －Hawaii Creole English －Ebonics －Spanglish など 第8～9週：世界英語—外部圏における多様化 －インド英語 －Singlish 第10～11週：世界英語—拡大圏における多様化 －ヨーロッパと英語、ロシアと英語 －中国と英語、韓国と英語 第12～13週：日本人にとっての英語とは何か －日本での英語使用 －日本の英語教育史 －現状と動向：政策、教師、カリキュラム、目的など 第14～15週 －発表と総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回目の講義で発表します。 配布資料等有り。		フィールドワークに基づいたレポート(40%)、期末テスト(60%)	

養 外言	多言語間交流研究各論X（多言語環境と英語） 情報・コミュニケーション研究特殊講義(多言語環境と英語)	担当者	臼井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、「多言語使用」の意義、「多言語共生」の可能性、および「言語政策」（教育、サービス含む）の役割について理解を高めることを目的とする。また英語が普遍語になっていくのか考える。 出席を前提とする。 また、課題（リーディングとフィールドワークなど）をしてきたことを前提とした講義である。 留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。		第1週：概論 第2～4週：言語権、言語サービス、複言語主義、多言語主義など 第5～8週：世界の言語政策と英語の位置づけ －内部圏：アメリカ、オーストラリアなど －外部圏：インド、シンガポールなど －拡大圏：フランス、韓国など 第9～13週：日本の中の多言語と英語 －日本の中の多言語 －言語政策と教育 －各地方自治体の言語政策・言語サービス －言語意識教育など 第14～15週：発表と総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回目の講義で発表します。 配布資料等有り。		フィールドワークに基づいたレポート(40%)、期末テスト(60%)	

養 外言	多言語間交流研究各論ⅩⅠ（英語圏の文化） 地域社会文化論特殊講義(英語圏の文化)	担当者	山越 邦夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 現代、私たちは、日々の生活、文化、テクノロジー、社会、政治など、あらゆる局面においてアメリカの影響を受けています。そのような私たちにとって、アメリカとは何なのか—アメリカ的価値観とその実相を、文化というさまざまな糸が網み込まれたテキストとして考察し、文化批評的方法論を紡ぎだすことを目的とします。 <講義概要> 第二次世界大戦後のアメリカを中心に引き上げ、映像や音楽などのポピュラーカルチャーを、歴史的コンテキストで補強しながら分析します。授業計画に示してあるトピックを、いくつかの枠組み—世界の人口流動、都市化、インナーシティ、暴力やスピード、マテリアル・カルチャー、ポップ・カルチャー、政治的イデオロギー、体制と反体制、サイケデリック、自然、観光、マイノリティ、性と暴力など—に基づき、考えていきます。		【第1回】ガイダンス 【第2回】世界的人口流動のなかのアメリカ 【第3回】都市化するアメリカ 【第4回】グレイト・マイグレーションが運ぶ音楽 【第5回】芸術か大衆文化か 【第6回】反共の50年代恐怖政治 【第7回】反体制の60年代文化 【第8回】ヴェトナム世代とサイケデリックな新感覚 【第9回】自然という概念枠の発見 【第10回】観光という問題性 【第11回】男女平等社会に至るアメリカの要因 【第12回】ゲイ・レズビアン表象 【第13回】アイデンティティ・ポリティクス 【第14回】アメリカの性と暴力の表象 【第15回】レポート試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
（テキスト）笹田直人・堀真理子・外岡尚美編『概説 アメリカ文化史』ミネルヴァ書房、2002年。 （参考文献）授業で紹介します。		出席、平常点（課題など）、レポート試験を総合評価します。	

養 外言	多言語間交流研究各論ⅩⅡ（英語圏事情） 地域社会文化論特殊講義(英語圏事情)	担当者	山越 邦夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> ジーンズをはき、ハンバーガーをかじる。ツーバイフォー住宅に暮らし、自動車で買い物に行く……私たちの日常は、多くの点でアメリカ的なライフスタイルに近づいています。ヨーロッパ諸国と比較すれば、アメリカはこのわずか数百年の間に造られた社会基盤の上に成立している国です。にもかかわらず、アメリカのシステムは、なぜ、今そんなにも世界中に流通しているのでしょうか。 この講義では、自然環境や交通、住居などの社会的基盤から、農業や自動車産業、あるいは食文化や衣服、教育やレジャーなどの文化領域までを視野に入れ、アメリカ合衆国の成り立ちを文明的にとらえながら、現代社会におけるアメリカニズムを探っていきます。 <講義概要> 授業計画に示す通り、各回ごと個別のテーマに沿って、アメリカの事情を、図像や映像資料などを導入しながら考えていきます。		【第1回】ガイダンス 【第2回】アメリカの自然 【第3回】都市建設と郊外住宅 【第4回】移動手段の発展とアメリカ的空間 【第5回】フロンティア開拓と農業経営 【第6回】工場労働とアメリカン・システム 【第7回】犯罪のアメリカ事情 【第8回】食文化とファースト・フード 【第9回】医療発展史 【第10回】教育の大衆化 【第11回】移民流入のシステム 【第12回】レジャーとスポーツ 【第13回】アメリカ音楽 【第14回】アメリカン・クローズ 【第15回】レポート試験	
テキスト、参考文献		評価方法	
（参考文献）オットー・ベットマン『目で見る 金びかり時代—古き良き時代の悲惨な事情』草風館、1999年。		出席、平常点（課題など）、レポート試験を総合評価します。	

養 外言	多言語間交流特殊研究Ⅰ（翻訳通訳論・英語） 情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳論・英語)	担当者	中島 直美
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、通訳・翻訳という言語コミュニケーションの理解を目的とする。 通訳・翻訳においては、その実技面が強調されるあまり、その実技がどのような理論に立脚したものなのかという点が、ともするとおざなりになるきらいがある。 本講義では、通訳・翻訳の一般的な理論・モデルなどを紹介するとともに、通訳・翻訳を含む言語コミュニケーション一般についての理解を深める。 第1回目の講義では、細かい指示を出すので、必ず出席すること。基本的に初回の授業に欠席した者は、その後の受講を認めない。		1 オリエンテーション 2 コミュニケーションとはなにか 3 言葉の意味とコミュニケーション 4 ことばの運用とコミュニケーション 5 翻訳とはなにか 6 英日翻訳英文法 7 日本語の発想と英語の発想 8 変化自在の日本語 9 日英翻訳における諸問題 10 実践翻訳トレーニング 11 通訳とはなにか 12 通訳のプロセス 13 通訳トレーニング 14 実践通訳トレーニング 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
『初めて学ぶ翻訳通訳 言語コミュニケーション入門』 『通訳の英語 日本語』		出席 30% 授業における発表 40% レポート 30%	

養 外言	多言語間交流特殊研究Ⅳ（翻訳通訳実習・英語） 情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳実習・英語)	担当者	中島 直美
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、通訳のトレーニングを通して、すでに持っている英語の「知識」を「スキル」に転化することを目的とする。徹底したトレーニングを行い、英語の受信力・発信力を鍛える。 春学期の特殊研究Ⅰを受講していることが望ましい。 第1回目の講義では細かい指示を出すので、かならず出席すること。基本的に初回の授業に欠席した者は、その後の受講を認めないので注意すること。		1 オリエンテーション 2 アテンド・随行通訳 3 パーティー・レセプション通訳 4 工場見学通訳 5 ビジネス・商談通訳 6 芸能・スポーツ通訳 7 パフォーマンステスト (1) 8 ニュースのボイスオーバー 9 司法通訳 10 医療通訳 11 国際政治や軍事に関するトピックの通訳 12 インタビュー対談通訳 13 セミナー・講演会通訳 14 国際会議同時通訳 15 パフォーマンステスト (2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
『通訳の現場から学ぶ実践演習』		出席 30% 小テスト 20% パフォーマンステスト 50%	

養 外言	多言語間交流特殊研究Ⅱ（翻訳通訳論・中国語） 情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳論・中国語)	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
テーマ：翻訳の規範、翻訳の社会的役割、翻訳者と作品の関わり方 学期の前半では、中国における翻訳研究の歴史、日中間の翻訳交流の歴史などから翻訳がいかなる役割を果たしたかを探ります。林語堂、魯迅の翻訳論に関しては中国語の原文と参考用に日本語翻訳または参考文献を配布します。 学期の後半では、実際の翻訳作品を例にとり、日本語から中国語、および中国語から日本語へ翻訳された場合の言語表現の変化を検討します。 翻訳比較に取り上げる作品は魯迅の短編小説と村上春樹の作品とし、それぞれ異なる翻訳者による翻訳の相違について検討します。		1. ガイダンス 2. 中国の翻訳論について（1） 3. 中国の翻訳論について（2） 4. 中国の翻訳論について（3） 5. 日中間の翻訳交流について（1） 6. 日中間の翻訳交流について（2） 7. 日中間の翻訳交流について（3） 8. 実際の翻訳作品による言語表現の比較 9. 実際の翻訳作品による言語表現の比較 10. 実際の翻訳作品による言語表現の比較 11. 実際の翻訳作品による言語表現の比較 12. 実際の翻訳作品による言語表現の比較 13. 実際の翻訳作品による言語表現の比較 14. 実際の翻訳作品による言語表現の比較 15. 学期のまとめと全体討論	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業でプリントを配布します。 指定教科書は使用しません。		出席率と期末レポートで評価します。	

養 外言	多言語間交流特殊研究Ⅴ（翻訳通訳実習・中国語） 情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳実習・中国語)	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
テーマ：中日・日中通訳入門 中国語↔日本語双方向の通訳練習をします。 毎回、短いテキストを徹底的に訓練することで、素早い反応力と適切な表現力を身につけることを目的とします。 【予習】 1. 中国語音声ファイルの書き取り 【授業】 (1) テキスト学習（学期の前半） 書き取った中国語文の確認→リピーティング→逐次通訳、シャドーイング→同時通訳を双方向で練習 (2) 学生による発表（学期の後半） 2. スピーチの準備 発言者役の学生はペアで短い会話を作成し、前に出て発表します。通訳者役の学生はペアで同時通訳ブースに入り通訳します。最後に全体で質疑応答を行います。		1. ガイダンス、教材配布 2. アジア差別発言 3. サマータイム導入に賛成か反対か 4. 多動症（ADHD） 5. 分煙化 6. 魚を食べると本当に頭が良くなるのか？ 7. インターネット・オークション 8. ～14回 学生による発表と質疑応答の同時通訳練習 15. 学期のまとめと特別プログラム	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中にそのつど配布する。		授業に対する積極性と期末テストで評価します。	

養 外言	多言語間交流特殊研究Ⅲ（翻訳通訳論・スペイン語） 情報・コミュニケーション研究特殊講義（翻訳通訳論・スペイン語）	担当者	柴田 バネッサ
講義目的、講義概要		授業計画	
翻訳・通訳とは何か。実践例や演習を通して、翻訳・通訳の概要、西語と日本語の違いを把握する。 翻訳・通訳とは何か。日本語と西語の違い、文化の違いは何か。こういった翻訳・通訳の基礎を、実践例を通して自分たちで探り、学習する。よい翻訳・通訳をするための基礎作りとして「内容先取り」を目指したトレーニングを試みる。 本講は、通訳とは何かと、通訳者の役割と、そのための勉強 / 訓練方法 の説明を行い、通訳技術を応用した翻訳方法について論じる。 日本と欧米における翻訳通訳教育や研究のアプローチの違いと問題点についても言及する。映画の字幕や広告のコピーの翻訳のようにエッセンスを効果的かつ端的に表現する方法についても解説する。		1. コミュニカティブな通訳・翻訳 2. 通訳・翻訳の共通点と相違点 3. 通訳のプロセス・翻訳のプロセスと倫理 4. 通訳方法：同時通訳・逐次通訳 5. 通訳・翻訳技法の基礎(1) 6. 通訳・翻訳技法(の基礎 2) 7. 通訳・翻訳技法の基礎(3) 8. 通訳・翻訳技法の基礎(4)・ 9. 通訳・翻訳技法の基礎(5) 10. 通訳・翻訳技法の基礎(6) 11. 接続法 12. 接続法 13. 接続法 14. 接続法試験 15. 予備日	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書 ローでリックジョーンズ『会議通訳』松柏社 参考文献 河野一郎『翻訳のおきて』DHC		授業への出席(30%)、参加度(30%)、課題(30%)、試験(10%)を総合して判定する	

養 外言	多言語間交流特殊研究Ⅵ（翻訳通訳実習・スペイン語） 情報・コミュニケーション研究特殊講義（翻訳通訳実習・スペイン語）	担当者	柴田 バネッサ
講義目的、講義概要		授業計画	
スペインの歴史や文化について書かれたエッセイや YouTube 上の素材を実際に通訳・翻訳しながら実技演習を行う。		1. オリエンテーション 2. 原稿読みあげ・サイトトランスレーション 3. 演習 対比 4. 演習 対比 5. 課題 1 6. 課題 1 7. d 8. 課題 2 9. 課題 2 10. 課題 3 11. 課題 3 12. 12. 翻訳課題 提出 14. 試験 15. 予備日 Make-up	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席・参加 (40%) 翻訳提出 (30%) 実技 / 語彙試験 (30%)	

養	多文化共生研究Ⅰ（文化人類学 a）	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
文化人類学は 19 世紀後半、当時の西欧社会によって 'primitive' と表現された（日本では、おおむね「未開」と表現されてきた）、極めて異なった文化をもつ社会の研究として始まった学問である。現在こうした文化は消滅しつつあるが、今までの資料によってこれを追求してゆくことは、文化の多様性を知る上で無駄ではないだろう。春学期は、この学問の誕生までの経緯、対象、視点などを前半で簡単に述べ、後半はこうした文化の事例と、その理解について説明する。 注：文化人類学の研究対象は上に述べたように「未開社会」、つまりわれわれの視点からすると、「遅れた」あるいは「非科学的」な社会です。自分がそういうものに興味があるのか、よく考えて取るかどうか決めてください。		1 どんな学問か 2 概説書の紹介 3 文化人類学誕生まで (1) 4 同上 (2) 5 同上 (3) 6 文化人類学の誕生 7 研究対象としての「文化」の概念 8 分析の視点——歴史的視点 9 歴史的視点から現在の視点へ 10 この回以降は文化の事例とその理解について話す、具体的に話に出す事例は、流れのなかで決めてゆく。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		定期試験期間中の試験による。	

養	多文化共生研究Ⅱ（文化人類学 b）	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
a で話したことを基礎に、まず「異文化」（「未開」文化）を明らかにしてゆく文化人類学の方法について述べる。そのあとこうした文化の事例を具体的に示し、それをどのように理解するかを明らかにする。また文化人類学はその理解の過程でわれわれ自身の文化について意識化し、批判を加える努力もしてきた。その点についても話ができればと思う。 注：強制はできませんが、なるべく春学期の a を受講した人が取ってくれることを望みます。		1 方法としての実地調査 (1) 2 同上 (2) 3 この回以降は文化の事例とその理解、またそれを通して可能になる自文化の意識化について話をする。具体的に話す事例は、今のところ、「生業」数回、「成人式」数回を予定しているが、これに加えていずれも映像（ビデオ）を見てもらう機会を 3 回ほど用意している。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		定期試験期間中の試験による。	

養	多文化共生研究Ⅲ（社会学 a）	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちのまわりには、さまざまな他者がいる。電車で隣に座った人も他者であり、家族や親しい友人も、ある意味では他者である。たいていの場合、他者は自分の思い通りに動いてはくれない。しかし、多少なりともそういった他者と社会的関係を持たなくては、私たちは生活できない。社会は、他者とともに生きる世界である。それゆえ、社会を扱う学問である社会学では、「他者 other(s)」が重要なキー概念のひとつとなっている。さらに言えば、他者について考えることは、「自己（わたし）」について考えることでもある。とくに本講義では、社会学がこれまで関心を寄せてきた諸概念をとりあげ、それを現代的な文脈で考えてみたい。 本講義のねらいは、「社会学」という学問が、どういった経緯で成立したか、また社会学的視点、社会学的な考察とは、どういったものか、さらに社会集団の類型やアイデンティティ形成のメカニズムについて学び、それをとおして社会における自己と他者についての関係を考えることである。		1. イントロダクション——社会学的な視座とは 2. 社会学の歴史（１）——A. コント、H. スペンサー 3. 社会学の歴史（２）——E. デュルケム 4. 社会学の歴史（３）——M. ウェーバー 5. 社会の類型（１）——コミュニティとアソシエーション 6. 社会の類型（２）——ゲマインシャフトとゼゼルシャフト 7. 社会の類型（３）——第一次集団 8. Identity形成と社会（１）——鏡に映った自己 9. Identity形成と社会（２）——重要な他者 10. Identity形成と社会（３）——マージナル・マン 11. Identity形成と社会（４）—— 未定 12. 補完的アイデンティティについて（１） 13. 補完的アイデンティティについて（２） 14. 補完的アイデンティティについて（３） 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
G. ジンメル『社会学の根本問題（個人と社会）』世界思想社 E. デュルケム『自殺論』中央公論社 M. ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 G.H. ミード『社会的自我』恒星社厚生閣		出席とレポート（履修者多数の場合、期末試験を行う）	

養	多文化共生研究Ⅳ（社会学 b）	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
わたしたちは、つねに安穏とした平和な社会だけに生きているわけではない。他者と共に生きる社会は、大小問わずさまざまな問題を抱えている。そういった問題を社会学では、どのように研究してきたのだろうか。まず本講義の前半では、何人かの社会学者の研究業績を紹介しながら、近代社会が抱える問題について講義する。つづく後半では、できるだけ身近な例を挙げて、ある事象が「社会問題化する」とはどういうことか、そして社会学が射程におく現代的課題にはどういったものがあるかを考えてみたい。 本講義のねらいは、異なった社会的・文化的背景をもつひとびとが、ともに生き、ともに暮らす社会において、なにが問題とみなされるのか、なにが必要とされているのかを社会学的視点から考え、「都市」「移民」「地域」に注目しつつ、現代のグローバル化・国際化のもとで日本社会が直面する課題とはなにか、そこからどのようなネットワークがあらたに生まれるかについて学ぶことである。		1. イントロダクション 2. 社会的性格と「自由からの逃走」——E. フロム 3. 同調様式の３類型——D. リースマン 4. 都市化と移民——W.I. トマスとF.W. ズナニエツキ 5. 同心円地帯説——E. バージェス 6. シカゴ学派と都市問題——R. パーク 7. 「社会」問題と社会学的視座（１） 8. 「社会」問題と社会学的視座（２） 9. 「社会」問題と社会学的視座（３） 10. 予言の自己成就——R.K. マートン 11. 誇示的消費——T. ヴェブレン 12. 認知的不協和の理論——L. フェスティンガー 13. 文化的再生産——P. ブルデュー 14. コンフルエント・ラブ——A. ギデンズ 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
E. フロム『自由からの逃走』東京創元社 D. リースマン『孤独な群集』みすず書房 W.I. トマス、F. ズナニエツキ『生活史の社会学』御茶の水書房 A. ギデンズ『親密性の変容』而立書房 ほか		出席とレポート（履修者多数の場合、期末試験を行う）	

養 外言	多文化共生研究Ⅴ（異文化間コミュニケーション a） 異文化間コミュニケーション論 a	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
あなたにとってなにが異文化／自文化か？そう訊ねられたとき、私たちはどう答えるだろうか。異文化は「遠い国」「違うコトバ」だけではない。もちろんそれらが異文化として私たちの目に映ることはあるが、もっと身近なところにも異文化は見つけられる。場合によっては、遠い異文化より身近な異文化のほうに受け入れ難い何かを感じることもある。 本講義では、異文化間コミュニケーションの基礎的研究、およびその歴史的背景を概観し、現代社会の異文化関係について学ぶ。とくに重要なテーマは、さまざまな文化的差異を意識し、身近な異文化にも目を向けることである。そのうえで、異文化への／からの「まなざし」について、また多文化共生の理想と現実について考えていきたい。これらはきわめて慎重に扱わねばならない難しいテーマであるが、本講義をととして異文化共生や異文化理解の糸口を探してほしい。		1. オリエンテーション 2. 異文化と自文化 3. 異文化間コミュニケーション研究の歴史 4. コミュニケーションの構造 ——コンテキストとステレオタイプ 5. 異文化へのまなざし（１）「日本」の表象 6. 異文化へのまなざし（２）自文化中心主義 7. 異文化へのまなざし（３） 未定 8. 内なる異文化（１） 9. 内なる異文化（２） 10. マルチカルチャリズムについて（１） ——文化的差異の承認をめぐるジレンマ 11. マルチカルチャリズムについて（２） ——多文化教育の視点 12. マルチカルチャリズムについて（３） ——多層的アイデンティティ 13. 相互行為分析と異文化研究（１） 14. 相互行為分析と異文化研究（２） 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社		出席とレポート（履修者の状況によってはテストになる場合もある）	

養 外言	多文化共生研究Ⅵ（異文化間コミュニケーション b） 異文化間コミュニケーション論 b	担当者	山越 邦夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> アメリカはコロンブスの到着以後、ある意味で、異文化との接触を通して、国家アイデンティティを形成してきたと言えるでしょう。この講義では、「アメリカン・アイデンティティとその表象」を観点として、アメリカにおいて、異文化接触、衝突、混交がいかに表象されてきたか、映像資料と歴史的コンテキストを補いながら分析していきます。		【第１回】ガイダンス 【第２回】コロンブス：アメリカンドリームの原因と虚像 【第３回】ポカホンタス神話とアメリカンヒーロー像 【第４回】英仏植民地戦争におけるアメリカ先住民 【第５回】統合と分離のレトリック—セイラムの魔女狩り 【第６回】荒野／フロンティアにおけるインディアン政策 【第７回】西部開拓のイデオロギーと核家族の創成 【第８回】大西部のイメージーション 【第９回】奴隷制という人種的ボーダーと混交 【第１０回】人種表象のねじれ現象「白い黒人」 【第１１回】新移民と人種的ヘゲモニー 【第１２回】アジア系移民排斥の契機 【第１３回】ヒスパニック系住民の現在 【第１４回】ハワイ先住民とハワイ移民史 【第１５回】レポート試験	
<講義概要> 授業は、コロンブスの上陸から現代までのアメリカの文化や歴史をまとめたテキストに基づいて進めます。特に、異文化接触による「アメリカン・アイデンティティとその表象」という観点から、自由、夢、デモクラシー、キリスト教と個人、他者性、魔女、フロンティア、荒野とインディアン、奴隷制、純潔主義と混血、白い黒人、民族アイデンティティなどについて考えていきます。			
テキスト、参考文献		評価方法	
（テキスト）笹田直人・堀真理子・外岡尚美編『概説 アメリカ文化史』ミネルヴァ書房、2002年。 （参考文献）授業で紹介します。		出席、平常点（課題など）、レポート試験を総合評価します。	

養 外言	多文化共生研究各論 I (アメリカの多文化共生 a) 地域社会文化論特殊講義(英語圏のエスニック・ヒストリー a)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
日米に定住する代表的マイノリティ（被差別少数派）の歴史と現状について学ぶ。とりわけ多数派の側から加えられてきた抑圧・差別を生み出すメカニズムについて詳しく説明する。同時に多数派側からの抑圧をはねのけ共生の道を模索してきたマイノリティ集団側の主体的努力についても学ぶ		1. 日本のマイノリティ、アイヌ 2. 日本のマイノリティ、在日（日系）ブラジル人 3. アメリカにおける反ユダヤ主義の特色 4. 米南部における反ユダヤ主義、レオ・フランク事件 5. 自動車王H. フォードの反ユダヤ・キャンペーン 6. 米高等教育機関におけるユダヤ人排斥 7. 公民権闘争とユダヤ人攻撃 8. 多文化共生社会実現にむけてのアメリカの努力 9. 合評会第1 回、文庫本 第4 章まで 10. 合評会第2 回、文庫本 第5 章以降 11. 在日中国人 12. 在日コリアン 13. 被差別部落問題 14. 在日黒人 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤唯行著、『アメリカのユダヤ人迫害史』（2000年 集英社新書）680円、この他、合評会用に400円程の文庫本を入手していただく。		定期試験 70 点 試験はテキスト持ち込み可。 合評会 16 点 出席 14 点 でカウントする。	

養 外言	多文化共生研究各論 II (アメリカの多文化共生 b) 地域社会文化論特殊講義(英語圏のエスニック・ヒストリー b)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
映画を入り口にしながら、アメリカを代表するエスニックグループの歴史と現状を学ぶことをこの講義の目的とします。 毎回十数本の映像ソフトを担当者が持参し、具体的場면을ピックアップしながら、各エスニック・グループが抱えているジレンマ・課題などを解説していく。つまりエスニック・ヒストリーの専門家からみた各映像作品のみどころ、眼目を紹介するというスタイルです。 かつて高名な映画評論家は「映画を通じて人生を知った」と語ったことがあったが、人種関係史を専攻とする担当者にとって映画は自分の研究対象に対して構築してきたイメージを再確認するための手段といえるのです。この授業では20 年間にわたる担当者の研究成果をあますところなくお伝えします。		1. はじめに 2. 先住民インディアン 3. 越境するヒスパニック 4. 今を生きる黒人 5. 歴史の中の黒人 6. 〃 〃 7. 等身大のユダヤ人 8. 反ユダヤ主義とユダヤ系ギャングスター 9. 歴史の中のユダヤ人 10. アジア系ー日系・中国系・韓国系ー 11. ホワイト・エスニックーアイルランド系・イタリア系 など過去において蔑視された白人集団 12. 異人種・異教徒間カップル 13. 〃 〃 14. おわりに 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤唯行著、『映画で学ぶエスニック・アメリカ』（2008 年 NTT 選書）1600 円		出席は14 点分でカウントする。定期試験は86 点分。試験は 8 択、20 題のクイズ形式。テキスト持ち込み可。	

養	多文化共生研究各論Ⅲ（異文化社会の認識と世界観 a）	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
わたしの専門の文化人類学で「異文化」と言えば「未開の文化」を指すことをまずはっきり認識しておいてもらいたい。この文化では、事物についての認識の仕方でも世界観も、われわれ（文明）のそれとは全くちがったものをもっている。こうした「未開」文化の完全な理解などあり得ないが、われわれの認識の仕方を剥ぎ取りながら、その理解に迫ることは可能である。その一端を明らかにし、「異文化」としての「未開文化」の理解に供したい。 注：文化人類学の単位を取ったか、「未開」の文化に興味をもっているかする人が受講するようにしてください。そうしないと、どうしてそんなバカなことを考えたりするんだ、と感じ、それだけでばかばかしく嫌になってしまいかねません。		詳細な内容も回数も明示できないが、「時間」「空間」「色彩」「動物」といったテーマを考えている。それぞれのテーマについて「未開」文化における認識の事例を挙げ、それを理解し、そのことを通してわれわれの認識の仕方の特徴を少しは客観化して考えることができる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		受講者が多ければ（例えば 50 人以上なら）定期試験中の試験によるし、少なければ（例えば 30 人程度なら）レポートにすることもありうる。	

養	多文化共生研究各論Ⅳ（異文化社会の認識と世界観 b）	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
わたしの専門の文化人類学で「異文化」と言えば「未開の文化」を指すことをまずはっきり認識しておいてもらいたい。この文化では、事物についての認識の仕方でも世界観も、われわれ（文明）のそれとは全くちがったものをもっている。こうした「未開」文化の完全な理解などあり得ないが、われわれの認識の仕方を剥ぎ取りながら、その理解に迫ることは可能である。その一端を明らかにし、「異文化」としての「未開文化」の理解に供したい。 注：文化人類学の単位を取ったか、「未開」の文化に興味をもっているかする人が受講するようにしてください。そうしないと、どうしてそんなバカなことを考えたりするんだ、と感じ、それだけでばかばかしく嫌になってしまいかねません。		「世界観」を頭において話をしてゆく。詳細な内容も回数も明示できないが、「創世神話」「祖先崇拜」「呪術」「象徴的二元論」といったテーマを考えている。こういう現象のなかに「未開」社会の人々の「世界観」を見ることができると思うし、それを通してわれわれの世界観の特徴を少しは客観化して考えることができる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		受講者が多ければ（例えば 50 人以上なら）定期試験中の試験によるし、少なければ（例えば 30 人程度なら）レポートにすることもありうる。	

養 外言	多文化共生研究各論Ⅴ（比較社会論） 比較社会論 b	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
どの社会もそれぞれ独自の人間関係のあり方、それを基礎にした組織、またそのような関係や組織についての認識の仕方をもっている。これを理解してゆくために、ほぼどの社会にもその存在が認められている、最小単位としての「家族」を取り上げる。この「家族」をさまざまな側面から検討してゆくことによって、その社会の特質を理解するようにしたい。 「家族」は婚姻によって成立する。そこでさまざまな社会の婚姻慣習とその意味を考え、それを基礎に形成された「家族」について、その構成、成員間の関係、単位としての性格などについて、まず講義を行う。 またいくつかの社会の家族については、論文を用意し、受講者に配布して、読んでもらい、発表してもらう。そういう形をとって「異文化」の（文化人類学だから内容的には「未開」の）さまざまな家族について知識を得てもらいたい。そうすることでわれわれのもつ家族についても批判的な知見をもてるはずである。		人間の「家族」は、動物がもたぬ「婚姻」によって成立する、ということから話を始める。婚姻のいろいろな形、意味、親族との関係など、話すことはいくらかもある。その間に家族について読んでもらう論文を用意し、配布する。今予定しているのは、アフリカ、ネパール、バングラデシュ、サモア、カナダ・インディアン、インドなどの社会のものである。これらのなかから全員に1つを選択して読んでもらい、レポートを書いてもらう。また希望に応じて発表してもらう。その発表を聴くことで、自分が読まない社会の家族についての知識を得てもらう。何回目にな何をするか、授業が始まってから決めることになる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
論文は用意する。しかし登録者が多い場合、みんなに論文を配布し、読んでもらうことはできない。希望者に限る。また、その他、必要な文献については随時紹介する。		最初に簡単なレポートを書いてもらうので、受講希望者は必ず初回に出席のこと。レポートで評価したいと思っているが、登録者が多い場合は試験にすることも考えている。	

養 外言	多文化共生特殊研究Ⅲ（カリブ海域社会の民族関係） 地域社会文化論特殊講義(カリブ海域の民俗と文化 b)	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
カリブ海域社会は他に類を見ない独特の歴史をもっており、その上に文化が築かれている。そこでまずその歴史をしっかりと知ってもらいたい。そしてそれを基礎にした、複雑な民族構成、錯綜した民族関係とその意識を知り、さらにこの地域の特徴とされるクレオール語を中心とした複雑な言語および言語構成を理解する。ただ、これだけだとあまりに基礎的な知識を得てもらうだけでつまらないとも考えている。それで、わたしが調査した「家族」「マーケット」、人口に膾炙した「音楽」などについて話を挟むことになるかもしれない。見てもらいたい映像もある。右の授業計画は暫定的なものと考えてもらいたい。 注：この地域の社会は規模も小さく、資源ありません。したがって世界のなかで政治的・経済的に全く力をもっていない。ただ人間はいるのだし、それぞれに独特の文化や意識をもって生活していることだけは確かです。そういうことだけで十分興味があるという人が受講してください。		1 カリブ海域鳥瞰 2 資料（本、ビデオ、CD など）紹介 3 歴史（1） 4 歴史（2） 5 歴史（3） 6 民族・住民——白人と黒人 7 民族・住民——黒人同士（1） 8 民族・住民——黒人同士（2） 9 民族・住民——黒人とインド人 10 言語分布鳥瞰 11 クレオール語の成立 12 各クレオール語解説（1） 13 各クレオール語解説（2） 14 クレオール語の行方 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		受講者が少ない場合は、何度もレポートを出してもらうことも含め、出席を厳しく取る。また提出レポートで評価する。多い場合は、試験にすることも考えている。	

養 外言	多文化共生研究各論Ⅵ（比較文化論） 比較文化論特殊講義(グローバリゼーションとローカル文化)	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義ではグローバリゼーションとローカリゼーションという現象に注目しながら、異文化を比較すること、さらに、グローバリゼーションがもたらした「文化の融合」あるいは「文化変容」について考える。受講者は本講義をとおして、文化を比較するときの視点がどこに置かれるか、また異文化比較によって生じる問題点や困難な点、比較によって明らかにされる自文化の姿など、あらためて意識してもらいたい。さらに、そこで考えたことをベースに、実際に自分でみつけた事例の異文化比較をし、レポート発表をしてもらう。 講義の前半では、それぞれ異なった文化を比較することによって、なにが見えてくるのか、異なった文化を「比較する」ということはどのようなことなのか、そして、異なった文化を比較するとき、それが「誰の視点から」行なわれているのかをテーマに講義をする。後半は翻訳可能性をテーマに、具体的な事例（資料映像・記事など）を用いてディスカッションする。		1. オリエンテーション ——異文化を比較すること 2. グローバル化するローカル文化（1） ——情報化社会と文化産業 3. グローバル化するローカル文化（2） ——文化のオリジナリティ 4. 異文化を比較する（1）時間、空間 5. 異文化を比較する（2）Japanimation と Disney 6. 異文化を比較する（3）未定 7. 異文化を比較する（4）未定 8. 文化帝国主義と「英語」使用 9. オリエンタリズムをめぐって 10. 異文化の翻訳「不」可能性について（1） 11. 異文化の翻訳「不」可能性について（2） 12. 文化変容と異文化の融合（1） 13. 文化変容と異文化の融合（2） 14. 文化変容と異文化の融合（3） 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社		出席とレポート	

養 外言	多文化共生研究各論Ⅷ（地域メディア論） 比較文化論特殊講義(地域メディア論)	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
Think Globally, Act locally というフレーズを一度は耳にしたことがあるだろう。そこに示されているように、多文化共生やグローバル化、さらには環境問題や福祉の問題を考えるうえで、「地域」もしくは「ローカル」は重要なキーワードのひとつである。それを頭に置いたうえで、本講義を受講してほしい。 本講義で扱う地域メディアは、ある特定のエリアにおける情報を伝える媒体、すなわち『Tokyo Walker』や『散歩の達人』などの地域情報誌や、各地域・地方で発行されているミニコミ誌、クーポン付きのフリーペーパーなどの紙媒体、さらに FM、CATV、ウェブサイトも含む。さらに、各地のエスニック・コミュニティで発行されているエスニック・メディアもここでは地域メディアとしてとりあげたい。それらの地域メディアが、多文化が共生する社会においてどのような役割を果たしてきた／いる／いくのか、また将来的に、どういった機能がそのメディアに要求されているのかについて、受講者とともに考えてゆきたい。 学期のさいごは、身近な地域メディアについてのレポート、もしくは受講者自身が制作した地域メディアを提出・発表してもらう。		1. イントロダクション 2. グローバル化とローカルコミュニティ 3. 地域・地方文化の復権とメディア 4. 各地の地域メディア（1） 5. 各地の地域メディア（2） 6. 各地の地域メディア（3） 7. メディアによる地域文化の創造（1） 8. メディアによる地域文化の創造（2） 9. 多文化共生と地域メディア（1） 10. 多文化共生と地域メディア（2） 11. 多文化共生と地域メディア（3） 12. 受講者による発表（1） 13. 受講者による発表（2） 14. 受講者による発表（3） 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
早川善治郎編『現代社会理論とメディアの諸相』中央大学出版部 田村紀雄編『現代地域メディア論』日本評論社		出席と発表（履修者多数の場合、レポート）	

養 外言	多文化共生研究各論Ⅶ（大衆文化論） 比較文化論特殊講義(大衆文化論)	担当者	木本 玲一
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、特に 20 世紀以降のサブカルチャーについて理解を深めることを目指す。複製芸術の発展、それに関連した産業の成長は、文化、社会のありかたを大きく変化させてきた。講義では、主に 20 世紀のポピュラー音楽と隣接領域を対象に、文化、社会の動態について考察を深めていく。講義の軸は社会学である。		1 イン트로ダクション 2 20 世紀のサブカルチャー1：ロックと対抗文化 3 20 世紀のサブカルチャー2：ロックの成熟化 4 20 世紀のサブカルチャー3：ヒップホップの時代 5 サブカルチャーとグローバル化 1：日本のロック（流入期～） 6 サブカルチャーとグローバル化 2：日本のロック（その後～） 7 サブカルチャーとグローバル化 3：日本のヒップホップ（流入期～） 8 産業と文化 1 9 産業と文化 2 10 ヤンキー文化とオタク文化 1 11 ヤンキー文化とオタク文化 2 12 複合メディア社会とサブカルチャー1 13 複合メディア社会とサブカルチャー2 14 まとめ 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時指定する		試験により評価する	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	多文化共生特殊研究Ⅰ（滞日外国人研究） 比較文化論特殊講義(グローバル社会における文化変容)	担当者	田房 由起子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、日本社会における外国人の状況を知ることにより、国際移動によって「異文化」の中で生活する人々の抱える問題について理解を深めることを目的とする。 まず、人の国際移動や、人種、エスニシティに関する理論について紹介する。次に、いくつかのエスニック集団を取り上げ、個々の集団に特徴的な状況について知識を得てもらう。また、教育や労働などの視点からも取り上げてみたい。さらに、受け入れ社会側の人々にとって「異文化」を持つ人々を受け入れるとはどのようなことかを考え、そこから「多文化共生」の可能性を模索したい。		1. ガイダンス・日本における外国人の概況（1） 2. 日本における外国人の概況（2） 3. なぜ人は移動するのか 4. 人種とエスニシティ 5. オールドカマー 6. ニューカマー（1） 7. ニューカマー（2） 8. ニューカマー（3） 9. エスニシティとジェンダー・階層 10. 労働 11. 子どもたちと教育 12. 子どもたちと教育・アイデンティティ 13. 人種／エスニシティと差別 14. 「多文化共生」の可能性 15. 総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはなし。必要に応じてプリントを配布する。 参考文献は授業時に紹介する。		出席状況（2/3 以上の出席が必要条件、10%）、授業内でのレポート（40%）、期末試験（50%）により評価。	

養 外言	多文化共生特殊研究Ⅱ（アメリカ合衆国のラティーノ社会） 地域社会文化論特殊講義(アメリカ合衆国のラティーノ社会)	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、米国におけるラティーノ概念誕生の経緯を歴史的に追い、さらにラティーノ社会の現状と問題点を、米国内の人種間関係だけでなく隣接地域間の人的交流・相互関係という新しい視点を組み込んで論じたいと思う。 一般に米国における人種およびエスニック集団とラテンアメリカの人種をめぐる認識はまったく違うものと考えられてきた。しかし、近年の米国におけるラテンアメリカ系住民の急激な増加は、こうした人種認識の差異に変化をもたらしているように思われる。典型的にはラティーノの「人種」化である。ラティーノが米国を変えるかもしれないという議論の是非を、広い歴史的スパンのなかで考えていこうと思う。		1 はじめに：複数形のアメリカ「アメリカス」の時代へ 2 アリゾナ移民取り締まり法案をめぐる 3-5 ラティーノ（米国のスペイン語系住民） ①センサスから見る米国の人種・民族集団概念 ②米国ラティーノの特徴と出身地域ごとの特徴 ③人種化するラティーノ 6-9 ラテンアメリカから米国への人の移動 ①なぜ人は移動するのだろうか。 ②移動の歴史1：キューバ系とプエルトリコ系 ③移動の歴史2：メキシコ系 ④現在の移民：北米自由貿易協定と国境線の警備強化、複雑化する交流 10-13 チカノ（米国のメキシコ系住民） ①チカノ・ルネサンス 壁画運動など ②セサル・チャベスとチカノ運動 ③チカノと先住民：アストラン伝説と「アストラン宣言」 ④プエブロ・インディアン：米国先住民とはだれか +メキシコ先住民の米国への移民 14 ラティーノは米国を変えるのか 15 おわりに	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：中條献『歴史の中の人種』北樹出版 2004 サミュエル・ハンチントン『分断されるアメリカ』集英社 2004 など 授業中に必読文献リストを配る		小テスト、レポート、出席、発言の総合評価	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	国際交流研究Ⅰ（国際関係論） 国際交流特殊講義（国際関係・日米中）	担当者	山本 秀也
講義目的、講義概要		授業計画	
この講座では、現代の世界を読み解くために必要な国際関係論について、日本を取り巻く東アジア地域の現状と国際政治の学説を有機的に結びつけながら学ぶ。前半ではウォーミングアップとして国際政治学の基本事項を確認する。後半では太平洋をはさむ米中両大国の駆け引きと日本の立場を軸として、今日的な国際問題や東アジアの安全保障についてテーマ別に検討する。		1 導入－国際関係をみてみよう 2 多様化する国際関係のプレイヤー 3 紛争回避の理論 4 国連による平和維持活動 5 国際政治のなかの人権 6 グローバリゼーション 7 地球温暖化防止レジームの構築 8 民族・宗教と文化の諸課題 9 同時多発テロ後の世界 10 東アジアの冷戦構造 11 核軍縮と東アジアへの影響 12 日米安保体制と東アジア 13 南シナ海問題にみる地域安保の課題 14 東アジアの未来像 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布。村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将著『国際政治学をつかむ』（有斐閣、2009年）を併用する。		期末定期試験（または期末レポート）を主とするが、平常の受講状況も評価対象とする。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	国際交流研究Ⅱ（国際協力論） 国際関係概論 a	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
世界の各地では地域紛争が絶えない。また貧富の格差も一向になくならない。こうした諸問題を前に、我々はPKO（平和維持活動）やODA（政府開発援助）を軸に平和構築や経済開発・貧困緩和に取り組んできた。この2つを有機的に結びつけること、すなわち紛争中やその前後の危険な状況下で効果的な開発援助を進めていくことも今日の重要課題のひとつである。 本講義ではこれらの国際協力の基本的枠組みや具体的事例、成果や限界について学び、それを通じて国際関係を見つめる視野を涵養することを目標とする。		I. 国連と平和維持活動（PKO） 1. 国連憲章とPKO 2. PKOの原則と変遷 3. PKOの具体例：モザンビークの場合 4. 日本のPKO協力法 II. 地域紛争と平和協力 5. 武力紛争と和平交渉：エルサルバドルの場合(1) 6. 和平合意と平和維持：エルサルバドルの場合(2) 7. 地域紛争とPKO：成果と限界 8. 地域紛争終結後の課題 III. 貧困問題と開発協力 9. 政府開発援助（ODA）の理念と枠組み 10. 南北関係の変化と開発援助の変遷 11. 貧困と人間の安全保障 12. 開発協力のNGO IV. 国際協力の展望 13. 平和構築と復興支援の模索 14. 平和協力と開発協力の融合 15. 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験（これに出席状況を加味する）。	

養 外言	国際交流研究Ⅴ（南北問題） 国際関係概論 b	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
地球上にいる人間の約 8 割は発展途上国に暮らしている。そして世界人口の約 5 分の 1（約 12 億人）は 1 日 1 ドル以下の生活を強いられている。我々は今この問題に正面から向き合わなければならない。たとえば、経済開発は重要だがそれを環境に負荷を与えずに行えるのか。市場経済と自由競争の社会で脆弱な貧困層にいかなる社会政策（教育・保健・福祉）を進めていけばよいのか。先進国による開発援助はいかにあるべきか。 本講義ではこうした現代世界における政治的・地理的課題について考え、それを通じて国際関係を見つめる視野を涵養することを目標とする。		I. 地球環境政治 1. 地球環境問題と南北対立 2. 貧困と環境破壊 3. 持続可能な開発の模索 4. 地球温暖化（気候変動枠組み条約）と南北関係 II. 南北問題と開発援助 5. 第三世界諸国の独立とナショナリズム 6. 西側先進国による開発援助戦略 7. 石油危機と第三世界の結束 8. 南々格差の拡大と新しい開発援助戦略 III. 南北問題の争点 9. 経済のグローバル化と貧困問題 10. 世界の食糧問題 11. 世界のエネルギー問題 12. 世界の水問題と砂漠化問題 IV. 南北問題の展望 13. 国連ミレニアム開発目標 14. 日本の国際協力のあり方 15. 授業のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験（これに出席状況を加味する）。	

養 外言	国際交流研究Ⅲ（国際機構論） 国際機構論 a	担当者	鈴木 淳一
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 本講義の目的は、国際社会が抱える地球規模の問題（たとえば、安全保障、テロ、世界規模の感染症等）とそれへの国際社会（特に国際組織）の取り組みについて理解することです。 〔講義概要〕 国際社会には世界政府は存在しません。しかし、多様な国際組織が、国家とともに、国際社会の共通利益の実現のために重要な役割を担っています。本講義では、これら国際組織の様々な活動分野をとりあげて、国際組織が各分野で果たしている機能を具体的に説明します。 本講義の履修にあたっては、国際法の知識は必ずしも必要ではありませんが、講義の中では主に国際法の視点から分析を行うため、一連の講義に先立ち、国際社会と国際法についての簡単なレクチャーを行います(なお国際教養学部が履修する場合は2年生以上で受講することをお勧めします)。 この講義では、教室で行う通常の授業を補うため、授業レポート・システム等を活用して、教員とのコミュニケーションを図ります。		- はじめに - 国際組織と国際法 - 紛争の平和的解決に関わる国際組織（1） - 紛争の平和的解決に関わる国際組織（2） - 安全保障に関わる国際組織（1） - 安全保障に関わる国際組織（2） - 軍備管理・軍縮・不拡散に関わる国際組織 - 人権問題にかかわる国際組織 - 人道・難民問題に関わる国際組織 - 国際貿易・国際金融に関わる国際組織 - 開発援助と南北問題に関わる国際組織 - 教育・文化に関わる国際組織 - 国際保健に関わる国際組織 - 海洋に関わる国際組織 - まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
大森正仁編著『よくわかる国際法』（ミネルヴァ書房）		主として学期末に実施する試験と出席により評価します。	

養 外言	国際交流研究Ⅳ（NGO 論） 国際交流特殊講義（NGO 論）	担当者	清水 俊弘
講義目的、講義概要		授業計画	
紛争解決や平和の実現、人権、環境、開発（貧困）問題など、国境を越える地球規模の公共的な課題に自発的、積極的に取り組む市民を主体とした活動が注目されている。 この講座では非政府組織、NGO の活動に着目し、具体例を元に、問題の捉え方、関わり方に関する多様な視点を養うことを目標とする。 この講座では、紛争問題では、イラク、アフガニスタン、パレスチナなどの現地における活動を題材にしながら、考える視点や安全対策など具体的な事例をもとに活動のあり方を考える。 また、開発問題では復興から開発期に入ったカンボジアやラオスを事例に、開発のプロセスで起こる様々な人権侵害、自然破壊などについて考える。また、復興、開発期における政府開発援助（ODA）の諸問題についても具体的な事例をもとに検証する。 さらには、こうした紛争地等で活動するNGO が、力を合わせることで、世界を動かす力を発揮する事例として、対人地雷全面禁止条約の成立過程（オタワプロセス）やクラスター爆弾禁止条約の成立過程における市民社会の役割についても詳しく説明する （受講生への要望） 世界各地で起きている諸問題について、自分なりの視点で考えてみたいと思う人に受講していただきたい。		①オリエンテーション ～NGO とは何か？～ ②～③「対テロ戦争」と市民社会 I／アフガニスタンの現状と NGO の取り組み ④～⑤「対テロ戦争」と市民社会 II／イラクの現状と NGO ⑥パレスチナの現状と NGO の取り組み ⑦足元の平和を考える ～朝鮮の人々との交流から～ ⑧NGO による復興・開発協力の事例 I（カンボジア） ⑨NGO による復興・開発協力の事例 II（ラオス） ⑩アフリカにおける HIV／AIDS の現状 ⑪～⑫対人地雷の廃絶キャンペーンに学ぶ NGO のネットワーク ⑬～⑭クラスター爆弾禁止条約の成立過程に学ぶ市民社会の役割 ⑮政府開発援助と NGO	
テキスト、参考文献		評価方法	
日本国際ボランティアセンター著『NGO の選択』（めこん 2005 年） 清水俊弘著 『クラスター爆弾なんてもういらない』（合同出版 2008 年）		レポート提出。平常授業の課題など。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	国際交流研究Ⅵ（情報とメディア） マス・コミュニケーション論 b	担当者	森 保裕
講義目的、講義概要		授業計画	
メディア全般の役割、実態、問題点について考える一方、日本の国際ニュース報道、中国や台湾のメディアの在り方について、紹介したい。 メディアの人権侵害や偏向などの問題報道の実例を挙げて分析する。こうした授業を通じ、賢い読者、視聴者として日々のニュースを正しく読み取る能力を身に着けてほしい。 私は通信社記者として30年間、仕事をしてきた。これまでの経験に基づき、取材や編集の現場でメディアについて感じたこと、考えたことも話したい。 日中両国政府は「戦略的互惠関係」の一層の強化をうたっているが、両国民の相手国への感情は冷え込み、現在の日中関係はいわば「民冷官熱」の状態である。 その延長線上に昨年の中国漁船衝突事件も起きた。日中の一部メディアやインターネット・サイトは狭隘な民族主義にたち、相手国を一方的に非難、「メディア・ナショナリズム」と呼ばれる不信の連鎖も生じている。 中国報道の解説法も考えたい。 中国語の学習者以外も歓迎するが、講義は中国・台湾に関連したものが多くなることを承知の上で受講してほしい。 日本語、中国語、英語の記事を取り上げる。		1、メディアの役割 2、国際交流とメディア 3、中国報道 4、中国のメディア 5、台湾報道 6、台湾のメディア 7、報道と人権 8、新聞・論説の功罪 9、テレビの功罪 10、事件報道 11、戦争報道 12、調査報道 13、ネット時代と新聞危機 14、生ニュースをめぐって 15、まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、コピー教材を配布。新聞購読を推奨		出席、試験、レポート	

養 外言	国際交流研究各論Ⅰ（国際政治論 a） 国際政治論 a	担当者	星野 昭吉
講義目的、講義概要		授業計画	
国際政治（世界政治）の現在は著しく日常化し、我々の生存は国際政治の在り方に大きく依存している。我々は、核を中心とする大量破壊兵器問題をはじめ、民族・宗教紛争の激化、南北問題の深化、環境破壊の拡大、人口・食糧・エネルギー問題、人権抑圧問題、エイズ・麻薬問題、などの地球規模の問題群に直面している。この巨大で、複雑で、流動的で、日常化した国際政治の危機構造の本質、その特徴、変容過程などをグローバルな安全保障、経済、文化、地球環境破壊などの実態や問題を地球環境財という視点から検討していく。		1 国際政治学の基本的課題ーグローバル政治の構造ー 2 国際政治の構造的変動ー冷戦構造崩壊の意味ー 3 現代国際政治の新しい枠組みー湾岸危機・戦争ー（1） 4 現代国際政治の新しい枠組みー湾岸危機・戦争ー（2） 5 現代国際政治の新しい枠組みーソ連邦の崩壊ー（1） 6 現代国際政治の新しい枠組みーソ連邦の崩壊ー（2） 7 グローバル政治の形成と意義 8 世界政治と平和財 9 世界政治と安全保障財 10 世界政治と人権保障財 11 世界政治と貧困・不平等・不正義 12 世界政治と環境保全財 13 知識財 14 グローバル政治の中の日本 15 グローバル政治におけるグローバル市民社会	
テキスト、参考文献		評価方法	
星野昭吉『世界政治と地球公共財』同文館（テキスト）		試験、レポート（書評）、出欠状況による総合評価。	

養 外言	国際交流研究各論Ⅱ（国際政治論 b） 国際政治論 b	担当者	星野 昭吉
講義目的、講義概要		授業計画	
今日の我々の生存と日常生活は地球規模の問題群におおわれているため、巨大で、複雑で、流動的な国際政治（世界政治）の危機構造の本質、特徴、また変革の可能性と必要性などの検討が要求されている。そうした国際政治の形成・維持・展開・変容・変革の過程が現状維持志向秩序勢力（コミュニタリアニズム中心的秩序勢力）と現状変革志向秩序勢力（コスモポリタニズム中心的秩序勢力）との弁証法的運動によって規定されている。それらの勢力を構成する政治権力、経済秩序勢力、安全保障秩序勢力、アイデンティティ勢力、環境保全勢力などから国際政治（世界政治）の弁証法的運動をみていく。		1 戦後国際政治の現実の基本的枠組みと理論 2 事例ー戦後日米関係の展開過程ー（1） 3 事例ー戦後日米関係の展開過程ー（2） 4 事例ー戦後日米関係の展開過程ー（3） 5 事例ー戦後日米関係の展開過程ー（4） 6 世界政治における権力の弁証法ー（1） 7 世界政治における権力の弁証法ー（2） 8 世界政治における安全保障の弁証法ー（1） 9 世界政治における安全保障の弁証法ー（2） 10 世界政治における経済勢力の弁証法ー（1） 11 世界政治における経済勢力の弁証法ー（2） 12 世界政治におけるアイデンティティ政治の弁証法 13 世界政治における環境問題の弁証法 14 世界政治における環境ガバナンス 15 世界政治における脱（非）国家主体の役割	
テキスト、参考文献		評価方法	
星野昭吉『世界秩序の変動と弁証法』（テイハン）		試験、出欠状況、レポート（任意）による総合評価。	

養 外言	国際交流研究各論Ⅲ（国際経済論 a） 国際経済論 a	担当者	益山 光央
講義目的、講義概要		授業計画	
国際経済を理解するのに最低限必要と思われる基本的な考えを講義します。その中心は貿易理論、国際貿易の一般均衡、貿易政策となります。講義で扱う内容は、よりすすんだ諸理論を学ぶのに必須の基礎的事項なので厳密な展開を心がけたいと思います。受講生には予習と復習を求めます。私語厳禁。		1 国際貿易概観 2 リカードの比較優位説 3 リカードの比較優位説 4 ヘクシャー・オリーニ定理 5 ヘクシャー・オリーニ定理 6 国際貿易の一般均衡 7 国際貿易の一般均衡 8 経済成長と貿易 9 国際資本移動と移民 10 国際資本移動と移民 11 関税・輸入数量制限 12 関税・輸入数量制限 13 輸入補助金と輸出自主規制 14 輸入補助金と輸出自主規制 15 質問とまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
大山道広・伊藤元重『国際貿易』 岩波書店		定期試験 80%、出席 20%	

養 外言	国際交流研究各論Ⅳ（国際経済論 b） 国際経済論 b	担当者	益山 光央
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に扱った貿易理論とともに国際経済学の大きな柱である国際収支調整メカニズムに関連する事柄を学びます。国際収支の赤字、黒字からはじまり、だんだんと高度な内容へと移行します。すべて基本的内容なので、きちんと理解する必要があります。 春学期の国際経済論 a を履修しているほうがより理解が深まります。私語厳禁。		1 国際収支と国民所得勘定 2 国際収支と国民所得勘定 3 外国為替市場 4 外国為替市場 5 外国為替市場 6 固定相場制下の所得決定 7 固定相場制下の所得決定 8 変動相場制下の所得決定 9 変動相場制下の所得決定 10 国際収支と財政・金融政策 11 国際収支と財政・金融政策 12 国際資本移動と財政・金融政策 13 国際資本移動と財政・金融政策 14 質問とまとめ 15 質問とまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		定期試験 80%、出席 20%	

養 外言	国際交流特殊研究Ⅰ（日本政治外交史 a） 日本政治外交史 a	担当者	福永 文夫
講義目的、講義概要		授業計画	
21 世紀に入っても、日本政治は混迷の淵から抜け出せないでいる。私たちは、出口を求めてさまよっているとせよ、未来の選択は、過去の経験と現在の選択においてしか開かれない。本講義では、戦後日本の政治と外交を論ずることで、この国の来し方を考えてみたい。 春学期は敗戦を経て、どのようにして戦後日本がつくられたかを、アメリカの日本占領政策をたどり、それに日本の諸政治勢力とくに諸政党がどう対応していったかを考えてみたい。その際、日本国憲法によって生み出された体制がどのようなものであったか、占領期に行われた改革が戦後日本にどのような影響を与えたかを考えてみる。 受講者には、歴史を学ぶだけでなく、歴史を考えるという姿勢をもってもらいたい。		1. はじめに—国際社会のなかの日本— 2. 日米戦争と戦後日本—米国の日本占領政策（1） 3. 日米戦争と戦後日本—米国の日本占領政策（2） 4. 日米戦争と戦後日本—米国の日本占領政策（3） 5. 敗戦と占領の開始 6. 占領のしくみ 7. 新憲法の誕生（1） 8. 新憲法の誕生（2） 9. 占領と改革（1） 10. 占領と改革（2） 11. 戦後日本の出発—政党政治の復活 12. 中道政権の形成と崩壊（1） 13. 中道政権の形成と崩壊（2） 14. 占領政策の転換 15. おわりに	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】福永文夫『戦後日本の再生—1945～1964 年』丸善。【参考文献】福永文夫『大平正芳—戦後保守とは何か』中公新書。		講義中に行う平常試験（50 点）と年度末の定期試験（50 点）によって判定する。詳細は講義中に指示する。	

養 外言	国際交流特殊研究Ⅱ（日本政治外交史 b） 日本政治外交史 b	担当者	福永 文夫
講義目的、講義概要		授業計画	
21 世紀に入っても、日本政治は混迷の淵から抜け出せないでいる。私たちは、出口を求めてさまよっているとせよ、未来の選択は、過去の経験と現在の選択においてしか開かれない。 本講義では、戦後日本の政治と外交を論ずることで、この国の来し方を考えてみたい。敗戦を経て、どのようにして戦後日本がつくられたかを、サンフランシスコにおける講和・独立から「55 年体制」を経て 1970 年代に至る日本の政治外交のあり方をたどり、それに日本の諸政治勢力とくに諸政党がどう対応していったかを考えてみたい。 受講者には、歴史を学ぶだけでなく、歴史を考えるという姿勢をもってもらいたい。		1. はじめに—国際社会と戦後日本— 2. 実らなかった講和 3. 講和への胎動 4. 「全面講和論」の展開 5. 講和をめぐる国際関係 6. サンフランシスコ講和 7. 保守勢力の混迷 8. 「55 年体制」の成立—保守合同と社会党の統一 9. 鳩山・岸内閣 10. 60 年安保騒動と政党政治 11. 高度成長期の政治と外交—池田政権 12. 高度成長期の政治と外交—佐藤政権 13. 混迷の 70 年代（1） 14. 混迷の 70 年代（2） 15. おわりに	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】福永文夫『戦後日本の再生—1945～1964 年』丸善。【参考文献】福永文夫『大平正芳—戦後保守とは何か』中公新書。		講義中に行う平常試験（50 点）と年度末の定期試験（50 点）によって判定する。詳細は講義中に指示する。	

養 外言	国際交流特殊研究Ⅲ（アジア太平洋地域交流 a） 地域経済論 ii a	担当者	高安 健一
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、東南アジアで事業を展開している日本企業の視点に立ち、各国の経済発展の軌跡および経済の特徴について学習します。 講義には二つの軸があります。一つは、東南アジア諸国の多様性に焦点をあてることです。東南アジアという地域概念が定着してから半世紀も経っていません。 もう一つは、共通の分析項目を設定することにより、各国を横並びで捉えることです。経済発展の初期条件、経済発展戦略、マクロ経済動向、産業構造の特徴、外国直接投資、日本との経済関係などについて解説します。加えて、各国が直面している経済的課題を取り上げます。 受講生が講義内容を、就職活動のみならず卒業後も活用することを期待します。国際交流特殊研究Ⅳ（アジア太平洋地域交流 b）も履修して下さい。第 1 回の講義に必ず出席すること。		1. 講義の目的、成績評価 2. 東南アジア経済の概要と課題 3. タイ：経済発展の軌跡と特徴 4. タイ：タクシン元首相と経済的停滞 5. シンガポール：経済発展の軌跡と特徴 6. シンガポール：産業高度化戦略 7. シンガポール：多国籍企業の活動 8. マレーシア：マハティール元首相の発展戦略 9. インドネシア：経済再生への課題 10. ベトナム：ドイモイ（刷新）政策 11. カンボジア：経済復興から経済成長への道筋 12. ミャンマー：長期経済停滞の背景 13. ラオス：対外開放戦略への転換 14-15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教員が作成した資料を配布する。参考文献は、最初の講義で紹介する。		出席 20%、学期末テスト 80%	

養 外言	国際交流特殊研究Ⅳ（アジア太平洋地域交流 b） 地域経済論 ii b	担当者	高安 健一
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、東南アジアで事業を展開している日本企業の視点に立ち、地域経済共同体としての東南アジア諸国連合（ASEAN）について学習します。 講義の柱は 3 つです。第 1 は、1967 年に発足した ASEAN がいかなる経緯を経て地域経済共同体として発展し、多国籍企業をひきつけてきたかを学習することです。ラオス、カンボジア、タイ、ベトナムなどで構成されるメコン地域の開発構想についても解説します。 第 2 は、ASEAN における経済発展の担い手である華僑・華人資本、日本の自動車メーカー、邦銀の活動について学ぶことです。 第 3 は、我が国が ASEAN のさらなる経済発展のために担うべき役割を考えることです。 受講生が講義内容を、就職活動のみならず卒業後も活用することを期待します。国際交流特殊研究Ⅲ（アジア太平洋地域交流 a）も履修して下さい。第 1 回の講義に必ず出席すること。		1. 講義の目的、成績評価等 2. 経済発展の軌跡と課題 3. 地域経済共同体としての ASEAN：形成過程 4. 地域経済共同体としての ASEAN：共同体の実現 5. 地域経済共同体としての ASEAN：将来構想 6. ASEAN の域外自由貿易協定（FTA）戦略 7. 大メコン圏開発：開発構想と南部経済回廊 8. 大メコン圏開発：東部経済回廊 9. わが国自動車メーカーの事業展開 10. 邦銀の事業展開 11. 経済発展と華僑・華人資本 12. わが国と東南アジアの経済関係：ASEAN の視点 13. わが国と東南アジアの経済関係：日本政府の視点 14-15. わが国と東南アジアの経済関係：日本企業の視点 - 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
教員が作成した資料を配布する。参考文献は、最初の講義で紹介する。		出席 20%、学期末テスト 80%	

養	国際交流特殊研究Ⅴ（グローバル・ガバナンス a）	担当者	一之瀬 高博
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 国際環境問題および地球環境問題に対処するための国際的な法のしくみを概観する。 〔講義概要〕 主に総論にあたる部分として、国際環境問題の性質・歴史、紛争の類型、国家や個人等の紛争当事者の地位、問題解決の基本的手法、国際環境法における諸原則や国際環境保全規範の構造などを検討する。 【注意事項】 この講義は、法学部専門科目「国際環境法 a」としては3年生以上に開講されるが、国際教養学部選択教養科目群「グローバル・ガバナンス a」としては2年生以上に開講される。国際教養学部の2年生が受講する場合は、履修が容易ではないので、「国際交流研究Ⅲ（国際機構論）」、全カリ「国際法 1」、「国際法 2」のいずれかを受講して、基本的知識を身につけていることが望ましい（並行しての受講でもよい）。		1 講義の概要 2 環境問題と国際社会 3 国際環境問題の法的紛争類型 4 越境汚染と領域使用の管理責任 5 無過失責任条約 6 国際公域の環境保全と責任 7 国際環境法の生成と諸原則① 8 国際環境法の生成と諸原則② 9 環境責任論の進展 10 国際環境保全規範と事前防止 11 事前防止の手続的規則① 12 事前防止の手続的規則② 13 国際環境保全とソフト・ロー 14 国際環境保全と国内公法・私法 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは開講時に指示する。参考文献として、松井芳郎『国際環境法の基本原則』東信堂 2010 年『地球環境条約集』第 4 版、中央法規 2003 年		期末試験の成績を重視し、出席・小テスト・レポートも評価の対象にする。	

養	国際交流特殊研究Ⅵ（グローバル・ガバナンス b）	担当者	一之瀬 高博
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 国際環境問題および地球環境問題に対処するための国際的な法のしくみを概観する。 〔講義概要〕 環境条約の内容、国家実行、国際会議や国際機関の対応、具体的紛争等を素材に、個々の環境問題の類型ごとに国際環境法の構造を分析する。 【注意事項】 この講義は、法学部専門科目「国際環境法 b」としては3年生以上に開講されるが、国際教養学部選択教養科目群「グローバル・ガバナンス b」としては2年生以上に開講される。国際教養学部生の2年生が受講する場合は、履修が容易ではないので、「国際交流研究Ⅲ（国際機構論）」、全カリ「国際法 1」、「国際法 2」のいずれかを受講して、基本的知識を身につけていることが望ましい（並行しての受講でもよい）。		1 講義の概要 2 長距離越境大気汚染、酸性雨 3 地球大気圏・気候変動問題① 4 地球大気圏・気候変動問題② 5 海洋環境の保全① 6 海洋環境の保全② 7 海洋環境の保全③ 8 南極の環境保護 9 廃棄物の越境移動 10 化学物質、原子力と環境 11 自然環境の保全 12 生物多様性の保全 13 環境と貿易 14 環境と武力紛争 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは開講時に指示する。参考文献として、水上・西井・臼杵『国際環境法』有斐閣 2001 年『地球環境条約集』第 4 版、中央法規 2003 年		期末試験の成績を重視し、出席・小テスト・レポートも評価の対象にする。	

養 外言	宗教・文化・歴史研究Ⅰ（文化史入門） 地域社会文化論特殊講義(文化史入門)	担当者	古川 堅治
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> グローバル化した現代社会にあって、私たちは自分の帰属意識や自己認識に揺らぎを感じ、改めて自分のアイデンティティの確立の必要性を意識します。そのとき、自分が育ち、身に付けた文化が大きな役割を果たします。文化は、狭義にはさまざまな文化遺産や文化事象そのものを意味しますが、広義にはそれら文化遺産や文化事象を包括しつつ、歴史的に形成されてきた生活や思考の様式を意味し、そこに体现された社会や集団の個性や特質をも表わす概念です。本講義では、どちらも歴史的総体として考えねばならないとの問題関心から、個別文化事象も生活・思考様式もいかなる具体的な歴史社会と密接に結びついているかを古代ギリシア・ローマ世界を例にとりあげ、自己の帰属意識や自己認識にとっていかに文化理解が不可欠であるかを明らかにすることを目的にしています。 <講義概要> 本講義では、古代地中海世界で体现された技術文化、造形芸術、文学・演劇などの個々の文化事象（狭義の文化）とそれらを生み出した社会との関係を示した後、宗教と祭祀、世界観、性愛、競争の人間類型などの生活や思考様式（広義の文化）がどのように歴史的に作り上げられていったかを見ます。		1 はじめに（講義の目的、概要、その他） 2 技術文化（その1）：動力とエネルギー源 奴隷労働は生産的であったか？ 3 技術文化（その2）：水の供給・処理と農業・牧畜 水道橋にかけるローマ人の執念 4 運送手段（その1）：船と海上輸送 古代の戦艦「三段櫓船」の脅威 5 運送手段（その2）：陸上輸送 古代の「一般道」と「高速道路」 6 造形芸術：建築と彫刻 アルカイック・スマイルの謎 7 文学の世界：叙事詩と演劇 ギリシア文化の普遍性 8 宗教と祭祀：神々と人間 ギリシア人は「神話」を信じていたか？ 9 性愛の諸相（男と女）（その1）：同性愛 10 性愛の諸相（男と女）（その2）：異性愛 11 競技的（アゴン）人間類型：理想的人間とは？ 12 クリエンテラ・パトロネジ関係 13 民主政の中の人間関係（1） 14 民主政の中の人間関係（2） 15 まとめ（総括と展望）	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使わず、プリントを配布します。また、初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布します。		学期末のレポートと数回の小レポート・報告の成績に、出席点を加味して総合的に評価します。	

養	宗教・文化・歴史特殊研究Ⅰ（世界の宗教と文化——神教と多神教）	担当者	古川 堅治
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 本講義は、世界史的にこれまで大きな役割を果たしてきた地中海世界の「宗教と文化」に焦点を絞り、キリスト教という一神教が成立する過程を歴史的に考察することにより、宗教と文化を含む歴史がいかに密接に関連し、しかも人々の考え方、生き方（心性）の変化と連動しているかを探ることで、現代の私たちの自己認識や帰属意識がどこに由来するかを考えることを目的にしています。 <講義概要> 講義は概説的に進めていきますが、関連するテーマのビデオや映画、DVDなどの映像資料もできるだけ使って理解を深めるのに役立てたいと考えています。授業では、細かな年代や事項を暗記してもらおうというのではなく、それぞれのテーマごとに問題を提起し、それについて考えてもらうことを主眼にしているので、積極的かつ活発な質問や意見が出るのが期待されています。その意味でも自由な発言ができるようなアット・ホームな雰囲気です。		1 はじめに（講義の目的、概要、その他） 2 メソポタミアの宗教と文化 死すべき人間と不死なる神々 3 エジプトの宗教と文化（その1） 来世信仰とピラミッド 4 エジプトの宗教と文化（その2） 一神教革命とツタンカーメンの死 5 パレスチナ地域の宗教と文化（その1）カナン 6 パレスチナ地域の宗教と文化（その2）ユダヤ教 7 ギリシアの宗教と文化（その1） オリンポスの神々と合理主義 8 ギリシアの宗教と文化（その2） 密儀宗教（エレウシスの秘儀、オルペウス信仰） 9 ヘレニズムの宗教と文化（その1） コスモポリタニズムと内向きの心性 10 ヘレニズムの宗教と文化（その2）諸神の習合 11 ローマ帝国の宗教と文化（その1） キリスト教の成立とその意義 12 ローマ帝国の宗教と文化（その2）グノーシス主義 13 ローマ帝国の宗教と文化（その3）キリスト教確立 14 多神教から一神教への道筋 15 まとめ：宗教と道徳	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用せず、参考文献を初回の授業時に、「参考文献一覧表」として配布します。		学期末のレポートと数回の小レポート・報告の成績に、出席点を加味して総合的に評価します。	

養	宗教・文化・歴史研究Ⅱ（東洋思想史 a）	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
二十一世紀の現代に生きている我々は、さまざまな文化に触れながら、我々の日々の振る舞いの仕方を決定している。だが、それぞれの文化圏、それぞれの国、それぞれの地域に特有の、身についた考え方に、知らぬ間に影響を受けながら、自らの行動決定をしている場合が多い。このように、自らの行動決定の基盤となる、固有の文化圏、固有の地域の伝統的考え方と現在の考え方を反省的に捉えて顕在化し、行動決定に際して、自分が育まれてきた文化圏の思想を捉え、実地に使える行動決定の原理として、古代から現代に至る東洋思想を自覚化する。その範囲は主として日本、中国、インドにおける諸思想と諸宗教を扱うことになる。なお、東洋に中近東までを含めるのか否かはきわめて問題となるところではある。しかし東洋思想史aでは、古代インド、中国思想を中心に、日本における神道ならびに仏教思想をも含めながら、おおよその区分として十三世紀までを視野に入れることになる。		1. (インド)アーリア人とヴェーダの宗教 2. (インド)ウパニシャッド哲学の思想 3. (インド)ウパニシャッド哲学と原始仏教の思想 4. (インド)仏教とヒンドゥー教の思想 5. (中国)孔子と論語の思想と墨子の兼愛 6. (中国)老荘思想 7. (中国)老荘思想と韓非子など 8. (中国)儒教と老荘思想 9. (中国)儒教の意味 10. (日本)古事記、日本書紀と神道 11. (日本)仏教の伝来と鎌倉仏教思想 12. (日本)道元と親鸞 13. (日本)宣長 14. 近世の東洋思想のまとめ 15. 近世の東洋思想のまとめと質問	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		出席とレポートによる評価	

養	宗教・文化・歴史研究Ⅲ（東洋思想史 b）	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
二十一世紀の現代に生きている我々は、さまざまな文化に触れながら、我々の日々の振る舞いの仕方を決定している。だが、それぞれの文化圏、それぞれの国、それぞれの地域に特有の、身についた考え方に、知らぬ間に影響を受けながら、自らの行動決定をしている場合が多い。このように、自らの行動決定の基盤となる、固有の文化圏、固有の地域の伝統的考え方と現在の考え方を反省的に捉えて顕在化し、行動決定に際して、自分が育まれてきた文化圏の思想を捉え、実地に使える行動決定の原理として、古代から現代に至る東洋思想を自覚化する。その範囲は主として日本、中国、インドにおける諸思想と諸宗教を扱うことになる。なお、東洋に中近東までを含めるのか否かはきわめて問題となるところではある。しかし東洋思想史bでは、インド、中国、さらには両者に影響を与えた、回教の伝来に伴う思想的変化をも考慮に入れた近現代の思想、そして日本の近現代思想を扱う。		1. (インド)伝統的インド思想の変化、とシーク教 2. (インド)近代西洋とインド文化 3. (インド)ガンジー 4. (インド)ガンジー非暴力思想と現代 5. (中国)宋学Ⅰ 6. (中国)宋学Ⅱ 7. (中国)宋学Ⅲ 8. (中国)現代と儒教思想、 9. (日本)江戸期の思想 10. (日本)明治維新期の思想 11. (日本)福沢諭吉、西周、中江兆民 12. (日本)京都学派の哲学 13. (日本)京都学派の哲学Ⅱ 14. 東洋思想史の現代的意義と質問 15. 東洋思想史の現代的意義Ⅱ	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示		出席とレポートによる評価	

養	宗教・文化・歴史研究Ⅳ（文明史研究 a）	担当者	櫻井 悠美
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 人間の諸活動の総体としての文明は、世界中に多様な形で存在しました。サミュエル・ハンチントンは、冷戦後の数々の国際紛争を文明の衝突としてとらえたのです。 しかし、本当に世界は文明単位で対立する状況なのでしょうか。こうした文明の概念の有効性を問い、これまでの研究史にふれながら、具体的な事例としてヨーロッパ文明の源流となったギリシア・ローマ文明に焦点を当て、考察を深めることを目的とします。 <講義概要> 古代にみられたそれぞれの文明について、戦争などの対立を契機に、それぞれの文明がどのように影響しあったのかを論じます。図像資料やビデオ映像も使用します。		1、 はじめに（講義の目的、概要、その他） 2、 クレタ文明 3、 ミケーネ文明 4、 トロイア戦争 5、 ギリシア文明 1 6、 ギリシア文明 2 7、 ペルシア文明 8、 ペルシア戦争 9、 ペロポネソス戦争 10、 マケドニアとアレクサンドロス 11、 ヘレニズム文明 12、 ローマの対内外戦争 13、 ローマ文明 14、 講義のまとめ（1） 15、 講義のまとめ（2）	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使わずプリントを配布します。また授業時に参考文献も紹介します。		学期末試験と小レポート、さらに出席点を加えて総合的に評価します。	

養	宗教・文化・歴史研究Ⅴ（文明史研究 b）	担当者	櫻井 悠美
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 現代社会はヨーロッパにおけるEUの統合や多文化の共存、さらには経済活動のグローバル化とあいまって、これまでの歴史像を大きく変えてきました。本講義ではシュペングラーやトインビーの文明論を概観し、文明の世代交代としての範型として、ヨーロッパ文明について考察します。ギリシア・ローマ時代に体现された古典文明がその後どのように伝播されていったのかを辿ります。 <講義概要> 文明論の一環としてのヨーロッパの歴史をとりあげたいと思います。 エウロペ神話からはじめ、ヨーロッパとは何かを論じます。ヨーロッパ文明が思想的にも物質的にもどのような形で世界の他地域へ伝播され、受容されていったかを検証します。また、平和的共存のためにヨーロッパに求められていることは何かについても考察します。		1、 はじめに（講義の目的、概要、その他） 2、 ヨーロッパとは何か 3、 ヨーロッパ文明の源、ギリシア文明 4、 アレクサンドロス大王とヘレニズム文明 5、 ローマ帝国の意味 6、 中世フランク王国 7、 イタリア・ルネサンス 8、 大航海時代 9、 植民地を求めて 10、 植民地の争奪 11、 第一次世界大戦 12、 大戦後のヨーロッパ 13、 ヨーロッパ統合の思想 14、 講義のまとめ（1） 15、 講義のまとめ（2）	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使わずプリントを配布します。また授業時に参考文献も紹介します。		学期末試験と小レポート、さらに出席点を加えて総合的に評価します。	

養	宗教・文化・歴史研究Ⅵ（倫理学 a）	担当者	川口 茂雄
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目標】 西洋哲学においてどのような倫理学的問題がどのように取扱われ、どのように思索されてきたかを、概説する。 教職科目でもあるため、哲学知識の網羅的取得と同時に、社会や人生におけるベーシックでファンダメンタルな事柄の考え方を、高校生などにも理解可能なしかたで言語表現できる実践力の習得が、目標として設定される。 哲学の学習は「言葉を選ぶ」ことのできる社会人になるための訓練の場なのだ、というようにとらえてもよい。 【講義概要】 哲学史の入門書をもとに授業を進行していく。 春学期は古代ギリシアから、中世哲学をへて、近世 17 世紀のデカルト・スピノザまでを見ていく。 教科書はかなりコンパクトに各哲学者の思想をまとめたものだが、その圧縮された内容を発展的にふくらませる補足説明を毎回担当者にプレゼンしてもらう予定。 【受講生への要望】 他人の言葉を読む・聴くときには、自分の心のなかを静かに沈黙させて、他人の言葉をできる限りていねいに受けとれるようにしてみよう。		1. 導入（プレゼン担当者の募集・日程調整を含む） 2. プラトン（1）「ソクラテスの死から」 3. プラトン（2） 4. アリストテレス「人間は知ることを欲する」 5. プロティノス、エピクロス派、ストア派 6. アウグスティヌス 7. トマス・アクィナス（1）「人間と神」 8. トマス・アクィナス（2） 9. デカルト（1）「私は思考する、ゆえに私は在る」 10. デカルト（2） 11. デカルト（3） 12. パスカル「きみはもう船に乗りこんでいる」 13. スピノザ（1）「幾何学的順序による『エチカ』」 14. スピノザ（2） 15. まとめ	
テキスト（各自入手しておくこと）		評価方法	
ドミニク・フォールシェー 『西洋哲学史 パルメニデスからレヴィナスまで』 （白水社・文庫クセジュ）		学期末試験による。 ただし、各授業回で教科書への補足プレゼンを担当してくれた学生には、試験点数に約 20 点を加点する予定。	

養	宗教・文化・歴史研究Ⅶ（倫理学 b）	担当者	川口 茂雄
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目標】 西洋哲学においてどのような倫理学的問題がどのように取扱われ、どのように思索されてきたかを、概説する。 教職科目でもあるため、哲学知識の網羅的取得と同時に、社会や人生におけるベーシックでファンダメンタルな事柄の考え方を、高校生などにも理解可能なしかたで言語表現できる実践力の習得が、目標として設定される。 哲学の学習は「言葉を選ぶ」ことのできる社会人になるための訓練の場なのだ、というようにとらえてもよい。 【講義概要】 哲学史の入門書をもとに授業を進行していく。 秋学期は 18 世紀のルソー・カントから、19 世紀のニーチェをへて、20 世紀のハイデガーまでを見ていく。 教科書はかなりコンパクトに各哲学者の思想をまとめたものだが、その圧縮された内容を発展的にふくらませる補足説明を毎回担当者にプレゼンしてもらう予定。 【受講生への要望】 他人の言葉を読む・聴くときには、自分の心のなかを静かに沈黙させて、他人の言葉をできる限りていねいに受けとれるようにしてみよう。		1. 導入（プレゼン担当者の募集・日程調整を含む） 2. ルソー（1）「社会的人間の不幸」 3. ルソー（2） 4. カント（1）「目的の国」 5. カント（2） 6. ヘーゲル（1）「主人と奴隷の弁証法」 7. ヘーゲル（2） 8. キルケゴール（1）「誘惑者の日記」 9. キルケゴール（2） 10. ニーチェ（1）「音楽の精神からの悲劇の誕生」 11. ニーチェ（2） 12. ニーチェ（3） 13. ハイデガー（1）「死への先駆」 14. ハイデガー（2） 15. まとめ	
テキスト（各自入手しておくこと）		評価方法	
ドミニク・フォールシェー 『西洋哲学史 パルメニデスからレヴィナスまで』 （白水社・文庫クセジュ）		学期末試験による。 ただし、各授業回で教科書への補足プレゼンを担当してくれた学生には、試験点数に約 20 点を加点する予定。	

養 外言	宗教・文化・歴史研究各論Ⅰ（地中海世界の宗教と文化 a） 地域社会文化論特殊講義(地中海世界の歴史 a)	担当者	古川 堅治
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 本講義は、地中海世界の歴史に大きな役割を果たした古代ギリシアの、「歴史と神話」に焦点を絞り、両者が密接な関係をもって考えられていたことを具体的な神話をもとに考察することを目的としています。その際に、「神話」を単にお話ととらえるのではなく、古代の人々が宗教生活の一環として「祭祀」あるいは「祭典」の形で、どのようにそれを理解し、伝えていたかを史料に即してたどることによってこの地域・時代の宗教と文化の歴史的意義を考えるという手法を採りたいと思います。 <講義概要> 授業は概説的に進めて行きますが、関連するテーマのビデオや映画、DVD などでもできるだけ使って理解を深めるのに役立たせたいと考えています。授業では、細かな年代や事項を暗記してもらおうというのではなく、それぞれのテーマごとに問題を提起し、それについて考えてもらうということを主眼においているので、積極的かつ活発な質問や意見がでることを期待しています。その意味でも自由な発言が出るようなアット・ホームな雰囲気の中で講義を進めていくつもりです。		1 はじめに：神話と歴史はどのように関連していたか？ 2 テーベ伝説圏の神話（その1） ディオニュソス信仰とペンテウスの悲劇 3 テーベ伝説圏の神話（その2）ディオニュシア祭 4 テーベ伝説圏の神話（その3） オイディプスの悲劇と「知る事」の意味 5 テーベ伝説圏の神話（その4）ライオス家の悲劇とその後日談 6 テーベ伝説圏の神話（その4） ヘラクレスの誕生と狂気 7 テーベ伝説圏の神話（その5）伝説と考古遺跡 8 アテナイ伝説圏の神話（その1）アテナイの建国神話 9 アテナイ伝説圏の神話（その2）パンアテナイア祭 10 アテナイ伝説圏の神話（その3）テセウス冒険物語 11 アテナイ伝説圏の神話（その4） テセウスとアテナイ民主政 12 アテナイの歴史的発展（その1） 13 アテナイの歴史的発展（その2） 14 神話から歴史へ ギリシア人は「過去」をどのように認識していたか 15 まとめ：神話と現代	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用せず、参考文献は初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布します。		学期末のレポートと1～2回の小報告に、出席点を加味して総合的に評価します。	

養 外言	宗教・文化・歴史研究各論Ⅱ（地中海世界の宗教と文化 b） 地域社会文化論特殊講義(地中海世界の歴史 b)	担当者	古川 堅治
講義目的、講義概要		授業計画	
<講義目的> 同上 <講義概要> 同上		1 はじめに：宗教と祭祀 2 アルゴス伝説圏の神話（その1） ミケーネ世界と呪われたアトレウス家 3 アルゴス伝説圏の神話（その2） トロイア戦争：叙事詩の環 4 アルゴス伝説圏の神話（その3） トロイア戦争：『イリアス』の世界 5 アルゴス伝説圏の神話（その4） トロイア戦争：『オデュッセイア』の世界 6 アルゴス伝説圏の神話（その5） アトレウス家の末路 7 トロイア戦争後日談：ローマ建国神話とアイネイアス 8 イオルコス伝説圏の神話（その1） イアソンとアルゴ船遠征物語 9 イオルコス伝説圏の神話（その2）メデイアの復讐 10 テレボス神話（その1）アウゲの数奇な運命 11 テレボス神話（その2）テレボスの負傷 12 神話に見られる女性群像（その1）カナケの悲恋 13 神話に見られる女性群像（その2）メラニッペ悲惨 14 神話に見られる女性群像（その3）メロペの悲劇 15 まとめ：神話と現代	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	宗教・文化・歴史研究各論Ⅲ（比較宗教史） 比較思想概論	担当者	谷口 郁夫
講義目的、講義概要		授業計画	
ユダヤ民族の歴史を縦糸に、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の比較対照を試みます。 宗教・民族に関わる争いが絶えないのはなぜなのかを念頭に、書物を通じて哲学者・思想家・宗教家と呼ばれる人々の考えを知るだけではなく、映画、絵画、地図などを使いながらごく普通の人々の思いを考える予定です。 特にパレスチナの現状の報告を行ないます。		1. 講義概説 2&3. ユダヤ民族の歴史 4. 流浪の民としてのユダヤ民族 5. キリスト教の誕生 6. イスラム教とユダヤ教——イスラム教誕生から十字軍の時代まで 7. オスマントルコ時代の中東における、イスラム教、ユダヤ教、キリスト教の関係 8. ルネッサンス時代 9. イスラム圏における反ユダヤ主義 10&11. 近代における民族主義の誕生とキリスト教圏における反ユダヤ主義 12&13&14. 現代におけるヨーロッパ、中東における反ユダヤ主義 15. 今学期のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義中に資料を配布します		学期末のレポート	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	宗教・文化・歴史研究各論Ⅴ（日本思想史2） 日本思想史b	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、近代以降（明治時代以降）の日本の思想の歴史について、その概略を理解することを第一の目的とします。また、自分の興味関心のある思想史の事象を探究する手段と方法を得ることを第二の目的とします。それを通じて、現代の私たちの立ち位置が確認できるようになることを目指します。 本講義のテーマは、「日本の近代と平和に関する思想」です。近代思想の概略と、いくつかの思想（家）を扱います。授業では、流れの概略のみならず思想家等が実際に書いたものを読んで、その今日的な意味を考えることを中心におきます。 そのため、古文に近い日本語を読む力量が求められますので、現代語訳などの課題を適宜課します。		1回 ガイダンス 2回 近代とはどういうものか——フランス革命の到達点 3回 現代の近代批判——国民国家論 4回 近代日本の思想配置（戦前） 5～7回 福沢諭吉『学問のすゝめ』を読む 8回 西周の近代 9～11回 中江兆民『三酔人経綸問答』を読む 12回 福沢諭吉「脱亜論」を読む 13回 近代日本の思想配置（戦後） 14回 現代の思想的展開 15回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援システムを利用して配付するプリント類。参考文献は授業中に紹介します。		最終レポートおよび、資料の現代語訳、授業レポートシステムを利用した提出物などを総合的に勘案します。	

養 外言	宗教・文化・歴史研究各論Ⅵ（アラブ文化・芸術 a） 地域社会文化論特殊講義(アラブ文化・芸術 a)	担当者	師岡 カリーマ エルサムニー
講義目的、講義概要		授業計画	
アラブと聞いて、多くの人はまず何を思い浮かべるでしょうか？テレビのニュースで見る戦場やテロの報道、戒律が厳しいと言われるイスラーム教や女性の抑圧、そしてトンネルの先が見えないパレスチナ問題など、「怖い」「暗い」「分りにくい」といったネガティブなイメージが強いのではないのでしょうか。 しかし、テレビで報道されるアラブ像は、アラブ世界のほんの小さな一面でしかなく、しかも中には歪曲されたイメージも少なからず紛れ込んでいます。そういったイメージの蓄積によって作り上げられるステレオタイプを打破しようというのがこの講座の目的です。 アラブの芸術、芸能、文学、そして生活文化を通してアラブ人の心と表現世界に親しみ、皆さん独自のアラブ像を形成してもらいたいと思います。 アラブの芸術といえば、世界一有名なファンタジー、そして SF の原点とも言われる「千夜一夜物語」がまず浮びますが、同時にアラブの文化は詩人の文化であり、また非常に洗練された音楽芸術を育んできました。近年ではノーベル文学賞に輝いたナギーブ・マハフーズやカンヌ映画祭で表彰された映画監督ヨーセフ・シャヒーンなど、国際的な評価を得ている芸術家も少なくありません。この講座ではまず誤解の多いイスラームの解説から始まり、宗教が今も深く根付いている生活文化を知ると同時に、音楽、映画、演劇、文学作品を味わいながら、楽しく真剣にアラブ人の社会やメンタリティーを探っていきます。 ディスカッションには積極的に参加し、反対意見を恐れずにどんどん自己主張してください。		1. インTRODakション：アラブ人とは？ 2. 「イスラーム」と「イスラーム」 3. ムスリムにとって「クルアーン」とは 4. アラブ人の生活文化 1) 食生活と祭 5. アラブ人の生活文化 2) 家族・女性 6. アラブ音楽入門Ⅰ 7. アラブ音楽入門Ⅱ 8. パレスチナ問題と芸術 1) 演劇 「アライブ・フロム・パレスチナ」鑑賞 9. 演劇鑑賞レポート提出・ディスカッション 10. パレスチナ問題と芸術 2) 記録映画 11. パレスチナ問題と芸術 3) 小説 作家ガッサーン・カナファニーの世界 中編「太陽の男たち」「ハイファに戻って」 読後レポート提出・ディスカッション 12. パレスチナ問題と芸術 4) 詩人 「パレスチナの声」マハムード・ダルウィーシュ 13. パレスチナ問題と芸術 5) 映画 14. 映画鑑賞レポート提出・ディスカッション 15. まとめ：イスラーム報道・アラブ報道を考える	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。 参考文献：『恋するアラブ人』『イスラームから考える』（師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社）『アジア読本・アラブ』（大塚和夫編・河出書房新書）など。		出席回数、レポート、平常点（ディスカッション参加や発言の頻度）	

養 外言	宗教・文化・歴史研究各論Ⅶ（アラブ文化・芸術 b） 地域社会文化論特殊講義(アラブ文化・芸術 b)	担当者	師岡 カリーマ エルサムニー
講義目的、講義概要		授業計画	
アラブと聞いて、多くの人はまず何を思い浮かべるでしょうか？テレビのニュースで見る戦場やテロの報道、戒律が厳しいと言われるイスラーム教や女性の抑圧、そしてトンネルの先が見えないパレスチナ問題など、「怖い」「暗い」「分りにくい」といったネガティブなイメージが強いのではないのでしょうか。 しかし、テレビで報道されるアラブ像は、アラブ世界のほんの小さな一面でしかなく、しかも中には歪曲されたイメージも少なからず紛れ込んでいます。そういったイメージの蓄積によって作り上げられるステレオタイプを打破しようというのがこの講座の目的です。 アラブの芸術、芸能、文学、そして生活文化を通してアラブ人の心と表現世界に親しみ、皆さん独自のアラブ像を形成してもらいたいと思います。 アラブの芸術といえば、世界一有名なファンタジー、そして SF の原点とも言われる「千夜一夜物語」がまず浮びますが、同時にアラブの文化は詩人の文化であり、また非常に洗練された音楽芸術を育んできました。近年ではノーベル文学賞に輝いたナギーブ・マハフーズやカンヌ映画祭で表彰された映画監督ヨーセフ・シャヒーンなど、国際的な評価を得ている芸術家も少なくありません。この講座ではまず誤解の多いイスラームの解説から始まり、宗教が今も深く根付いている生活文化を知ると同時に、音楽、映画、演劇、文学作品を味わいながら、楽しく真剣にアラブ人の社会やメンタリティーを探っていきます。 ディスカッションには積極的に参加し、反対意見を恐れずにどんどん自己主張してください。		1. ヨルダン映画「キャプテン・アブーラーイド」 2. 映画鑑賞レポート提出・ディスカッション 3. レバノン映画「キャラメル」 4. 映画鑑賞レポート提出・ディスカッション 5. アラブ文化は詩の文化：詩人変人今昔（1） 6. アラブ文化は詩の文化：詩人変人今昔（2） 7. 逆輸入「千夜一夜物語」の世界 8. ハリウッド映画になったアラブ旅行文学 9. アラブの芸能界 1) 歌謡曲 10. アラブの芸能界 2) テレビ 11. ノーベル賞作家ナギーブ・マハフーズの世界 12. 小説「バイナルカスライン」レポート提出 13. 続き（ディスカッション） 14. 続き（ディスカッション） 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。 参考文献：『恋するアラブ人』『イスラームから考える』（師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社）『アジア読本・アラブ』（大塚和夫編・河出書房新書）など。		出席回数、レポート、平常点（ディスカッション参加や発言の頻度）	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	宗教・文化・歴史特殊研究Ⅱ（思想と文化） 地域社会文化論特殊講義(思想と文化)	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
物事を考えることが人間の存在にとってどのような意味を持つのか。そのように考えている自己とは如何なる存在であるのか。この自己の探究を通して、人間の存在の意味は何かを探る。この作業の助けとして、ヤスパース、ハイデッガー、フロイト、ユング、ベルグソン、西田幾多郎、西谷啓治、鈴木大拙などの哲学者・思想家の考え方を参考にすることもある。だが、この授業は単に聞くだけのものではない。教師が考えていることを聴講者に投げかけるので、聴講者はそれに対してどのように考えたらよいのかの応答を求められる。そして次に、各グループに分かれて、ディスカッションを主体に授業が進められるので、興味ある題と取り組むためのグループを作って、このグループによる発表とディスカッションを行ってゆくこともあるが、これに関する学生と教師の問答によって探求を進めることが基本となる。 外国人（特に英語を母国語ないしは理解可能言語とする留学生など）の聴講参加がある場合には、英語によって講義およびディスカッションがなされる場合も一部分ある。		1. 概要説明と導入 2. ディスカッションのためのグループ分けと最初の問題設定「人間と思索」について 3. 「人間の存在」と「自己」との連関 4. 「自己」とは何かのグループ・ディスカッション 5. 「私」と「汝」に関する探求 6. 「私」と「汝」に関する探求Ⅱ 7. 「私」と「汝」に関する探求Ⅲ 8. 「人間とは何か」に関する探求Ⅰ 9. 「人間とは何か」に関する探求Ⅱ 10. 「人間とは何か」と「自己」の関係についての考察Ⅰ 11. 「人間とは何か」と「自己」の関係についての考察Ⅱ 12. 「自己」を現代の研究成果から考える 13. 「自己」を現象学的に探求Ⅰ 14. 「自己」を現象学的に探求Ⅱ 15. 「自己」の本質に関する全体ディスカッション	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示		ディスカッションへの出席、授業への取り組み方を調査研究発表態度から判定および試験から最終判定。	

養	日本語教育研究Ⅱ（日本事情とコミュニケーション教育）	担当者	小山 慎治
講義目的、講義概要		授業計画	
日本における時事問題について、異文化理解、多文化共生、および外国人に対する日本語教育に関する話題を中心に授業を展開します。具体的には、外国人の定住化の問題について扱います。特に、いわゆるニューカマーと呼ばれる新来外国人の受け入れの背景を知った上で、定住化する外国人のソーシャルサポートのあり方を通じ、多文化共生の可能性について考えます。 また、授業においては、日本社会での異文化理解、多文化共生に関する諸問題をテーマとした調査活動および発表、グループディスカッションを適宜取り入れる予定です。これらの活動は基本的にグループ単位で行う予定なので、積極的に活動に参加し、クラスを活性化してくれる学生を特に歓迎します。		1 オリエンテーション 2 多文化共生社会とは 3 外国人労働者の受け入れの史的変遷と現状① 4 外国人労働者の受け入れの史的変遷と現状② 5 外国人労働者の受け入れの史的変遷と現状③ 6 外国人労働者の受け入れの史的変遷と現状④ 7 留学生受け入れ政策① 8 留学生受け入れ政策② 9 外国人児童① 10 外国人児童② 11 ソーシャル・サポート 12 調査と発表活動① 13 調査と発表活動② 14 日本社会と多文化共生 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：特に指定しない 参考文献： 多文化共生キーワード事典編集委員会（編）『多文化共生キーワード事典（改訂版）』明石書店 2010 年 田尻英三他『外国人の定住と日本語教育』ひつじ書房 2004 年		出席(10%)、クラスへの貢献(10%)、クラスでの課題(20%)、および定期試験(60%)による総合評価	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	日本語教育研究各論Ⅰ（日本語教授法Ⅰa） 日本語教授法Ⅰa	担当者	石塚 京子
講義目的、講義概要		授業計画	
将来、国内や海外で日本語教師として仕事をしたい、あるいは、ボランティア活動を通じて日本語を教えてみたいなど、日本語教育に関心を持つ学生を対象にしたコースである。 まずは、日本語教育に大きな影響を与えた主要な外国語教授法の理論的背景を概観し、改めて言語教育とは何かを考える。このコースの主たる目的は、発話場面や文脈に合った言語運用能力を育成する指導方法を身につけることである。次に、日本語教育の現場で実際に使用されている教材を紹介し、文型・文法、文字・語彙の指導、さらには、読む・書く・聞く・話すという技能別の指導について考える。最終的には、履修者自身が実際に教案・教材を作成するといった実践的な授業である。 日本語教育の理論と実践にわたる広範囲の内容となっている。基本的には、講義が中心であるが、教案・教材の作成などの課題については、グループワーク、ペアワークの形態をとる。		1. オリエンテーション、コースデザインとは？ 2. ニーズ分析、シラバスデザイン、カリキュラムデザイン 3. 教授法の理論とその背景（1） 4. 教授法の理論とその背景（2） 5. 教授法の理論とその背景（3） 6. 教授法の理論とその背景（4） 7. 教材・教具論 8. 文字指導 9. 初級文法/文型（1） 初級前半 10. 初級文法/文型（2） 初級後半 11. 初級文法/文型（3） 初級文型を使ったクラス活動 12. 中級文法/文型（1） 初中級 13. 中級文法/文型（2） 中級 14. 中級文法/文型（3） 中級文型を使ったクラス活動 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献①『日本語教育機関におけるコースデザイン』日本語教育学会編 凡人社 ②『実践日本語教授法』中西家栄子他 バベル出版 ③『学習の分析とデザイン』岡崎眸・岡崎敏雄 凡人社 ④その他の参考文献は授業中に指示		①前期試験 ②課題の提出 ③出席率	

養 外言	日本語教育研究各論Ⅱ（日本語教授法Ⅰb） 日本語教授法Ⅰb	担当者	石塚 京子
講義目的、講義概要		授業計画	
前期と同じ		1. 技能別教授法・読解指導（1） 2. 技能別教授法・読解指導（2） 教材作成 3. 技能別教授法・聴解指導（1） 4. 技能別教授法・聴解指導（2） 教材作成 5. 技能別教授法・作文指導（1） 6. 技能別教授法・作文指導（2） 教材作成 7. 技能別教授法・会話指導（1） 8. 技能別教授法・会話指導（2） 教材作成 9. 機械的なドリルからコミュニケーション活動へ 10. コミュニケーションを重視したクラス活動とは（1） 11. コミュニケーションを重視したクラス活動とは（2） 12. 教案作成 13. 測定と評価（1） 14. 測定と評価（2） 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
前期と同じ		①後期試験 ②課題の提出 ③出席率	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	日本語教育研究各論Ⅲ（日本語音声学） 日本語音声学 a	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 日本語教育のための日本語音声学について、基本的な知識と技術を獲得することを目的とする。 〔講義概要〕 テキストを軸として授業をすすめる。履修者は、各回の授業前に、指定された箇所を読解しておくことが要求される。講義自体は、テキストの内容に関する質疑から開始する。その後、テキストに付属のCDによる実際の音声の生産・受容を確認する。この部分についても適宜授業外での練習を要求することがある。 第11回目以後の授業では、集中して音声教育の諸問題をあつかうことになるが、それ以前の授業においても、理解された音声学の内容について、どのような授業化が可能であるか、可能な限り毎回議論していきたい。		第1回 ガイダンス 第2回 単音(1) 第3回 単音(2) 第4回 単音(3) 第5回 音節(1) 第6回 音節(2) 第7回 音節(3) 第8回 韻律(1) 第9回 韻律(2) 第10回 韻律(3) 第11回 音声教育(1) 第12回 音声教育(2) 第13回 音声教育(3) 第14回 音声教育(4) 第15回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
鹿島央著『日本語教育をめざす人のための基礎から学ぶ音声学』スリーエーネットワーク		試験をおこない、その結果で評価する。必要に応じて、授業への参加姿勢も加味する、また、出席をきびしく要求する。	

養 外言	日本語教育研究各論Ⅳ（日本語文法形態論） 日本語文法論 a	担当者	松浦 恵津子
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 日本語文法を体系的に把握し、基本的な文法を理解・考察して規則性を見出す力を養う。同時に、日本語教育において、学習文法項目の分析を正しく行うことができる力もつける。 〔講義概要〕 講義資料は、講義支援ポータルサイトに掲示される。その資料に目をとおり問題を考えてから、授業に臨むことが毎回要求される。授業は、問題に対する考えの発表・説明・考察というかたちで進める。 個別の言語事象を全体の体系と関連付けて考察し、規則性を見出していくということを通して、日本語文法に対する知的興味・おもしろさを感じることができると思う。 授業は休まず出てくること。体系の各部分はお互いに関連し合って体系をなしているの、1つの部分の理解が抜けてしまうと、全体を把握することに支障をきたす。 また、講義資料以外の文献の読解も同時に要求するので、相応の自宅学習時間が必要となる。		1. 文法入門（文法とは・形態論と統語論・単語と文） 2. 品詞の認定 名詞（名詞の種類・述語名詞の形） 3. 動詞1（動詞の種類・活用） 4. 動詞2（各活用形について） 5. 形容詞（形容詞の種類・活用） 副詞 6. 接続詞 感動詞 その他 品詞のまとめ 7. 格・格語形 8. テンス・アスペクトの語形と意味 9. アスペクトにかかわる複合動詞と組み合わせ動詞 10. 形態論からみたヴォイス 可能動詞 11. とりたて語形 12. 敬語の形と用法 13. 言語の単位 語形変化（屈折と膠着、語幹・語尾・接辞） 述語内部の語順 14. 語構成（複合と派生） 15. 形態論のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援ポータルサイトに掲示される資料を、各自印刷して持ってくること。 参考文献：鈴木重幸『日本語文法・形態論』むぎ書房		①学期末テスト ②授業への参加度 ③出席	

養 外言	日本語教育研究各論Ⅴ（日本語文法統語論） 日本語文法論 b	担当者	松浦 恵津子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ できれば、春学期の日本語文法形態論を先に履修しておくことが望ましい。		1. 文の組み立て 文の成分どうしの語順 2. 統語論におけるヴォイス①（受身文） 3. 統語論におけるヴォイス②（使役文・使役受身文） 4. モダリティ① 5. モダリティ② 6. 終助辞の用法 7. 授受の構文 8. 存在文と所有文 自動詞文と他動詞文 9. 主語につく「は」と「が」 10. 重文と複文①（順接・逆接・条件） 11. 複文②（連体修飾節・中止形接続） 12. 複文③（補足節・その他の複文・従属節の従属度） 13. 人称と主語の問題 14. 連語論 15. 統語論のまとめ 練習課題	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援ポータルサイトに掲示される資料を、各自印刷して持ってくること。 参考文献：高橋太郎『日本語の文法』ひつじ書房		春学期と同じ	

養 外言	日本語教育研究各論Ⅵ（日本語談話論） 日本語学 b	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 談話分析についての基本的な知識と方法の習得を目的とする。談話分析は、前世紀の後半以降、文学、文化人類学、社会学、心理学などの分野とも関連して発展してきた言語の学である。本講義では、日本語教育の中上級の学習項目を談話論にもとめるという目標のもとで、談話とはなにか、どのような理論があり、どのような具体的分析が可能なのかを学習していく。 〔講義概要〕 下記のテキストと浅山が用意する外国人発話データを使用する。テキストは10セクションからなっているので、おおよそ10項目にわたる分析を、同一発話データを対象におこなう。よって履修者は、各回の授業前にテキストを読解しておき、授業内ではグループに分かれてデータ分析の議論を行うことが要求される。		第1回 ガイダンス 第2回 談話分析概論 テキストp.1-p.31 第3回 談話分析概論 テキストp.21-p.39 第4回 談話データの処理方法 第5回 意図表現と解釈 テキストp.42-p.81 第6回 文脈情報と意味 テキストp.82-p.102 第7回 会話の構造 テキストp.104-p.126 第8回 会話のストラテジー テキストp.127-p.154 第9回 テキストと情報 テキストp.156-p.174 第10回 言語機能と文法 テキストp.175-p.190 第11回 言語と文化 テキストp.192-p.206 第12回 相互行為の理論 テキストp.207-p.221 第13回 相互行為の分析 テキストp.222-p.240 第14回 相互行為と社会分析 テキストp.241-p.268 第15回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
林宅男『談話分析のアプローチ～理論と実践』研究社(2008年)		授業内の発表内容と、期末レポートで評価する。また、授業への参加姿勢も加味し、出席をきびしく要求する。	

養 外言	日本語教育研究各論Ⅶ（日本語意味論・語用論） 日本語語彙・意味論	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 日本語の語彙論および語彙レベルでの意味論と、文および談話レベルの意味処理の問題である語用論について、その概要を理解するとともに、日本語教育への応用をかんがえることを目的とする。 〔講義概要〕 授業用に教科書となるプリントを用意するので、まずそれを読解してから参加することが要求される。授業自体は、当該プリントの内容について、履修者からの質問をうける形式で進行するので、積極的な参加姿勢が必要である。 その後日本語教育の実践的な場面では困難な課題とされる語彙教育、意味教育へ学習内容を応用すべく、履修者グループに対して、教材、学習活動、問題への応用を討議し、その結果を発表することを要求する。		第1回 ガイダンス 第2回 日本語の語彙(1)～語の特性と形成 第3回 日本語の語彙(2)～語の種類 第4回 日本語の語彙(3)～語の種類 第5回 日本語の語彙(4)～語の使用 第6回 意味論(1)～意味の意味 第7回 意味論(2)～意味の分解 第8回 意味論(3)～パラディグマティック性 第9回 意味論(4)～シンタグマティック性 第10回 語用論(1)～文の意味 第11回 語用論(2)～情報と意味 第12回 語用論(3)～場面と意味 第13回 語用論(4)～行為と意味 第14回 語用論(5)～含意 第15回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストとして、授業用に浅山が用意するプリントを使用する。		試験をおこない、その結果で評価する。必要に応じて、授業内での発表も加味する、また、出席をきびしく要求する。	

養 外言	日本語教育特殊研究Ⅰ（対照言語学・誤用分析 a） 対照言語学 a	担当者	白石 実
講義目的、講義概要		授業計画	
日本語と西語の共時的な比較対照及び誤用分析の方法を演習を通して学び、対照によって得られた知見を日本語教育にどのように応用するかを検討する。また、日本語教育への応用という観点から、日本語学習者にとって特に習得困難とされる項目を取り上げ、習得を困難にさせるさまざまな要因について検討したい。下記の項目は授業で取り上げる予定の項目であり、学生の興味、希望によっては変更される。 具体的なクラス運営 ① クラスの形態は講義と演習（学生による誤用分析）を中心とする。 ② 初級レベルのスペイン人学習者による日本語作文を資料とし、比較対照を行う演習形式をとる。		1. 講義の概要 2. 母語干渉と異文化要素 3. 言語の対照研究の役割と意義 4. 名詞 5. 形容詞 6. 指示代名詞 ーコソアド 7. 助詞 8. 語順 9. 動詞(1) 受け身・使役・可能 10. 動詞(2) 自動詞・他動詞 11. 授受表現 12. テンスとアスペクト ている、である、てしまう、ていく、なる 13. 時節、並立節、理由節、条件節 14. ムード たい、てほしい、ようだ、らしい、（し）よう 15. まとめ	
テキスト、参考文献			
基本的にはプリントの配布を中心とするが、参考文献として『対照研究と日本語教育』国立国語研究所（2002）を使用する。		①期末試験 ②レポートと課題発表	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	日本語教育特殊研究Ⅲ（文献読解 a） 日本語教育特殊講義(英文文献で読む日本語論 a)	担当者	白石 実
講義目的、講義概要		授業計画	
昨今、西欧の外国語教育は、人口移動と直接的接触の機会増加にともない、改善化の必要性が求められている。ヨーロッパ協議会はそのような背景から、外国語教育への問題提起として、言語学習と教育に従事する全てのものに、その仕事を始める前に、学習者の需要、動機、特徴、学習教材について反省をめぐらす意味で、「ヨーロッパ言語共通枠組み」を作成した。 この文献を基本に、複言語、複文化のヨーロッパにおける外国語学習及び言語教育の状況を理解し、その知見からこの「ヨーロッパ言語共通枠組み」を批判的に捉えて分析する。同時に日本語教育への応用という観点から、日本語学習者の要求、需要から見て何が有意義であるか、不必要であるか、どのような改善、展開が必要か等、さまざまな項目、要因について検討したい。		1. オリエンテーション（本文献、参考文献の提示等） 2. 概説 ①CEF の政治的及び教育的背景 3. 概説 ②CEF の理論的背景 4. 共通レベル参照 5. 言語使用と言語使用者 6. 学習者の能力 7. 言語学習と言語能力 8. 言語教育における課題 9. 言語の多様性とカリキュラム 10. 評価 11. 発表① 12. 発表② 13. 発表③ 14. 発表④ 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
『ヨーロッパ言語共通枠組み参照 Common European Framework of References for Languages』 『ヨーロッパにおける日本語教育と Common European Framework of References for Languages』（AJE）（2005）。		①期末試験 ②課題発表	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	日本語教育特殊研究Ⅴ（日本語教授法Ⅱ） 日本語教授法Ⅱ	担当者	坂谷 佳子
講義目的、講義概要		授業計画	
外国語として日本語を教える具体的な方法を学ぶ。日本語教育機関で実習を行なうための準備教育であり、演習中心の授業である。毎回、学生による模擬授業となる。模擬授業の担当者はまず教案を1週間前に教員に提出し、授業の準備を行う。模擬授業担当以外の学生は、仮の日本語学習者となり、その授業を受ける。その場合、学習者は授業の進行を客観的に観察し、担当者の行う教室活動、指導法を具体的に検討・評価する。一方、模擬授業担当者は自分の授業をビデオ録音し、授業後、自分の授業を観察し、さらに自己評価を行う。最後に、自己評価および他者からの観察シートをまとめ、自己分析に基づいて、レポートを提出する。 登録者数にもよるが、各自、少なくとも2回程度の模擬授業を行うことになる。 **注意： 1回目の授業で、担当の割り当て、日程を決定するので、必ず出席をすること。		1回目 ①オリエンテーション ②分担の取り決め ③教案の書き方 ー 復習 ④動詞の活用と分類 ー 復習 ⑤ドリル作成 ー 復習 ⑥授業観察シートの書き方 2回目より 担当者による模擬授業 授業担当者は1回につき2名。 30分の模擬授業と15分の質疑応答 指導内容：初級文型の導入と指導 中級読解の指導、など 模擬担当回数：履修者の数にもよるが、2回 1回目はペアで、2回目は一人で行う	
テキスト、参考文献		評価方法	
初級：『みんなの日本語』を中心に 参考文献：①「日本語の教え方の秘訣」スリーエーネットワーク ②「中・上級を教える人のための日本語文法ハンドブック」スリーエーネットワーク		①模擬授業 ②教案の提出 ③レポート （「授業観察シートのまとめと自己分析」を実習より1週間後以内に提出）④出席	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	日本語教育特殊研究Ⅴ（日本語教授法Ⅱ） 日本語教授法Ⅱ	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 外国語として日本語を教える具体的な方法を学ぶ。日本語教育機関で実習を行なう準備教育であり、演習授業である。 〔講義概要〕 毎回、学生による模擬授業となる。自分の意授業は必ず録画し、それをもとにした事後報告の提出を義務とする。また日本語教師として教壇に立つ以外の学生は、外国人学生になり、その授業を受けながら、授業の進行を客観的に観察し、授業観察記論をつける。 授業は、各回の前半が模擬授業、後半がそれについての討議と議論によって構成される。 模擬授業に使用するテキストは、『みんなの日本語（初級1・2）』（スリーエーネットワーク）および『ニューアプローチ中級日本語』（日本語研究社）を標準とする。		第1回 ①オリエンテーション ②分担の取り決め ③教案の書き方 ④授業観察の方法 第2回～第14回 担当者による模擬授業 第15回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
		①模擬授業、②教案と事後報告書、③授業観察のまとめのレポート、④出席の4項目によって評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	日本語教育特殊研究Ⅴ（日本語教授法Ⅱ） 日本語教授法Ⅱ	担当者	野村 美知子
講義目的、講義概要		授業計画	
日本語を外国語として教える具体的な方法を学ぶ。 日本語教育機関で実習を行うための準備教育であり、演習中心の授業である。 毎回、学生による模擬授業を行う。模擬授業の担当者は事前に教員に教案を提出し、指導を受けながら授業の準備を進める。模擬授業担当以外の学生は、仮の学習者となって授業を受けるが、その際授業の進め方も客観的に観察する。授業後、全員で担当者の行った教室活動や指導法について具体的に講評しあい、授業の改善を目指す。 担当回数と模擬授業時間は人数によって決めるが、全体を通して少なくとも1人2～3回は行う。 周到な準備とリハーサルを行ったうえで模擬授業に臨むことが求められる。		1 回目①オリエンテーション ②分担の取り決め、スケジュール決め ③初級の学習項目（確認） ④教案の書き方（確認） ⑤ドリルとアクティビティー ⑥授業観察の方法 ⑦評価方法説明 ⑧参考文献紹介 2 回目以降：担当者による模擬授業と各授業について全員での講評 必ず1回目から出席すること。2回目から模擬授業を行うので、そのつもりで参加すること。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『みんなの日本語 初級Ⅰ』（スリーエーネットワーク） 参考文献：『みんなの日本語初級Ⅰ 教え方の手引き』		①模擬授業の準備と実践 ②事前の教案提出 ③レポート（授業観察のまとめと自己分析）④授業への参加度	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	日本語教育特殊研究Ⅶ（教育実習） 日本語教育実習	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
獨協大学における日本語教員養成課程では、4年次における教育実習を必須としている。教授法2を修了していることが履修条件となる。実習は学外の日本語教育機関において、少なくとも2週間（70時間相当）にわたって行う。実習では、現場での訓練を通じ、日本語教育の諸問題を理解するとともに、学内で学んできたことを実際の教育現場において実践し、指導方法及び日本語教育への理解を深めることが目的となる。		各教育機関による。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各教育機関によって指定されるもの		基本的には実習効からの評価に基づく。 欠席、遅刻、不真面目な勤務態度は厳しい評価となる。	

養 外言	日本語教育特殊研究Ⅶ（教育実習） 日本語教育実習	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
獨協大学における日本語教員養成課程では、4年次における教育実習を必須としている。教授法2を修了していることが履修条件となる。実習は学外の日本語教育機関において、少なくとも2週間（70時間相当）にわたって行う。実習では、現場での訓練を通じ、日本語教育の諸問題を理解するとともに、学内で学んできたことを実際の教育現場において実践し、指導方法及び日本語教育への理解を深めることが目的となる。		各教育機関による。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各教育機関によって指定されるもの		基本的には実習効からの評価に基づく。 欠席、遅刻、不真面目な勤務態度は厳しい評価となる。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	教育科学研究Ⅰ（教育の原理）	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 教育の本質を理解するために、自らの教育観を相対化しつつ、さまざまな基本的概念を学び、教育に対する考え方の基礎を養います。 【概要】 1. 教育の思想と歴史の概略を基礎として、子どもの権利条約や教育基本法等を素材にし、人権と子どもの権利、能力の問題、義務教育等の、教育において基本的な概念や考え方を学びます。 2. 教育と学習との関係を、ビデオ、教育の時事問題や教育実践などを教材として、様々な角度から考えていきます。		第1回：講義の進め方の説明 第2回：学力問題の国際比較（ドイツの事例） 第3回：習熟度別学級編成の問題 第4回：学力問題の国際比較（フィンランドの事例） 第5回：系統学習と問題解決学習について 第6回：「学力低下」と学力テストについて 第7～9回：戦後の教育の思想と歴史 第10回：「能力に応じた」教育を考える 第11回：教育における競争と自由の問題を考える 第12回：子どもの権利条約の精神 第13回：子どもに固有する権利と人権 第14回：子どもとはどういう存在か（系統発達と子どもの発見） 第15回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
『ポケット版 子どもの権利ノート』（300 円） 参考文献は、授業中適宜紹介します。授業資料は講義支援システムを利用して配布します。		授業内試験結果に、授業レポートシステムを利用したレポートや感想文を加味します。実施した場合には小テストの点数等も加味します。出席は6割以上、授業内試験の受験を必須とします。	

養	教育科学研究Ⅰ（教育の原理）	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
●講義目的 教職課程履修者が最初に受講するものと想定している。したがって、教職課程の基礎理論編として、教育哲学、教育史、教育制度、教育法などの基礎を広く扱う。 ●講義概要 1回目のガイダンスでは、授業の進め方や評価方法、参考文献等を指示する。 2～4までは、日本の戦後教育の成り立ちとその理念について憲法・教育基本法体制を中心に扱う。 6～8までは、国家と教育とのかかわりについて、教科書検定や、学力テストの関係を中心に検討する。 9～11までは、教育と経済の関係において、とくにキーとなる「能力主義」を中心に扱う。 12～14までは教育の自由や、公共性の問題を扱いながら、教育基本法の改正動向等についても検討する。 ※授業内容の変更もありうる。		1. 講義についてのガイダンス 2. 戦後教育改革をどうとらえるか① 3. 戦後教育改革をどうとらえるか② 4. 戦後教育改革をどうとらえるか③ 5. 国家と教育① 6. 国家と教育② 7. 国家と教育③ 8. 小テスト&まとめ 9. 経済と教育① 10. 経済と教育② 11. 経済と教育③ 12. 教育の自由と公共性① 13. 教育の自由と公共性② 14. 教育の自由と公共性③ 15. 小テスト&まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
		①授業への出席、発言などの貢献、②授業レポートシステムの提出・内容、③テスト等を総合的に評価する。 <u>評価方法等の詳細は一回目のガイダンスで指示する。</u>	

養	教育科学研究Ⅰ（教育の原理）	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
●講義目的 教職課程履修者が最初に受講するものと想定している。したがって、教職課程の基礎理論編として、教育哲学、教育史、教育制度、教育法などの基礎を広く扱う。 ●講義概要 1回目のガイダンスでは、授業の進め方や評価方法、参考文献等を指示する。 2～4までは、日本の戦後教育の成り立ちとその理念について憲法・教育基本法体制を中心に扱う。 6～8までは、国家と教育とのかかわりについて、教科書検定や、学力テストの関係を中心に検討する。 9～11までは、教育と経済の関係において、とくにキーとなる「能力主義」を中心に扱う。 12～14までは教育の自由や、公共性の問題を扱いながら、教育基本法の改正動向等についても検討する。 ※授業内容の変更もありうる。		1. 講義についてのガイダンス 2. 戦後教育改革をどうとらえるか① 3. 戦後教育改革をどうとらえるか② 4. 戦後教育改革をどうとらえるか③ 5. 国家と教育① 6. 国家と教育② 7. 国家と教育③ 8. 小テスト&まとめ 9. 経済と教育① 10. 経済と教育② 11. 経済と教育③ 12. 教育の自由と公共性① 13. 教育の自由と公共性② 14. 教育の自由と公共性③ 15. 小テスト&まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
		①授業への出席、発言などの貢献、②授業レポートシステムの提出・内容、③テスト等を総合的に評価する。 <u>評価方法等の詳細は一回目のガイダンスで指示する。</u>	

養	教育科学研究Ⅱ（教育の歴史1）	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
教育を歴史的に振り返ることで、今日の教育や社会を相対化する視点を得ることを第一の目的とします。また、前近代の教育の歴史の概略を理解することを第二の目的とします。 本講義では日本の前近代の教育史を担当しますが（2では近代以降になります）、具体的には江戸時代とそれを前後する時期の、教育の実際の姿（手習塾や藩校、子育て習俗等）および教育思想（貝原益軒等）を扱います。 江戸時代には、現代とは全く異なった枠組みで教育的営為が行なわれていました。そのため、初学者にも分かりやすいよう、画像を含めた資料を用いながら丁寧に講義するつもりです。		1 ガイダンス 2 日本の前近代（江戸という時代とその民衆） 3 子育ての習俗 4 江戸時代の二つの知 5～7 江戸時代の教育諸機関とその研究 8 キリスト教伝来と日本人の対応 9～10 朱子学と日本の儒学 11 江戸時代の思想の流れ 12 貝原益軒の儒学と教育思想 13 民衆の儒学と民衆の教育 14 「学制」による知の統合 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援システムを利用して配付するプリント類。参考文献は授業中に紹介します。		授業内試験、最終レポートおよび、授業レポートシステムを利用したレポートや感想文などを総合して評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	教育科学研究Ⅳ（教職論）	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 本講義は、教育職員免許法に規定された教職の意義等に関する科目であり、教職課程履修の基礎的・基本的な科目として位置づけられている。本講義においては、教職の概要を理解するとともに、教職に必要不可欠な基礎的・基本的な知識や技能を習得することを目的とする。 【概要】 本講義では、グループ討議や研究協議などを通して教職の意義、教員の身分や服務、職務の内容や必要とされる資質などについての主体的な理解を深めていく。教員が直面している諸課題についても取り上げ、教育に対する質の高い関心と教職に対する熱い情熱や崇高な使命感の醸成を図っていく。		第1回：オリエンテーション 第2回：期待される教師像と目指す教師像 第3回：教員の資質・能力 第4回：教員養成と教員免許 第5回：教員の任用と教育委員会 第6回：教員の身分と服務 第7回：教員の職務(1) 教員の日・学校運営と校務分掌 第8回：教員の職務(2) 学習指導と生徒指導 第9回：教員の研修 第10回：教員の人事評価 第11回：教職の現代的課題(1) 少年非行問題 第12回：教職の現代的課題(2) いじめ問題 第13回：教職の現代的課題(3) 不登校問題 第14回：教職の現代的課題(4) 教職員事故 第15回：教育理念と教育信条	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義毎に配布する資料。参考文献は講義内容に応じて適宜紹介する。		平常点（30%）、課題レポート（20%）、試験（50%）により、出席3分の2以上の受講者を評価対象者として総合的に評価する。	

養	教育科学研究Ⅳ（教職論）	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）			
テキスト、参考文献		評価方法	

養	教育科学研究Ⅳ（教職論）	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 教職課程で学ぶ諸科目の入門として、教職の意義と教職に就く心構えを学び、さまざまな角度から教育に対する見方を鍛えることを目標とします。 【概要】 1. 「学級崩壊」「いじめ」「体罰」など、現代教育の抱えている諸問題を取り上げて、実態をビデオ等により確認し、参加者で討議します。こうした問題への教師の取り組みを考えることを通して、教職の意義及び教員の役割および教員の職務内容を学びます。 2. 進路選択に資する各種の機会の提供を行ないます。 3. 諸問題が教育や社会に投げかけている問題を認識し、教職の役割を明確にすることで、今後の学習につなげていく道筋を理解していきます。特に体罰については、その問題点をきちんと理解することを求めます。 【要望】 ・ビデオを見たり、グループ討議を取り入れるので、遅刻や欠席は避けてください。討論がどうしても嫌だという人はこの講義には向きません。 ・右の講義計画は、討論の進み具合等によって、変更することがあります。		第1回：講義の進め方の説明／本学で教職免許状が取得できる理由／教職の意義と役割 第2回：学級崩壊を考える（実態把握）／宿題：学級崩壊への対処について 第3回：学級崩壊を考える（グループ討論） 第4回：学級崩壊を考える（グループ討論のプレゼンテーション）／宿題：少年法改正について 第5回：ADHDを考える（実態把握）／宿題：ADHDから学ぶこと 第6回：体罰を考える（グループ討論） 第7回：体罰を考える（体罰に関する理論的問題） 第8回：体罰を考える（裁判例と実態把握） 第9回：いじめを考える（実態把握）／宿題：いじめへの対処について 第10～11回：いじめを考える（グループ討論・発表） 第12回：教員の職務内容（研修、服務、身分保障）と職業選択の問題について 第13回：教師の専門職性を考える 第14回：様々な進路選択の問題を考える 第15回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援システムを利用して配布するプリント類によります。 参考文献は、授業中に適宜紹介します。		期末レポートと、数回の小レポートを総合評価します。出席は、6割以上を必須とし、毎回授業レポートシステムを利用して学んだことを記述してもらいます。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	担当者	白砂 佐和子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、教育現場で働くにあたって重要と思われる「人間関係能力」の理解を念頭におきつつ、教育現場で活かしていく教育心理学の習得を目的としたい。 最初に、教育心理学のこれまでの知見を踏まえ、続いて人格の形成、発達上の課題、子どもたちにみられる不適応の諸相等について、現場と理論のつながりを考えながら講義していきます。		1. 教育心理学について 2. 動機づけ理論 3. 人格の理解（1） 4. 人格の理解（2） 5. 学習心理学 6. 記憶・認知の心理学 7. 発達心理学序論・ライフサイクル 8. 乳幼児期の重要性（1） 9. 乳幼児期の重要性（2） 10. 子どもの心理臨床について 11. 発達上の課題 学童期前半 12. 発達上の課題 学童期後半 13. 発達上の課題 思春期 14. 発達上の課題 青年期以降 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし（適宜レジュメを用意する）		出席状況と期末試験の結果を合わせて評価する。	

養	教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	担当者	森川 正大
講義目的、講義概要		授業計画	
人間は、「こども」から「おとな」へと変化する存在であり、その過程は、家庭、学校、および社会による教育機能に支えられる。 教育は、人間の「発達」および「学習」の過程にかかわるはたらきであるが、この科目は、学校教育の心理学的基礎として、乳幼児期から青年期までの心身の発達と学習の過程について学び、かつ、青年期の「こども」にかかわる教師の役割について理解を深めることを目標とする。また、学習障害、発達障害、その他、障害のある「こども」の心身の発達および学習の過程についてもとり上げる。 講義のほか、自己理解、他者理解を深めるための簡単なワークを取り入れ、生徒とのリレーション、教師のあり方についても考える機会としたい。		- 第1回：この授業の目標と進め方 - 第2回：学校・生徒の現状と学校教育の課題 - 第3回：教育心理学の課題 - 第4回：人間の成長と発達の原理 - 第5回：発達段階と発達課題 - 第6回：児童期までの発達 - 第7回：青年期の発達 - 第8回：社会性・道徳性の発達 - 第9回：学習の原理 - 第10回：内発的動機づけと学習意欲 - 第11回：個人差と教育／障害のある生徒と教育の課題 - 第12回：アイデンティティの形成 - 第13回：教育測定と評価 - 第14回：教師の自己点検 - 第15回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いない。プリントによる。 参考文献は必要に応じて示す。		出席状況、授業中に課す提出物（「ワークシート」、「ふりかえり」用紙など）、期末レポートを総合して評価する。 試験は行わない。	

養	教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
今日、日本の教育環境は大きな転換点にさしかかっている。このように激変しつつある教育現場に携わるときに必要なとされる心理学の基礎的知識について、本講義を通して理解を深めてほしい。 教育心理学には大きく（１）測定・評価、（２）人格・適応、（３）発達、（４）学習という４つの領域がある。本講義ではまず教育心理学が成立した歴史的背景を述べた上で、これらの４領域の内容を詳しくみていくことにする。すなわち、１．教育心理学とはなにか、２．教育評価と学力問題、３．学習の過程と学習への動機付け、４．発達および発達障害などについて講義していく予定である。		授業計画 第１回：教育心理学の領域とその歴史 第２回：教育測定と教育評価 第３回：教育評価の方法 第４回：教育評価と学力問題 第５回：学習の原理 第６回：学習における動機付け 第７回：学習意欲と原因帰属 第８回：学習意欲と目標理論 第９回：学習意欲と教師の役割 第１０回：発達と学習 第１１回：心理アセスメントと発達障害 第１２回：学習障害の理解 第１３回：AD/HD の理解 第１４回：自閉性障害の理解 第１５回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
特定のテキストは使用しない。毎回レジュメを配布して授業をおこなう。また、必要な資料は授業において配布する。		授業時の小レポートおよび学期末の試験により総合的に評価をおこなう。	

養	教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
半期完結授業のため春学期の内容を参照のこと			
テキスト、参考文献		評価方法	

養	教育科学研究VI（こころの世界）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、まず、現代心理学の成立過程を概観する。その後、性格の形成、ストレス、生きがいと心の健康などのテーマについて、さまざまなデータを示しながら説明していく。 本講義を通して、心理学がいかにして人の心を科学的にとらえようとしてきたかを理解してもらいたい。また、心理学の基本的知識を習得し、同時に、社会の諸問題や人間の行動を心理学的視点で捉える力を身につけてほしい。		以下のような計画で講義をおこなっていく予定である。 1. はじめに：科学としての心理学 2. 心理学のあゆみ①：哲学的心理学・心理学の誕生 3. 心理学のあゆみ②：ゲシュタルト心理学 4. 心理学のあゆみ③：行動主義の心理学 5. 心理学のあゆみ④：精神分析理論 6. 性格とは？：自己の性格理解 7. 性格をとらえる枠組み：性格理論 8. 性格の形成：遺伝的要因と双生児研究 9. 性格の形成：環境的要因 10. ストレス①：ストレスと性格 11. ストレス②：ストレス・コーピング 12. ストレス③：ストレスの生理心理学 13. 現代社会とストレス 14. 現代社会とこころの病 15. 生きがいとこころの健康	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。		授業における小レポートと試験により総合的に評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	教育科学研究各論Ⅰ（比較教育制度論）	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 本講義は、教育職員免許法に規定された教育の基礎理論に関する科目であり、教職課程履修の基礎的・基本的な科目として位置づけられている。本講義においては、日本の教育制度の意義や構造の概要を理解するとともに、生涯学習社会における学校教育、家庭教育、社会教育の関係性にも触れながら教育制度全般に対する基礎的・基本的な識見をはぐくむことを目的とする。 【概要】 本講義では、グループ討議や全体討議などを通して、日本の教育制度の意義や構造、教育改革の現状と課題などについて主体的な理解を深めていく。教育行政、学校・家庭・社会教育との関連や諸外国の教育制度にも触れながら教育に対する質の高い関心と熱い情熱や崇高な使命感の醸成を図っていく。		第1回：オリエンテーション 第2回：教育の制度化 第3回：学校教育制度の概要 第4回：学校教育制度の変遷 第5回：公教育と私教育 第6回：教育行財政 第7回：教育委員会制度 第8回：教育課程と学習指導要領 第9回：諸外国の教育制度 第10回：家庭教育の現状と課題 第11回：社会教育の現状と課題 第12回：教育改革の現状と課題(1) 学校評価・人事評価制度 第13回：教育改革の現状と課題(2) 学校選択制・小中高一貫教育 第14回：教育改革の現状と課題(3) 学校評議員・学校運営協議会 第15回：教育改革の現状と課題(4) 初任者研修・教員免許更新制度	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義毎に配布する資料。参考文献は講義内容に応じて適宜紹介する。		平常点（30%）、課題レポート（20%）、試験（50%）により、出席3分の2以上の受講者を評価対象者として総合的に評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	教育科学研究各論Ⅰ（比較教育制度論）	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
●講義目的 教育に関わる法制度の理論と仕組みを理解した上で、新しい動向を検討することを目的としている。 ●講義概要 2, 3は他の行政分野とは異なる仕組み、教育委員会を中心にその仕組みと、準公選制度を実施した中野区の事例を検討する。 4, 5は学校運営の仕組みを概観した後、世界的動向ともいえる「自律的学校経営」について、日本の学校評議員や韓国の学校運営委員会制度などとも比較しながら検討する。 7, 8では教育行政の主な役割とされる教育条件整備について学級定員、および例外事項としての教員給与を扱う。 9, 10では教員養成の仕組みについて、戦後の教員養成制度の特徴および最近の動向、そして日本が範としたフィンランドの教員養成を検討する。 11, 12, 13では教科書編成を中心とした仕組みを検討し、独自の副読本づくりを行った犬山市の事例を検討する。 また、随時用語説明を中心とした小テストを実施し、理解と定着を図りたい。		1. ガイダンス（講義の目的、進め方についての説明など） 2. 教育行政を動かす組織—教育委員会制度 3. 教育委員会制度（中野区・韓国？） 4. 学校運営の仕組み 5. 学校運営の新しい動向（韓国の学校運営委員会） 6. 小テスト 7. 条件整備行政の仕組み 8. 条件整備行政の新しい動向（少人数学級） 9. 教員の養成・採用・研修・身分の仕組み 10. 教員政策の新しい動向（社会人の登用） 11. 教員政策の新しい動向（教員評価） 12. 教育課程行政と教科書の仕組み 13. 教育課程行政と教科書の新しい動向（犬山市） 14. 小テスト 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：勝野正章・藤本典裕編（2008）『教育行政学（改訂版）』学文社 参考文献：授業中に適宜指示する		①出席、発言など、②授業レポートシステム、③小テスト、④学期末テスト（レポート）などで評価する。 評価方法などは第一回目に指示する。	

養	教育科学研究各論Ⅰ（比較教育制度論）	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
●講義目的 教育に関わる法制度の理論と仕組みを理解した上で、新しい動向を検討することを目的としている。 ●講義概要 2, 3は他の行政分野とは異なる仕組み、教育委員会を中心にその仕組みと、準公選制度を実施した中野区の事例を検討する。 4, 5は学校運営の仕組みを概観した後、世界的動向ともいえる「自律的学校経営」について、日本の学校評議員や韓国の学校運営委員会制度などとも比較しながら検討する。 7, 8では教育行政の主な役割とされる教育条件整備について学級定員、および例外事項としての教員給与を扱う。 9, 10では教員養成の仕組みについて、戦後の教員養成制度の特徴および最近の動向、そして日本が範としたフィンランドの教員養成を検討する。 11, 12, 13では教科書編成を中心とした仕組みを検討し、独自の副読本づくりを行った犬山市の事例を検討する。 また、随時用語説明を中心とした小テストを実施し、理解と定着を図りたい。		1. ガイダンス（講義の目的、進め方についての説明など） 2. 教育行政を動かす組織—教育委員会制度 3. 教育委員会制度（中野区・韓国？） 4. 学校運営の仕組み 5. 学校運営の新しい動向（韓国の学校運営委員会） 6. 小テスト 7. 条件整備行政の仕組み 8. 条件整備行政の新しい動向（少人数学級） 9. 教員の養成・採用・研修・身分の仕組み 10. 教員政策の新しい動向（社会人の登用） 11. 教員政策の新しい動向（教員評価） 12. 教育課程行政と教科書の仕組み 13. 教育課程行政と教科書の新しい動向（犬山市） 14. 小テスト 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：勝野正章・藤本典裕編（2008）『教育行政学（改訂版）』学文社 参考文献：授業中に適宜指示する		①出席、発言など、②授業レポートシステム、③小テスト、④学期末テスト（レポート）などで評価する。 評価方法などは第一回目に指示する。	

養	教育科学研究各論Ⅱ（教育課程論）	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 本講は、学力、評価、総合的学習など、今日の学校教育の内容をめぐる問題状況をふまえながら、教育課程の研究、実践に関する今日的課題について考察することを目的とする。 講義概要 学校において展開されている毎日の授業や諸活動は、一定の教育目的を達成するために編成される教育内容に関する計画である教育課程に基づいて行われている。いわば、教育課程は、学校教育における中核としての役割を果たしている。本講では、以上のような観点から、教育課程の編成と評価という問題を中心に、わが国の戦後教育の歩みと教育課程の変遷、新教育課程の分析と課題の検討、今日の学力問題等の問題を取り上げ、各種資料、VTR教材などを用いながら、多面的に検討を加え、教育課程研究に関する理解を深めていく。		1 教育課程と学力問題 2 教育課程とは何か 3 日本の教育課程(1) 4 日本の教育課程(2) 5 教育課程編成の理論と方法(1) 6 教育課程編成の理論と方法(2) 7 教育課程編成の理論と方法(3) 8 学習指導要領と教育課程(1) 9 学習指導要領と教育課程(2) 10 学習指導要領と教育課程(3) 11 学習指導要領と教育課程(4) 12 新学習指導要領の検討 (1) 13 新学習指導要領の検討 (2) 14 教育課程と評価 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『中学校学習指導要領』『同解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『同解説 総則編』その他は、講義の中で紹介する。		出席（7割以上、厳守のこと）、レポート、試験による総合評価	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	教育科学研究各論Ⅱ（教育課程論）	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
教育課程とは、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の目標や内容、授業時数などを総合的に組織した学校の教育計画である。この教育課程は、校長を中心として全教職員の参画の下に、学校が主体性を持って編成していかなければならない。したがって、教職に携わる者は、教育課程に関する基礎的・基本的な事項を修得しておかなければその使命と責務を果たすことはできない。 本講義では、平成20年に改訂された学習指導要領を踏まえ、教育課程の概念や意義、教育課程編成の一般方針、指導計画の作成、編成の手順と評価等について研究を深めつつ実践能力をはぐくむことを目的とする。		第1回 オリエンテーション 第2回 教育課程の概念と意義 第3回 教育課程の基準と編成主体及び原則 第4回 教育課程編成の基本方針 第5回 各教科等の授業時数等 第6回 学習指導要領の意義と法的根拠 第7回 学習指導要領の内容 第8回 各教科等の指導内容 第9回 教育課程実施上の配慮事項 第10回 教育課程編成の手順と指導計画の作成 第11回 演習1 週日課の作成 第12回 演習2 週日課の作成 第13回 演習3 時間割の作成 第14回 演習4 時間割の作成 第15回 教育課程の評価と改善	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中・高等学校学習指導要領解説・総則編』 講義毎に配布する資料 参考文献は講義内容に応じて適宜紹介する。		平常点（30%）、課題レポート（20%）、試験（50%）により、出席3分の2以上の受講者を評価対象者として総合的に評価する。	

養	教育科学研究各論Ⅱ（教育課程論）	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）			
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	教育科学研究各論Ⅲ（カウンセリング論） 人間関係とカウンセリング a	担当者	瀧本 孝雄
講義目的、講義概要		授業計画	
カウンセリング全般について、その理論と技法について学習する。 まず、カウンセリングの定義、歴史、それぞれの理論の特徴と具体的な技法について学習する。特に、カウンセリングにおける傾聴の重要性を理解する。 さらに、ロールプレイや心理テストを実施する。 言語文化学科の専門科目であるが、全学科の2年生以上の学生は受講できる。 出欠は毎回取る。実習をするので出欠を重視する。		1.講義の概要 2.カウンセリングとは何か 3.カウンセラーの役割と資格 4.カウンセラーの世界（相談機関） 5.カウンセリングと心理療法 6.クライアント中心カウンセリング（1） 7.クライアント中心カウンセリング（2） 8.精神分析的カウンセリング 9.認知行動カウンセリング 10.傾聴の理論 11.傾聴の実習 12.ロールプレイの実習 13.心理テストの実施 14.講義のまとめ（1） 15.講義のまとめ（2）	
テキスト、参考文献		評価方法	
『カウンセリングへの招待』 瀧本孝雄著 サイエンス社		講義、グループ・ワークに関するレポートおよび出席状況による。実習をするので出欠を重視する。	

養 外言	教育科学研究各論Ⅳ（パーソナリティ理論） 人間関係とカウンセリング b	担当者	瀧本 孝雄
講義目的、講義概要		授業計画	
人の行動の特徴を表わす言葉として、心理学ではパーソナリティという言葉が使われている。われわれが人を理解するとき、このパーソナリティという用語は非常に重要な概念の一つである。 本講義では、パーソナリティの定義、理論、形成、発達について学習し、またパーソナリティと関連の深い葛藤、フラストレーション、防衛機制などの諸問題について考察する。 さらに、パーソナリティ・テストの方法について理解し、テストを実施することで、自己理解を深めていく。 言語文化学科の専門科目であるが、全学科の2年生以上の学生は受講できる。 出欠は毎回取る。実習をするので出欠を重視する。		1.講義の概要 2.パーソナリティとは何か 3.パーソナリティの類型論 4.パーソナリティの特性論 5.パーソナリティ形成の諸理論 6.パーソナリティの発達 7.青年期のパーソナリティ 8.成人期・老年期のパーソナリティ 9.文化とパーソナリティ 10.フラストレーションと葛藤 11.防衛機制 12.パーソナリティ・テストの種類と方法 13.パーソナリティ・テストの実施 14.講義のまとめ（1） 15.講義のまとめ（2）	
テキスト、参考文献		評価方法	
『カウンセリングへの招待』 瀧本孝雄著 サイエンス社		講義、グループワークに関するレポートおよび出席状況による。実習をするので出欠を重視する。	

養	教育科学研究各論Ⅴ（学校カウンセリング）	担当者	瀧本 孝雄
講義目的、講義概要		授業計画	
まず初めに教育相談とは何かについて考察し、その具体的内容について検討する。次に、カウンセリングについての理論、技法等について全般的に学習する。 さらに学校カウンセリングの目標と方法に関して具体的に学習する。特にいじめ、校内暴力、非行、情緒障害等について、教育相談との関連において考察していく。さらに心理テストについて概説し、カウンセリングにおける心理テストの役割を考察したうえで、実際に心理テストを実施する。 また、養護教諭、学校医、スクールカウンセラー等の職務の実際や連携について考察する。		第1回：ガイダンス 第2回：グループ・ワーク 第3回：教育相談とは何か 第4回：教育相談の内容 第5回：養護教諭、学校医の役割 第6回：スクールカウンセラーの役割 第7回：カウンセリングの目的とその意義 第8回：カウンセリングの理論と技法 第9回：学校カウンセリングの目的と特徴 第10回：学校カウンセリングの方法 第11回：中学生・高校生と学校カウンセリング 第12回：生徒の問題行動 第13回：生徒の精神衛生 第14回：心理テストの理論と実際 第15回：全体のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
『カウンセリングへの招待』瀧本孝雄著 サイエンス社 2006		評価方法は講義、グループ・ワークに関する小テスト、レポートおよび出席状況による。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	教育科学研究各論Ⅴ（学校カウンセリング）	担当者	森川 正大
講義目的、講義概要		授業計画	
不登校、無気力、いじめ、自殺、非行、暴力行為など、教育現場には生徒の心にかかわる問題が山積している。また、学級崩壊、教師の問題行動など、教師の資質や心のあり方が問われることも多い。 この科目は、学校カウンセリングの基礎的知識と技法を身につけることにより、教科教育以外の教師の役割理解を深め、資質向上を図ることを目標とする。 授業回数が限られているので、カウンセリングの理論学習は時間外の自習に期待し、教室においては、できるだけカウンセリングの技法や実際についての体験学習を取り入れて、カウンセリングを実感できるよう工夫したい。 講義のほか、ロールプレーやVTR・テープ視聴等を併用する。		第1回：この授業の目標と進め方 第2回：学校・生徒の現状とカウンセリングの必要性 第3回：カウンセリングとは 第4回：カウンセラーの役割、教師の役割 第5回：生徒理解と援助のポイント(1)：「不登校」 第6回：生徒理解と援助のポイント(2)：「いじめ」その他 第7回：カウンセリングの実際(1)：紙上応答実習 第8回：カウンセリングの実際(2)：良い面接と問題のある面接（テープを聞く） 第9回：カウンセリングの理論と技法(1)：諸理論の人間観と治療目標・技法の比較 第10回：カウンセリングの理論と技法(2)：諸理論に共通する基本的技法（傾聴、応答、反映、ほか） 第11回：学校カウンセリングと心理テスト 第12回：キャリアカウンセリングの基礎 第13回：保護者への援助：コンサルテーション 第14回：校内組織、校外機関の活用と連携 第15回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いない。プリントによる。 参考文献は必要に応じて示す。		出席状況、授業中に課す提出物（「ワークシート」、「ふりかえり」用紙など）、期末レポートを総合して評価する。試験は行わない。	

養	教育科学研究各論Ⅴ（学校カウンセリング）	担当者	鈴木 乙史
講義目的、講義概要		授業計画	
学校場面で必要とされるガイダンスとカウンセリングの知識・技術を講義する。また学校という場の特徴を知り、そこでの教育相談全般および教職員相互の連携について、特に多く見られる諸問題、例えば、不登校・いじめ・集団不適応的行動などについて、個々の事例を分析・検討しながら、その効果的対処法を考える。カウンセリングの技術に関しては、適宜実習を行う。		第1回：オリエンテーション 第2回：学校カウンセリングとは 第3回：学校という場の特徴 第4回：学校における教育相談 第5回：教職員相互の連携について 第6回：カウンセリングとガイダンスの方法 第7回：カウンセリングの基礎と応用（1） 日常会話とカウンセリングでの会話 第8回：カウンセリングの基礎と応用（2） 応答の技法 第9回：カウンセリングの基礎と応用（3） 質問の技法 第10回：不登校の事例検討（1）小学生の事例 第11回：不登校の事例検討（2）中学生の事例 第12回：いじめの事例検討（1）孤立したケース 第13回：いじめの事例検討（2）グループ内で起きたケース 第14回：その他の学校不適応問題 第15回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使わない。その都度、必要なプリントを配布する。		期末レポートおよび授業中に与える小課題や出席などから評価する。	

養	教育科学研究各論VI（こども論）	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
●講義目的 子どもを取り巻く子育て、貧困、少年事件などのトピックに関する政策のを再度検討することを目的としている。 政策が立案される背景には、言説——たとえば親の教育力が低下した、や少年犯罪は増加・凶悪化の一途をたどっている、など——があるがそれらははたして本当なのか。本当だとしたなら、その現状に照らして政策は適切なのか。 これらを考える契機となるような講義にしたいと考えている。 ●講義概要 2，3では「親の教育力が低下した」という言説の根拠を歴史を中心として探っていく。 4～6では子どもの貧困の現状や政策の現状を概観し、検討していく。 8～10では、改正された少年法の内容とその意味を考える。合わせて厳罰化で少年犯罪が減少するののかもアメリカ等の事例を参考に検討していく。 11～13では、子ども（子育て）支援の動向を、イギリス、フランス、スウェーデン、韓国を例に検討し、日本の支援の在り方を考える。		1. ガイダンス（授業の進め方等について） 2. 子どもの貧困①（子どもの貧困を測る） 3. 子どもの貧困②（誰のための政策か） 4. 子どもの貧困③（母子世帯の子ども） 5. 小テスト&まとめ 6. 少年事件①（少年事件は増加したか） 7. 少年事件②（少年法が変わった） 8. 少年事件③（共生の可能性を探って） 9. 小テスト&まとめ 10. 日本における子育て支援 11. 子育て支援の国際比較① 12. 子育て支援の国際比較② 13. 子育て支援の国際比較③ 14. 小括&小テスト 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：特になし 参考文献：授業中に適宜指示する		①授業への参加、発言などの貢献、②レポートシステムの提出、内容、③学期末レポートなどを総合的に評価する。 ※評価方法等は1回目の授業で説明する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	教育科学研究各論Ⅶ（認知科学） 認知科学	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
認知科学は、人間の「知」のしくみやはたらきを明らかにしようとする学際的な学問であり、その研究領域は広範囲におよぶ。ここでは、とくに認知心理学で得られた研究成果を中心にみていくことにする。また、授業では受講者自身に実験や調査（文献調査も含む）を実施してもらい、その結果をまとめて、授業にてレポート発表してもらう予定である。これらのレポートや授業での発言をもとに成績評価をおこなう。 授業内容は、まず、人間の「知」のしくみの基盤をなす「知覚」についてあつかう。つぎに、動物にとって重要な認知機能である「記憶」についてみていく。さらに、近年飛躍的に解明が進んでいる「脳の機能」についてビデオ教材なども使用してみていくことにする。初回授業にて授業の進め方をより詳しく説明するので履修予定者には必ず出席することを求める。		授業計画は以下の通り 1. 認知科学とは（授業概要） 2. 認知科学の歴史 3. 視知覚の特性①（概説） 4. 視知覚の特性②（実験・調査） 5. 視知覚の特性③（レポート発表） 6. 音の知覚 7. 学習と記憶①（学習の原理） 8. 学習と記憶②（実験と調査） 9. 学習と記憶③（レポート発表） 10. 記憶のしくみ①（記憶の過程） 11. 記憶のしくみ③（実験と調査） 12. 記憶のしくみ④（レポート発表） 13. 言語と脳 14. 認知工学と脳 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。必要ない資料は配付する。		レポートと授業での発表内容により評価する。	

養 外言	教育科学研究各論Ⅶ（認知科学） 認知科学	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
半期完結授業のため春学期と同内容			
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	教育科学特殊研究Ⅱ（教師と語る）	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
1. 目的：教育の実際の姿を、実践記録を読みあい、教育現場の小中学校の教師との討論を通じてつかみます。そのなかで、特に生活指導についての理解を深めます。 2. 概要：教室での講義・討論と、埼玉県教師の研究会合宿（懇親会を含む）への参加とで構成します。そのため、右記の研究会合宿に必ず参加して下さい（参加費は 9000 円程度）。研究会合宿に参加できない場合には、この授業を受講しても、単位を認定することはできません。 3. 研究会合宿で 7 コマ相当の実践的学修をするため、教室での講義は 8 回程度とします。2 回目以降の日程は相談の上、決定するため、初回の授業には必ず参加して下さい。参加できなかった場合には、研究室（720）を訪れてください。 4. 教職課程に登録している必要はありません。 5. 履修登録の上限を 30 名とします。 6. 春または秋学期だけを履修してもいいですが、できるだけ春と秋の両方を受講して下さい。		1 講義の進め方等の説明／参加者自己紹介 2～7 実践記録を読む 8 研究会合宿参加のまとめ 研究会は、12 月 3・4 日（土・日）、またはその前後の土日、場所は森林公園近くのホテルの予定です。	
テキスト、参考文献		評価方法	
高橋陽一他編『生活指導論』（武蔵野美術大学出版局、1900 円）		研究会合宿と講義への出席と最終レポートによります。研究会合宿に参加しない場合には、不可とします。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	教育科学特殊研究Ⅲ（心理検査法と自己理解）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
受講者にさまざまな心理検査やグループ・ワークなどを実践してもらい。これらの学習を通して、心理学の基本的知見を習得してほしい。また、心理検査の結果を分析して自己理解を深めてもらうことも本講義の目的である。心理検査やグループワークを実践した後には、結果をレポートにまとめてもらう。関連するビデオを視聴し、レポートを書いてもらうこともありうる。 ※履修者には授業で使用する心理検査用紙の実費（2000 円程度）を負担してもらう。履修が決定したら自動発行機で申請書を購入すること。授業時に申請書と引き換えに検査用紙を配布する。初回の授業にて履修制限や検査用紙代納入方法について説明するので欠席しないこと。		授業計画は以下のとおりである。 1. 心理検査とは？ 2. 心理検査の種類と理論 3. 質問紙による性格検査① 4. 質問紙による性格検査② 5. ストレス・コーピング 6. 絵からみる家族像 7. 知能検査 8. 感情指数 9. 職業興味 10. 仕事と自己理解 11. グループ・ワークによる自己理解① 12. グループ・ワークによる自己理解② 13. グループ・ワークによる自己理解③ 14. グループ・ワークによる自己理解④ 15. 心理検査による自己理解のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
各種の心理検査用紙はこちらで用意する。ただし、履修者には、これら心理検査用紙購入にかかる費用を履修登録時に負担してもらう。申請書と引き換えに検査用紙を配布する予定である。		各回の授業レポートと最終のレポートにより総合的に評価する。	

養	教育科学特殊研究Ⅳ（スポーツコーチ学 a）	担当者	依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 スポーツのパフォーマンスは人間の身体の幾つもの機能が複雑に働いて現出しています。スポーツ選手の競技力向上には身体機構、運動中の身体各部の機能や適応について理解し、各種トレーニングの計画・実践、また動作解析やゲーム分析などのパフォーマンスのチェックが欠かせません。そこで本講義では、スポーツに関わる身体の基本的な機能を学び、実際にスポーツパフォーマンスの向上に必要な様々な測定を経験し、各自のスポーツへの関わり方がその新たな知識を生かして工夫されることを目指します。 〔講義概要〕 基本的な身体機能および運動中の反応について概説します。実際にスポーツ中の生理データを測定したり（受講生同士、グループに分かれて）、実際の試合の映像を持ち寄り、分析を行い、その成果を発表します。またビデオなどを利用してスポーツ科学の現状についても紹介する予定です。		1. ガイダンス 2. 身体の基本的な機能 3. 動きをコントロールする 4. 筋が力を発揮する仕組み 5. 運動と循環（基礎編） 6. 運動と循環（実践編①） 7. 運動と循環（実践編②） 8. 動作分析（基礎編） 9. 動作分析（実践編①） 10. 動作分析（実践編②） 11. ゲーム分析（基礎編） 12. ゲーム分析（実践編①） 13. ゲーム分析（実践編②） 14. 成果発表① 15. 成果発表② *講義の内容の順番は変わる可能性があります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
『イラスト運動生理学』 朝山正己 他編 東京共学社		出席、授業態度、グループ発表およびレポートの内容で総合的に判断します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	教育科学特殊研究Ⅶ（体育経営スポーツマネジメント）	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
体育経営スポーツマネジメントの基礎を学び、実践・実習することを授業の目的とします。 授業時間内で可能なスポーツイベントを企画し、実行してもらいます。 イベントは、個人またはグループで担当計画し、実行してもらいます。 顔写真 1 枚を貼った受講票の作成をしてもらいます。 定員があります。		第 1 週 ガイダンス 第 2 週 スポーツマネジメントの概念と受講票の作成 第 3 週 グループ編成 第 4 週 グループでイベント計画 第 5 週～第15週 イベント実行	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介します。		イベントの実行、レポートなどを総合して評価します。	

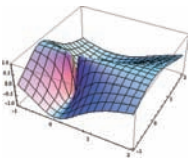
養	教育科学特殊研究Ⅴ（スポーツコーチ学 b）	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
スポーツコーチ学の基礎を学び、実践・実習することを授業の目的とします。 実際にスポーツをコーチする場面を設定し、実行してもらいます。 木曜日2時限に利用できる学内の施設と用具を使って行えるスポーツを中心に設定するので、履修登録が確定したらグループを編成し、担当計画し、実行してもらいます。 顔写真 1 枚を貼った受講票の作成をしてもらいます。 定員があります。		第 1 週 ガイダンス 第 2 週 スポーツコーチ学の概念と受講票の作成 第 3 週 グループ編成 第 4 週 グループで指導計画 第 5 週～第15週 設定した場面でのコーチングの実行	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介します。		コーチングの実行とレポートを総合して評価します。	

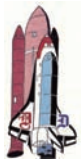
養	教育科学特殊研究VI（リーダーシップ論）	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
問題解決活動を実践し、その中から集団と個の関わりを考えていく。問題解決活動は学生が互いに指導役割を交代しながら行うことで、指導経験の機会を得ることも目的としている。 グループ単位で企画作成と発表を行う過程でリーダーシップ理論を参考にしながら自己と他者の特性と役割を理解していく。		1 オリエンテーション 2 集団形成：アイスブレーキング 3 グループワークによる問題解決活動と発表 4 イニシアティブゲームによる問題解決活動 1 5 イニシアティブゲームによる問題解決活動 2 6 グループ内でのリーダーの特性についての討論と発表 7 リーダーシップ理論 1 8 リーダーシップ理論 2 9 イベント企画作成の手順 10 イベント企画コンテストに向けてのグループ討論 11 イベント企画案の作成 12 イベント企画コンテスト 13 イベントの実施 14 イベントの評価 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて資料を配布します。		出席、授業への取り組み姿勢、小レポート、期末レポート	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	自然・環境研究Ⅰ（科学史 a）	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
17世紀における力学と物理法則概念の形成を中心とした世界像の変革を踏まえ、20世紀における科学、とくに物理学の革命といえる相対論と量子論の成立の過程を中心に、科学とは何かという問題を歴史的視点から考察する。また、この授業を受けることによって、受講生が一般市民に対し、科学を学ぶことの意義や楽しさを伝えられるようになることも目指したい。 「自然・環境研究Ⅰ（科学史 a）」では相対論を中心に扱い、現在の人類が持っている最新の時間・空間概念および宇宙像が如何に成立してきたかをみていく。		1. はじめに 2. 近代以前の時間空間概念 3. 天体の運行 4. ガリレイの相対性原理 5. ニュートンの宇宙観 6. 電磁気学の成立 7. 特殊相対性理論 8. 時間概念の相対性 9. 空間概念の相対性 10. 一般相対性理論 11. 時空の幾何学化 12. 一般相対論的宇宙論 13. 時間とは何か 14. 最新の時間空間概念 15. おわりに	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはとくになし、参考文献は適宜紹介する。		日常の授業への参加態度、毎回の「授業レポート」で評価をつける予定。	

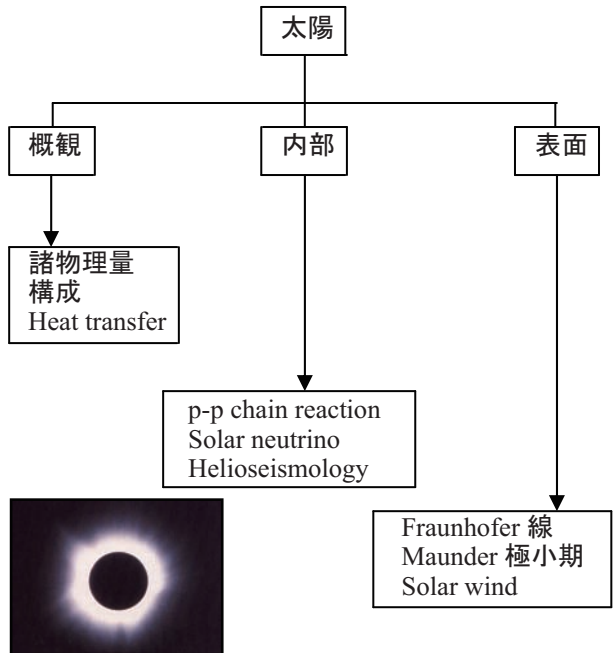
養	自然・環境研究Ⅱ（科学史 b）	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
17世紀における力学と物理法則概念の形成を中心とした世界像の変革を踏まえ、20世紀における科学、とくに物理学の革命といえる相対論と量子論の成立の過程を中心に、科学とは何かという問題を歴史的視点から考察する。また、この授業を受けることによって、受講生が一般市民に対し、科学を学ぶことの意義や楽しさを伝えられるようになることも目指したい。 「自然・環境研究Ⅱ（科学史 b）」では量子論を中心に扱い、現在の人類が持っている最新の物質の究極像が如何に成立してきたかをみていく。		1. はじめに 2. 近代以前の物質観 3. 光の粒子説・波動説 4. 光電効果 5. 近代原子論 6. 前期量子論 7. 量子力学 8. 不確定性関係 9. 観測の問題 10. 相対論的量子論 11. 素粒子の世界 12. 統一理論 13. 宇宙の進化 14. 最新の物質観 15. おわりに	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはとくになし、参考文献は適宜紹介する。		日常の授業への参加態度、毎回の「授業レポート」で評価をつける予定。	

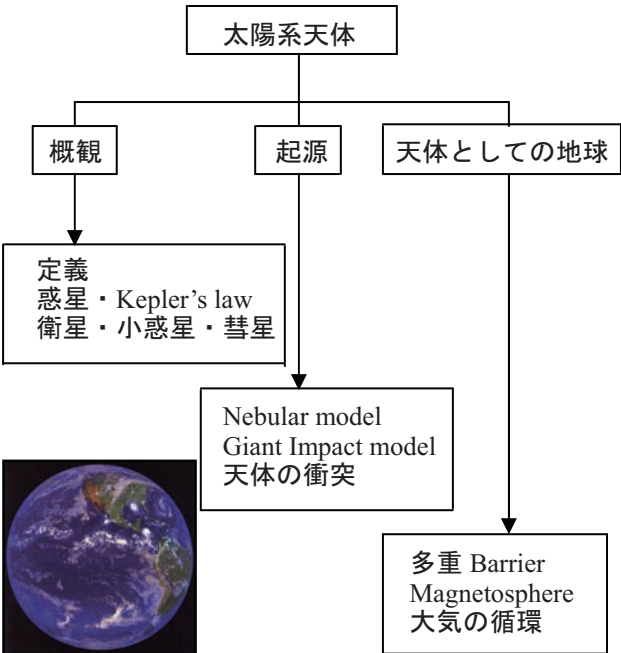
養	自然・環境研究Ⅲ（数学 a）	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
① 数学は、現象を客観的に解析する際に威力を発揮します。『数学 a』では、現象の変化を解析する際に登場する「微分学」を学びます。微分学は現象の変化のうち、特に山頂・丘・窪み・谷底等を扱うことを得意とします。身の回りの複雑な環境を反映して、多変数微分も勉強します。 ② 身近な現象を関数に対応させて解析し、この関数の変化の様子から、対応する身近な現象の知られざる部分の変化の様子を逆に探ります。 ③ 講義・演習を通して、微分学の知識を実際の現象解析に使えるようになればと思います。 ④ 主体的に多くの問題を解き、微分学を身の回りの現象に実際に応用する努力をして下さい。 ⑤ 第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。		微分学 関数・逆関数 $y = f^{-1}(x)$ 有理関数・無理関数 指数関数・対数関数 三角関数・逆三角関数  極限 $\lim_{x \rightarrow a} f(x)$ 極限值 Achilles と亀 $0.9 = 1$ 微分 $\frac{\partial z}{\partial x}, \frac{\partial z}{\partial y}$  常微分・偏微分 極値 最小二乗法	
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
① (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/ 『数学読本④、⑤』松坂 和夫 著・岩波書店)		① 主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう 評価用紙（演習・宿題・Quiz）の中身 です。	

養	自然・環境研究Ⅳ（数学 b）	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
① 『数学 b』は上記『数学 a』の知識を前提に、現象の奥底に潜む法則のモデル作りに便利な道具「積分学（積分・微分方程式）」を学びます。 ② 応用として、身近な現象の数学モデルに登場する変数の発展を辿り、着目する現象の具体的な行動・未来予測等に挑戦します。数学モデルを作る際、現象のどの点に着眼するか一苦労です。 ③ 講義・演習を通して、積分学（積分・微分方程式）の知識を実際の現象解析に使えるようになれば Second opinion の構築に役立つと思います。 ④ 主体的に多くの問題を解き、積分学（積分・微分方程式）を身の回りの現象に実際に応用する努力をして下さい。 ⑤ 第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。		積分学 積分 $\int f(x) dx$ 不定積分 初期条件 部分積分法  微分方程式 $f(x, y, y', y'', \dots, y^{(n)}) = 0$  変数分離形（人口問題） 1 階線形（美術品の贋作） 2 階線形（ロケットの飛行）	
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
① (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/ 『微分方程式で数学モデルを作ろう』垣田 高夫、大町 比佐栄 訳・日本評論社)		① 主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう 評価用紙（演習・宿題・Quiz）の中身 です。	

養	自然・環境研究 V (宇宙論 a)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
☆ 『宇宙論 a』では Einstein の「特殊相対性理論」を学びます。自らの座標系をしっかりさせ、“特殊”に付けられた条件に留意する必要があります。 ☆ Einstein は当時、研究者の間で議論されていた光の伝播に関して強い関心を抱きました。また Einstein が、時間・空間に対する考え方をそれまでの絶対から相対に変えたことに依り、物理的世界観は本質的な変質を遂げました。 ☆ 主体的に勉強して得た知識をもとに、自らの頭でユニークな先を考え、必要とあらば思い切った発想の転換、Paradigm Shiftを試みることも時には大切なことだと思います。 ☆ 数学と視聴覚教材とを必要に応じて使います。 ☆ 第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。		特殊相対性理論 (1905 年) <pre> graph TD A[特殊相対性理論 1905年] --> B[光] A --> C[時空] A --> D[特殊相対論] B --> E["光速 Michelson-Morley の実験 Fitzgerald-Lorentz 収縮"] C --> F["絶対・相対時空 Newton のバケツ Mach 原理"] D --> G["特殊相対性原理 光速不変の原理 時間の遅れ・長さの縮み・質量はエネルギー"] E --> G F --> G </pre> 	
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
☆ テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『相対性理論がみるみるわかる本』佐藤 勝彦 監修・PHP 研究所)		☆ 主に、試験 (授業・配布プリント・宿題) と毎時間提出の評価用紙 (宿題・発言) です。	

養	自然・環境研究 VI (宇宙論 b)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
㊦ 『宇宙論 b』は上記『宇宙論 a』の知識を前提に Einstein の「一般相対性理論」を学びます。 ㊦ “一般”化する事により構築された「一般相対性理論」はその後の観測で検証され、重力をより深く理解することになりました。そこで応用として、重力が纏わる現象を最新の成果・話題 (Dark energy など) も交えながら学びます。 ㊦ 発想の転換に因る独自の考えは、用心深く実践する必要があります。(相対性)理論構築への道程の話を通して、自分の考えの構築に取り組んだ後、責任を持って実践する工夫が不可欠なことに思い至って欲しいと思います。 ㊦ 数学と視聴覚教材とを必要に応じて使います。 ㊦ 第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。		一般相対性理論 (1915 年) <pre> graph TD A[一般相対性理論 1915年] --> B[一般相対論] A --> C[検証] A --> D[重力現象] B --> E["一般相対性原理 等価原理 幾何学と重力"] C --> F["重力に依る光の赤方偏移 重力は光の進路を曲げる 水星の近日点移動"] D --> G["宇宙モデル Black holes 重力波"] E --> F F --> G </pre> 	
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
㊦ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『相対性理論がみるみるわかる本』佐藤 勝彦 監修・PHP 研究所)		㊦ 主に、試験 (授業・配布プリント・宿題) と毎時間提出の評価用紙 (宿題・発言) です。	

養 外言	自然・環境研究Ⅶ（天文学 a） 地球環境論 a(太陽系)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
❖ 我々は太陽系惑星の一つ地球に住んでいます。諸環境のお蔭で地球上では他の惑星とは異なり、生物が誕生（？）・進化し人類まで奇跡的に辿り着きました。「太陽系」の起源を知れば奇跡の訳が見えてくるかも知れません。 ❖ 『(太陽系) 天文学 a』(太陽)では、天体としての地球を取り巻く環境を考察するに当たり、地球にとって掛け替えの無い恒星 The Sun を天文学の立場から学びます。What is the Sun? ❖ 主体的に勉強して得た知識をもとに、自然の一員としての宇宙船「地球号」の進路を自ら考え、勇気をもって操縦・実行して下さい。 ❖ 数学と視聴覚教材とを必要に応じて使います。 ❖ 第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。			
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
❖ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『教養のための天文学講義』米山 忠興 著・丸善)		❖ 主に、試験（授業・配布プリント・宿題）と毎時間提出の評価用紙（宿題・発言）です。	

養 外言	自然・環境研究Ⅷ（天文学 b） 地球環境論 b(太陽系)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
❖ 地球が宇宙を司る自然法則に支配されていることは他の太陽系天体と同じです。我々の存在を可能にしている他の太陽系天体からの違いは何でしょう？地球が The Goldilocks planet と呼ばれる理由がここにあります。 ❖ 『(太陽系) 天文学 b』(太陽系天体)では、『(太陽系) 天文学 a』の知識を前提に The Solar system = The Sun's family（除・太陽）を地球環境に関りを持たせて天文学の立場から学びます。 ❖ 主体的に勉強して得た知識をもとに、自然の一員としての宇宙船「地球号」の進路を自ら考え、勇気をもって操縦・実行して下さい。 ❖ 数学と視聴覚教材とを必要に応じて使います。 ❖ 第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。			
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
❖ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『教養のための天文学講義』米山 忠興 著・丸善)		❖ 主に、試験（授業・配布プリント・宿題）と毎時間提出の評価用紙（宿題・発言）です。	

養 外言	自然・環境研究各論Ⅰ（地球環境論 a） 地球環境論 a(地理学)	担当者	北崎 幸之助
講義目的、講義概要		授業計画	
地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、居住環境が人間にとって、どのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、環境の諸要素を概観し、熱帯地域、沙漠地域、地中海森林地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。なお、履修に際しては、地球環境問題に対して高い関心のある、意欲的な学生を希望する。		1. オリエンテーション—地理学とは 2. 環境の諸要素（1）気候環境 3. 環境の諸要素（2）緯度帯別降水量・蒸発量・気温 4. 環境の諸要素（3）地形・植生 5. 熱帯地域（1）熱帯林と伝統的生活様式 6. 熱帯地域（2）熱帯林の開発と環境問題 7. 熱帯地域（3）熱帯林の保全 8. 沙漠地域（1）自然的・文化的特色と伝統的経済活動 9. 沙漠地域（2）石油資源と近代化、沙漠の開発 10. 地中海森林地域の特性 11. 地中海地域の生活様式—西欧文化の原点 12. 地球環境問題に対する視点（1） 13. 地球環境問題に対する視点（2） 14. まとめ（1） 15. まとめ（2）	
テキスト、参考文献		評価方法	
山本正三他著（2004）『自然環境と文化—世界の地理的展望 改訂版』原書房		期末定期試験の結果（90％）に、出席状況（10％）等を加味して、総合的に評価する。	

養 外言	自然・環境研究各論Ⅱ（地球環境論 b） 地球環境論 b(地理学)	担当者	北崎 幸之助
講義目的、講義概要		授業計画	
地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、居住環境が人間にとって、どのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。秋学期の講義は、まず地形環境を概観し、温帯草原地域、温帯混合林地帯、亜寒帯森林地域、山地地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。そして最後に、深刻化する地球環境問題を取り上げ、今後の人間生活と自然環境との共生方法について理解を深める。なお、履修に際しては、地球環境問題に対して高い関心のある、意欲的な学生を希望する。		1. 環境の諸要素—地形環境 2. 温帯草原地域の自然特性 3. 温帯草原地域の開発と環境問題 4. 温帯混合林地帯（1）高密度都市化地域の特性 5. 温帯混合林地帯（2）産業革命と都市域の拡大 6. 亜寒帯森林地域（1）タイガの中の生活 7. 亜寒帯森林地域（2）タイガの開発と保全 8. 山地地域（1）山地の自然環境と高度帯の利用 9. 山地地域（2）山地資源の開発と観光化 10. 地球環境問題（1）生態系と人間活動 11. 地球環境問題（2）自然環境の破壊 12. 地球環境問題（3）環境問題解決にむけた取り組み 13. 地球環境問題（4）私たちにできること 14. まとめ（1） 15. まとめ（2）	
テキスト、参考文献		評価方法	
山本正三他著（2004）『自然環境と文化—世界の地理的展望 改訂版』原書房		期末定期試験の結果（90％）に、出席状況（10％）等を加味して、総合的に評価する。	

養	自然・環境特殊研究Ⅰ（自然観察 a）	担当者	加藤 僖重
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的 - 生物学の基礎は材料となる種（種類）の認識である。種の認識は時代、民族によって大きく異なる。その違いを知り、植物(種)の多様性を知ること目標とする。 履修資格 - 植物名に関心があること。 - 普通の植物 100 種を認識できること。		1 登録に先立っての試験 2 実験室の使用法 3 5月の花 1 4 植物の基礎 分類学 1 5 5月の花 2 6 植物の基礎 分類学 2 7 6月の花 1 8 植物の基礎 分類学 3 9 6月の花 2 10 植物の基礎 分類学 4 11 植物の基礎 分類学 5 12 7月の花 1 13 7月の花 2 14 7月の花 3 15 まとめ 第一回目の講義で 詳細な説明と基礎テスト を行なうので、必ず出席すること（欠席者の登録お断り）。	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、文献を紹介するので、必要に応じて購入すること。必要なプリントは配布する。		毎回出欠を確認。4 回以上の欠席者は不可とする。提出数回のレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果、その他を総合して評価する。	

養	自然・環境特殊研究Ⅱ（自然観察 b）	担当者	加藤 僖重
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目標 - 日本の地域によって異なる植物相を理解し、日本の自然環境の特質を知ること目標とする。 講義の目的 - 地域によって生物型が定まっている。その共通点と相違点を知ること目標とする。 履修資格 - 植物に興味があり、地理が好きであること。 - 普通の植物 100 種を認識できること。		1 登録に先立っての試験 2 植物の基礎 形態学 1 3 10月の花 1 4 植物の基礎 形態学 2 5 10月の花 2 6 植物の基礎 形態学 3 7 11月の花 1 8 植物の基礎 形態学 4 9 11月の花 2 10 植物の基礎 形態学 5 11 植物の基礎 形態学 6 12 12月の花 1 13 12月の花 2 14 12月の花 3 15 まとめ 第一回目の講義で 詳細な説明と基礎テスト を行なうので、必ず出席すること（欠席者の登録お断り）。	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、文献を紹介するので、必要に応じて購入すること。必要なプリントは配布する。		毎回出欠を確認。4 回以上の欠席者は不可とする。提出数回のレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果、その他を総合して評価する。	

養	自然・環境特殊研究Ⅲ（観察と実験生物学 a）	担当者	加藤 僊重
講義目的、講義概要		授業計画	
登録するに先立っての注意事項 - 講義の性質上、受講生は年間を通じて履修することが望ましい。 - 一クラスの受講者を抽選に受かった48名に限定する。 抽選に受かった学生は実習費(¥2,000-)を収めること。 - 詳細は1回目の講義で説明する。 講義の目的 - 身近な自然を知ること为目标とする。 履修資格 - 身近な植物 100 種以上認識できること。		1 はじめに 講義内容の説明 2 実験室内における心得・実験器具の説明 3 キャンパスウォッチング 1 種の識別 4 身近な植物の観察 1 花の構造 ① 5 顕微鏡使用法 1 顕微鏡の構造 ② 6 顕微鏡使用法 2 ミクロメーターの使用 7 身近な植物の観察 2 花の構造 8 キャンパスウォッチング 2 五感を働かす 9 身近な植物の観察 3 果実の構造 ① 10 身近な植物の観察 4 果実の形態 ② 11 身近な植物の観察 5 葉の形態 ① 12 身近な植物の観察 6 葉の構造 ② 13 身近な植物の観察 7 根の構造① 14. 身近な植物の観察 8 根の構造② 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、プリント配布		毎回のレポート、宿題レポート、期末テスト等で評価する。	

養	自然・環境特殊研究Ⅳ（観察と実験生物学 b）	担当者	加藤 僊重
講義目的、講義概要		授業計画	
登録するに先立っての注意事項 - 講義の性質上、受講生は春学期に連続して履修することが望ましい。 - 一クラスの受講者を抽選に受かった48名に限定する。 抽選に受かった学生は実習費(¥2,000-)を収めること。 - 詳細は1回目の講義で説明する。 講義の目的 - 身近な自然を知ること为目标とする。 履修資格 身近な植物 100 種以上認識できること。		1 はじめに：講義の内容を説明 2 身近な植物の観察 1 3 キャンパスウォッチング 1：種の同定 4 蛋白質の分析 5 生産構造図の作成 6 種の多様性の観察：ブナ科果実の観察 7 身近な植物の観察 2 8 光合成の色素の分析：クロマトグラフィー 9 身近な植物の観察 3 10 キャンパスウォッチング：五感を働かす 11 形質と系統：類縁関係を知る 12 身近な植物の観察 4 13 身近な植物の観察 5 14 身近な植物の観察 6 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回 プリント配布		毎回のレポート、宿題レポート、期末テスト等で評価する。	

養	多言語情報処理研究Ⅰ（コンピュータと言語）	担当者	黄 海湘
講義目的、講義概要		授業計画	
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、（１）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（２）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（３）コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。		1 講義の概要と目標、情報科学とは 2 データ表現、基数変換、論理演算 3 コンピュータの構成要素 4 ソフトウェアの役割、体系と種類 5 オペレーティングシステム（OS） OSの基礎概念、OSの役割と原理 6 プログラム言語 コンピュータ言語の分類と目的 7 データ構造—リスト、スタック、キュー、2分木 8 アルゴリズム—アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9 コンピュータによる言語情報処理技術（１） 10 コンピュータによる言語情報処理技術（２） 11 機械翻訳システムの演習 12 自然言語質問応答システム 13 インターネット上の多言語処理技術 14 授業のまとめ１ 15 授業のまとめ２	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	多言語情報処理研究各論Ⅰ（表計算とプレゼンテーション）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

養	多言語情報処理研究各論Ⅰ（表計算とプレゼンテーション）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

養	多言語情報処理研究各論Ⅱ（情報検索と加工）	担当者	黄 海湘
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】情報化社会において、資源である情報を効果的に活用することは不可欠である。情報を有効的に探索・選択・抽出することという一連の仕組みについて理解を深める。コンピュータを使った情報検索システムの知識を、説明および実習を通して体得する。 【概要】本講義ではコンピュータに基づく情報検索システムの基本的な理論と方法について、講義と演習を織り交ぜて授業を進める。講義形式の授業では、情報検索の基本的な考え方について述べながら、代表的な検索システムの仕組みなどの説明を行う。 本講義では、データベースやWWW 検索エンジン、質疑応答システムを用いて情報検索の演習を通して、実践的な能力の養成を目的とする。		1 授業ガイダンス：情報検索の基本 2 情報検索の基礎技術 3 データベースとシソーラス 4 WEB サーチエンジン：ロボットとインデックス 5 インターネット検索・サーチエンジンによる検索／演習（断片情報による検索） 6 図書の検索／演習（1） 7 図書の検索／演習（2） 8 雑誌の検索／演習 9 新聞記事の検索／演習 10 辞書・人物・企業・地図の検索／演習 11 統計・法律・特許情報の検索 12 質問応答システムの演習 13 情報検索総合演習 14 授業のまとめ1 15 授業のまとめ2	
テキスト、参考文献		評価方法	
原田智子『情報検索演習』（樹村房） 必要に応じて資料を配布する。		出席、レポートおよび筆記試験により、総合的に評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	[多言語情報処理研究各論Ⅲ（ホームページ設計）]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つであるWWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。		1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

養	多言語情報処理研究各論Ⅲ（ホームページ設計）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つであるWWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。		1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	多言語情報処理研究各論Ⅳ（データベース）	担当者	黄 海湘
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は Access を利用してデータベースの概念や設計方法について学習する。 Access の基本的な使い方やデータベースの概念を学習した後に、 データベース作成をおこなってもらい、 そういった演習を通じてデータベースの概念や設計に対する理解を深める。 ＜受講者への要望＞ 遅刻は厳禁とします。 またコンピュータの実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。		1. ガイダンスとデータベース調査 2. データベース概論 3. Access の基本操作(1) 4. Access の基本操作(2) 5. Access の基本操作(3) 6. テーブル(1) 7. テーブル(2) 8. クエリ(1) 9. クエリ(2) 10. リレーションシップ 11. データベース作成演習(1) 12. データベース作成演習(2) 13. データベース作成演習(3) 14. 実習テスト 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
『30H で理解できるアクセス 2007』 ， 実教出版		出席及びレポート課題によって評価します。	

養	多言語情報処理研究各論Ⅴ(統計と調査法)	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の目的 基礎的な統計手法の学習とその背景にあるデータの性質の理解を通して科学的なものの考え方を身につける。 授業概要 ・1世帯当たりの平均年間所得は約600万円→実感と違うのはなぜ？ ・この店の料理とあの店の料理はどちらがおいしい？→違いがあるとは？ ・「どっきょ」まで入力したら次に最も来やすい文字は何？→確率が高いとは？ 私達は常にこのようなデータに囲まれており、それを巧みに利用しながら生活している。「大まかな感覚」は大切な知恵ではあるが、より客観的で厳密な判断ができればさらに賢い生活を行うことができる。この授業では日常的なデータを素材として、その性質を記述し、現象の本質を推測できるように、科学的な分析方法を使うことを学ぶ。基礎的な統計手法を学ぶことで身の回りの世界を客観的に理解することを目標とする。		(1) 英語学習実態調査 → アンケートの取りかた (2) お国自慢クイズ → テスト問題作成 2-3. (1) データを集めてみよう → 統計量の種類(量的変数・質的変数): 比例変数, 間隔変数, 順位変数, 名義変数 (2) データの傾向を見よう → 度数分布, 相対度数, 度数分布表 (3) データをグラフ化しよう → 量的変数のグラフ表現, 質的変数のグラフ表現 4. データの特徴を数値で表そう その1 → 代表値(平均値, 中央値, 最頻値), 値の広がり, 能力テストと到達度テスト 5. データの特徴を数値で表そう その2 → 正規分布, 散布度(標準偏差), 歪度, 尖度, 標準得点, 偏差値 6. データを採点しよう(これまでのまとめ) → 表計算ソフトによる採点・集計 7. テストを見直す → 信頼性係数, 項目分析, ロジスティック回帰分析 8. 偶然か, 特殊能力か? → 記述統計と推測統計, 仮説(帰無仮説, 対立仮説) 9. 学習時間と成績には関係があるか? → 相関散布図, 相関係数, 回帰直線, 欠損値の推定, 相関検定 10. あさがお観察日記 → 対応がない場合のt検定, 分散分析 11. ダイエット観察日記 → 対応がある場合のt検定, プリテスト・ポストテスト, 時系列分析 12. 出身地と麺類の好みに関係はあるか? → クロス集計, カイ二乗検定 13. 駅前出店計画 → 判別分析 14. おいしい料理のための食材分量 → 重回帰分析 15. 隠れた傾向を探り出す → 主成分分析, 因子分析	
テキスト、参考文献		評価方法	
山口和範『よくわかる統計解析の基本と仕組み:統計データ分析入門』(秀和システム, 2004) ISBN 4-7980-0913-X		(定期試験(60%) + 平常授業におけるまとめ(40%)) x 出席率	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	多言語情報処理特殊研究Ⅰ（自然言語処理 a） 自然言語処理 a	担当者	黄 海湘
講義目的、講義概要		授業計画	
自然言語は日常生活で話したり書いたりする言葉のことで、コンピュータ用の人工言語と区別するために「自然言語」といいます。「処理」は自然言語をコンピュータで扱うための操作で、コンピュータが自然言語を理解したり生成したりするためのものです。本講義は、コンピュータを利用した自然言語の処理に関する方法、そして応用実態について解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身に付くことを目標とします。 本講義では、自然言語処理の基礎技術について解説します。ここでは、自然言語の形態素解析・構文解析、意味解析などの基礎理論を論述し、言語処理に欠かせない辞書・シソーラス・コーパスなどの構成と応用方法について学びます。コンピュータを使って言語データの収集し、オンラインソフトを使って演習を行います。		1 言葉とコンピュータ 自然言語処理の諸方面 2 自然言語処理の問題点 各種の曖昧性 3 自然言語処理の予備知識 4 形態素解析（1） 形態素解析の原理と方法 5 形態素解析（2） 日本語と英語の形態素解析実験 6 単語処理 単語の同定、単語の統計処理 7 構文解析（1） 文脈自由文法、句構造文法 8 構文解析（2） 構文解析の原理と実験 9 電子化辞書・シソーラスの構造と情報抽出 10 コーパス、言語データベースの構造と使い方 11 言語の統計処理技術 12 言語処理とオントロジー 13 総合演習 14 授業のまとめ 1 15 授業のまとめ 2	
テキスト、参考文献		評価方法	
（1） 最初の講義で指示します。 （2） 必要な資料を配布します。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

養 外言	多言語情報処理特殊研究Ⅱ（自然言語処理 b） 自然言語処理 b	担当者	黄 海湘
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、コンピュータを使用した自然言語の処理に関する方法、そして利用実態について解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身につくことを目標とします。 本講義では、自然言語処理 a での知識を踏まえた上で、自然言語処理基礎技術である意味解析、文脈解析、知識の表現法を学ぶ。世の中に研究・開発されている応用技術に力を入れ、典型的な応用例を紹介します。特に、自動要約システム、機械翻訳システム、文書校正支援システム、自然言語対話システム、質問応答システム、自然文情報検索システム、対話システムなどの基本技術・アーキテクチャを説明し、演習を行います。そして、現在の自然言語処理システムの問題点などを議論します。		1 意味論： 自然言語の意味論、フレーム理論 2 意味解析： 意味解析の方法と実験 3 文脈解析： 談話構造、照応問題の対処法 4 知識の表現法 5 文書処理（1） 言い換え、文書校正 6 文書処理（2） 自動要約の原理 7 機械翻訳（1） 機械翻訳の処理方式と原理 8 機械翻訳（2） 機械翻訳システムの使用と評価 9 質問応答システム 10 情報検索における言語処理技術 11 対話システム 12 自然言語処理システム 13 総合演習 14 授業のまとめ 1 15 授業のまとめ 2	
テキスト、参考文献		評価方法	
（1） 最初の講義で指示します。 （2） 必要な資料を配布します。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

養	多言語情報処理特殊研究VI（マルチメディア論）	担当者	田中 雅英
講義目的、講義概要		授業計画	
動画・音声など、今やインターネットの世界ではもう常識的になってきている。しかしそれは、ブログなどでただ単に指示通りに張り付けるだけであり、その原理をマスターしている人はほとんどいない。これらを自分の力で処理・コントロールすることを目指し、より表現力が豊かなものにできるようにしたい。 いろいろの手法はあるが、ここでは標準となりつつあるソフトのフラッシュを使い、それによってまず基本の処理ができるようになることを目指す。 もちろん、これはソフトの使いこなしだけを目指すのではなく、あくまでもそれは導入としてであり、今後より一層の深化にもつなげられるものとしたい。		1. ガイダンス 2. イラストの作成① 3. イラストの作成② 4. イラストの作品制作 5. アニメーションの基礎。モーショントゥイーン 6. シンボルの制作、保存。レイヤーの利用 7. 作品の制作 ① 8. トゥイーンアニメーション 9. テキストを使ったアニメーション 10. 写真の利用 11. サウンドの貼り付け 12. 作品の制作 ② 13. 作品の制作 ③ 14. 作品の制作 ④ 15. 作品の制作予備日	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に適宜指示・配布する。		いくつかの作品を制作してもらい、それによって評価する。出席は重視し、欠席回数が多いと不可とする。	

養	多言語情報処理特殊研究V（コンピュータ構造論）	担当者	黄 海湘
講義目的、講義概要		授業計画	
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっている。単にコンピュータの操作技術を習熟するというのではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができる。 本講義では、（１）情報に関する基本的な概念、（２）コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、（３）情報システムに関する基礎的な素養、（４）情報社会に関する基礎的な理解などの修得を目標とする。本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術などに重点を置き、コンピュータ活用技術に関するさまざまな知識を概説し、数回の演習も実施する。		1 授業のガイダンス 2 ファイル編成とデータベース データベースの概要、データの正規化 3 データベース管理システム（DBMS） DBMSの目的と構成 4 SQL 言語 5 コンピュータ・ネットワーク ネットワークの種類、LANの構成とアクセス方式 6 インターネット インターネットの仕組み、通信規約TCP/IP、DNS 7 インターネットサービス World Wide Web、情報検索、電子メールなど 8 インターネットと社会 セキュリティ、暗号システム、電子認証 9 コンピュータのハードウェア構造 10 情報検索 情報検索の方法と演習 11 情報システムを支える技術 12 ソフトウェア開発手順 システム分析と設計、プログラム開発と保守 13 授業のまとめ1 14 授業のまとめ2 15 授業のまとめ3	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の講義で指示する。 毎回の講義で必要な教材は配布する。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。	

養	卒業研究	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
卒業研究では、各自が研究テーマを設定し、担当教員の指導のもとでそれぞれ研究を進め、その成果を論文としてまとめ上げることが求められる。研究と論文の執筆を通して、4年間の大学での学びを確かなものとするのが本演習の目的である。 論文の執筆に当たっては、別紙の「卒業論文提出の手引き」を参照し、その諸注意に従うことが求められる。手引きには論文の提出期限や論文執筆上の注意などが細かく定められている。手引きに従っていない論文はいつさい受け付けない。		授業期間を通して、研究と論文執筆に対する指導がおこなわれる。進め方については各担当教員により異なる。 (卒業研究の担当教員は5・6学期に所属していた演習の教員とし、変更は原則的に認めない。)	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当者による		各担当教員による。ただし、卒業論文の提出は必須である。	

養	卒業研究	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期参照		春学期参照	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期参照		春学期参照	

養	スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム) 国際教養学部指定クラス	担当者	松原 裕・和田 智・依田 珠江
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 この科目は、現在および将来の健康で充実した生活のために、健康を創り、維持し、守ること、自由時間をより充実させるための態度、知識、技術を身につけること、身体活動を通じて、国際教養学部新入生のコミュニケーションを図ることを目的にして設置されています。 講義概要 この科目用にクラスを編成し、各クラスが3人の教員の授業をローテーションで受けます。 詳細は第1週のガイダンスで説明します。		第1週 教室で授業のガイダンスと顔写真1枚を貼った受講票の作成を行います。 更衣する必要はありません。 写真1枚と学生証を用意して出席してください。 第2週～第15週 実技開始 松原担当の実技は屋外の人工芝グラウンドで行います。フットサル、ソフトボールを行う予定です。 依田担当の回は、屋内のアリーナで行います。ボール・ラケット競技を行う予定です。 和田担当の回の予定は、次のとおりです。 1. コミュニケーションゲーム(アイスブレイキング) 2. イニシアティブゲーム 3. ペタンク 4. アウトドアクッキング又はレクリエーションスポーツ	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		毎回の、出席、受講態度などを総合して評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	中級日本語 Intermediate Level Japanese	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
日本語能力試験N 3の後半レベルからN 2の前半レベルに相当する。 初級日本語修了者のためのクラスである。初級同様、1週間14コマの集中コース。4技能すべてを総合的に学ぶが、学習の中心は聞くこと、話すことから読むことが中心になっていく。類義表現が多くなり、場面や文脈に応じた使い分けを学ぶ。ある程度の長さの文や他者の発話を理解し、自分の意見・考えをまとめて、明確に述べるなど、コミュニケーション能力を高めていくことが目的となる。 6,000~7,000の語彙、900~1,000の漢字、様々な文中、文末表現を学ぶ。		(Japanese Language Proficiency Test Level N 3 & N 2 Level) .Students study higher level of sentence structures and sentence patterns, 900~1,000 Chinese characters, and 6,000~7,000 vocabulary items. Upon completion of this course, students will be able to understand more complicated discourse that consists of general information and articles. As for communication skills, students will be able to express their opinions on abstract/cultural matters in a limited way as well as be able to exchange their opinions and participate in the negotiations of meaning. Active participation in the class activities are recommended.	
テキスト、参考文献		評価方法	
1. 『ニューアプローチ中級日本語基礎編』 2. 『ニューアプローチ中級日本語基礎編練習帳』 3. 『ニューアプローチ中級日本語基礎編聞き取り練習問題』 4. プリント — ①中級用漢字リスト、②作文プリント ③プレゼンテーションテキスト		1. 出席 (70%以上の出席) 2. チャプターテスト 3. 作文 4. 会話テスト 5. プレゼンテーション 6. 期末テスト 7. クラス活動への参加	

養	中級日本語 Intermediate Level Japanese	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
日本語能力試験N 3の後半レベルからN 2の前半レベルに相当する。 初級日本語修了者のためのクラスである。初級同様、1週間14コマの集中コース。4技能すべてを総合的に学ぶが、学習の中心は聞くこと、話すことから読むことが中心になっていく。類義表現が多くなり、場面や文脈に応じた使い分けを学ぶ。ある程度の長さの文や他者の発話を理解し、自分の意見・考えをまとめて、明確に述べるなど、コミュニケーション能力を高めていくことが目的となる。 6,000~7,000の語彙、900~1,000の漢字、様々な文中、文末表現を学ぶ。		(Japanese Language Proficiency Test Level N 3 & N 2 Level) .Students study higher level of sentence structures and sentence patterns, 900~1,000 Chinese characters, and 6,000~7,000 vocabulary items. Upon completion of this course, students will be able to understand more complicated discourse that consists of general information and articles. As for communication skills, students will be able to express their opinions on abstract/cultural matters in a limited way as well as be able to exchange their opinions and participate in the negotiations of meaning. Active participation in the class activities are recommended.	
テキスト、参考文献		評価方法	
1. 『ニューアプローチ中級日本語基礎編』 2. 『ニューアプローチ中級日本語基礎編練習帳』 3. 『ニューアプローチ中級日本語基礎編聞き取り練習問題』 4. プリント — ①中級用漢字リスト、②作文プリント ③プレゼンテーションテキスト		1. 出席 (70%以上の出席) 2. チャプターテスト 3. 作文 4. 会話テスト 5. プレゼンテーション 6. 期末テスト 7. クラス活動への参加	

養	上級日本語 I Advanced Japanese I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
日本語能力試験N2の後半レベルからN1の前半レベルに相当する。 中級日本語修了者のためのクラスである。中級同様、1週間14コマの集中コース。4技能すべてを総合的に学ぶ。より複雑な構文、文体、様々な分野特有の表現・談話構造を学び、的確な文章理解力をつける。正確且つ論理的な文章作文力を養い、より完成した言語運用能力を習得する。大学での教育に対応できる言語知識を習得することが目的となる。 漢字 2,000 字、語彙 10,000~12,000		(Japanese Language Proficiency Test Level N2&N 1 Level) .Students will learn advanced Japanese that consists of not only complex structures but also stylistically varied discourse. Students will study about 2,000 Chinese characters and 10,000~11,000 vocabulary items. Upon completion of this course, students are supposed to be ready for continuing their study at a university or a professional school. Students will be able to read quickly enough to cope with fairly long and complex texts that are found in newspaper articles and basic academic subjects. They will also be able to prepare and to write reasonably accurate compositions and notes in class.. As for speaking they will be able to keep up a conversation on a fairly wide range of topics and give a short presentation on a subject of their choice.	
テキスト、参考文献		評価方法	
1. 『ニューアプローチ中級上級日本語完成編』 2. プリント ①ニューアプローチ用漢字リス御 ②作文教材, ③作文教材 ④文法テキスト 3. 『日本語上級読解』 4. 『日本語上級話者への道』		1. 出席 (70%以上の出席) 2. チャプターテスト 3. 作文 4. プレゼンテーション 5. 期末テスト 7. クラス活動への参加	

養	上級日本語 I Advanced Japanese I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
日本語能力試験N2の後半レベルからN1の前半レベルに相当する。 中級日本語修了者のためのクラスである。中級同様、1週間14コマの集中コース。4技能すべてを総合的に学ぶ。より複雑な構文、文体、様々な分野特有の表現・談話構造を学び、的確な文章理解力をつける。正確且つ論理的な文章作文力を養い、より完成した言語運用能力を習得する。大学での教育に対応できる言語知識を習得することが目的となる。 漢字 2,000 字、語彙 10,000~12,000		Japanese Language Proficiency Test Level N2&N 1 Level) .Students will learn advanced Japanese that consists of not only complex structures but also stylistically varied discourse. Students will study about 2,000 Chinese characters and 10,000~11,000 vocabulary items. Upon completion of this course, students are supposed to be ready for continuing their study at a university or a professional school. Students will be able to read quickly enough to cope with fairly long and complex texts that are found in newspaper articles and basic academic subjects. They will also be able to prepare and to write reasonably accurate compositions and notes in class.. As for speaking they will be able to keep up a conversation on a fairly wide range of topics and give a short presentation on a subject of their choice.	
テキスト、参考文献		評価方法	
1. 『ニューアプローチ中級上級日本語完成編』 2. プリント ①ニューアプローチ用漢字リス御 ②作文教材, ③作文教材 ④文法テキスト 3. 『日本語上級読解』 4. 『日本語上級話者への道』		1. 出席 (70%以上の出席) 2. チャプターテスト 3. 作文 4. プレゼンテーション 5. 期末テスト 7. クラス活動への参加	

養	上級日本語 II Advanced Japanese II	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
トピック・コンテンツシラバス中心の授業 獨協大学における専門教育を受けるための準備コースである。日本事情関連の内容を中心とする新聞記事、雑誌、新書、専門書からの抜粋を自由に読みこなし、内容を理解・分析し、纏める力をつけることが目標となる。ゼミで必要となるプレゼンテーション能力、ゼミ論作成に向けた学習を行う。図書館等で情報を収集し、自立的な学習能力を習得することが求められる。 学習内容：「国際社会における日本の役割」「医療問題」「情報社会」「日本の心」「異文化コミュニケーション」「食糧問題」「日本の文学」 など		(Japanese Language Proficiency Test Level N1& above) This highly advanced course is offered to those who will pursue their studies at a high level academic or research institution. Students will deal with all types of texts which extend from editorial columns to literature and academic reports. Upon completion of this course, students will be able to understand documents, correspondence and reports including the finer points of complex texts. Students will be able to contribute effectively to meetings and seminars within their own area of work or keep up a casual conversation with a high level of fluency, coping with abstract expressions. Students will be able to take notes in class and seminars and write essays as well as academic reports on various subjects with accuracy and original style.	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布プリント		1. 出席 (70%以上) 2. 各トピックのテスト 3. 作文 4. プレゼンテーション 5. 期末テスト 7. クラス活動への参加	

養	上級日本語 II Advanced Japanese II	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
トピック・コンテンツシラバス中心の授業 獨協大学における専門教育を受けるための準備コースである。日本事情関連の内容を中心とする新聞記事、雑誌、新書、専門書からの抜粋を自由に読みこなし、内容を理解・分析し、纏める力をつけることが目標となる。ゼミで必要となるプレゼンテーション能力、ゼミ論作成に向けた学習を行う。図書館等で情報を収集し、自立的な学習能力を習得することが求められる。 学習内容：「国際社会における日本の役割」「医療問題」「情報社会」「日本の心」「異文化コミュニケーション」「食糧問題」「日本の文学」 など		(Japanese Language Proficiency Test Level N1& above) This highly advanced course is offered to those who will pursue their studies at a high level academic or research institution. Students will deal with all types of texts which extend from editorial columns to literature and academic reports. Upon completion of this course, students will be able to understand documents, correspondence and reports including the finer points of complex texts. Students will be able to contribute effectively to meetings and seminars within their own area of work or keep up a casual conversation with a high level of fluency, coping with abstract expressions. Students will be able to take notes in class and seminars and write essays as well as academic reports on various subjects with accuracy and original style.	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布プリント		1. 出席 (70%以上) 2. 各トピックのテスト 3. 作文 4. プレゼンテーション 5. 期末テスト 7. クラス活動への参加	

養 外言	通訳翻訳論	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
通訳、翻訳についての知識を深めることを目的とします。 学期前半では通訳という職業について理解を深め、また外国語学習に役立つ通訳訓練法を紹介します。 学期後半では翻訳と通訳の発展の歴史、翻訳の規範などを通じて、翻訳・通訳の社会における役割と貢献について学びます。 授業ではビデオやDVDを多く利用しますので、欠席しないようにしてください。		第1回 全体ガイダンス、教授用資料の入手方法説明 第2回 通訳の実例研究（香港返還記念式典） 第3回 会議通訳の実際 第4回 司法通訳（外国人の人権を守る） 第5回 放送通訳とコミュニティ通訳 第6回 ガイド、芸能・スポーツの通訳 第7回 通訳訓練法 通訳の原理 第8回 学期前半のまとめ 第9回 日本における翻訳通訳の歴史（1） 第10回 日本における翻訳通訳の歴史（2） 第11回 日本における翻訳通訳の歴史（3） 第12回 翻訳と通訳の理論（1） 第13回 翻訳と通訳の理論（2） 第14回 通訳と翻訳の理論（3） 第15回 全体のまとめ、期末レポートに関する説明	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義資料は、大学ホームページにアクセスし、教員紹介から授業資料ダウンロードページに飛んでダウンロードしてください。		期末レポートにより評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

外言	プログラミング論 a(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	加藤 尚吾
講義目的、講義概要		授業計画	
Windows の機能をフルに活用できるイベントドリブン型言語である Visual Basic 2010 をプログラミング言語としてとりあげ、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解することを目的とする。また、同時に実際にプログラミングをどのようにすればよいかを理解することを目的とする。 基本的な命令から、その組み合わせまでを、例をあげて講義する。その後、ひとつひとつの命令に関して実際に Visual Basic 2010 でプログラミングの演習を行う。 ほぼ毎回、演習課題を行ってもら。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。		1. 授業のガイダンスとコンピュータ概説 2. Visual Basic 2010 の概略 3. 簡単なプログラム作成 (1) 4. 簡単なプログラム作成 (2) : 四則演算 5. 簡単なプログラム作成 (3) : キャッシュレジスター 6. 選択のあるプログラム作成 (1) 7. 選択のあるプログラム作成 (2) 8. 選択のあるプログラム作成 (3) : オプションボタン、チェックボタンの利用 9. 選択のあるプログラム作成 (4) : リストボックス 10. 繰り返しのあるプログラム作成 (1) : If と Go To、For Next を用いた繰り返し 11. 繰り返しのあるプログラム作成 (2) : Case、While 文 12. 繰り返しのあるプログラム作成 (3) : 応用 13. 総合問題作成 14. 総合問題作成 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
立田ルミ著『文科系大学生のための VISUAL BASIC プログラミング』創生社		平常点と演習 (40%)、レポート (60%) で総合的に評価する。	

外言	プログラミング論 b(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	加藤 尚吾
講義目的、講義概要		授業計画	
プログラム論 a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成できることを目標とする。画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらにネットワーク対応のプログラムを作成することを目的とする。 本講義では、プログラム論 a と同様に、Windows の機能をフルに活用できるイベントドリブン型言語である Visual Basic 2010 をプログラミング言語としてとりあげる。 ほぼ毎回、演習課題を行ってもら。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。		1. 授業のガイダンスとプログラミング論 a の復習 2. 図形の処理 (1) : 直線を描く、曲線を描く 3. 図形の処理 (2) : 円を描く、色を塗る 4. 図形の処理 (3) : Windows の画像処理 5. 図形の処理 (4) : ドラッグアンドドロップの利用 6. 音声、動画の処理 : 音声を録音する、音声を再生する 7. 配列とコントロール配列 : 一元配列、コントロール配列の利用 8. プルダウンメニュー : コンボボックス、プルダウンメニューの利用 9. ファイルの利用 (1) : テキストファイルの読み込み 10. ファイルの利用 (2) : 画像ファイルの読み込み 11. ファイルの利用 (3) : シーケンスファイルの作成 12. ファイルの利用 (4) : シーケンスファイルの読み込みと利用 13. インターネットの利用 : Visual Basic 2010 とホームページとのリンク 14. 応用 (まとめ 1) 15. 応用 (まとめ 2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
立田ルミ著『文科系大学生のための VISUAL BASIC プログラミング』創生社		平常点と演習 (40%)、レポート (60%) で総合的に評価する。	

外言	プログラミング論 a(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	立田 ルミ
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、Visual Basic をプログラミング言語として採りあげ、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。 そのために、Windows の機能をフルに活用できるオブジェクト記述型言語である Visual Basic で実際に例題を通じてプログラミングを行うことにより、プログラミングとはどういうことかを体得してもらうことを目的としている。 プログラミング言語の基本的な命令から始め、それらを組み合わせてどのようにプログラミングすればよいかを、例を挙げて講義し、それらの 1 つ 1 つの命令に対して解説と演習を行う。演習の課題として、1 週間に 1 度の課題を講義支援システム上に提出してもらう予定である。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。授業の最初に、先輩たちの作成したプログラムを紹介する。また、同じクラスの人たちの作ったプログラムも紹介する。		1 授業のガイダンスとコンピュータ概説：講義 2 Visual Basic. の概略：講義および実習 3 文字の表示：講義および実習 4 入力と簡単な計算：講義および実習 5 関数の利用：講義および実習 6 飛び越し命令：講義および実習 7 条件判断による分岐：講義および実習 8 複数判断による分岐：講義および実習 9 選択用コントロールによる分岐：講義および実習 10 回数指定による繰り返し：講義および実習 11 条件指定による繰り返し：講義および実習 12 多重ループ：講義および実習 13 オブジェクトの組み合わせ：講義および実習 14 総合問題作成 1：実習 15 総合問題作成 2：実習	
テキスト、参考文献		評価方法	
立田ルミ著：文科系大学生のための Visual Basic プログラミング、創成社、2010		出席 20%、レポート 40%、試験 40%	

外言	プログラミング論 b(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	立田 ルミ
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、プログラミング論 a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成することを目的とする。ここでは、様々なアプリケーションがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能を活用して Visual Basic で実際にプログラミングを行う。また、画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらにネットワーク対応のプログラムを作成するにはどのような命令が必要かを理解することを目的とする。最後に自分でテーマを決めてソフトウェアの製作を行い、最終のレポートとする。		1 プログラムの分割：講義および実習 2 プログラムの構造化：講義および実習 3 配列の処理：講義および実習 4 配列の入出力：講義および実習 5 文字列の処理：講義および実習 6 文字列の演算：講義および実習 7 図形の描画：講義および実習 8 画像の拡大・縮小：講義および実習 9 画像のアニメーション：講義および実習 10 音声の処理：講義および実習 11 ファイルの処理：講義および実習 12 メニューの処理：講義および実習 13 インターネットの利用：講義および実習 14 Visual Basic とホームページ：講義および実習 15 総合問題作成：実習	
テキスト、参考文献		評価方法	
立田ルミ著：文科系大学生のための Visual Basic プログラミング、創成社、2010		出席 20%、レポート 40%、試験 40%	

外言	プログラミング論 a(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	柏原 賢二
講義目的、講義概要		授業計画	
Java 言語を用い、コンピュータープログラミングの基礎を学びます。 コンピュータの仕組・操作や、プログラムを作る際の考え方を学習するところからはじめ、簡単な問題であれば、独力で Java のプログラムが書けるようになることを目指します。 課題として、実際にプログラムを作成してもらい、動作させることにより、講義内容の理解を深めます。		1: ガイダンス：コンピュータの仕組・操作法 2: プログラムとは何か、考え方 3: 変数・演算子・式 4: 入出力、乱数 5: 条件判断・分岐(1) 6: 条件判断・分岐(2) 7: 繰り返し(1) 8: 繰り返し(2) 9: 条件分岐と繰り返し 10: 型と演算 11: 文字と文字列 12: 配列 13: メソッド(1) 14: メソッド(2) 15: 総合問題、まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
『明解 Java 入門編』 柴田望洋著, SoftBank Creative, 2009		出席、定期試験、レポートを総合的に評価する。	

外言	プログラミング論 b(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	柏原 賢二
講義目的、講義概要		授業計画	
「プログラミング論 a」で学習したことをベースにして、Java の特徴であるオブジェクト指向に焦点をあてて、オブジェクト指向を用いたプログラムの作成方法を学習します。最終的には、やや難しい問題やオブジェクト指向を用いた問題でも、独力で Java プログラムが書けるようになることを目指します。 課題として、実際にプログラムを作成してもらい、動作させることにより、講義内容の理解を深めます。		1: ガイダンス：Java の基本的な構文の復習 2: オブジェクト指向 3: クラスの概要 4: クラスとインスタンス 5: フィールドとローカル変数 6: コンストラクタ 7: クラス変数とクラスメソッド 8: 継承 (1) 9: 継承 (2) 10: メソッドのオーバーライド 11: GUI ツールキット (1) 12: GUI ツールキット (2) 13: インターフェースと実装(1) 14: インターフェースと実装(2) 15: 総合問題、まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
『明解 Java 入門編』 柴田望洋著, SoftBank Creative, 2009		出席、定期試験、レポートを総合的に評価する。	

外言	プログラミング論 a(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	堀江 郁美
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、Visual Basic をプログラミング言語として採りあげ、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。 そのために、Windows の機能をフルに活用できるオブジェクト記述型言語である Visual Basic で実際に例題を通じてプログラミングを行うことにより、プログラミングとはどういうことかを体得してもらうことを目的としている。 プログラミング言語の基本的な命令から始め、それらを組み合わせてどのようにプログラミングすればよいかを、例を挙げて講義し、それらの 1 つ 1 つの命令に対して解説と演習を行う。演習の課題として、1 週間に 1 度の課題を講義支援システム上に提出してもらう予定である。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。授業の最初に、先輩たちの作成したプログラムを紹介する。また、同じクラスの人たちの作ったプログラムも紹介する。		1 授業のガイダンスとコンピュータ概説：講義 2 Visual Basic. の概略：講義および実習 3 文字の表示：講義および実習 4 入力と簡単な計算：講義および実習 5 関数の利用：講義および実習 6 飛び越し命令：講義および実習 7 条件判断による分岐：講義および実習 8 複数判断による分岐：講義および実習 9 選択用コントロールによる分岐：講義および実習 10 回数指定による繰り返し：講義および実習 11 条件指定による繰り返し：講義および実習 12 多重ループ：講義および実習 13 オブジェクトの組み合わせ：講義および実習 14 総合問題作成 1：実習 15 総合問題作成 2：実習	
テキスト、参考文献		評価方法	
立田ルミ著：文科系大学生のための Visual Basic プログラミング、創成社、2010		出席 20%、レポート 40%、試験 40%	

外言	プログラミング論 b(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	堀江 郁美
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、プログラミング論 a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成することを目的とする。ここでは、様々なアプリケーションがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能を活用して Visual Basic で実際にプログラミングを行う。また、画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらにネットワーク対応のプログラムを作成するにはどのような命令が必要かを理解することを目的とする。最後に自分でテーマを決めてソフトウェアの製作を行い、最終のレポートとする。		1 プログラムの分割：講義および実習 2 プログラムの構造化：講義および実習 3 配列の処理：講義および実習 4 配列の入出力：講義および実習 5 文字列の処理：講義および実習 6 文字列の演算：講義および実習 7 図形の描画：講義および実習 8 画像の拡大・縮小：講義および実習 9 画像のアニメーション：講義および実習 10 音声の処理：講義および実習 11 ファイルの処理：講義および実習 12 メニューの処理：講義および実習 13 インターネットの利用：講義および実習 14 Visual Basic とホームページ：講義および実習 15 総合問題作成：実習	
テキスト、参考文献		評価方法	
立田ルミ著：文科系大学生のための Visual Basic プログラミング、創成社、2010		出席 20%、レポート 40%、試験 40%	

外言	情報・コミュニケーション研究特殊講義(CAEL)	担当者	岡田 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
ぎゅっと e というコンピュータプログラムを用いて、集中的に英語を学習し、リスニング、リーディング、文法の総合的英語力と TOEIC スコアの向上を目指します。 受講対象者：短期間で TOEIC スコアを向上させたい方。 教室内のみではなく、教室外での集中的で継続的な自主学習が必要となりますので、真剣に英語力を向上させたい方だけ、受講してください。 受講条件： - 現在の TOEIC スコアが 250 点～500 点くらい (現在のスコアが低い方はそれを向上させるためにより大きな努力が必要となります) - 初回の授業に必ず出席。4 回欠席すると単位は出ない。 重要事項： - 教室外で、春学期中に 20 時間以上ぎゅっと e を学習 - 学習プランの作成と詳細な学習記録 (ジャーナル) - 学習自己評価 (2 回) - 実力診断テスト・学習プランの作成 - 期末テスト 本科目は、半期完結なので、通年受講はできません。		1. シラバスとプログラムの説明 2. リスニング実力診断テスト・学習プログラムの作成 3. テキスト Days 1-2 模擬試験 (リスニング) 4. テキスト Day 6 模擬試験 (リスニング) 5. テキスト Days 9-10 模擬試験 (リスニング) 6. テキスト Day 11 模擬試験 (リスニング) 7. リスニング実力診断テスト 8. リーディング実力診断テスト 9. テキスト Days 3-4 (リーディング) 10. テキスト Day 5 (リーディング) 11. テキスト Days 7-8 (リーディング) 12. テキスト Day 9 (リーディング) 13. テキスト Day 10 (リーディング) 14. リーディング実力診断テスト 15. アンケート・自己評価レポートの説明	
テキスト、参考文献		評価方法	
1. 『新 TOEIC テスト 直前の技術：スコアが上がりやすい順に学ぶ』 (アルク) 2. ぎゅっと e プログラム (体験版は http://gyutto-e.jp)		出席 20%、詳細な学習記録 (ジャーナル) 20% 学習プラン、20 時間以上の学習、自己評価レポート 30% 期末テスト 30% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。	

外言	情報・コミュニケーション研究特殊講義(CAEL)	担当者	岡田 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
ぎゅっと e というコンピュータプログラムを用いて、集中的に英語を学習し、リスニング、リーディング、文法の総合的英語力と TOEIC スコアの向上を目指します。 受講対象者：短期間で TOEIC スコアを向上させたい方。 教室内のみではなく、教室外での集中的で継続的な自主学習が必要となりますので、真剣に英語力を向上させたい方だけ、受講してください。 受講条件： - 現在の TOEIC スコアが 250 点～500 点くらい (現在のスコアが低い方はそれを向上させるためにより大きな努力が必要となります) - 初回の授業に必ず出席。4 回欠席すると単位は出ない。 重要事項： - 教室外で、秋学期中に 20 時間以上ぎゅっと e を学習 - 学習プランの作成と詳細な学習記録 (ジャーナル) - 学習自己評価 (2 回) - 実力診断テスト・学習プランの作成 - 期末テスト 本科目は、半期完結なので、通年受講はできません。		1. シラバスとプログラムの説明 2. リスニング実力診断テスト・学習プログラムの作成 3. テキスト Days 1-2 模擬試験 (リスニング) 4. テキスト Day 6 模擬試験 (リスニング) 5. テキスト Days 9-10 模擬試験 (リスニング) 6. テキスト Day 11 模擬試験 (リスニング) 7. リスニング実力診断テスト 8. リーディング実力診断テスト 9. テキスト Days 3-4 (リーディング) 10. テキスト Day 5 (リーディング) 11. テキスト Days 7-8 (リーディング) 12. テキスト Day 9 (リーディング) 13. テキスト Day 10 (リーディング) 14. リーディング実力診断テスト 15. アンケート・自己評価レポートの説明	
テキスト、参考文献		評価方法	
1. 『新 TOEIC テスト 直前の技術：スコアが上がりやすい順に学ぶ』 (アルク) 2. ぎゅっと e プログラム (体験版は http://gyutto-e.jp)		出席 20%、詳細な学習記録 (ジャーナル) 20% 学習プラン、20 時間以上の学習、自己評価レポート 30% 期末テスト 30% 原則として 4 回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。	

外言	地域経済論 iii a	担当者	全 載旭
講義目的、講義概要		授業計画	
近年東アジアの急速な発展と域内諸国の相互依存関係の強化によって、東アジアは世界経済を牽引する存在になったと言われている。なかでも中国経済の動向は 21 世紀の世界経済の新たな秩序を左右する最大のファクターの一つである。特に 2010 年の中国の名目 GDP が日本を上回り、米国に次ぐ世界第 2 位の経済大国になった。今後中国の存在感がますます大きくなりそうである。この授業では東アジア全体に目を配りつつ、中国経済を中心に考察する。 日本もまた東アジアにあって、この地域の諸国と相互に密接な関係をもっている。本科目の履修を通じて、この地域のあり方に関心を向けてもらいたい。 この授業では中国経済の歴史、発展可能性などについて 1970 年代末から始まった改革・開放を中心に講義を進めていきたい。		1 中国経済の全般的な動向(1) 2 中国経済の全般的な動向(2) 3 世界の工場か、世界の市場か？(1) 4 世界の工場か、世界の市場か？(2) 5 社会主義市場経済とは何か？(1) 6 社会主義市場経済とは何か？(2) 7 メイド・イン・チャイナは世界市場を席捲するか？(1) 8 メイド・イン・チャイナは世界市場を席捲するか？(2) 9 国有企業改革はどこまで進んだか？(1) 10 国有企業改革はどこまで進んだか？(2) 11 農村はいかに変化したか？(1) 12 農村はいかに変化したか？(2) 13 失業率は本当に低いか？(1) 14 失業率は本当に低いか？(2) 15 総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
南亮進・牧野文夫編『中国経済入門第 2 版』日本評論社、2005 年。 その他必要に応じて資料を配布する。		出席状況と筆記試験によって評価する。	

外言	地域経済論 iii b	担当者	全 載旭
講義目的、講義概要		授業計画	
中国経済の発展をめぐる内的な課題と、対外貿易の発展、外資導入などの経済成長への役割、近年中国の台頭による東アジア経済の再編について論じていく。 日本にとって中国は 2002 年より最大輸入相手国となり、輸出においても 2009 年より米国を抜いて最大相手国となっている。中国にとって日本は最大の輸入相手国であり、米国に次ぐ第 2 位の輸出相手国である。中国の経済発展と中日経済関係の深化の中で両国の貿易の実態はその貿易量のみならずその内容も変化している。貿易と投資を通じて急速に緊密化している日中経済関係の現状と今後のあり方についても考察する。また東アジアにおける経済統合の実現可能性も取り上げる。 地域経済論 iii a を履修し、中国の経済発展メカニズムの基本を把握していることが望ましい。		1 金融は中国経済のアキレス腱か？ 2 輸出は成長のエンジンか？(1) 3 輸出は成長のエンジンか？(2) 4 外資は何をもたらしたか？(1) 5 外資は何をもたらしたか？(2) 6 中国は国際社会にとって脅威か？(1) 7 中国は国際社会にとって脅威か？(2) 8 日中関係はいかにあるべきか？(1) 9 日中関係はいかにあるべきか？(2) 10 持続成長は可能か？(1) 11 持続成長は可能か？(2) 12 成長の果実は誰の手に？(1) 13 成長の果実は誰の手に？(2) 14 21 世紀における東アジア経済と中国経済 15 総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
南亮進・牧野文夫編『中国経済入門第 2 版』日本評論社、2005 年。 その他必要に応じて資料を配布する。		出席状況と筆記試験によって評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

外言	国際機構論 b	担当者	鈴木 淳一
講義目的、講義概要		授業計画	
〔講義目的〕 本講義は、国際連合を中心とする国際組織を規律している法に関する知識を提供することを目的とします。 〔講義概要〕 今日、国際連合をはじめとした多くの国際組織が活動し、多くの人々がいわゆる「国際公務員」として活躍しています。しかし、これらの活動は、国際組織の設立条約や地位協定、職員規則などのルールに従っています。本講義は、国際組織や国際公務員の活動を規律しているルールについて、主に国際連合を例として分析を行います。 本講義では、履修者が国際法の知識を有することを前提とはしませんが、主に国際法の視点から国際組織の分析を行うため、全学共通授業科目の国際法や法学部の国際法も同時に受講することを奨励します。 また、この講義では、教室で行う通常の授業を補うため、授業レポート・システム等を活用して、教員とのコミュニケーションを図ります。		1 はじめに 2 国際組織の概念と歴史 3 国際法の基礎知識 4 国際組織の設立と解散 5 国際組織の国際法上の地位 6 国際組織の国内法上の地位 7 国際組織と加盟国 8 国際組織間の連携・協力 9 国際組織と NGO（民間団体） 10 国際公務員 11 国際組織の意思決定 12 国際組織と財政・分担金・運営上の諸問題 13 国際組織に関する事例研究(1) 14 国際組織に関する事例研究(2) 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
大森正仁編著『よくわかる国際法』（ミネルヴァ書房）		主として学期末に実施する試験と出席により評価します。	

外言	卒業論文	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
言語文化学科では、卒業論文は必修科目ではないが、学生諸君にはできるだけ履修し、論文を書き上げて提出することを勧めている。 なぜなら卒業論文に真摯に取り組んで仕上げることは、物事を論理的に考える姿勢と課題を設定し解答をさぐる能力を養成することになるからである。 しかし、諸君の中にはこれを安易にとらえているむきもしばしば見受けられる。卒業論文は1ヶ月や2ヶ月の準備と作業で書き上げられるものではない。担当教員と十分に議論を重ねるとともに指導を受けて、早い時期から取り組む必要がある。 諸君の努力に期待する。		執筆指導は、各担当教員の指示に従うこと。 提出には、P Cの使用が求められる。印刷した論文とデジタルデータを提出すること。 提出期限を厳守すること。そのために周到な計画を立てる必要がある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員の指示による		学科の申し合わせによる	

外言	卒業論文	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期参照		春学期参照	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期参照		春学期参照	

2011年度

外国語学部共通科目シラバス

(2003～2006年度入学者用)

外言	総合講座（EU の歴史と現状 1）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、戦前から今日までの欧州統合の歩みを辿ることにより、今日の国際社会において大きな影響力を持つ EU（European Union）が生まれた背景や目的、その制度や政策について考察することを目的とします。 地域統合の歴史的な前例としての EU について学ぶことは、ヨーロッパに関する知識の獲得にとどまらず、東アジア経済統合という課題をめぐる今日の日本とアジアの関係について考えるためのヒントにもなるでしょう。		講義の主な内容は以下のとおりです： 1. 講義の概要 2~4. 第 2 次大戦以前のヨーロッパ構想と運動 5~7. 第 2 次大戦・戦後復興と欧州統合 8~9. EU の制度的起源(1)：ECSC の成立 10~11. EU の制度的起源(2)：EEC の成立 12~14. EEC の定着期 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：なし 参考文献：B.アンジェル、J.ラフィット『ヨーロッパ統合—歴史的な大実験の展望』、創元社、2005 年		平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポートまたは試験（50%）	

外言	総合講座（EU の歴史と現状 2）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
内容は春学期の続きになりますが、秋学期からの履修も可能です。ただし、秋学期からの履修者は、事前に参考文献を読むなどして、EU の歴史に関する基礎知識を身につけておくことが望ましいです。		講義の主な内容は以下のとおりです： 1. 講義の概要 2~4. 通貨統合 5~6. マーストリヒト条約以降の EU 7~8. EU の制度 9~10. EU の諸政策 11~12. 加盟国と EU 13~14. EU 域外との関係 15. EU の現在の課題	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：なし 参考文献：B.アンジェル、J.ラフィット『ヨーロッパ統合—歴史的な大実験の展望』、創元社、2005 年		平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポートまたは試験（50%）	

外言	総合講座（楽しい文学とのつきあい方）	担当者	コーディネーター 工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
この総合講座では、文学をパフォーマンスとして捉えることによって、堅苦しくなく接するための様々な方法を受講者のみなさんに提供したいと思います。 この講座は、オムニバス形式で行われます。各回の講義担当者が文学についてそれぞれ個性的なアプローチで、既成の枠に捉えられない「楽しい」お話をします。担当者の専門によって、音楽や舞台芸術、文学の解釈や実際の応用まで変化に富みながらも深い味わいのある講義内容となる予定です。この講座を通じて受講者のみなさんが、文学の楽しみ方は自由で開かれたものであることを理解し、そして文学に関して各々が新しい発見をすることができるよう願っています。 注意事項：「楽しみの中にも礼儀あり」。授業中は、絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講者の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。もちろん、質問等での発言は歓迎です。積極的な参加を期待します		1. 工藤達也(本学ドイツ語学科教授)最初に 2. 児島一男（本学英語学科教授） 現代英語圏の演劇（ドラマリーディング） 3. 原成吉（本学英語学科教授） 英詩の伝統とロック・ミュージック——Bob Dylan を読む 4. 片山亜紀（本学英語学科准教授） 『不思議の国のアリス』のその後 5. 若森栄樹(本学フランス語学科教授) フランス文学入門——アルペール・カミュを中心に 6. 谷口亜沙子(本学フランス語学科専任講師)ダダ 7. 田中善英(本学フランス語学科教授) 『星の王子さま』からのメッセージ 8. 工藤達也 文学と声 9. 未定(外部講師依頼中) 10. 山本淳(本学ドイツ語学科教授) プレヒト『三文オペラ』の楽しみ方 11. 柿沼義孝(本学ドイツ語学科教授) 能と文学 12. 矢羽々崇(本学ドイツ語学科教授) 楽しいパロディ——メルヒェン・パロディを例に—— 13. 上野直子（本学英語学科教授）I will be there for you 14. 前沢浩子（本学英語学科准教授） Shakespeare と新しいメディア 15. 工藤達也 講義のまとめと試験対策など	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業中に適宜紹介します。		出席を重視し（10 回以上の出席が必要）、出席状況および学期末試験の結果をもとに評価します。各回の講義の終わりに意見・感想等を記してもらいます。	

外言	総合講座（都市を読み解く）	担当者	コーディネーター 飯嶋 曜子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講座では、言語、歴史、文化、建築、都市計画、社会、政治、経済など、多様な視点から都市を読み解き、都市の諸相を把握することを目的とする。本講座を通じて、受講者は各都市の個別事象を知るだけでなく、多様なディシプリン、分析視点、問題設定等についても理解し、今後の学習に役立ててほしい。		1. 飯嶋曜子(ドイツ語学科)：導入、都市論の可能性 2. 須永和博（交流文化学科）：都市人類学への招待 — 東京のなかの異界 3. 金子芳樹（英語学科）：先進都市シンガポールの光と影 4. 佐野康子（英語学科）：「新しい花」の咲く都市 — エチオピアの首都アジスアベバ 5. 日野克美（交流文化学科）：モンテリオールの街路名 6. 児島一男（英語学科）：Ulysses (by James Joyce)を基にした Dublin Walking Tour Guide 7. 青山愛香（ドイツ語学科）：ニュルンベルクと15世紀の出版革命 8. 矢羽々崇（ドイツ語学科）：退廃と健全 両面の街ベルリン 9. 岡村りら（ドイツ語学科）：ベルリン— 壁崩壊前と後 10. 前沢浩子（英語学科）：ロンドン — 近代都市の変貌 11. 上野直子（英語学科）：もうひとつのロンドン 12. 江花輝昭（フランス語学科）：パリのグランド・デザイン 13. 鈴木隆（フランス語学科）：パリ — 都市の広がりと景観 14. 飯嶋曜子（ドイツ語学科）：千葉県佐原 — 都市の景観保全とまちづくり 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて各担当講師が提示する。		出席状況，レポートもしくは試験により評価	

外言	情報科学概論 a	担当者	黄 海湘
講義目的、講義概要		授業計画	
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、（１）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（２）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（３）コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。		1 講義の概要と目標、情報科学とは 2 データ表現、基数変換、論理演算 3 コンピュータの構成要素 4 ソフトウェアの役割、体系と種類 5 オペレーティングシステム（OS） OSの基礎概念、OSの役割と原理 6 プログラム言語 コンピュータ言語の分類と目的 7 データ構造—リスト、スタック、キュー、2分木 8 アルゴリズム—アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9 コンピュータによる言語情報処理技術（１） 10 コンピュータによる言語情報処理技術（２） 11 機械翻訳システムの演習 12 自然言語質問応答システム 13 インターネット上の多言語処理技術 14 授業のまとめ 1 15 授業のまとめ 2	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

外言	[入門] 情報科学各論(情報処理演習)[総合]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。 履修条件：2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」の各科目、および[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

外言	[入門] 情報科学各論(情報処理演習)[総合]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。 履修条件：2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」の各科目、および[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

外言	[入門] 情報科学各論(情報処理演習)[英語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。 履修条件：2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

外言	[入門] 情報科学各論(情報処理演習)[英語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。 履修条件：2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

外言	[入門] 情報科学各論(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなくドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。 履修条件：2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

外言	[入門] 情報科学各論(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなくドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。 コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。 履修条件：2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

外言	[応用] 情報科学各論(Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション）（中級 プレゼンテーション）（中級 万能ツールとしての Excel）（中級 表計算応用 1）」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（プレゼンテーション中級）」を履修したことがある人は履修できない。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

外言	[応用] 情報科学各論(Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション）（中級 プレゼンテーション）（中級 万能ツールとしての Excel）（中級 表計算応用 1）」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（プレゼンテーション中級）」を履修したことがある人は履修できない。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

外言	[応用] 情報科学各論(プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション入門）（中級 プレゼンテーション）」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）」を履修したことがある人は履修できない。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。また、受講者数によっては実習の回数が変更になることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

外言	[応用] 情報科学各論(プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション入門）（中級 プレゼンテーション）」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）」を履修したことがある人は履修できない。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。また、受講者数によっては実習の回数が変更になることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

外言	[応用] 情報科学各論(Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度に「情報科学各論（中級 Word を使いこなす）」を履修した人は履修できない。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

外言	[応用] 情報科学各論(Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度に「情報科学各論（中級 Word を使いこなす）」を履修した人は履修できない。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

外言	〔応用〕 情報科学各論(Office 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、〔入門〕情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるので、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		授業時に説明する。	

外言	〔応用〕 情報科学各論(Office 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、〔入門〕情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるので、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。		1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		授業時に説明する。	

外言	情報科学各論（言語情報処理 1）	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 この授業ではコンピューターを用いた「学習者言語」の分析を行う。われわれ日本人が話す、あるいは書く英語は全て「学習者言語」であり、ネイティブスピーカーの発話とはさまざまな面で異なる。たとえば「流暢さ」、「使用する単語の種類」、「使用する文法の複雑さ」、「正確さ」などである。この授業は、これら（学習者）言語分析の観点と方法を学ぶことを目的とする。それにより、自分自身の英語力を振り返ることが出来るようになったり、将来教職（英語教師）に就きたいと希望する場合は、生徒たちの英語力を測定評価できる技能を身につけることが出来るようになったりすることを目指す。<u>英語学習に強い興味関心がある人、教職を目指す人</u>に最適な内容と考える。 【概要】 ごく基本的な言語学の知識の講義から始め、その後は1人1台のコンピューターを使い、演習を中心に授業を進める。自分で学習者言語データを収集したり、その分析結果をレポートにまとめたりすることも課題となる。コンピューターの操作にある程度慣れていることが望ましいが、授業を通して学習することも十分可能。		1. 【ガイダンス】 2. 言語の基本（1）：品詞 3. 言語の基本（2）：形態素、単語、句、節 4. 学習者言語の分析：語彙力とは何か（1） 5. 学習者言語の分析：語彙力とは何か（2） 6. 学習者言語の分析：語彙力とは何か（3） 7. 学習者言語の分析：文法力とは何か（1） 8. 学習者言語の分析：文法力とは何か（2） 9. 学習者言語の分析：文法力とは何か（3） 10. 学習者言語の分析：流暢さとは何か（1） 11. 学習者言語の分析：流暢さとは何か（2） 12. 学習者言語の分析：流暢さとは何か（3） 13. 最終レポート準備（1） 14. 最終レポート準備（2） 15. 【まとめ】	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する。		出席＋授業活動への参加度＋レポートにより評価する。欠席の場合でも必ず課題を提出すること。	

外言	情報科学各論（言語情報処理 2）	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 春学期に引き続き、学習者言語の分析を行う。それにより、英語学習を進める上で直面する困難点を、具体的な数量的に把握する視点や分析方法を身につける。 【概要】 春学期の内容を総合的に復習し、それらを踏まえた上で演習を中心に授業を進める。そのため、春学期の「言語情報処理 Ia」を予め履修していることが望ましい。秋学期から履修する場合は、言語学の基礎的な知識を身につけていることが望ましい。 授業においては、実際に学習者言語のデータ収集を行い、その分析を進めていく。受講人数によって、グループ活動または個人活動になるが、学生の作業、演習、発表が中心になる。		1. 【ガイダンス】 2. 学習者言語の分析の視点（1）：概要 3. 学習者言語の分析の視点（2）：流暢さ 4. 学習者言語の分析の視点（3）：語彙力 5. 学習者言語の分析の視点（4）：文法力 6. 学習者言語の分析の視点（5）：正確性 7. データ収集と学習者コーパスの作成（1） 8. データ収集と学習者コーパスの作成（2） 9. 学習者コーパスの加工：tagging（1） 10. 学習者コーパスの加工：tagging（2） 11. 分析（1） 12. 分析（2） 13. プレゼンテーション（1） 14. プレゼンテーション（2） 15. 【まとめ】	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する。		出席＋授業活動への参加度＋プレゼンテーションにより評価する。欠席の場合でも必ず課題を提出すること。	

外言	情報科学各論（言語情報処理 1）	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
（講義目的・講義概要は春・秋学期共通です） 本講義では、最終的にはコンピュータというメガネを通して、「英語」という言葉の特徴を見てみようというのがねらいです。たとえば、皆さんはある形容詞がどのような名詞と相性を知りたい時、どうしますか。辞書で調べても知りたい形容詞と名詞の組み合わせが出ているとは限りません。身近にネイティブスピーカーがいればその人にたずねるのも一案ですが、必ずしも近くにいたとは限りませんし、聞く相手によって答えが揺れることもあります。 そんな時に、一つのヒントを与えてくれるものが、「コーパス」です。コーパスというのは、コンピュータで自在に検索できる言葉のデータベースです。コーパスを検索することで、普通の辞書では得られない例文を見つけたり、また先ほどのコロケーションの問題もスコアで示したりできます。これは英語を勉強・研究する人に大変便利なものです。 本講義では、まず春学期に情報処理の基本的な考え方、発想を Microsoft Excel を使って学びます。秋学期に Excel を使って言語処理を行うための準備です。コーパスの分析（下に続く↓）		1 講義のガイダンス：言語情報処理とは何か 2 言語情報処理とコーパス・表計算一巡り 3 計算(計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等) 4 Excel 関数(算術・統計関数を中心に) 5 Excel 関数(文字列操作関数を中心に) 6 Excel 関数(論理関数を中心に) 7 Excel 関数のネスト(1) 8 Excel 関数のネスト(2) 9 Excel 関数のネスト(3) 10 データベース処理(並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索) 11 データベース処理(クロス集計とピボットテーブル) 12 データベース上のデータの蓄積方法 13 自家製コーパスの構想を練る：データ収集の方法など 14 データベースの活用 15 まとめと演習	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/) を参照すること。		学期末試験および 2 回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。	

外言	情報科学各論（言語情報処理 2）	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
には専用のソフトウェアがいくつか開発されていますが、それらのツールは特定の処理には適しているものの、汎用性が少なくまた自由な発想からの分析には向いていません。この講義ではそのようなツールを使うのではなく、あえて汎用性のある表計算ソフトウェアを使います。 秋学期は、春学期に学んだ Excel の知識を活用して、学生一人一人が自分だけの「自家製コーパス」を作ります。同時にコーパス言語学の基礎的な知識を学びます。素材の集め方から、コーパスの構築の仕方、および Excel で KWIC Concordance を実現する手法、および統計的な処理方法をじっくりと学ぶことにします。さらに、本格的なコーパス、約 1 億語の British National Corpus にアクセスします。秋学期後半は、コーパス以外の言語分析についても触れたいと思います。文体をコンピュータで分析する試みや語彙の使われ方をコンピュータで見るとどのようなことが分かるのかなどを実際に文献をコンピュータを使って分析してみましょう。 本講義で修得したコンピュータを使った見方と、構築した自分専用のコーパスは、講義終了後も生の言語レファレンスとして活用できることでしょう。		1 講義のガイダンス：コーパスとその応用 2 Access 上にデータを格納 3 Access のデータを引き出して Excel で分析 4 コンコーダンスの利用(1)：コロケーションを調べる(MI-Score)。 5 コンコーダンスラインの利用(2)：コロケーションを調べる(t-score)。 6 コンコーダンスラインの利用(3)：演習 7 品詞情報のタグ付け：各単語に品詞のタグをつけて、より精密な分析を試みる。また、自動タグ付けも試みる。 8 タグ付けされたテキストの分析：品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する。 9 品詞の使われ方と英文の特徴 10 「文体」をどうとらえるか。一文の長さ 11 語彙の出現情報から何を読み取るか(1) 12 語彙の出現情報から何を読み取るか(2) 13 語彙の出現情報から何を読み取るか(3) 14 最先端のコーパスの現状：体験アクセス 15 まとめと演習	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/) を参照すること。		学期末レポートおよび 2 回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。	

外言	[HTML] 情報科学各論(HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論 (HTML 入門) (HTML 応用 1) (HTML 正しく伝えるために) (HTML 美しく見せるために)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (HTML 中級)」を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

外言	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論 (HTML 入門) (HTML 応用 1) (HTML 正しく伝えるために) (HTML 美しく見せるために)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (HTML 中級)」を履修したことのある人は履修できない。		1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 クラスによって多少進度が異なることがある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

外言	情報科学各論(HTML 中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人（FTP の理解を含む）を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。 この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。 受講上の注意： 評価方法等を詳しく説明しますので、ガイダンスには必ず出席すること。 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。		1 ガイダンスとイントロダクション 2 HTML と FTP の復習（１） 3 HTML と FTP の復習（２） 4 インタラクティブなページ（HTML と CGI） 5 プログラミングの基礎知識 6 JavaScript（１） 7 JavaScript（２） 8 JavaScript（３） 9 JavaScript（４） 10 JavaScript（５） 11 CGI の利用 12 総合課題（１） 13 総合課題（２） 14 総合課題（２） 15 鑑賞・報告会	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業用 Web にて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。		授業中に作成する課題と平常点（課題の途中経過を含む）で総合評価する。出席及び締切厳守は特に重視する。	

外言	経済原論 a	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。		1. 経済学の目的と方法 2. 家計の行動① 3. 家計の行動② 4. 家計の行動③ 5. 企業の行動① 6. 企業の行動② 7. 企業の行動③ 8. 市場価格の決定 9. 不完全競争市場 10. 厚生経済学の基本定理 11. 市場の失敗 12. 所得の分配 13. 政府による市場介入① 14. 政府による市場介入② 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		原則として定期試験の成績で評価する。	

外言	経済原論 b	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。		1. マクロ経済学の体系 2. 国民所得の諸概念 3. 消費と貯蓄の理論 4. 投資の理論 5. 国民所得決定の理論 6. 生産物市場の分析 7. 金融市場の分析 8. 財政・金融政策の有効性① 9. 財政・金融政策の有効性② 10. 財政赤字と政府債務 11. 国際金融システム 12. 開放マクロ経済下の経済政策 13. 景気の循環 14. 経済成長の決定要因 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		原則として定期試験の成績で評価する。	

シラバス 言語文化学科

2011年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電 話 048-946-1664



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	